

神戸市障がい者生活実態調査 調査結果報告書

令和2年3月

神戸市

< 目 次 >

1 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査対象および調査方法	1
(3) 回収状況	2
2 調査結果概要	4
(1) 対象者の属性	4
(2) 障害特性	13
(3) 障害児支援	22
(4) 暮らしの状況	27
(5) 施設の利用状況	29
(6) 地域での生活・活動	33
(7) 日常の外出や移動	37
(8) 就労状況	43
(9) 相談支援の利用	62
(10) 障害のある人に対する差別・理解	71
(11) 災害時の状況	86
(12) 消費生活	92
(13) 介助・支援者の状況	93
(14) 意見・要望	96
3 前回調査との比較結果	99
(1) 今回・前回調査の比較項目	99
(2) 前回調査比較結果	101
4 次期計画策定にむけた調査結果まとめ	150
(1) 暮らしに関する結果	150
(2) 就労に関する結果	154
(3) 子どもに関する結果	156
(4) 社会参加に関する結果	157

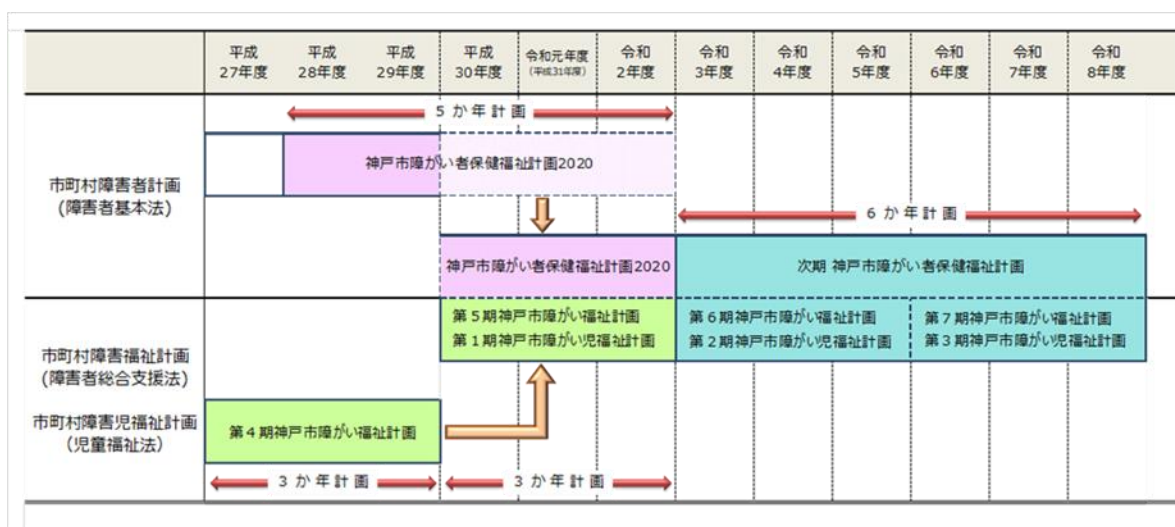
1 調査の概要

(1) 調査目的

障害者基本法に基づく「神戸市障がい者保健福祉計画 2020」、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく「第5期神戸市障がい福祉計画・第1期神戸市障がい児福祉計画」の計画期間は、令和2年度までとなっています。

次期「神戸市障がい者保健福祉計画」の計画期間は6カ年の計画とし、前半3カ年を「第6期神戸市障がい福祉計画・第2期神戸市障がい児福祉計画」と統合して策定します。

「神戸市障がい者生活実態調査」は、これらの計画の策定にあたり、障害者の現在の生活状況、必要な福祉ニーズ、就労の状況・意識、及び前回調査（平成27年8月）からの変化などを把握し、新たな計画策定の基礎資料の一つとすることを目的として実施しました。



(2) 調査対象および調査方法

身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、発達障害者の中（障害児を含む）から無作為抽出し、郵送による配布・回収によるアンケート調査を行いました。

また、回答方法については、紙の調査票による回答だけではなく、インターネットでエクセルファイルをダウンロードし、メールでも回答できるように設定しました。

(これまでのスケジュール)

7月11日、19日	○実態調査にかかる検討会(2回開催)	アンケート項目の審議
7月31日	○第二回障害者施策推進協議会	アンケート項目の承認
8月	○総務省統計調査届出 ○神戸市個人情報保護審議会	
9月	○区役所・障害者団体・福祉サービス事業所・障害者支援施設に対し調査の実施について周知し、代筆や代読についての協力を依頼	
10月15日～11月7日	○対象者に対し調査票の送付、回収	
12月	○第三回障害者施策推進協議会	速報版の報告

(3) 回収状況

調査対象別の発送数、回収数、回収率は以下の通りとなります。(令和元年1月時点)

図表 1 回収状況

発送数	全体回収数	全体回収率	有効回収数	有効回収率
10,960	5,177 (うちメール回答 56通)	47.0%	5,062 (うちメール回答 56通)	46.2%

図表 2 回答者の手帳所持・診断区分

手帳所持・診断区分	送付数	有効回収数 (人)
全 体	10,960	5,062
身体障害者手帳所持者	5,880	2,589
(うち肢体)	(1,740)	(777)
(うち視覚)	(1,310)	(549)
(うち聴覚)	(1,330)	(531)
(うち内部)	(1,500)	(656)
※障害部位は重複回答あり		
(うち難病患者)		(290)
(うち発達障害)		(5)
療育手帳所持者	1,420	589
(うち難病患者)		(18)
(うち発達障害)		(282)
自立支援医療受給者・精神保健福祉手帳所持者(入院除く)	1,450	487
(うち難病患者)		(14)
(うち発達障害)		(58)
精神科病院入院患者	540	101
重複障害(身体・療育・精神)	1,250	900
(うち身体障害者手帳所持者+療育手帳所持者)		(253)
(うち身体障害者手帳+自立支援医療受給者・精神保健福祉手帳所持者)		(354)
(うち療育手帳所持者+自立支援医療受給者・精神保健福祉手帳所持者)		(178)
(うち身体障害者手帳所持者+療育手帳所持者+自立支援医療受給者・精神保健福祉手帳所持者)		(115)
(うち難病患者)		(140)
(うち発達障害)		(143)
難病(手帳重複なし)	310	97
難病(手帳重複あり)		463
発達障害(手帳重複なし)	110	14
発達障害(手帳重複あり)		492
無回答		286

以降の集計分析は、上記区分のうち「身体障害者手帳のみ（年齢不明）」は身体障害者手帳のみ（全体）に、「小児慢性特定医療費受給者」は難病に、「手帳種別不明」はその他含めた区分を基本とします。なお、表記を見やすくするために、次のように表記を簡略化します。

手帳所持・診断区分	表記
身体障害者手帳のみ（全体）	身体のみ
うち64歳以下	身体のみ（うち64歳以下）
うち65歳以上	身体のみ（うち65歳以上）
療育手帳のみ	知的のみ
精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療受給のみ	精神のみ
うち入院患者	精神のみ（うち入院）
身体障害者手帳と療育手帳	身体+知的
身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給	身体+精神
療育手帳と精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給	知的+精神
身体障害者手帳と療育手帳と精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給	身体+知的+精神
特定医療費（指定難病）受給または公費負担対象外の特定疾患（難病）診断あり または小児慢性特定医療費受給者	難病
発達障害の診断あり	発達障害
手帳種別不明	その他

※数値は小数第二位で四捨五入しているため、見かけ上の合計が 100%にならない場合があります。

2 調査結果概要

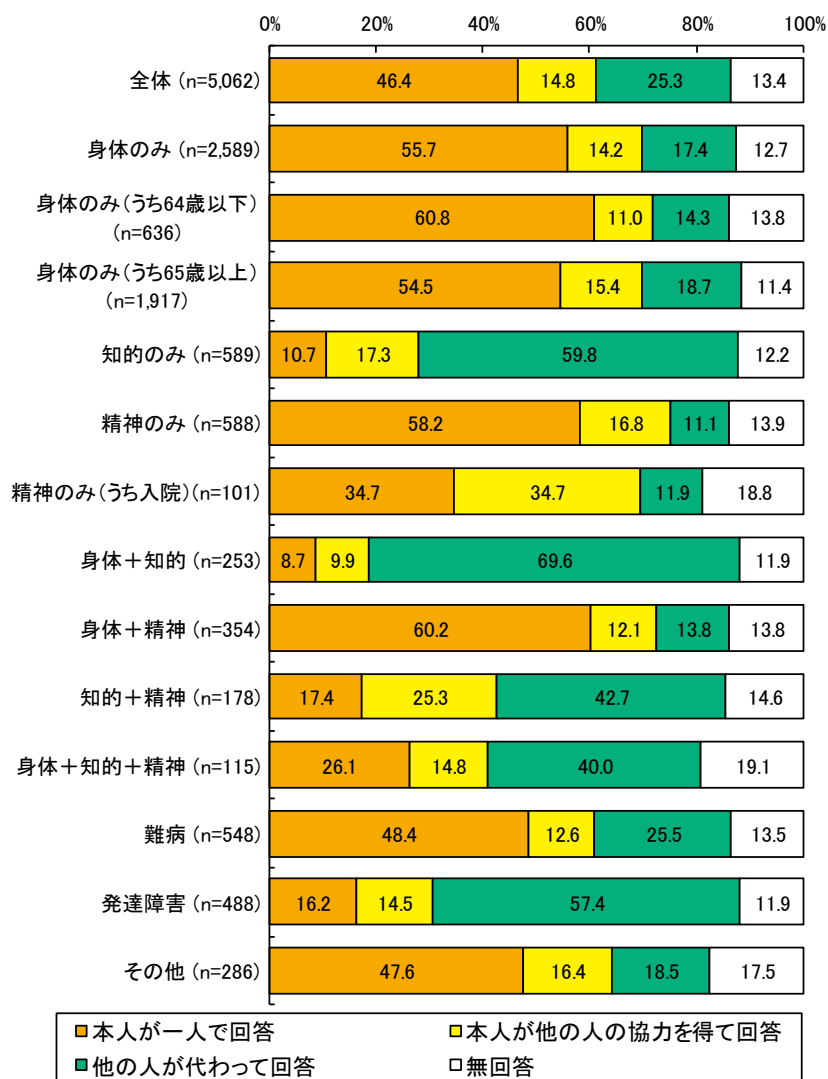
(1) 対象者の属性

① アンケート回答者

●問1 このアンケートに回答されているのはどなたですか。

アンケート回答者をみると、「本人が一人で回答」は46.4%となっています。本人による回答の割合は、「知的のみ」、「身体+知的」で比較的低い傾向となっています。

図表 3 アンケート回答者(SA)



他の人が代わって回答 (25.3%)

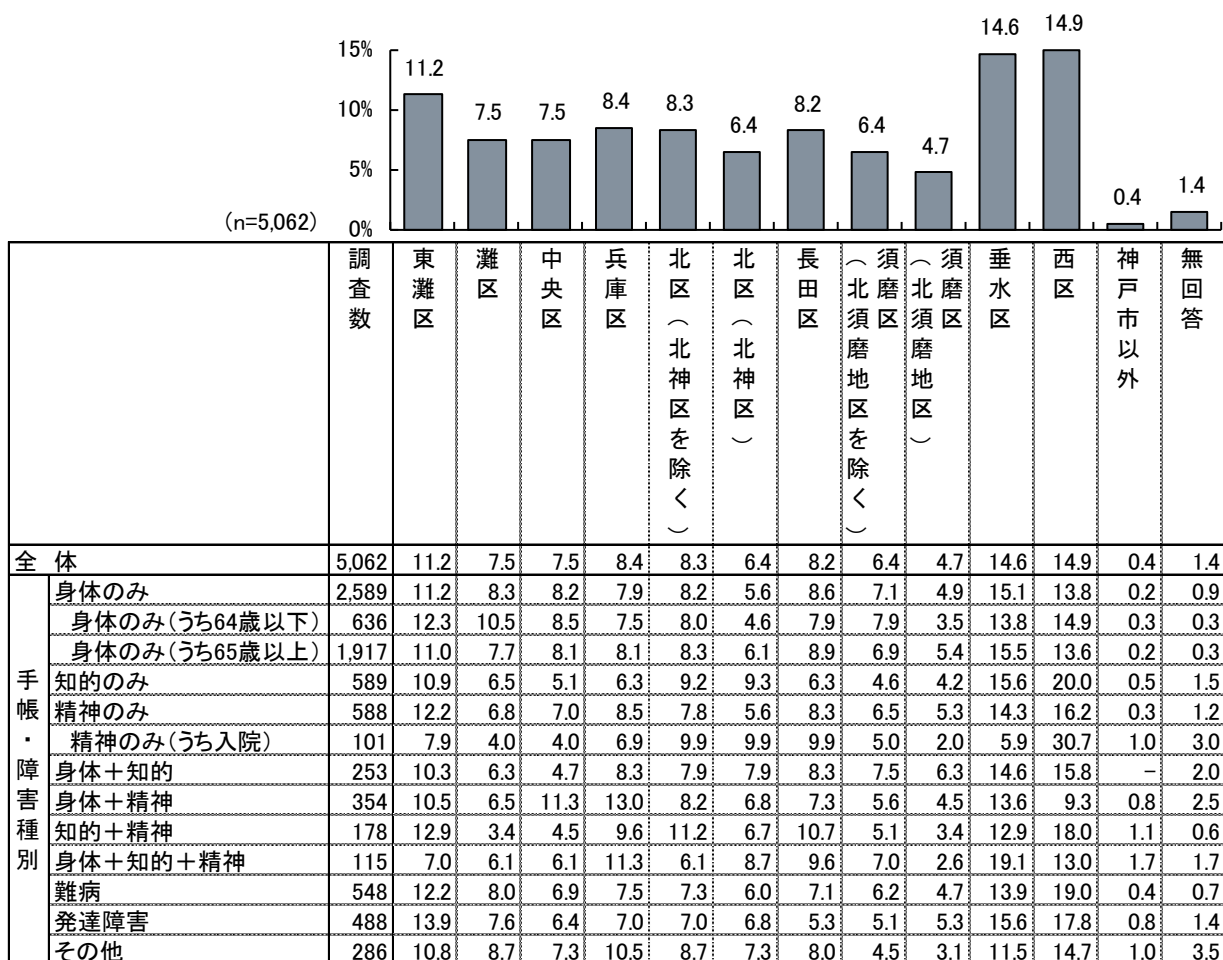
主な回答内容	件数 (割合)
親 (養父母含む)	578 (11.4%)
子ども	210 (4.1%)
配偶者	151 (3.0%)
兄弟姉妹	71 (1.4%)
施設・病院関係者、職員	66 (1.3%)

② 居住区

●問 2 現在のお住まいは何区ですか。

居住区をみると、「西区」が最も高く 14.9%、次いで「垂水区」14.6%、「東灘区」11.2%となっています。障害別でも、おおむね同様の傾向がみられます。

図表 4 居住区(SA)

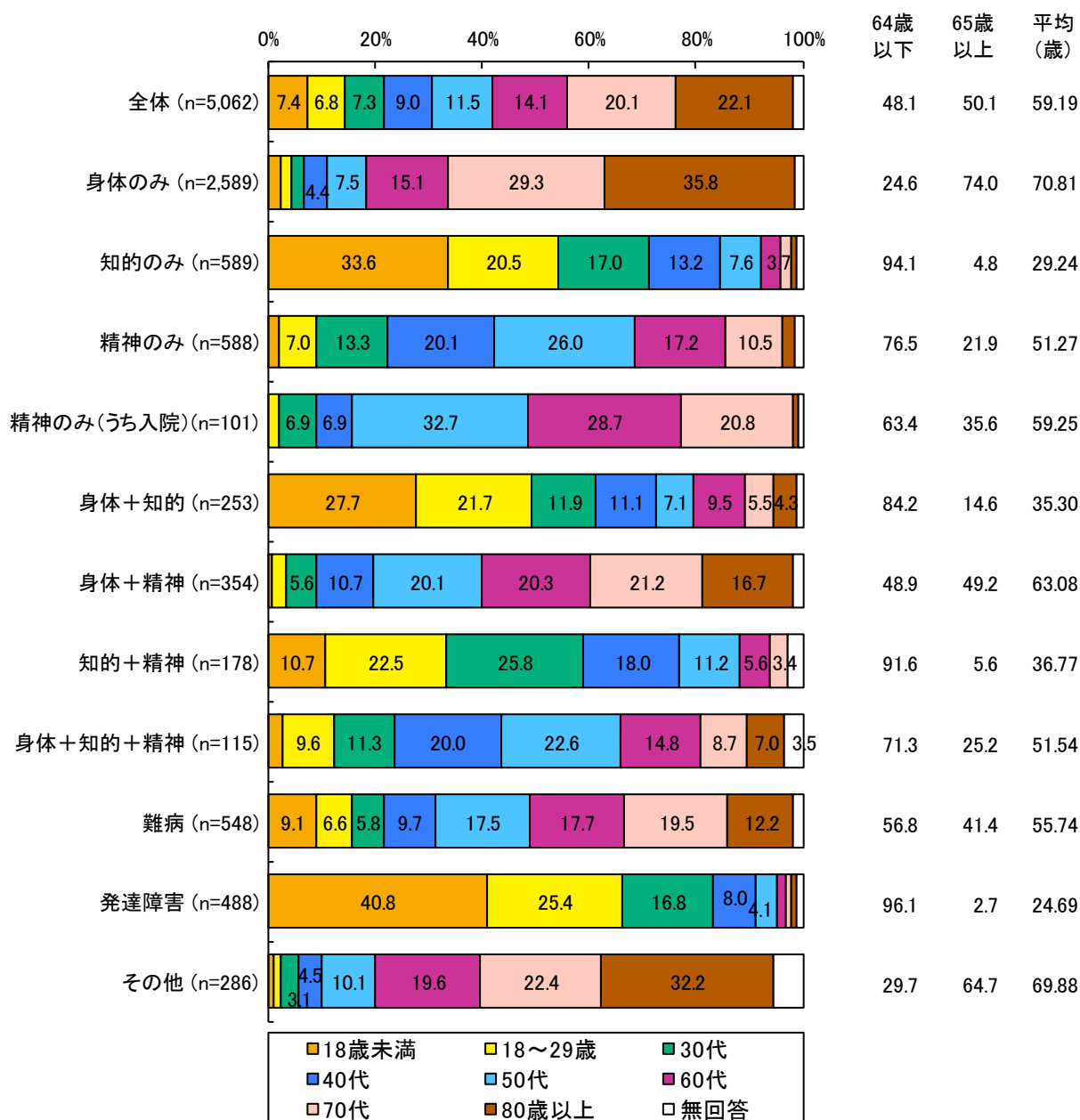


③ 年齢

●問3 あなたの年齢は、満何歳ですか。

年齢をみると、64歳以下が48.1%、65歳以上が50.1%となっています。障害別では、「身体のみ」で「65歳以上」の割合が高くなっています。

図表 5 年齢

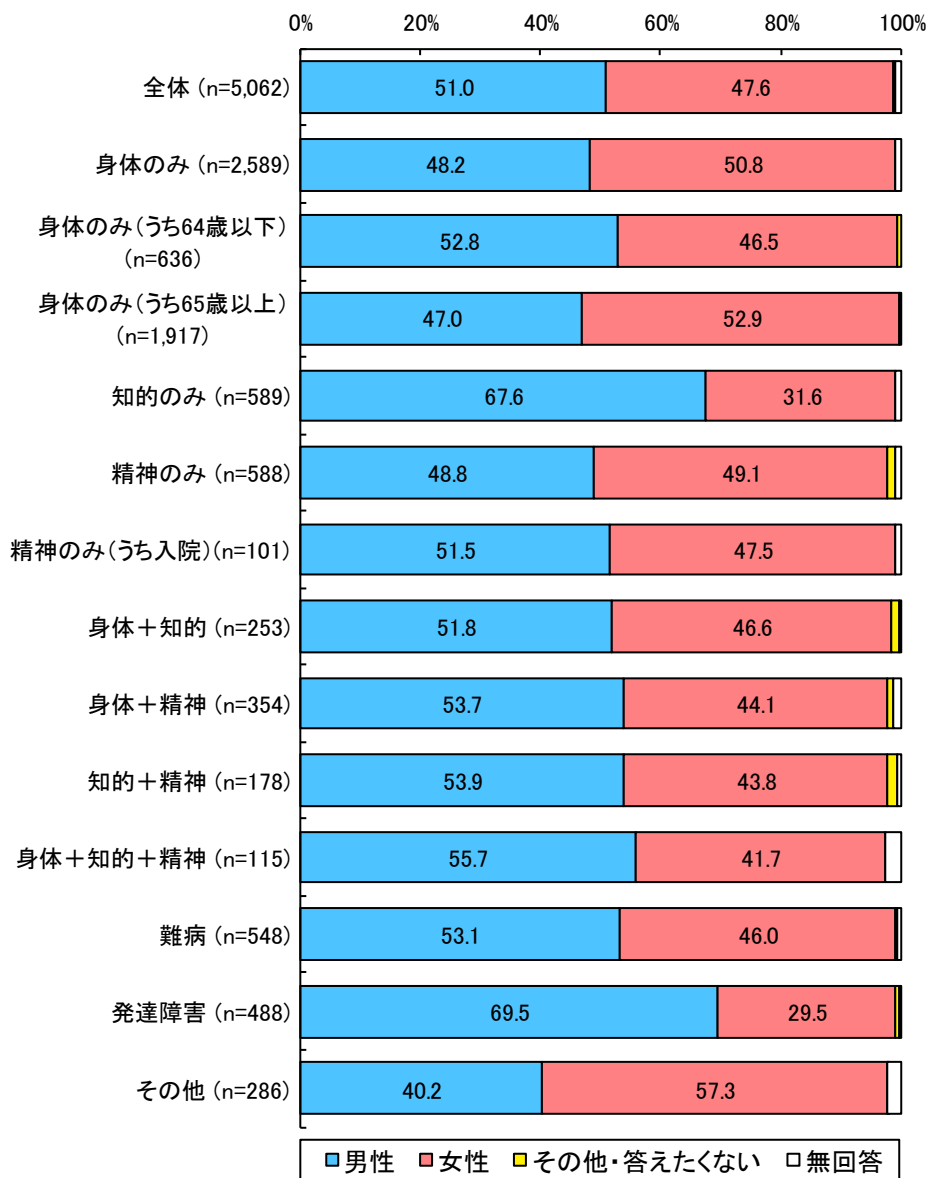


④ 性別

●問 4 あなたの性別をお答えください。

性別をみると、「男性」が 51.0%、「女性」が 47.6%と、ほぼ同数となっています。障害別では、「知的のみ」、「発達障害」で「男性」の割合が高くなっています。

図表 6 性別(SA)

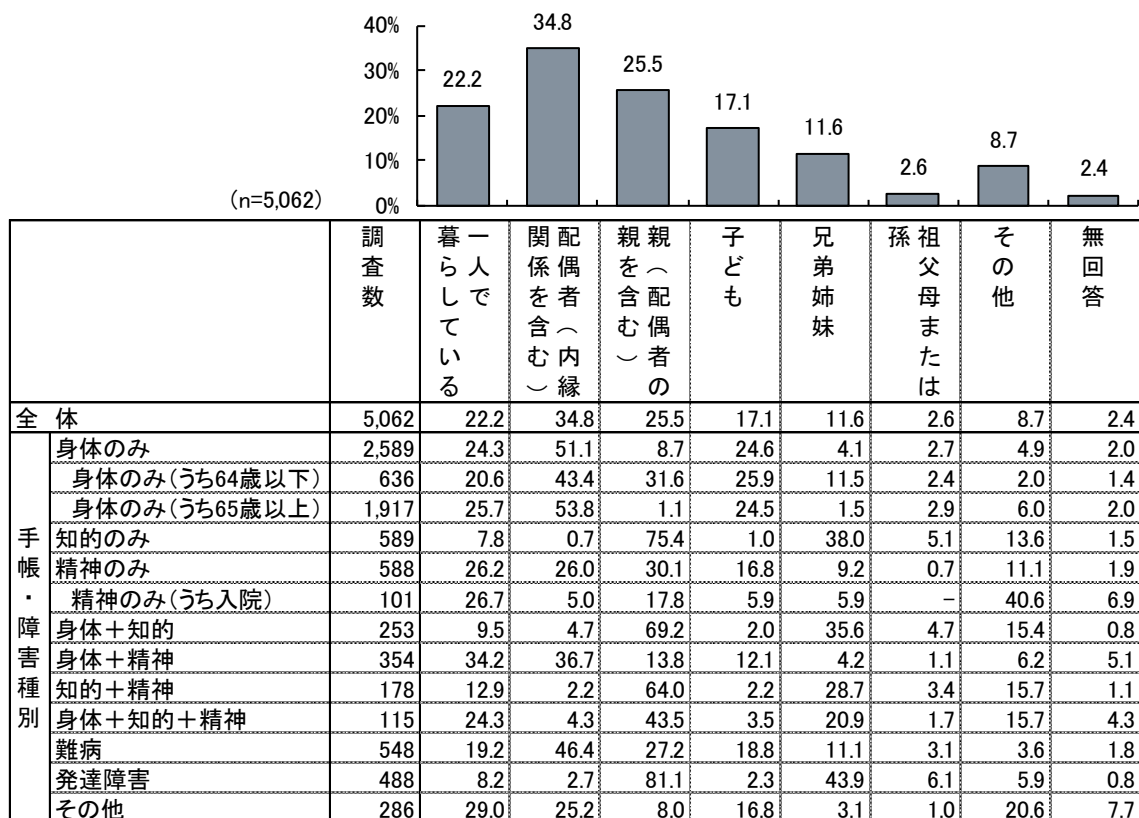


⑤ 同居の状況

●問5 現在、あなたはどなたと暮らしていますか。(複数回答)

同居者をみると、「配偶者（内縁関係を含む）」が最も高く 34.8%、次いで「親（配偶者の親を含む）」25.5%、「一人で暮らしている」22.2%となっています。障害別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「発達障害」では「親（配偶者の親を含む）」が6割強～8割となっています。

図表 7 同居者(MA)



その他 (8.7%)

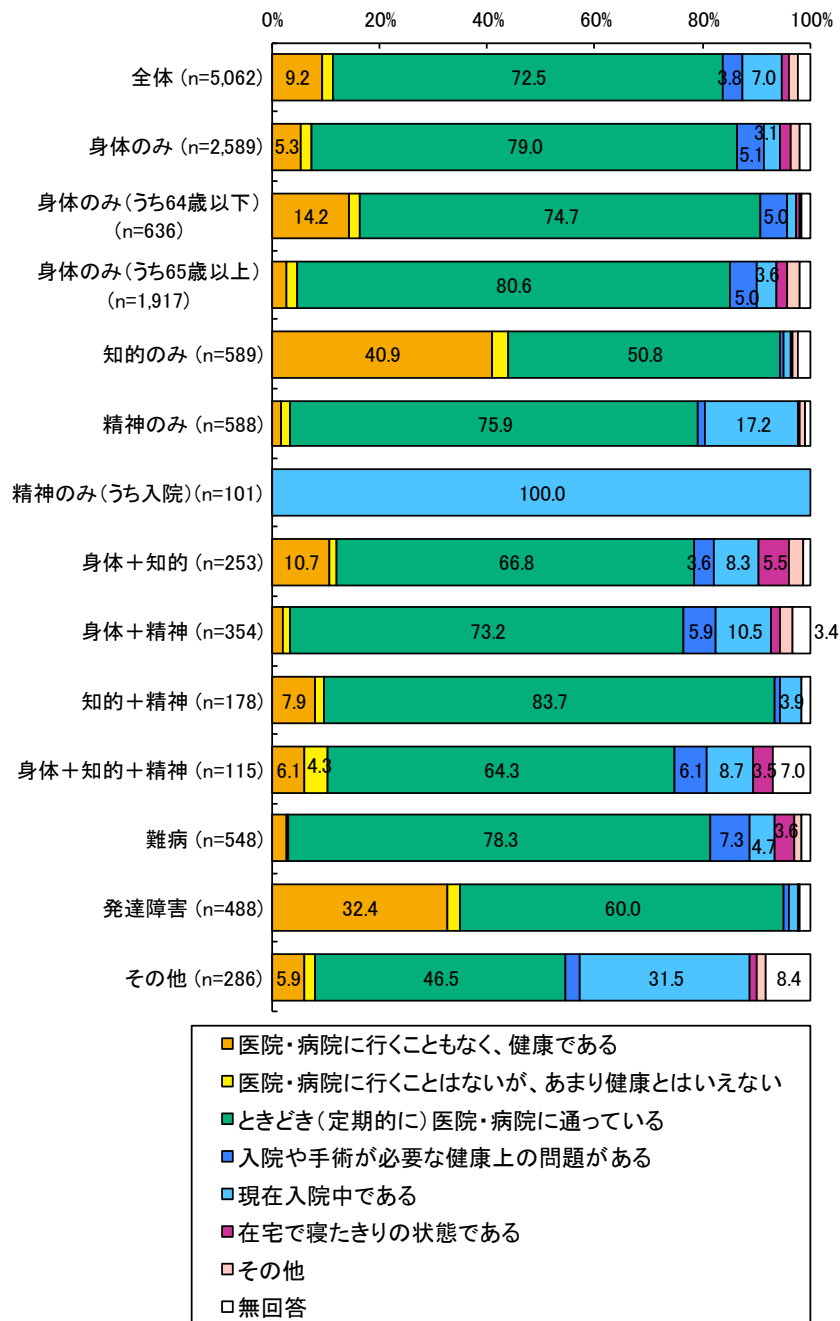
主な回答内容	件数	(割合)
施設入所	247	(4.9%)
入院	97	(1.9%)
子どもの配偶者・婚約者	25	(0.5%)
甥・姪	11	(0.2%)
おじ・おば	6	(0.1%)
友人・知人	6	(0.1%)

⑥ 健康状態

●問 6 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

健康状態をみると、「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」が72.5%と、7割強を占めています。障害別では、「知的のみ」、「発達障害」で「医院・病院に行くこともなく、健康である」が3割強～4割と比較的高くなっています。

図表 8 健康状態(SA)



その他 (1.5%)

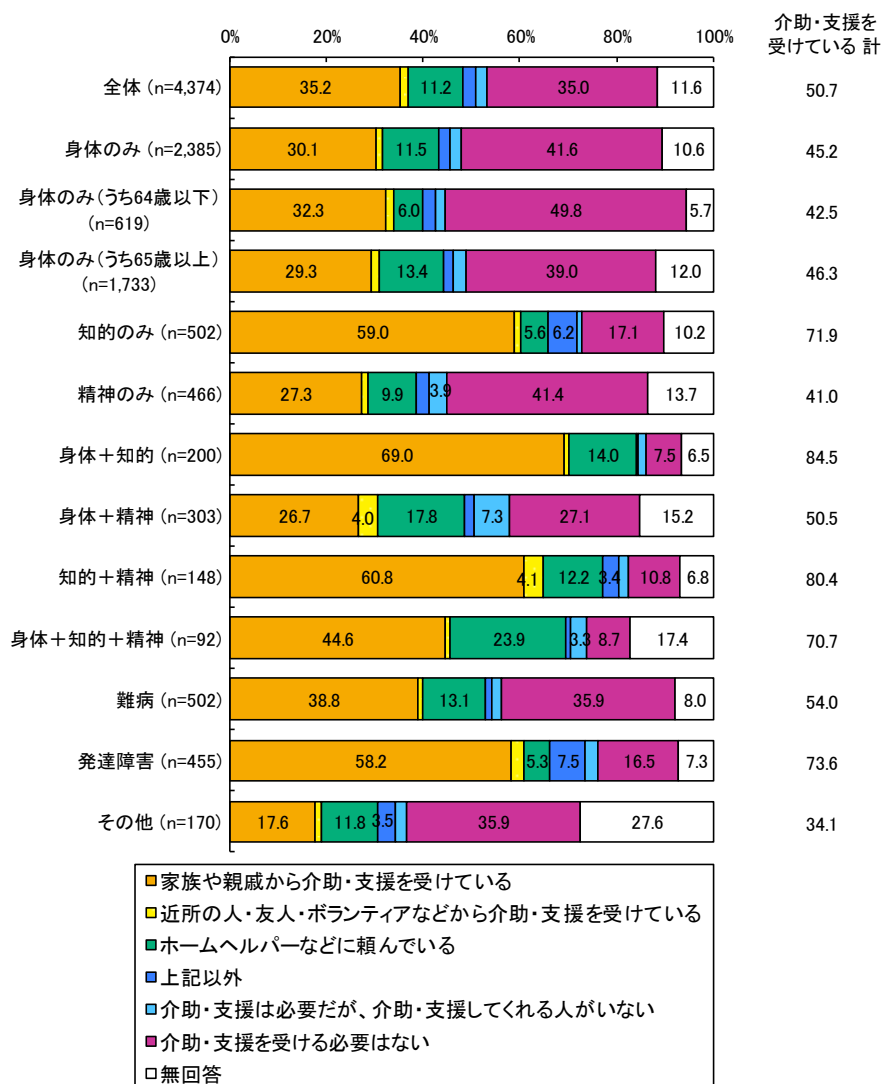
主な回答内容	件数
在宅医療（訪問診察、デイサービス）	19
施設に入所	13

⑦ 日常生活における介助・支援の必要性

●問 7(1) 現在、あなたはどのように介助・支援を受けていますか。※「入所施設」「グループホーム」「病院」などにおられる方は、お答えいただかなくて結構です。

介助・支援の状況を見ると、「介助・支援を受ける必要はない」が 35.0%、「家族や親戚から介助・支援を受けている」が 35.2%と、ともに4割弱を占めています。障害別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」、「発達障害」で介助・支援を受けている人の割合が7割～8割強と高くなっています。

図表 9 介助・支援の状況(SA)



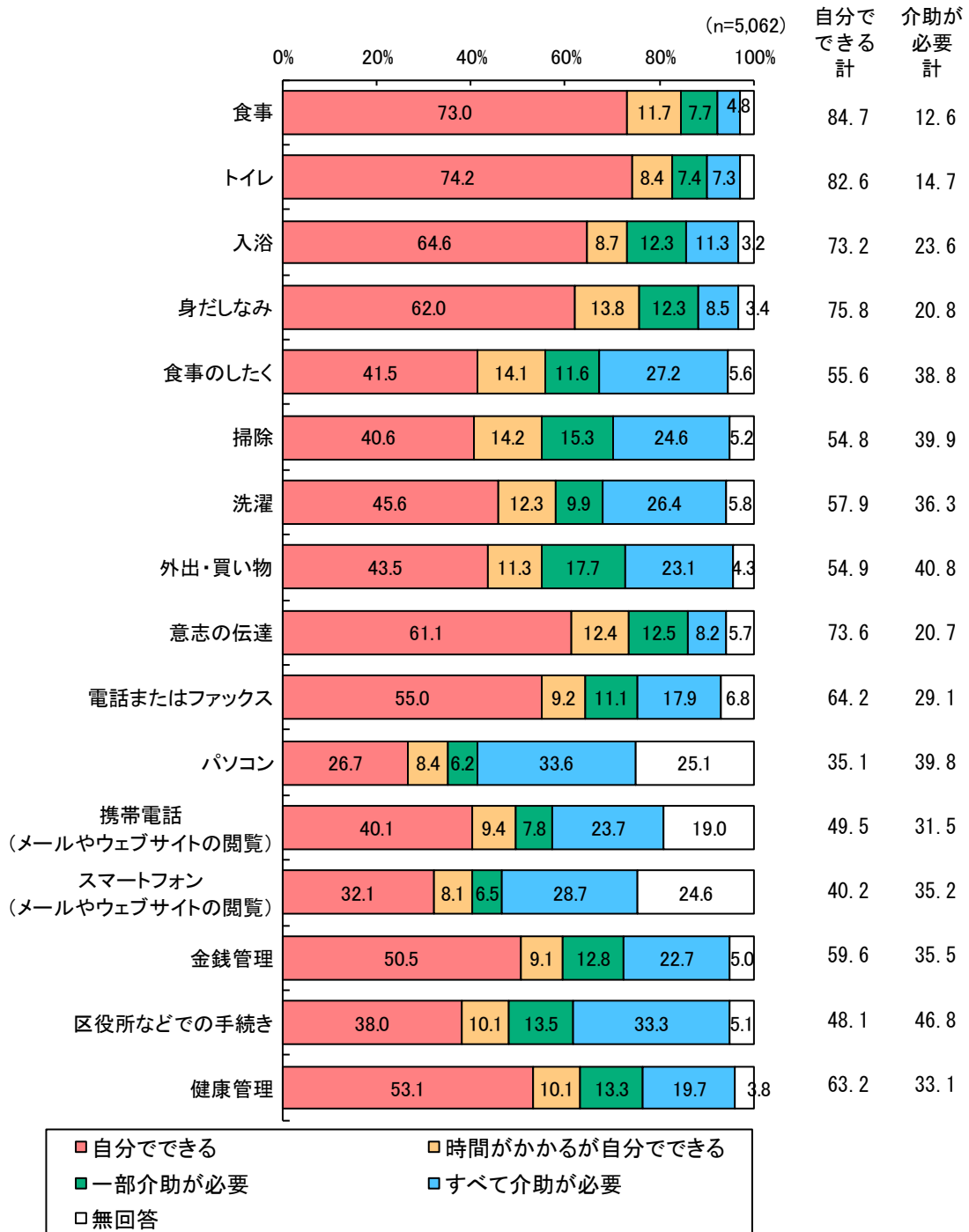
上記以外 (2.7%)

主な回答内容	件数
デイサービス	28
放課後等デイサービス	14
デイケア	10
児童発達支援センター・療育センターなど	7
地域活動支援センター・社会福祉協議会など	3
ケアマネージャー、ケースワーカー、スクールソーシャルワーカーなど	3
学校	3

●問 7(2) あなたは、以下の日常生活に必要な行動について、どの程度介助・支援が必要ですか。それぞれの項目についてお答えください。
 日によって介助・支援などの状況が異なる場合は平均的な状況を、また、日常あまりしない項目については、もしあなたがするとすればどの程度できるかをお答えください。

日常生活に必要な行動についての介助・支援の必要度をみると、介助を必要とする割合（「一部介助が必要」「すべて介助が必要」の計）は「区役所などでの手続き」が最も高く、半数弱を占めています。

図表 10 介助・支援の必要度(SA)

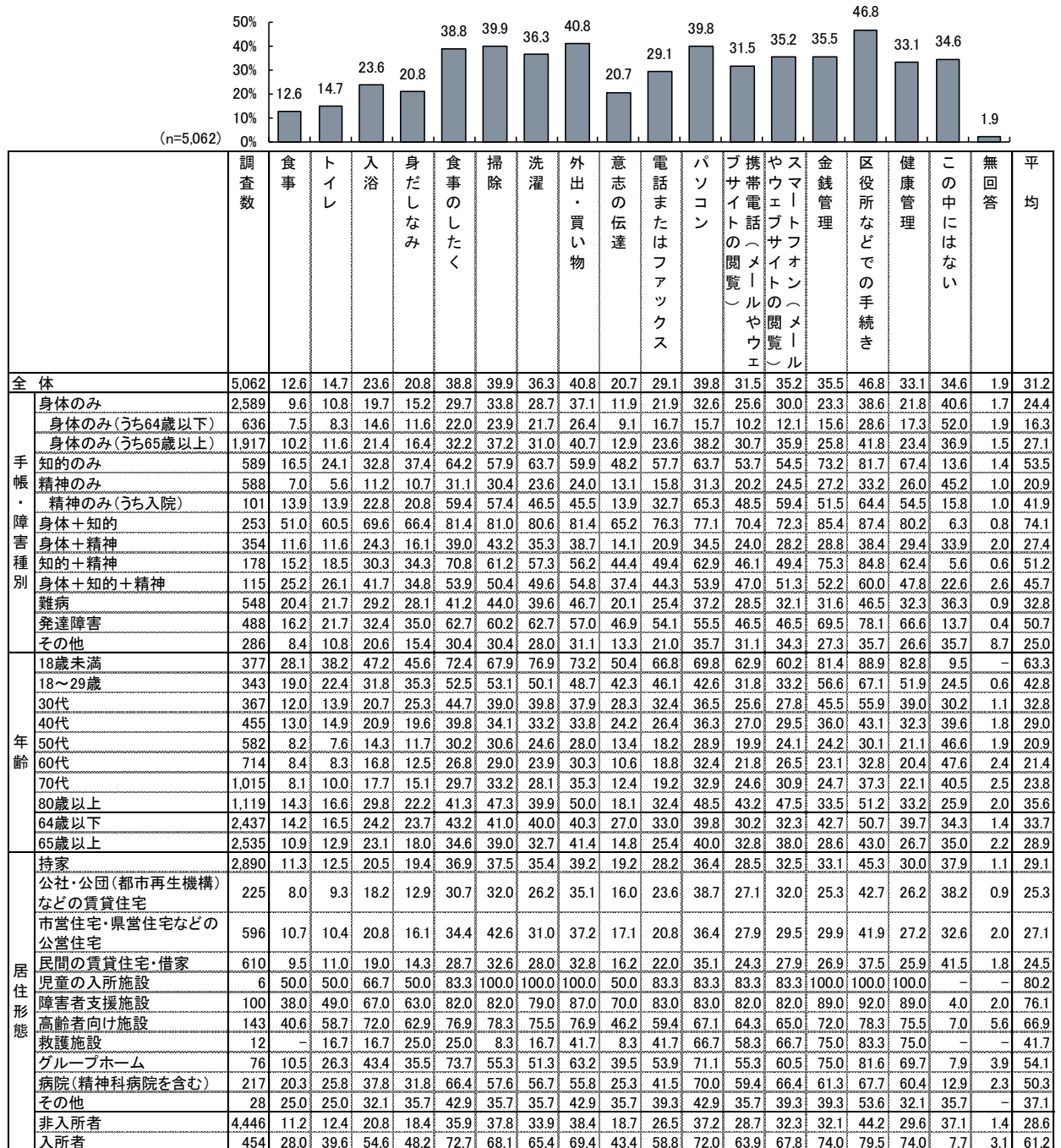


障害別では、介助・支援の必要度は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「発達障害」で高くなっています。

年齢別では、介助・支援の必要度は18歳未満で最も高く、50代で最も低くなっています。70代と80歳以上を比較すると、多くの項目（掃除、洗濯、外出・買い物、パソコン、携帯電話、区役所などでの手続きなど）において10ポイント以上増加する傾向があります。

居住形態別では、介助・支援の必要度は非入所者よりも入所者で高い傾向にあり、入所者の中では、児童向けの入所施設、障害者支援施設で特に高い傾向があります。

図表 11 介助・支援の必要度【一部介助が必要+すべて介助が必要】(SA)



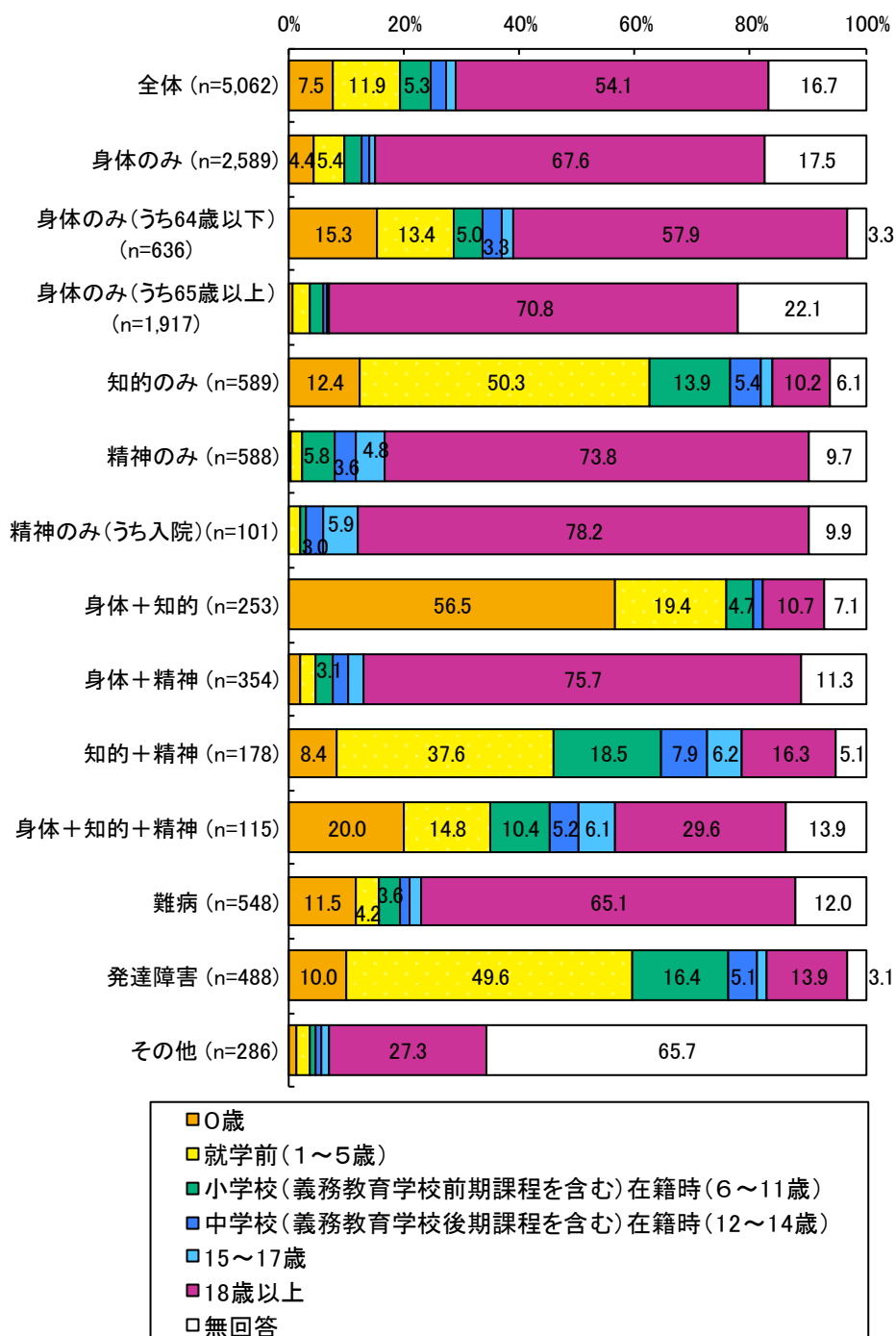
(2) 障害特性

① 障害に気づいた年齢

●問 8 自分に障害があると気づいたのはいつですか。

自分に障害があると気づいた時期をみると、「18歳以上」が54.1%と、半数強を占めています。障害別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「発達障害」では「0歳」および「就学前（1～5歳）」の合計割合が約6割～8割弱となっています。

図表 12 自分に障害があると気づいた時期(SA)

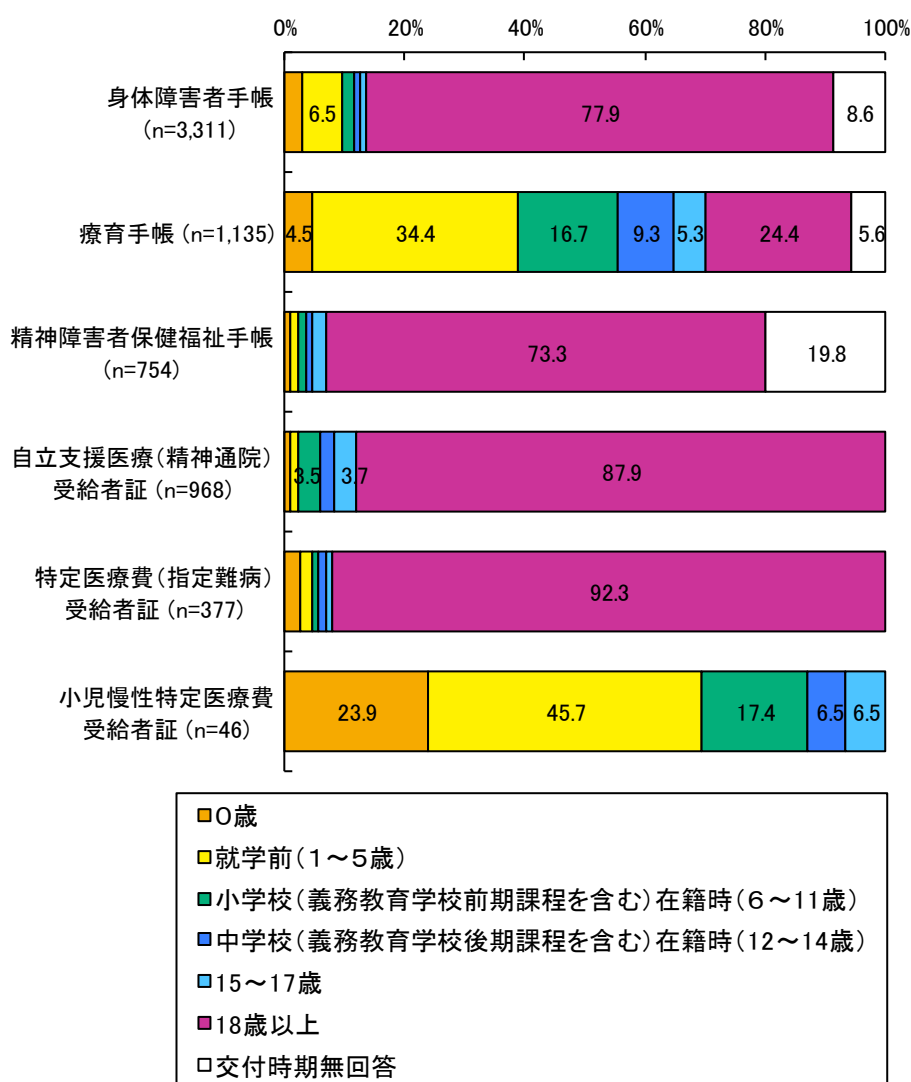


② 手帳所持状況

●問9 あなたは障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）や自立支援医療受給者証などをお持ちですか。お持ちの場合、初めて交付されたのはいつですか。障害者手帳・受給者証の種類ごとにお答えください。

障害者手帳・受給者証の交付時期をみると、「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「自立支援医療（精神通院）受給者証」「特定医療費（指定難病）受給者証」では「18歳以上」が、「療育手帳」「小児慢性特定医療費受給者証」では「就学前（1～5歳）」が最も高くなっています。

図表 13 障害者手帳・受給者証の交付時期(所持者のみ)(SA)

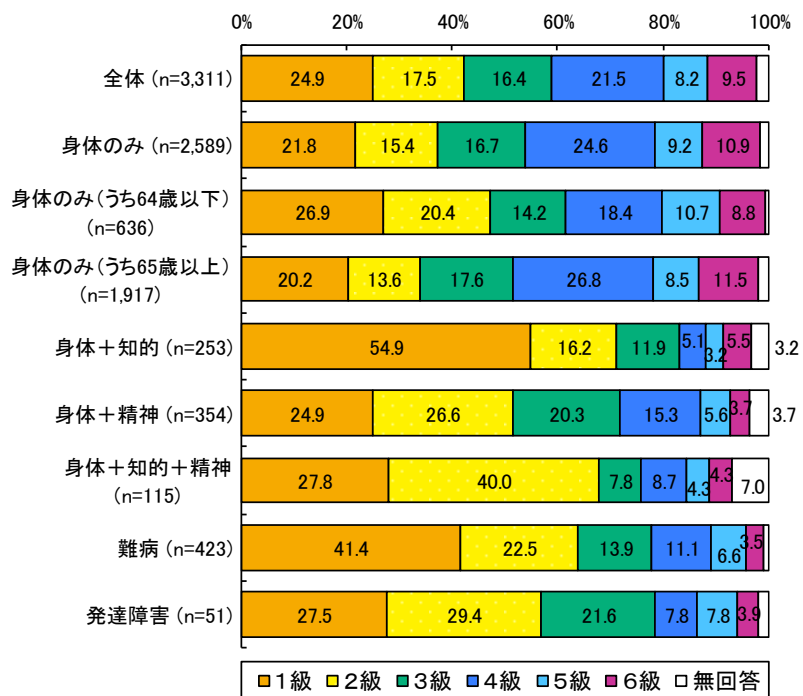


③ 身体障害の状況（身体障害者手帳所持者）

●問 10 (1) あなたの身体障害者手帳の等級（障害程度）はどれですか。

身体障害手帳の等級をみると、「1級」が最も高く 24.9%、次いで「4級」が 21.5%となっています。「身体+知的」では「1級」が半数強となっています。

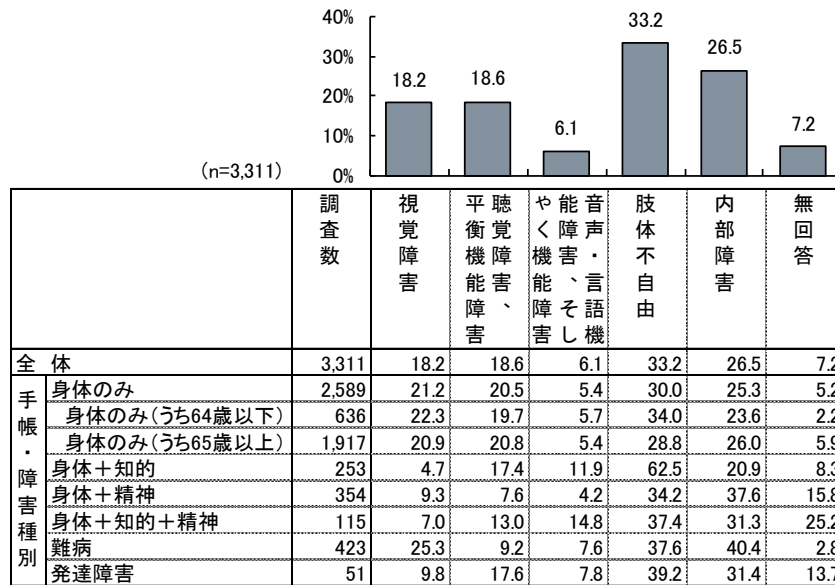
図表 14 身体障害手帳の等級(SA)



●問 10 (2) あなたの身体障害の内容をお答えください。(複数回答)

身体障害手帳所持者の身体障害の内容をみると、「肢体不自由」が最も高く 33.2%、次いで「内部障害」26.5%となっています。

図表 15 身体障害手帳所持者の身体障害の内容(MA)



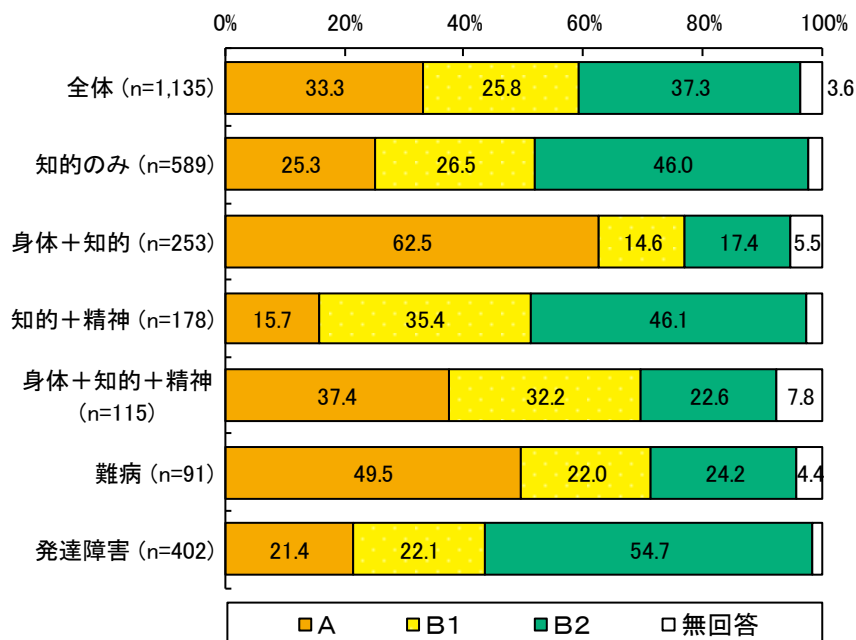
調査数	視覚障害	平衡機能障害、聴覚障害	やく機能障害、音声・言語障害	肢体不自由	内部障害	無回答	
全体	3,311	18.2	18.6	6.1	33.2	26.5	7.2
手帳・障害種別							
身体のみ	2,589	21.2	20.5	5.4	30.0	25.3	5.2
身体のみ(うち64歳以下)	636	22.3	19.7	5.7	34.0	23.6	2.2
身体のみ(うち65歳以上)	1,917	20.9	20.8	5.4	28.8	26.0	5.9
身体+知的	253	4.7	17.4	11.9	62.5	20.9	8.3
身体+精神	354	9.3	7.6	4.2	34.2	37.6	15.8
身体+知的+精神	115	7.0	13.0	14.8	37.4	31.3	25.2
難病	423	25.3	9.2	7.6	37.6	40.4	2.8
発達障害	51	9.8	17.6	7.8	39.2	31.4	13.7

④ 知的障害の状況（療育手帳所持者）

●問 11 あなたの療育手帳の判定はどれですか。

療育手帳の判定をみると、「B 2」が 37.3%と、最も高くなっています。「身体+知的」では「A」が 6 割強となっています。

図表 16 療育手帳の判定(SA)

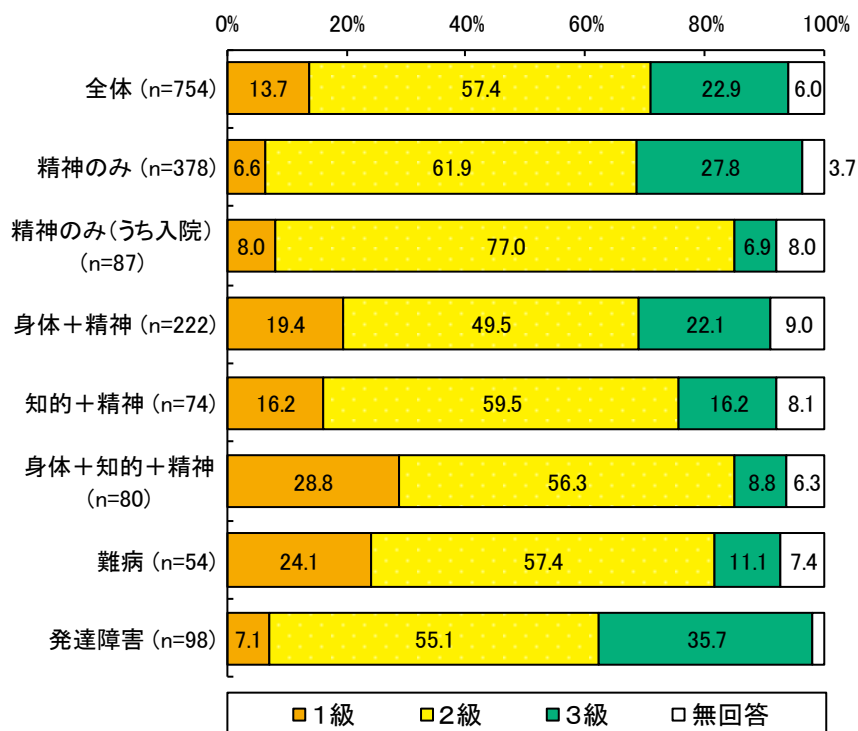


⑤ 精神障害の状況（精神障害者保健福祉手帳所持者）

●問 12 あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級はどれですか。

精神障害者保健福祉手帳の等級をみると、「2級」が 57.4%と、6割弱を占めています。「身体+知的+精神」では「1級」が約3割となっています。

図表 17 精神障害者保健福祉手帳の等級(SA)

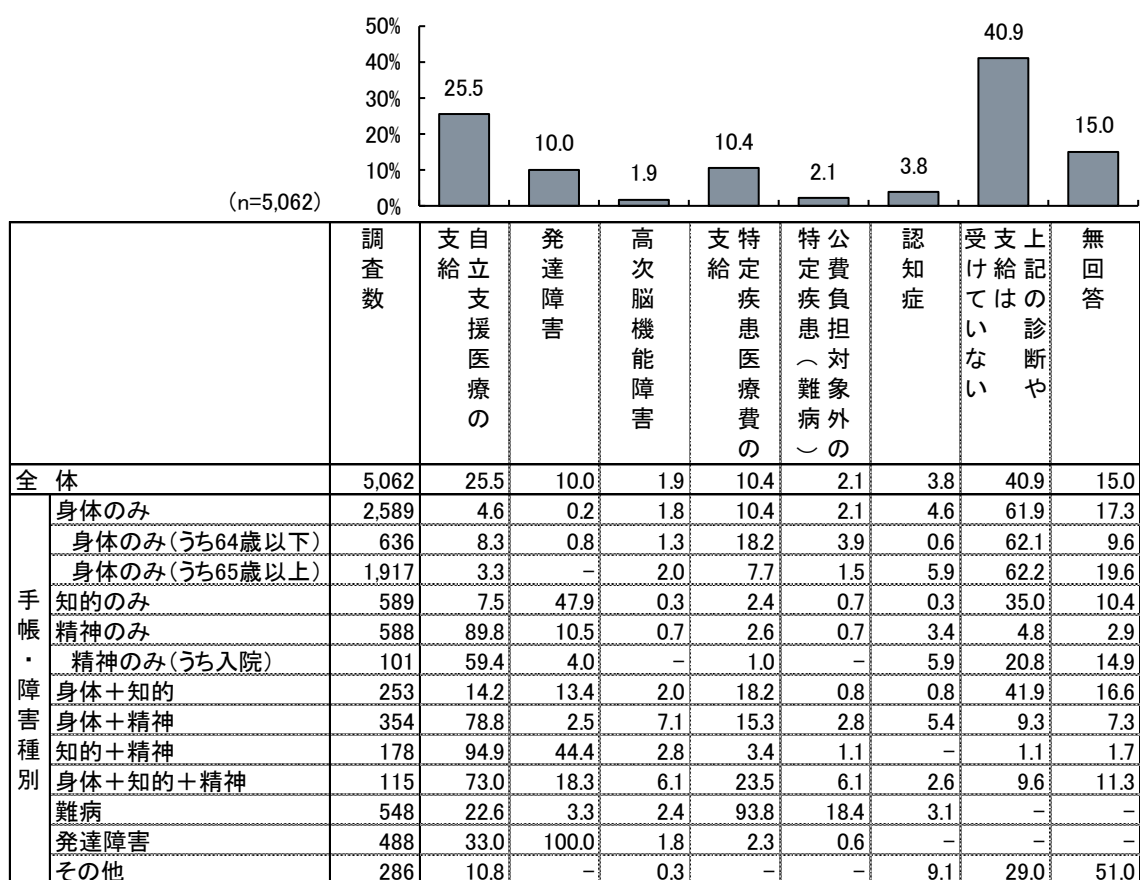


⑥ 発達障害・難病等の診断

●問 13 あなたは、これまでに以下の診断や支給を受けたことがありますか。(現在、受けているものも含む) (複数回答)

障害の診断・医療費支給の有無をみると、「上記の診断や支給は受けていない」が4割を占めますが、受給者の中では「自立支援医療の支給」(25.5%)が最も高くなっています。障害別では、「精神のみ」、「身体+精神」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」では「自立支援医療の支給」が7割強～9割強となっています。

図表 18 障害の診断・医療費支給の有無(MA)

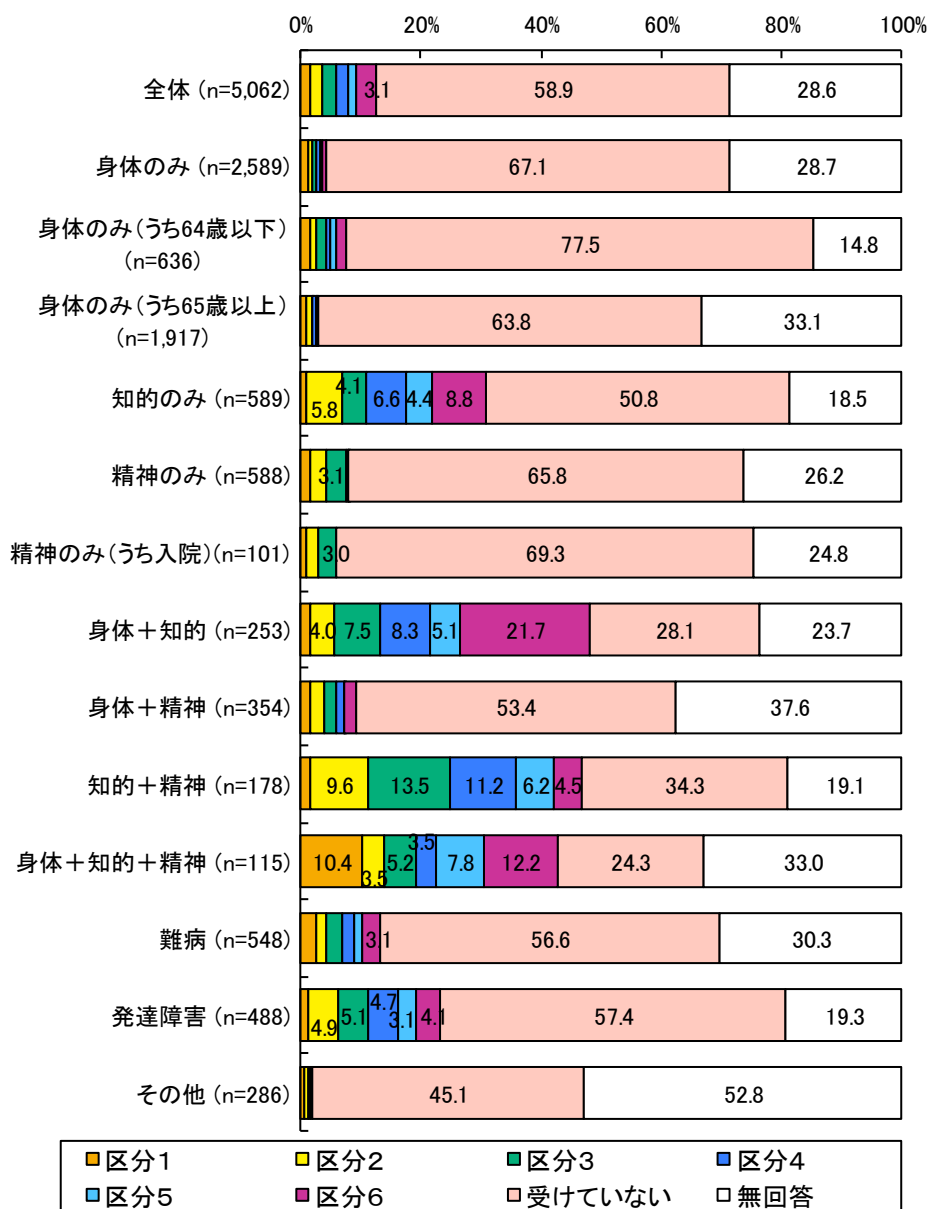


⑦ 障害支援区分

●問 14 あなたは障害福祉サービスの支給を受けるための障害支援区分の認定を受けていますか。受けている場合は、区分をお答えください。

障害支援区分の認定有無・区分をみると、「受けていない」(58.9%)が約6割を占めています。障害別では、認定を受けている人の割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」で3割～約5割と高くなっています。

図表 19 障害支援区分の認定有無、区分(SA)

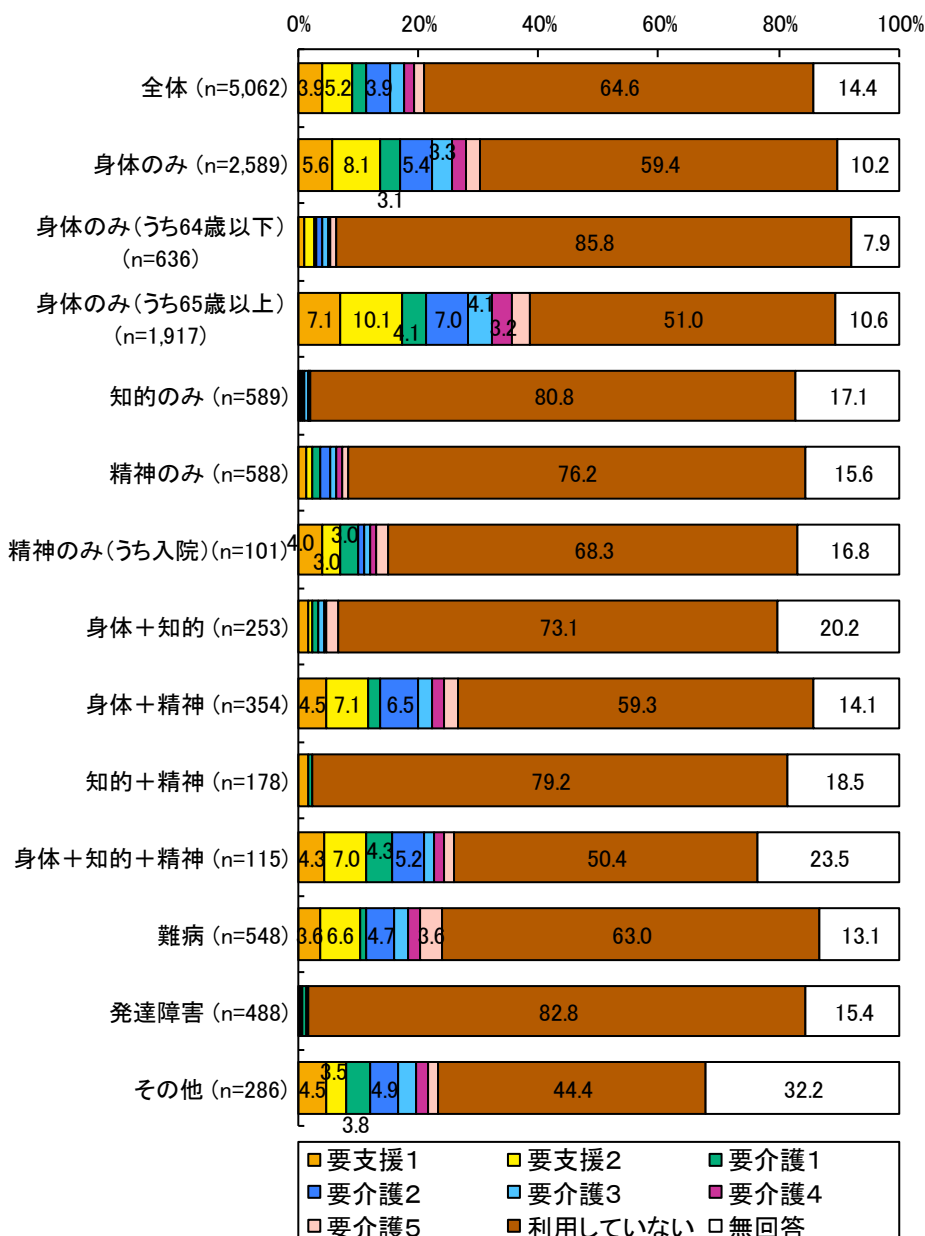


⑧ 介護保険サービスの利用

●問 15 現在、あなたは介護保険のサービスを利用していますか。利用している場合は、要介護度をお答えください。

介護保険サービスの利用有無、要介護認定等では、「利用していない」(64.6%)が6割強を占めています。障害別では、介護保険サービスの利用者は「身体のみ(うち65歳以上)」で約4割と高くなっています。

図表 20 介護保険サービスの利用有無、要介護認定等(SA)



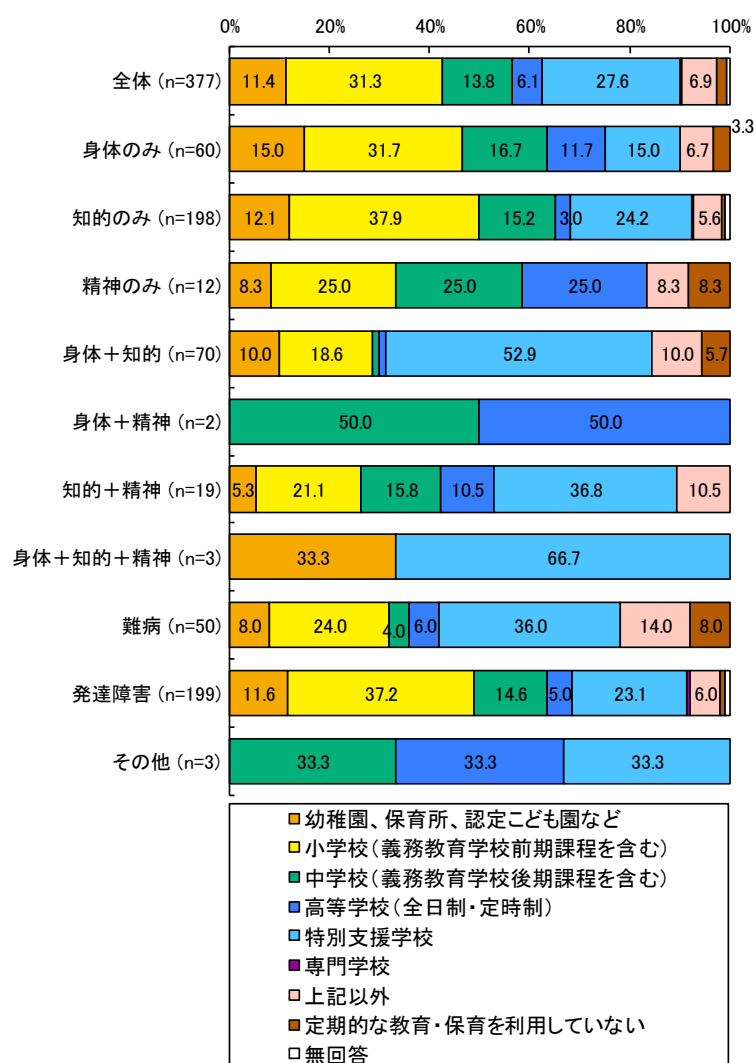
(3) 障害児支援

① 在籍している学校

●問 16 (1) 現在、あなたが在籍している学校などは、以下のうちどれにあたりますか。

18歳未満の人の就学状況を見ると、「小学校(義務教育学校前期課程を含む)」が最も高く31.3%、次いで「特別支援学校」27.6%となっています。障害別では、「身体のみ」、「知的のみ」、「発達障害」で「小学校(義務教育学校前期課程を含む)」が3割～4割弱と最も高くなっています。一方で、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」では「特別支援学校」の割合が4割弱～7割弱と最も高くなっています。

図表 21 就学状況(SA)



上記以外 (6.9%)

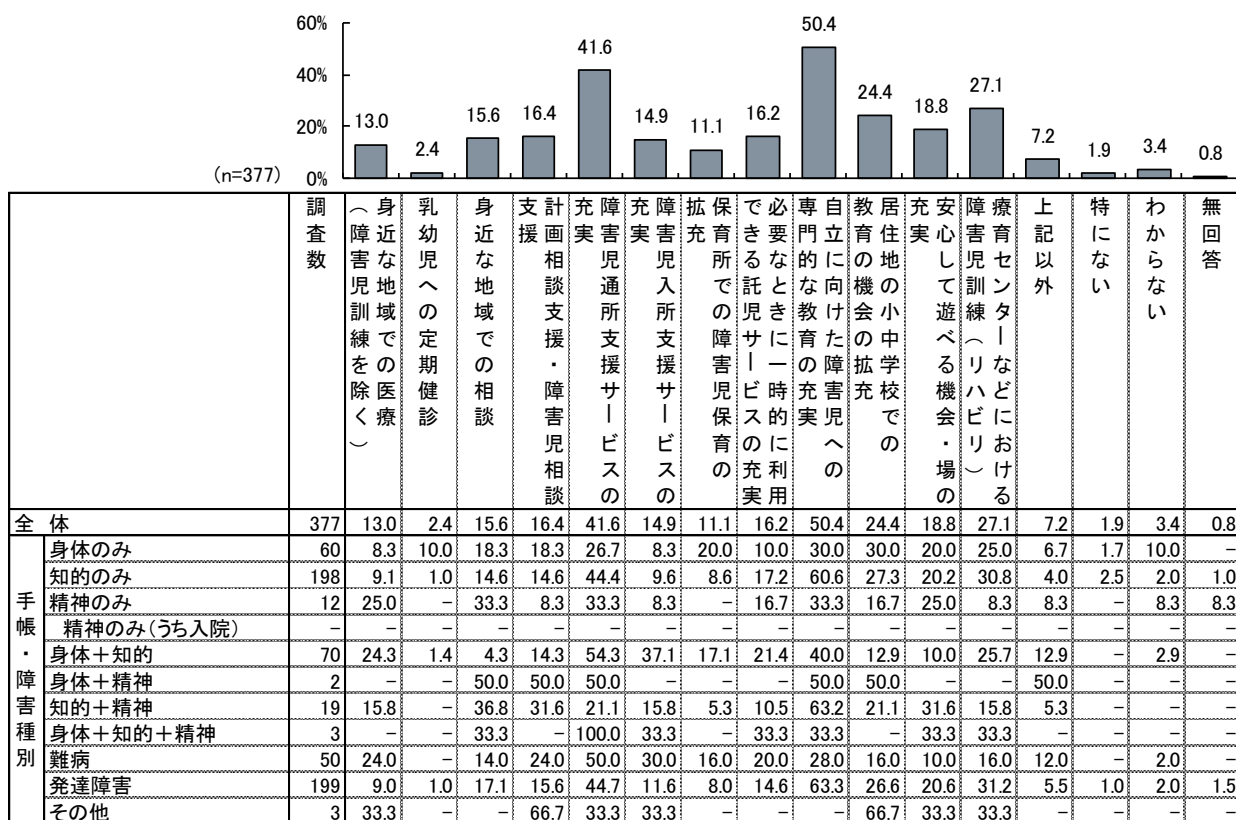
回答内容	件数
児童発達支援事業所	10
療育センター	9
通信制高校・通信教育	5
社会福祉施設	1

② 今後充実させるべき児童向けサービス

●問 16(2) あなたは、児童（18歳未満の方）向けのサービスについて、今後、神戸市において、どのようなサービスを充実させるべきだと思いますか。（複数回答（3つまで））

18歳未満の人の児童向けサービスのニーズでは、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」が50.4%と最も高く、次いで「障害児通所支援サービスの充実」41.6%、「療育センターなどにおける障害児訓練（リハビリ）」27.1%となっています。障害別では、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」を希望する人の割合は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で6割〜6割強と高くなっています。自立に向けた障害児への専門的な教育の充実の具体的なニーズとしては、障害種別の傾向から、知的障害、発達障害を持つ人を対象とした、一般企業・事業所へ就職できるようになるための訓練等のニーズが考えられます。

図表 22 児童向けサービスのニーズ(3つまで)



上記以外（7.2%）

主な回答内容	件数
自立に向けた相談支援（就職、フリースクールなど）、学校に行けない子どもの支援	8
泊まりで預けられる施設（レスパイトケア）、ショートステイ	5
教員・支援員の増員	3
付き添いなしの通学、移動支援（学校などへの送迎が負担のため）	3
重度障害児を受け入れられる場所、親子共に療育指導を受けられる場、幼稚園での障害児保育の充実	2

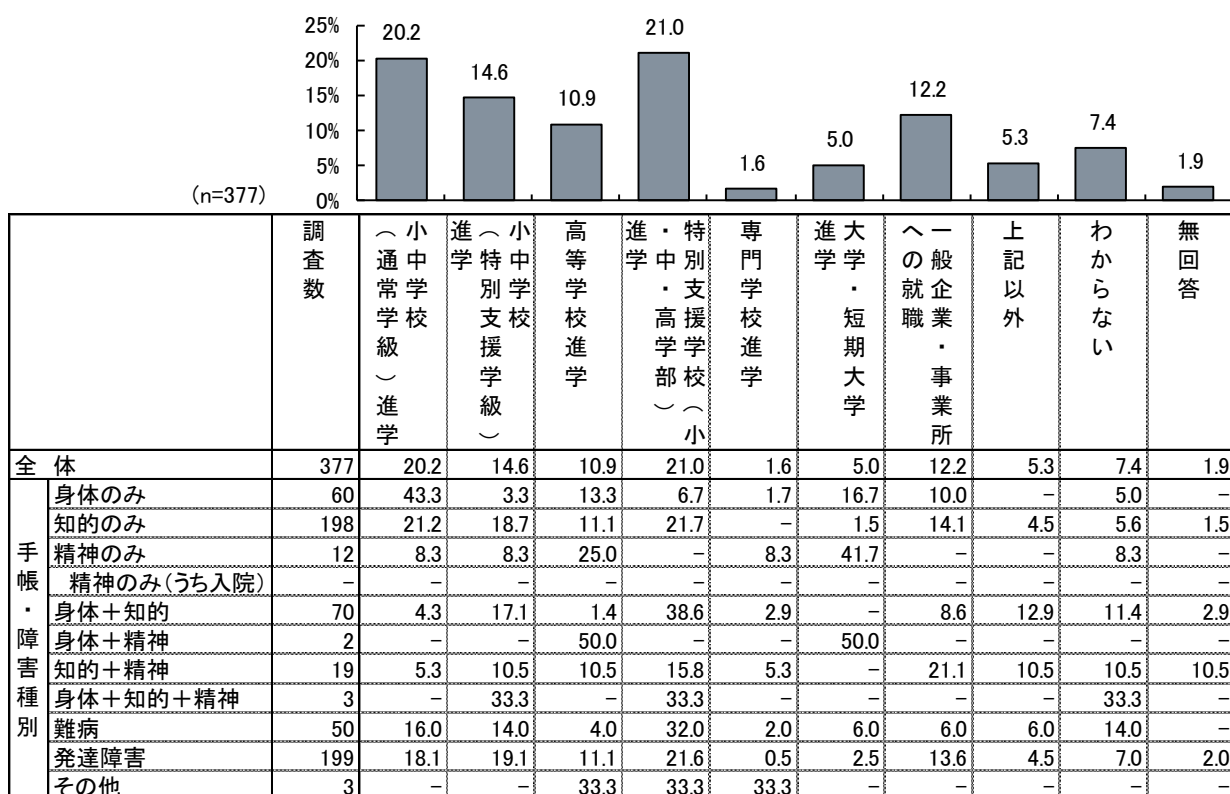
③ 望んでいる進路

●問 16(3) 現在、あなたが望んでいる進路（進学や就職、その他）はどのようなことでしょうか。

18歳未満の人が希望する進路では、「特別支援学校（小・中・高学部）進学」が最も高く21.0%、次いで「小中学校（通常学級）進学」20.2%となっています。

障害別では、「小中学校（通常学級）進学」を希望する人の割合は「身体のみ」で43.3%と特に高くなっています。一方で、「特別支援学校（小・中・高学部）進学」を希望する人の割合は「身体+知的」、「身体+知的+精神」、「難病」で3割強～約4割と特に高くなっています。

図表 23 希望する進路(SA)



上記以外（5.3%）

主な回答内容	件数
生活介護施設、事業所への通所	10
特別支援学校または専門学校、理解支援の得られる私立中学校（通常学級）	3
自立訓練の事業所、または訓練校	3
特例会社、就労施設	2

④ 障害児通所支援サービス・障害児訓練の利用状況

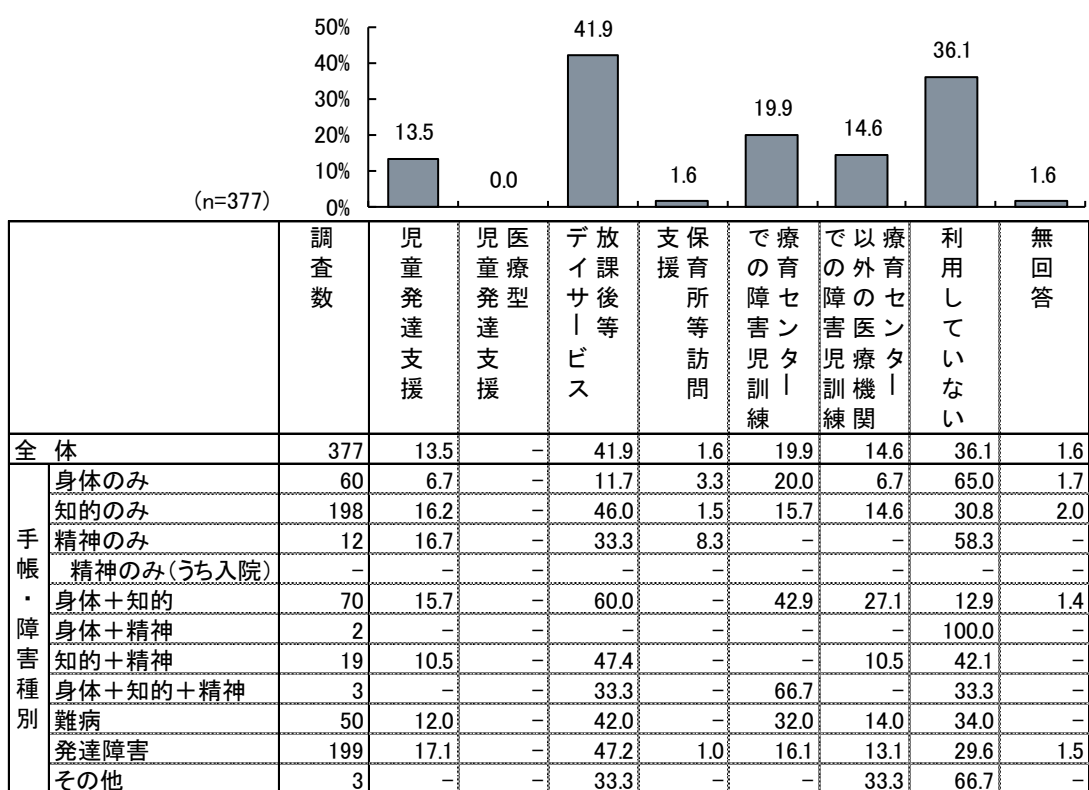
●問 17 (1) 現在、あなたは障害児通所支援サービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）や療育センターなどでの障害児訓練（リハビリ・セラピー）を利用していますか。
（複数回答）

利用している障害児通所支援サービス・障害児訓練では、「放課後等デイサービス」が41.9%と最も高く、次いで「療育センターでの障害児訓練」19.9%となっています。

一方、4割弱の人が「利用していない」（36.1%）と回答しています。

障害別では、「放課後等デイサービス」は「身体+知的」で60.0%と特に高くなっています。

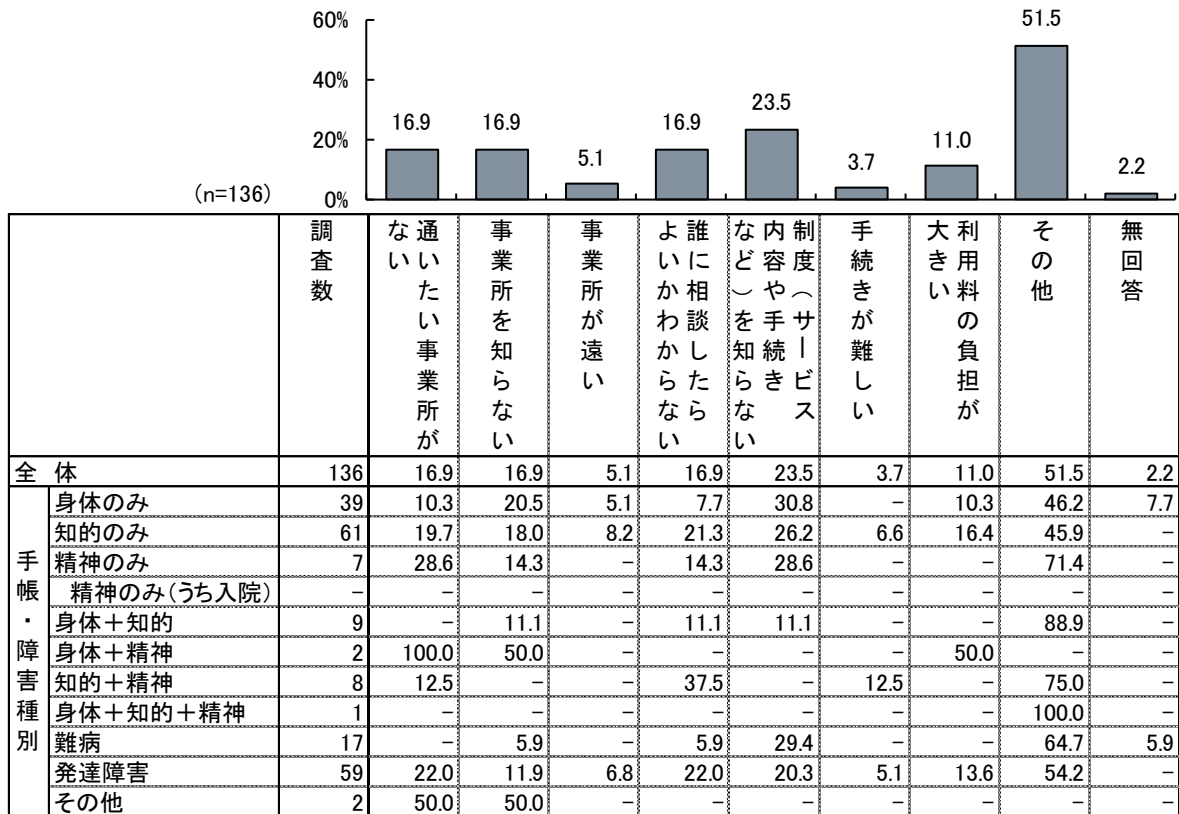
図表 24 障害児通所支援サービス・障害児訓練の利用状況(MA)



●問 17 (2) 障害児通所支援サービスや障害児訓練を利用していない理由は何ですか。
(複数回答)

障害児通所支援サービス・障害児訓練の非利用理由をみると、「制度（サービス内容や手続きなど）を知らない」が最も高く 23.5%、次いで「通いたい事業所がない」、「事業所を知らない」がともに 16.9%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 25 障害児通所支援サービス・障害児訓練の非利用理由(MA)



その他 (51.5%)

主な回答内容	件数 (割合)
現在は必要としていない	39 (28.7%)
本人が拒否	9 (6.6%)
行かせたくない (満足のできるサービスが提供されていない、対応がよくない、抵抗があるなど)	5 (3.7%)
卒業したため	3 (2.2%)

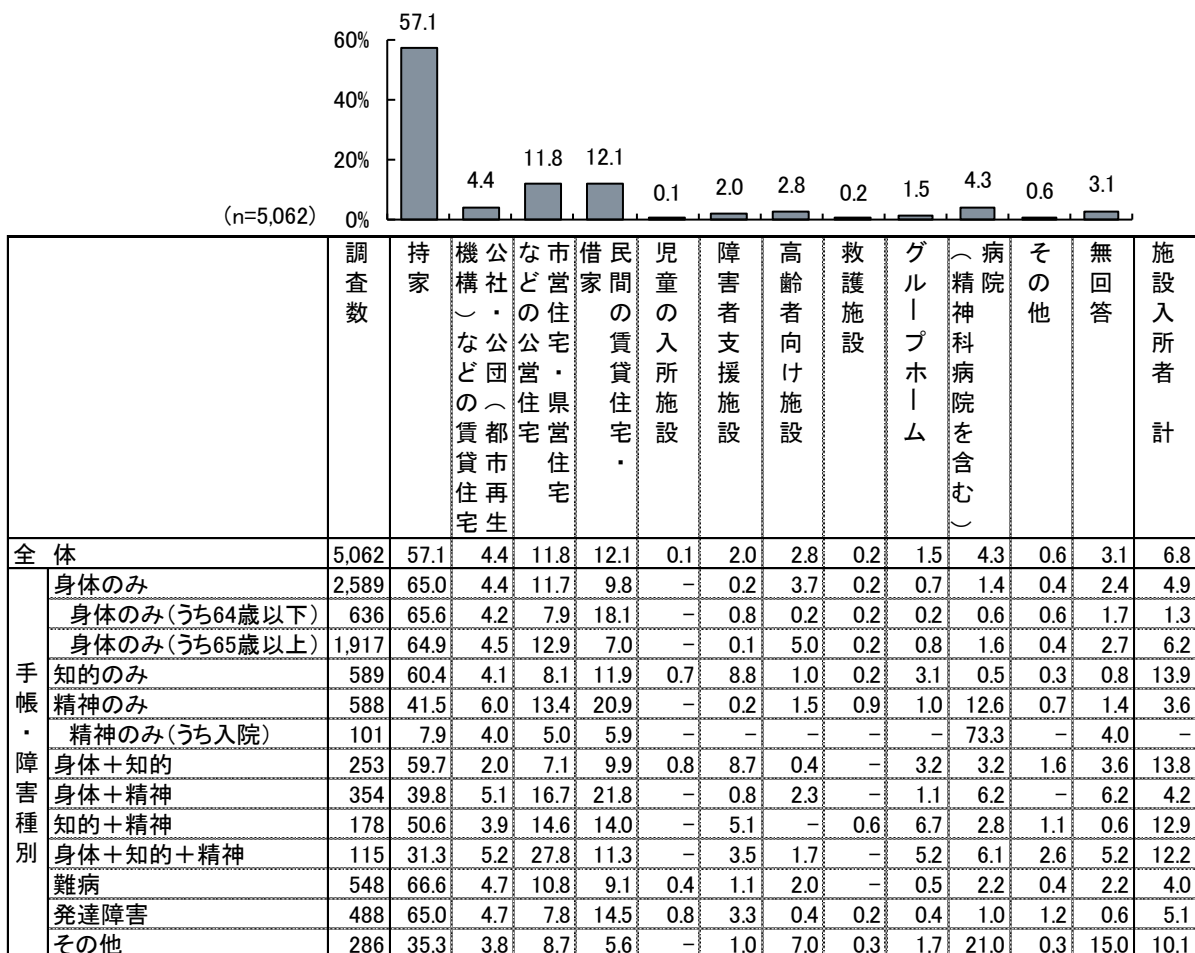
(4) 暮らしの状況

① 暮らしている場所

●問 18 (1) 現在あなたが暮らしているところは、以下のうちどれにあたりますか。住民票上の住所などにかかわらず、実際に暮らしているところについてお答えください。

現在の居住形態をみると、「持家」が 57.1%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅・借家」が 12.1%、「市営住宅・県営住宅などの公営住宅」11.8%となっています。障害別では、施設入所者（「児童の入所施設」、「障害者支援施設」、「高齢者向け施設」、「救護施設」、「グループホーム」合計）の割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」で1割強と比較的高くなっています。

図表 26 居住形態(SA)



その他 (0.6%)

主な回答内容	件数
社宅	10
その他の施設	6
寮	2
医療福祉センター	2

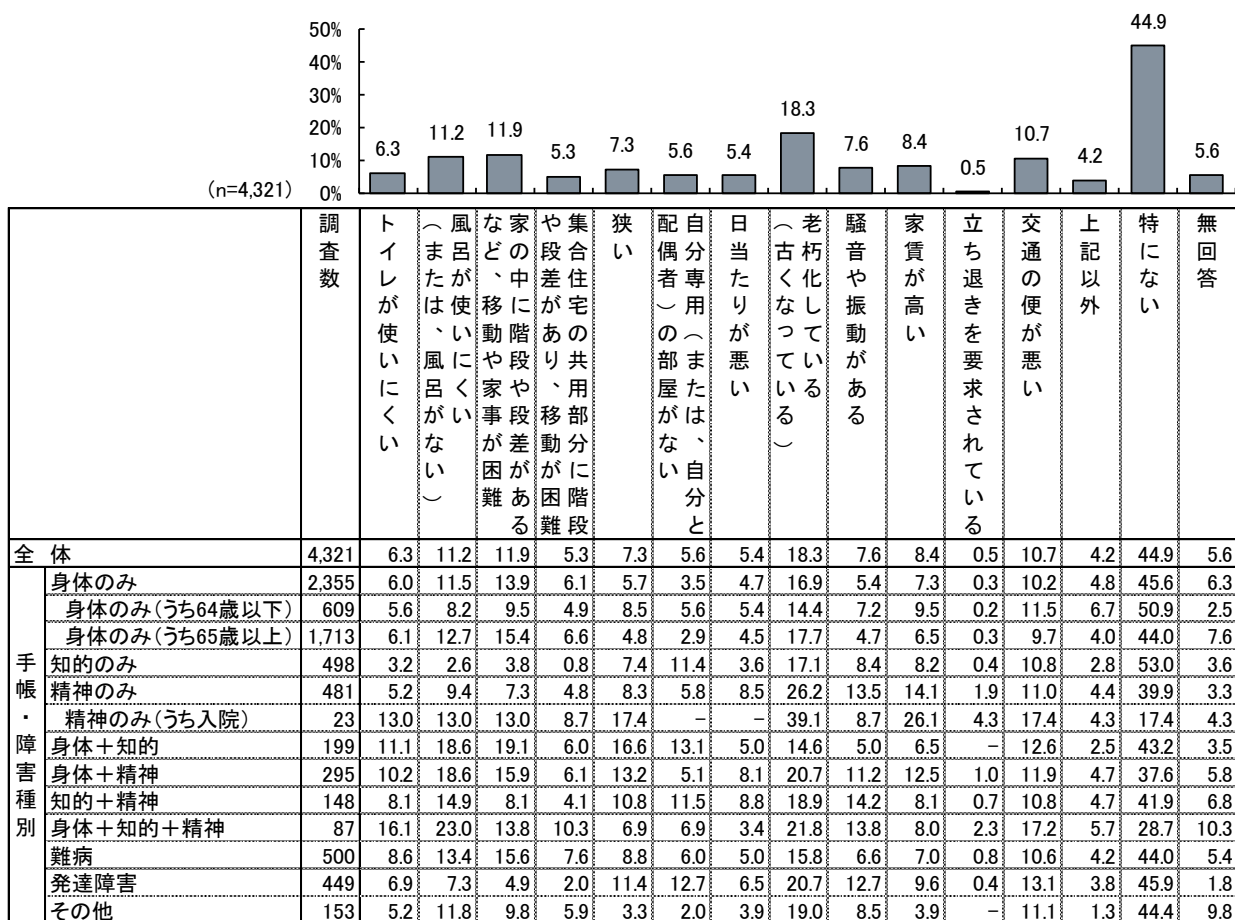
② 住まいでの困りごと

●問 18(2) あなたの現在のお住まいについて、困っていることはありますか。
(複数回答)

住まいについての困りごとをみると、「特にない」(44.9%)が最も高くなっています。

一方、困っている点として「老朽化している(古くなっている)」(18.3%)、「家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難」(11.9%)、「風呂が使いにくい(または、風呂がない)」(11.2%)などが挙がっています。障害別では、「精神のみ(うち入院)」で「老朽化している(古くなっている)」が39.1%と比較的高くなっています。

図表 27 住まいについての困りごと(MA)



上記以外 (4.2%)

主な回答内容	件数
家の周辺に坂道、階段が多い	26
生活に不便(病院、店、駅が遠い)	22
共用部分が不便(狭い、暗い、手すりがない、虫が多いなど)	15
インターフォンがない、聞こえない	9
管理費、固定資産税が高い	8

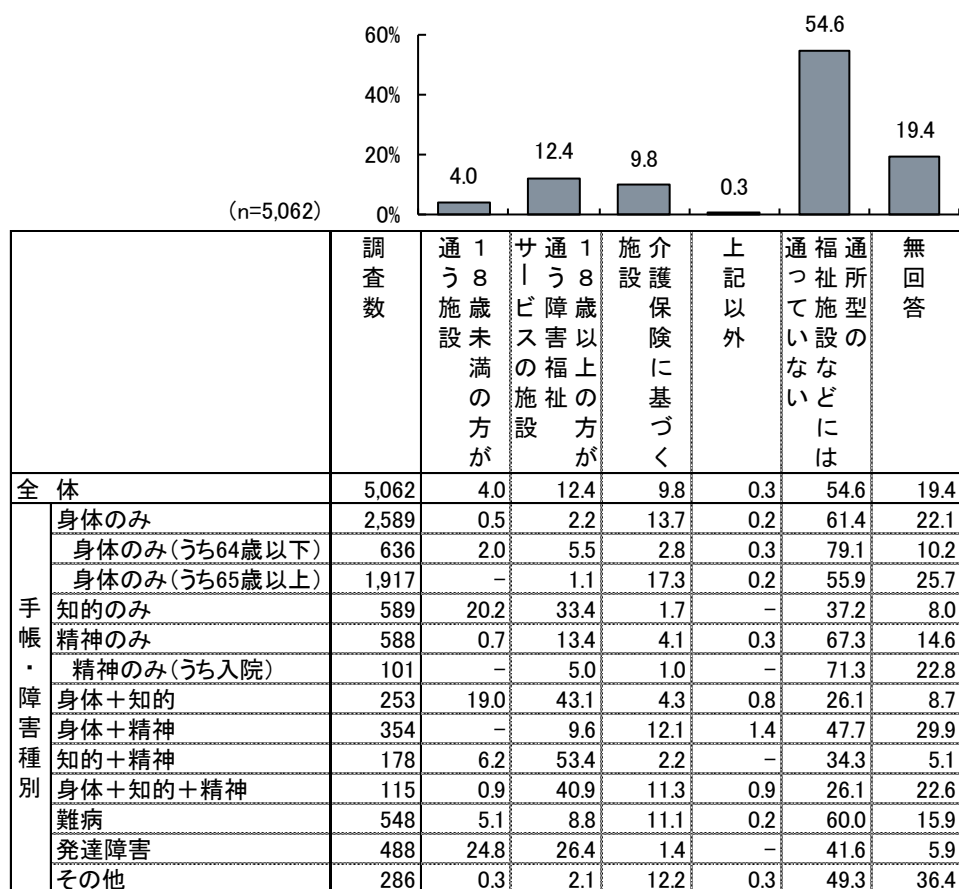
(5) 施設の利用状況

① 通所型の福祉施設の利用

●問 19 現在、あなたは「通所型の福祉施設」などに家などから通っていますか。
(複数回答)

通所型福祉施設の利用状況をみると、「通所型の福祉施設などには通っていない」(54.6%)が最も高くなっています。障害別では、通所型福祉施設を利用している割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」「発達障害」で5割～7割弱と比較的高くなっています。

図表 28 通所型福祉施設の利用状況(MA)



上記以外 (0.3%)

主な回答内容	件数
ショートステイ	2
デイケア	2

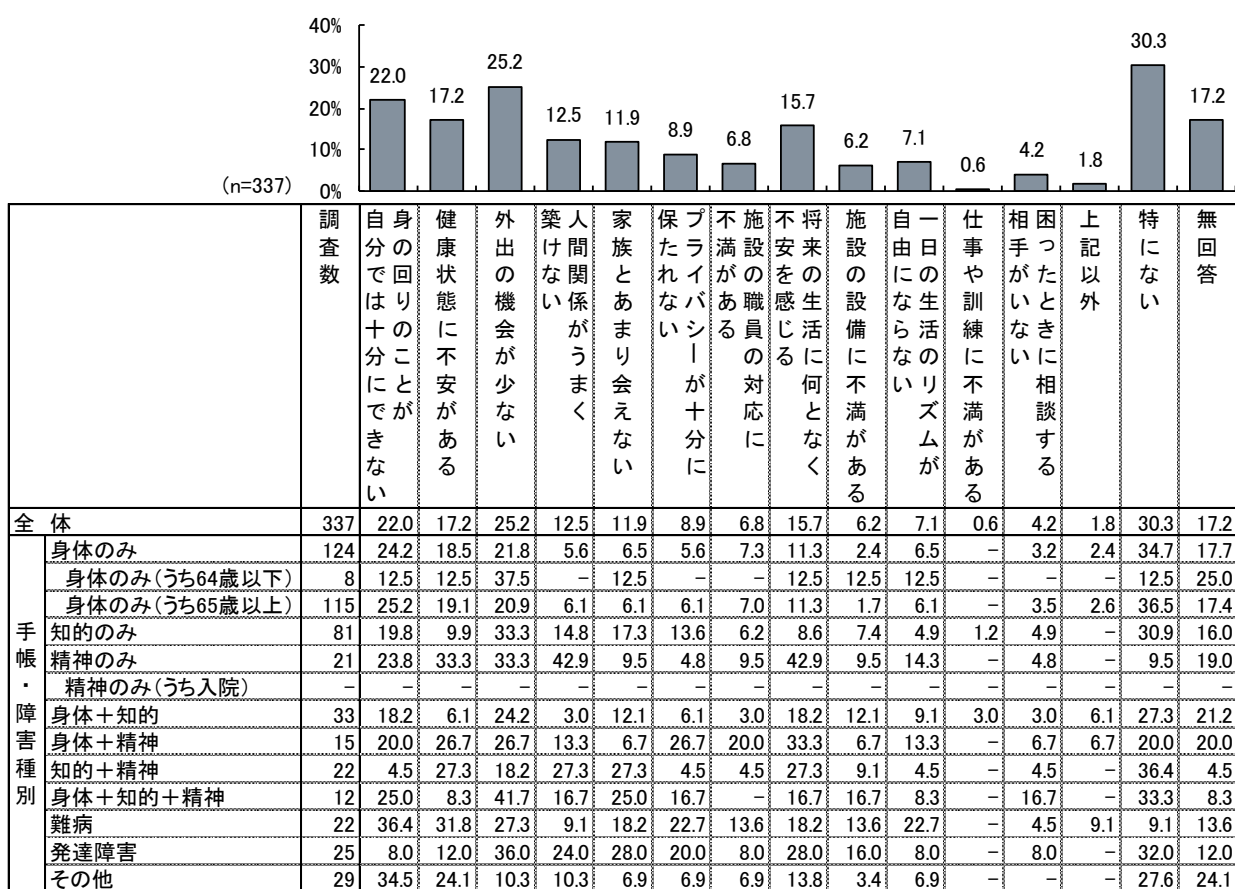
② 施設のサービスを受けるなかでの困りごと

●問 20 施設のサービスを受ける中で、困っていることはありますか。(複数回答)

入所施設のサービスを受ける中での困りごとをみると、「特にない」(30.3%)が最も高くなっています。一方、困っている点として「外出の機会が少ない」(25.2%)、「身の回りのことが自分では十分にできない」(22.0%)などが挙がっています。

障害別では、「身体のみ(うち64歳以下)」「身体+知的+精神」「発達障害」では「外出の機会が少ない」が4割弱～4割、「精神のみ」では「人間関係がうまく築けない」「将来の生活に何となく不安を感じる」が4割強と高くなっています。

図表 29 入所施設のサービスを受ける中での困りごと(MA)



上記以外 (1.8%)

主な回答内容	件数
看護師などの職員不足	1
食事の質がよくない	1
認知のひどい人との共同部屋の時は眠れない	1
風邪などが一斉に流行する	1

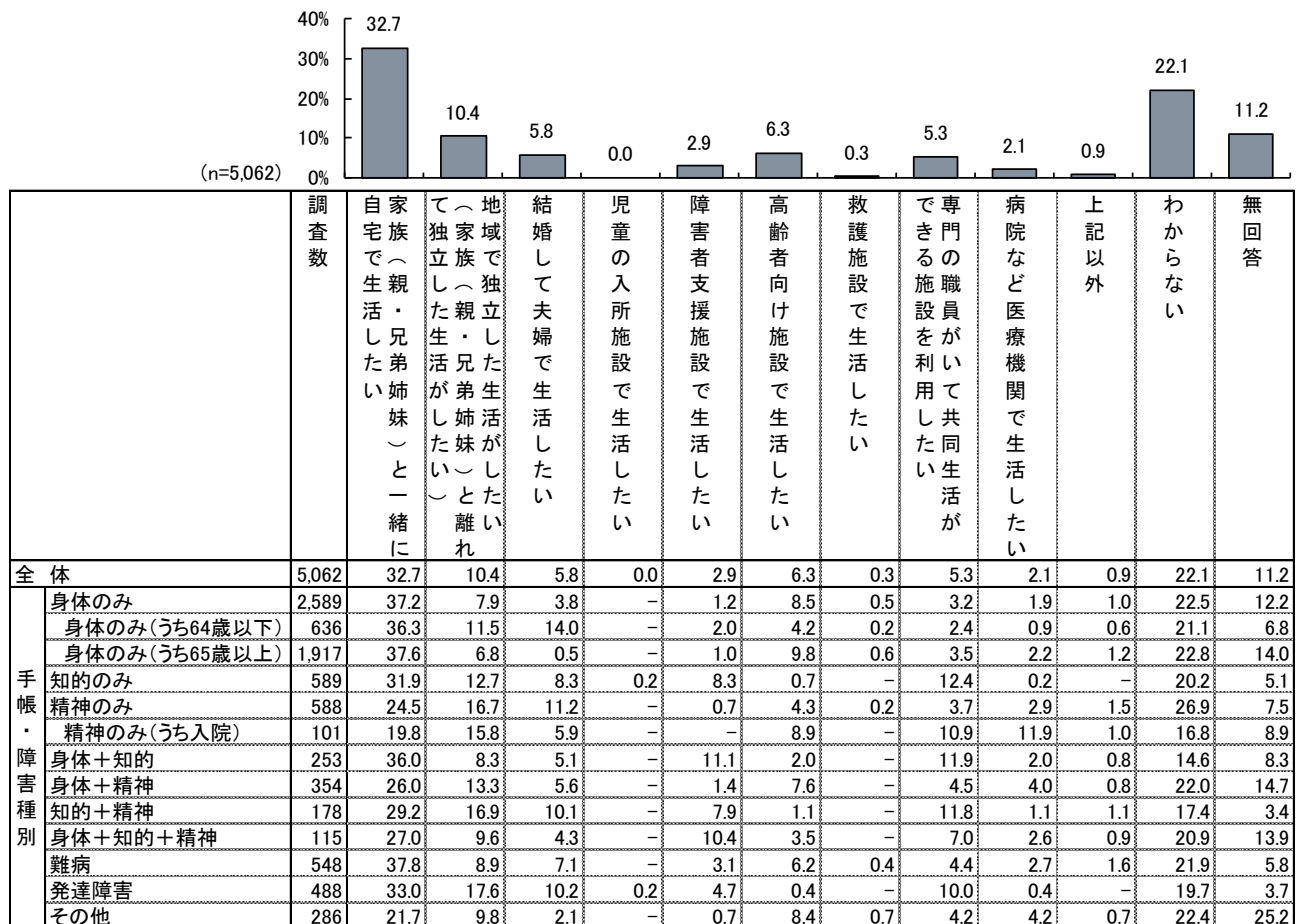
③ 将来の住まいと介助・介護・支援のあり方の希望

●問 21(1) あなたは、将来の住まいと介助・介護・支援のあり方について、どのような希望を持っておられますか。

希望する将来の住まいと介助・介護・支援のあり方をみると、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」が 32.7%と、最も高くなっています。

将来の施設入所希望を障害種別にみると、「身体のみ」は「高齢者向け施設」が 8.5%（うち 65歳以上では 9.8%）と最も高く、次いで「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用したい」（以下、「グループホーム」）が 3.2%となっています。「知的のみ」では「グループホーム」が 12.4%、次いで「障害者支援施設」が 8.3%となっています。「精神のみ」は「高齢者向け施設」が 4.3%で最も高くなりますが、「精神のみ（うち入院）」の方では「グループホーム」が 10.9%、「高齢者向け施設」が 8.9%となります。「難病」では「高齢者向け施設」が 6.2%、「発達障害」では「グループホーム」が 10.0%となります。

図表 30 希望する将来の住まいと介助・介護・支援のあり方(SA)



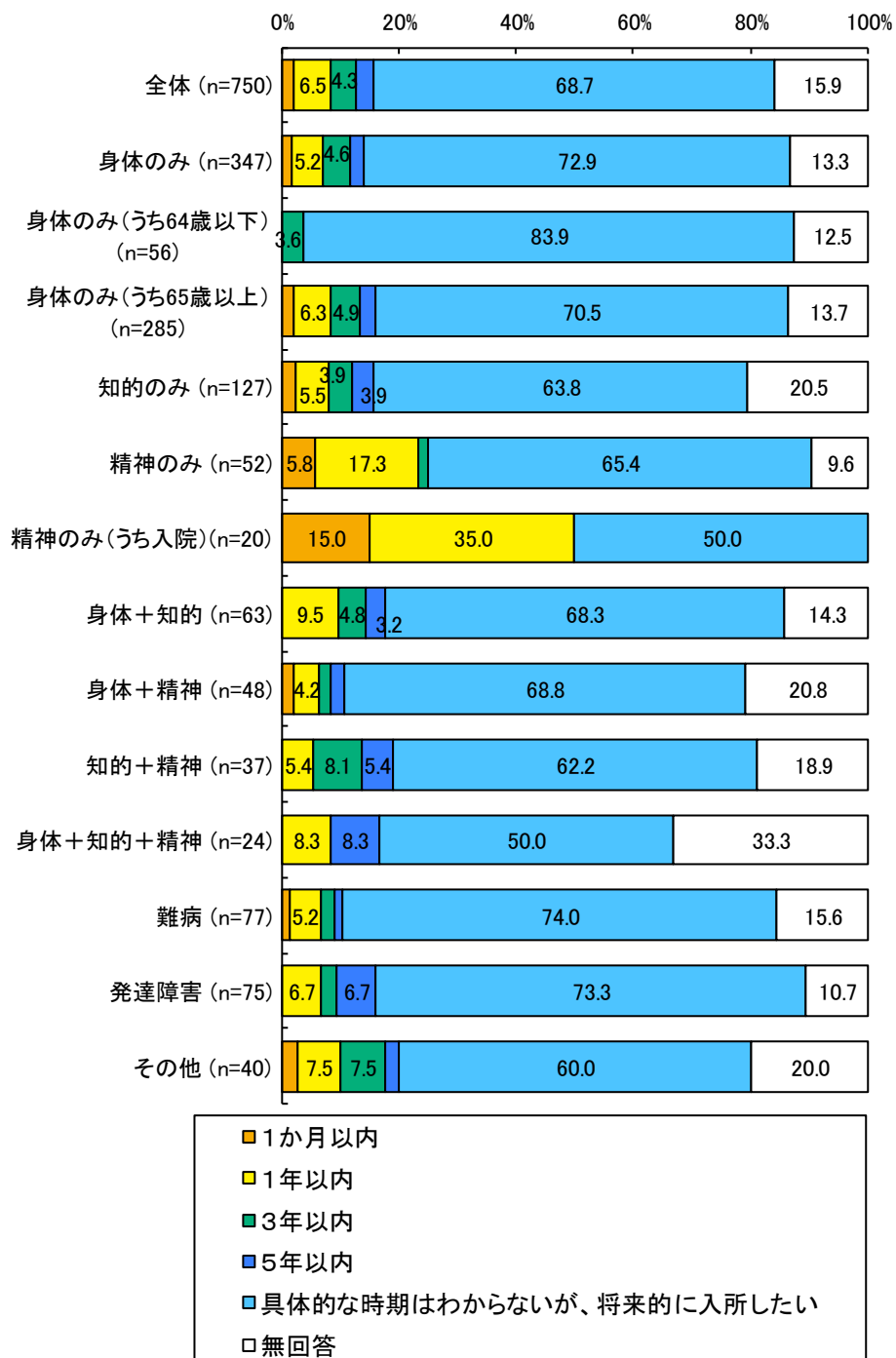
上記以外 (0.9%)

主な回答内容	件数
今のままでいい、現状維持	7
配偶者・子どもと自宅で生活したい	6
市営・県営住宅や賃貸	4
自宅でサービス（介助、介護支援、ヘルパーなど）を利用したい	4

●問 21 (2) 入所時期はいつ頃を希望しますか。

施設入所希望者が希望する入所時期をみると、「具体的な時期はわからないが、将来的に入所したい」が 68.7%と、最も高くなっています。障害別では、「1か月以内」「1年以内」入所希望者は、「精神のみ（うち入院）」で 50.0%と最も高くなっています。

図表 31 希望する入所時期(SA)



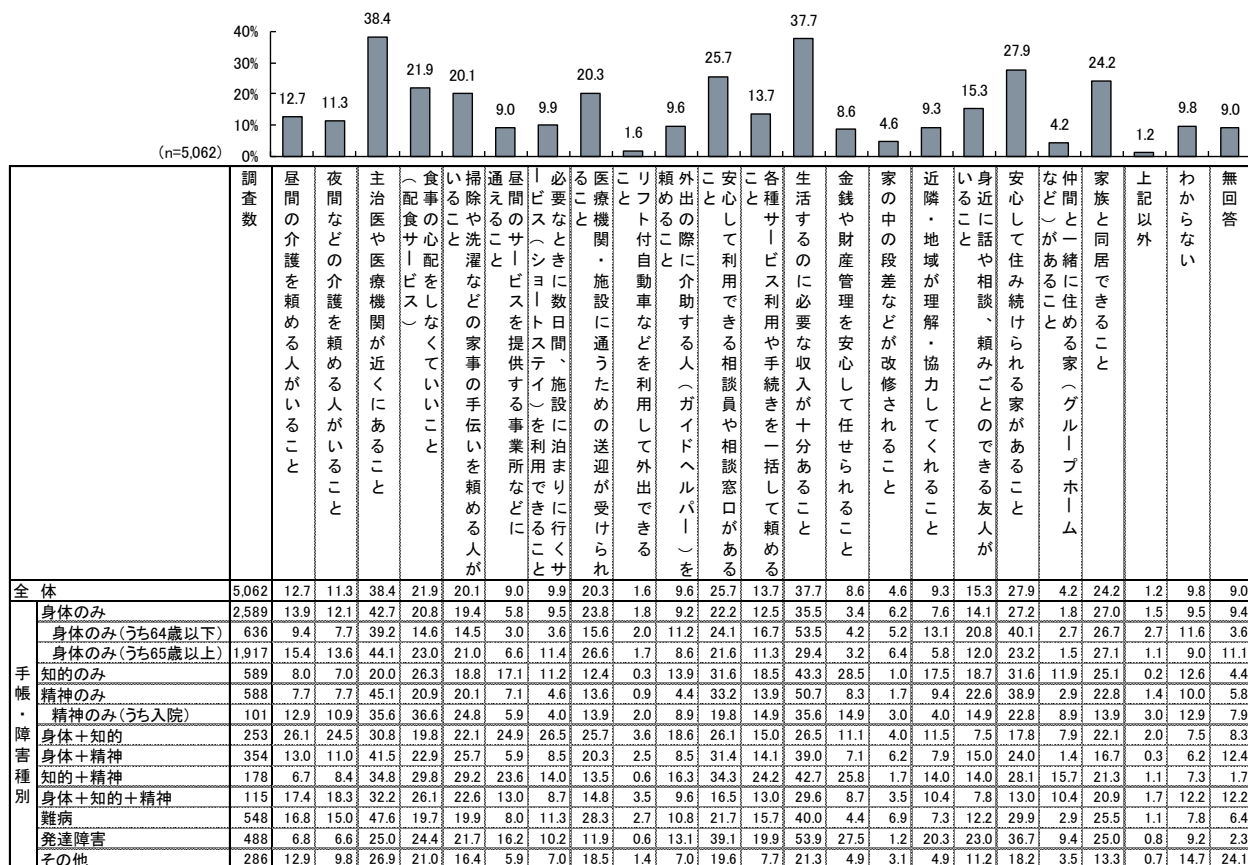
(6) 地域での生活・活動

① 自宅・地域で生活するための条件

●問 22 (1) あなたは、ご自分が自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ためには、あなたにとってはどのような条件が必要だと思いますか。（複数回答（5つまで））

自宅・地域での生活のために必要な条件をみると、「主治医や医療機関が近くにあること」が最も高く 38.4%、次いで「生活するのに必要な収入が十分あること」37.7%、「安心して住み続けられる家があること」27.9%、「安心して利用できる相談員や相談窓口があること」25.7%となっています。障害別では、「主治医や医療機関が近くにあること」と回答した割合は「身体のみ（うち65歳以上）」、「精神のみ」、「身体+精神」、「難病」で4割～5割弱と高くなっています。

図表 32 自宅・地域での生活のために必要な条件(5つまで)



上記以外 (1.2%)

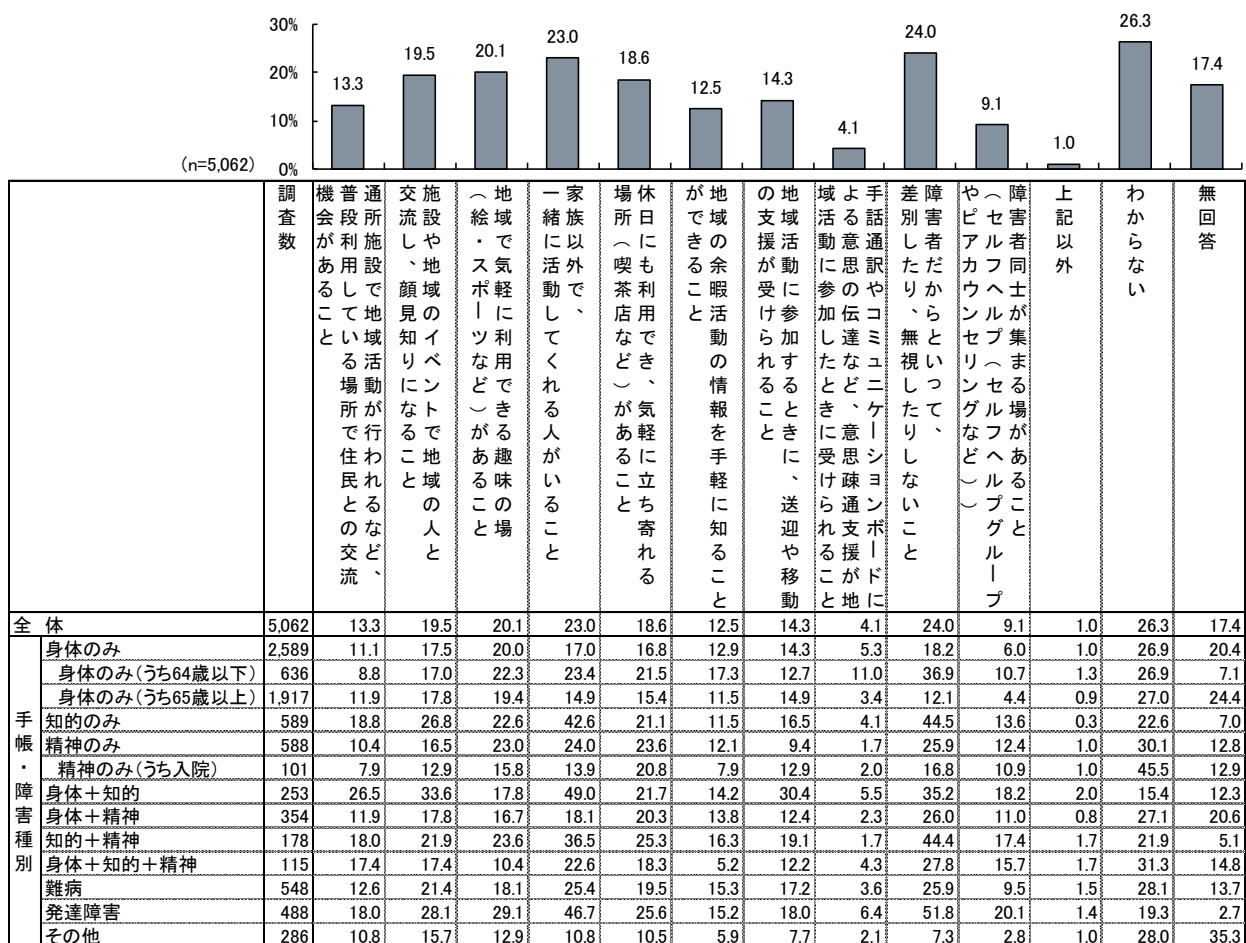
主な回答内容	件数
公共交通機関が充実、駅・スーパー・職場に近い場所	9
相談窓口や24時間緊急に対応してくれるシステム	5
自分や家族が健康であること	4
介助・支援にあたる家族へのサポート	3

② 地域活動に参加するために必要なこと

●問 22 (2) あなたが地域活動に参加する（または、参加したいと思う）ために必要だと思うことは何ですか。（複数回答）

地域活動への参加のために必要なことをみると、「障害者だからといって、差別したり、無視したりしないこと」が最も高く 24.0%、次いで「家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること」23.0%、「地域で気軽に利用できる趣味の場（絵・スポーツなど）があること」20.1%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 33 地域活動への参加のために必要なこと(MA)



上記以外（1.0%）

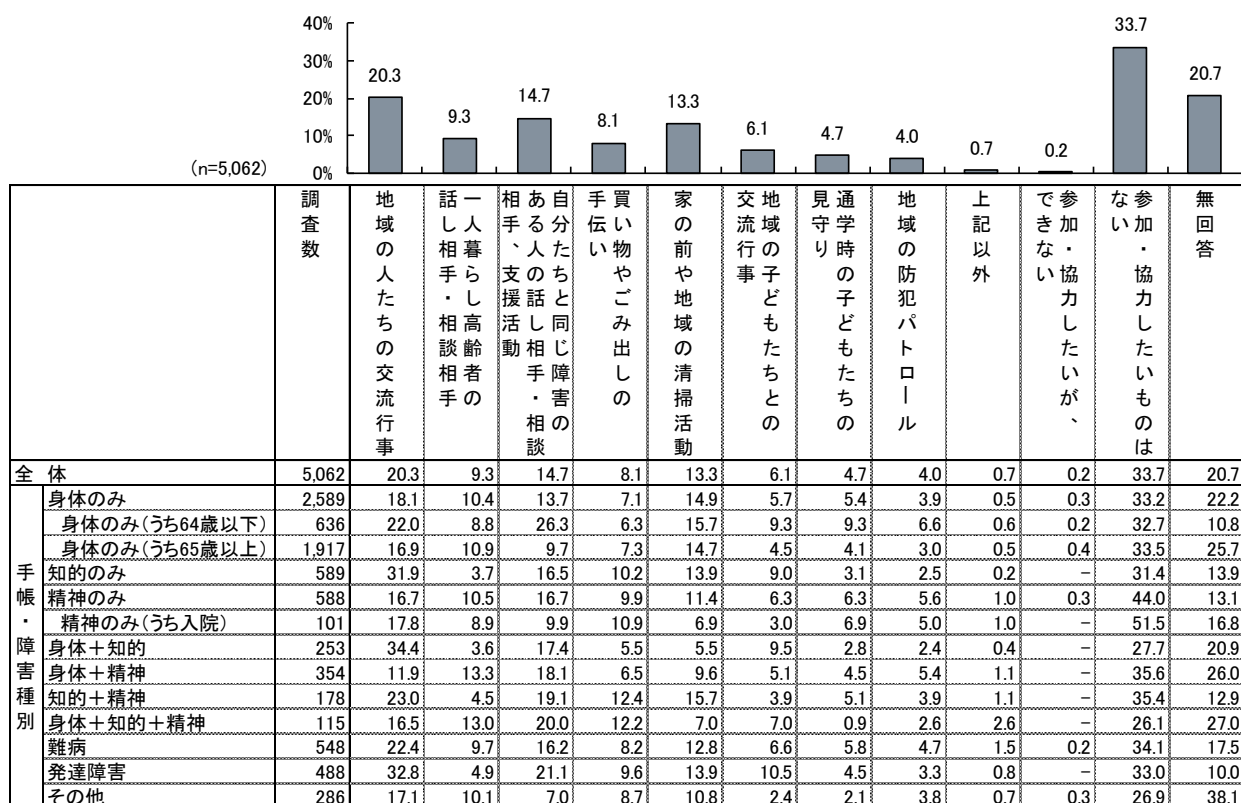
主な回答内容	件数
障害特性を理解してくれる人、理解を深める機会・環境	6
気軽に参加できる活動・イベント、雰囲気づくり	5
バリアフリーの充実（車椅子用トイレ、オストメイトトイレ、バス）	4
モチベーションや体力	4
介助が受けられること	4

③ 今後参加・協力したい地域活動

●問 22 (3) 地域の中ではさまざまな地域活動が行われていますが、今後あなたが参加・協力したいものは何ですか。(現在参加しているものも含む) (複数回答)

参加・協力したい地域活動をみると、「地域の人たちの交流行事」が20.3%と最も高く、次いで「自分たちと同じ障害のある人の話し相手・相談相手、支援活動」14.7%、「家の前や地域の清掃活動」13.3%となっています。一方、3割強の人は「参加・協力したいものはない」(33.7%)と回答しています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 34 参加・協力したい地域活動(MA)



上記以外 (0.7%)

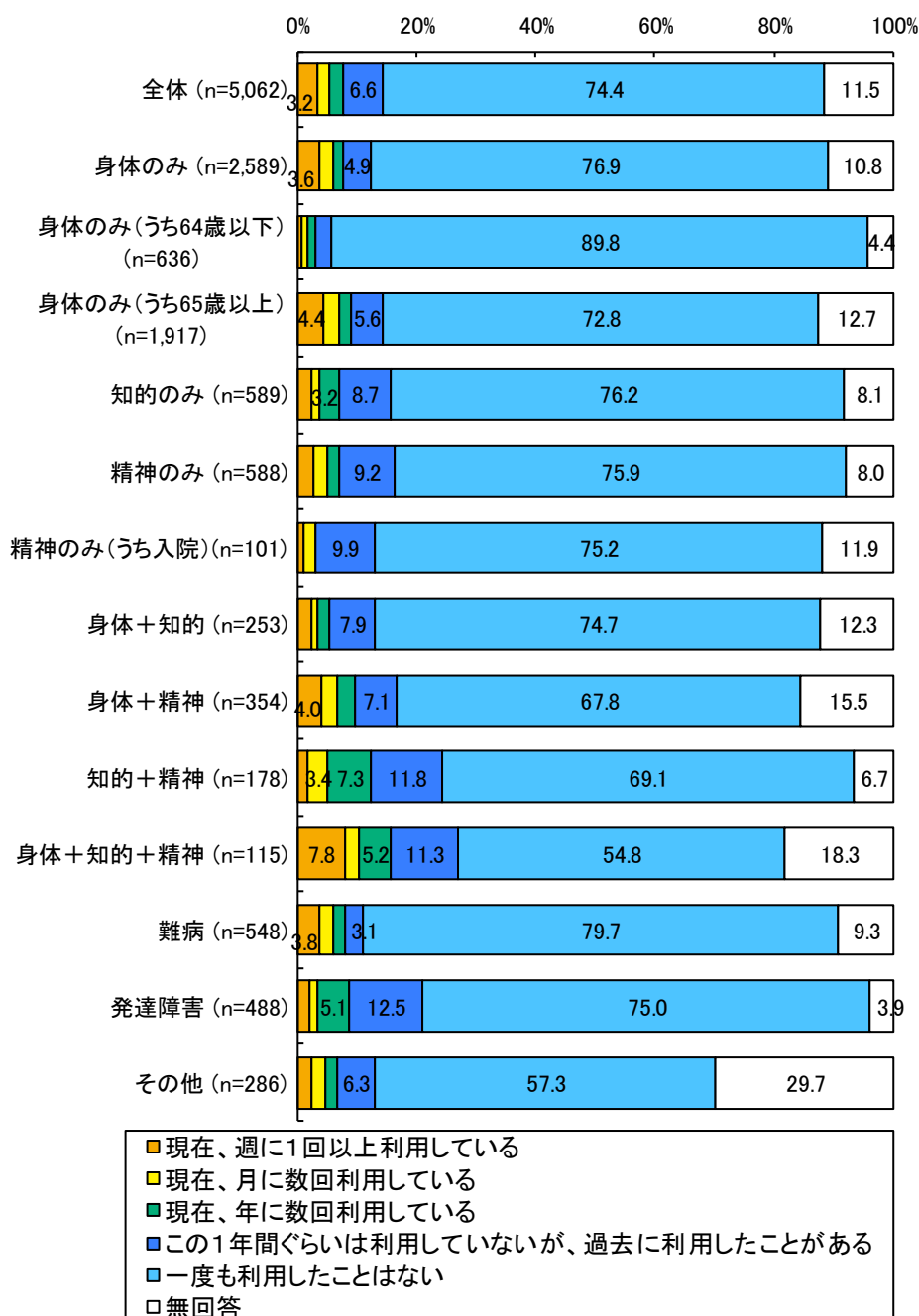
主な回答内容	件数
ボランティア活動 (イベント、災害、見回り、勉強会、障害者とふれ合う場の提供など)	7
趣味・レクリエーション (手芸、ゲートボール、カラオケなど)	4
親子や同じ趣味の人の交流会	3
近所の人にあいさつ	2
市民花壇の手入れ	2

④ 地域活動支援センターの利用頻度

●問 22 (4) あなたは現在地域活動支援センターをどれぐらい利用していますか。

地域活動支援センターの利用頻度をみると、「一度も利用したことはない」が74.4%と、最も高くなっています。障害別では、利用経験者は「身体+知的+精神」で3割弱と比較的高くなっています。

図表 35 地域活動支援センターの利用頻度(SA)



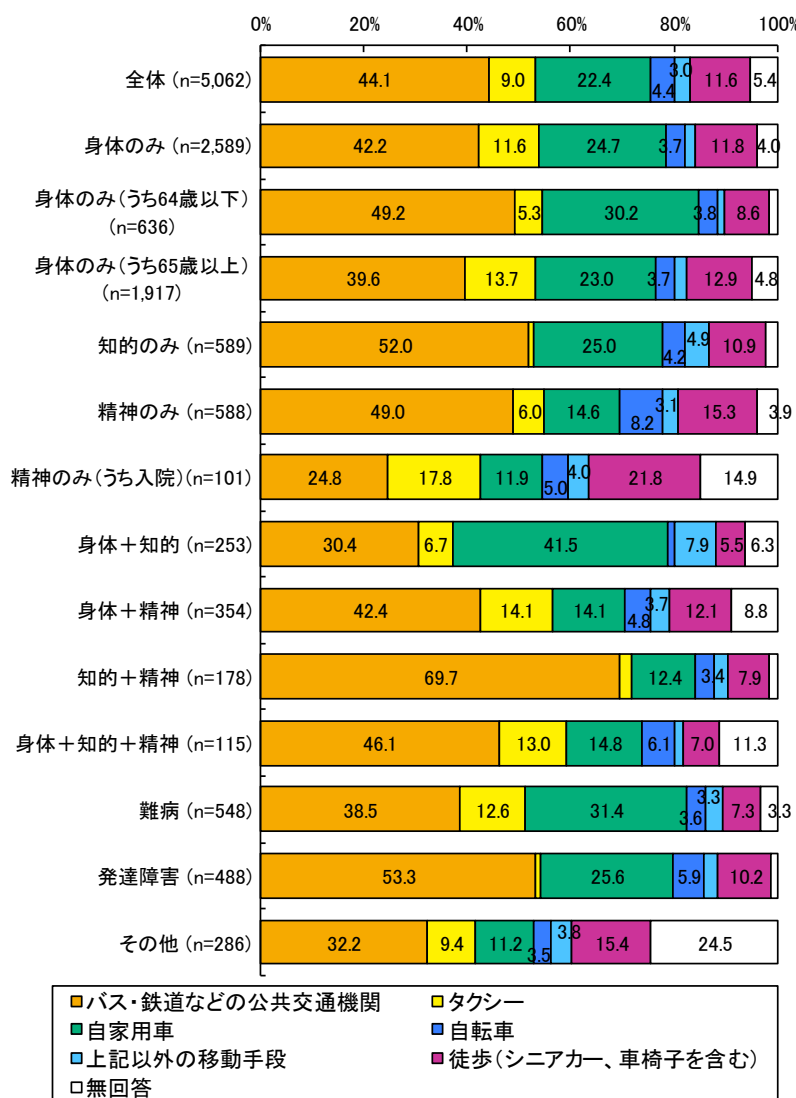
(7) 日常の外出や移動

① 外出時に最もよく利用する移動手段

●問 23 (1) 現在、あなたが外出するときに最もよく利用する移動手段は何ですか。利用する回数が一番多いものをお答えください。

外出時の移動手段をみると、「バス・鉄道などの公共交通機関」が最も高く 44.1%、次いで「自家用車」22.4%となっています。障害別では、「バス・鉄道などの公共交通機関」利用者は「知的+精神」で約7割と高くなっています。

図表 36 外出時の移動手段(SA)



上記以外の移動手段 (3.0%)

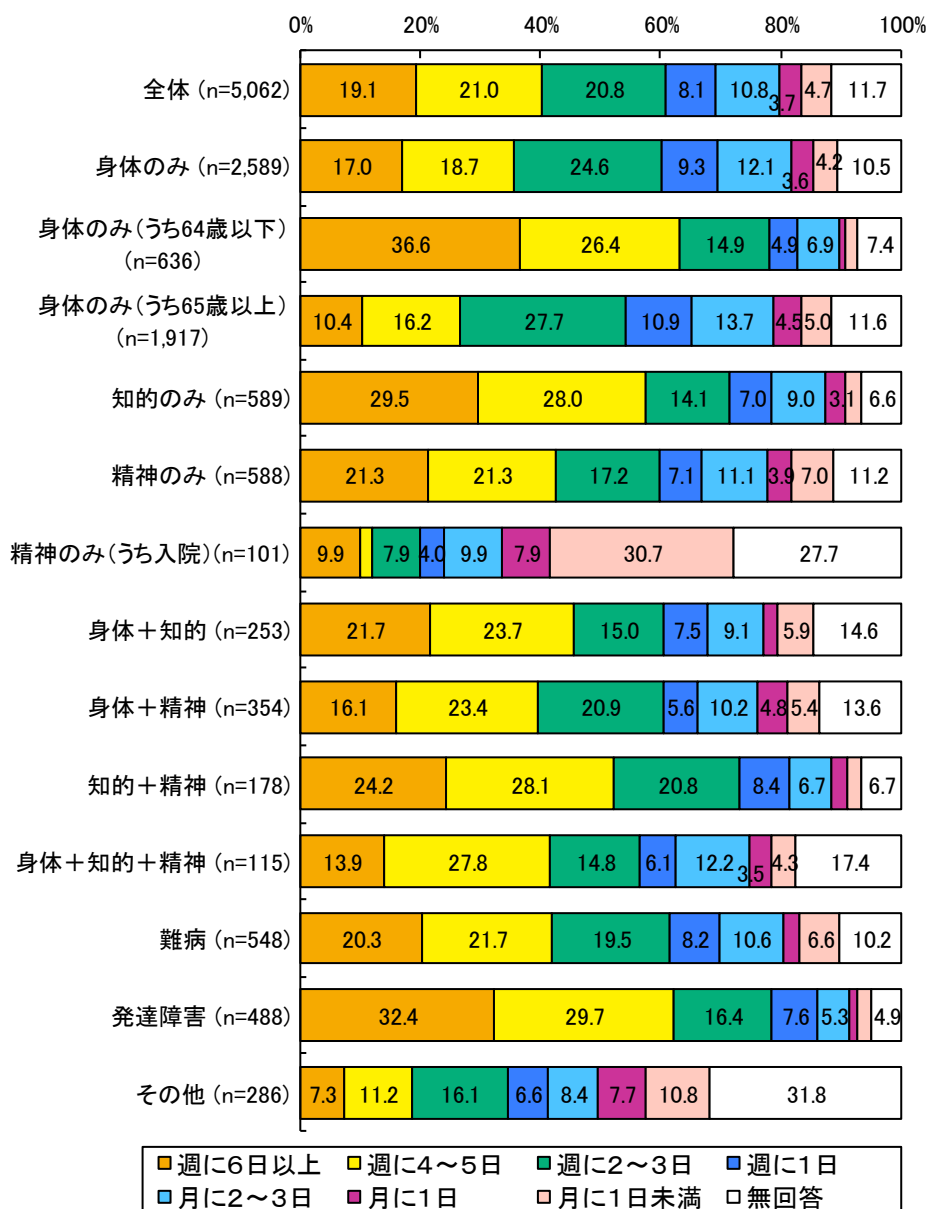
主な回答内容	件数	(割合)
送迎車	100	(2.0%)
バイク	38	(0.8%)
福祉車両	3	(0.1%)
家族の送迎	3	(0.1%)

② 移動手段の利用頻度

●問 23 (2) 問 23 (1) でお答えいただいた移動手段では、現在あなたはどれくらいの頻度で外出されていますか。

最多利用移動手段での外出頻度をみると、週に2～3日以上外出する人は60.9%となっています。障害別では、外出頻度が週1回未満の割合は「精神のみ（うち入院）」で約半数となっています。

図表 37 最多利用移動手段での外出頻度(SA)

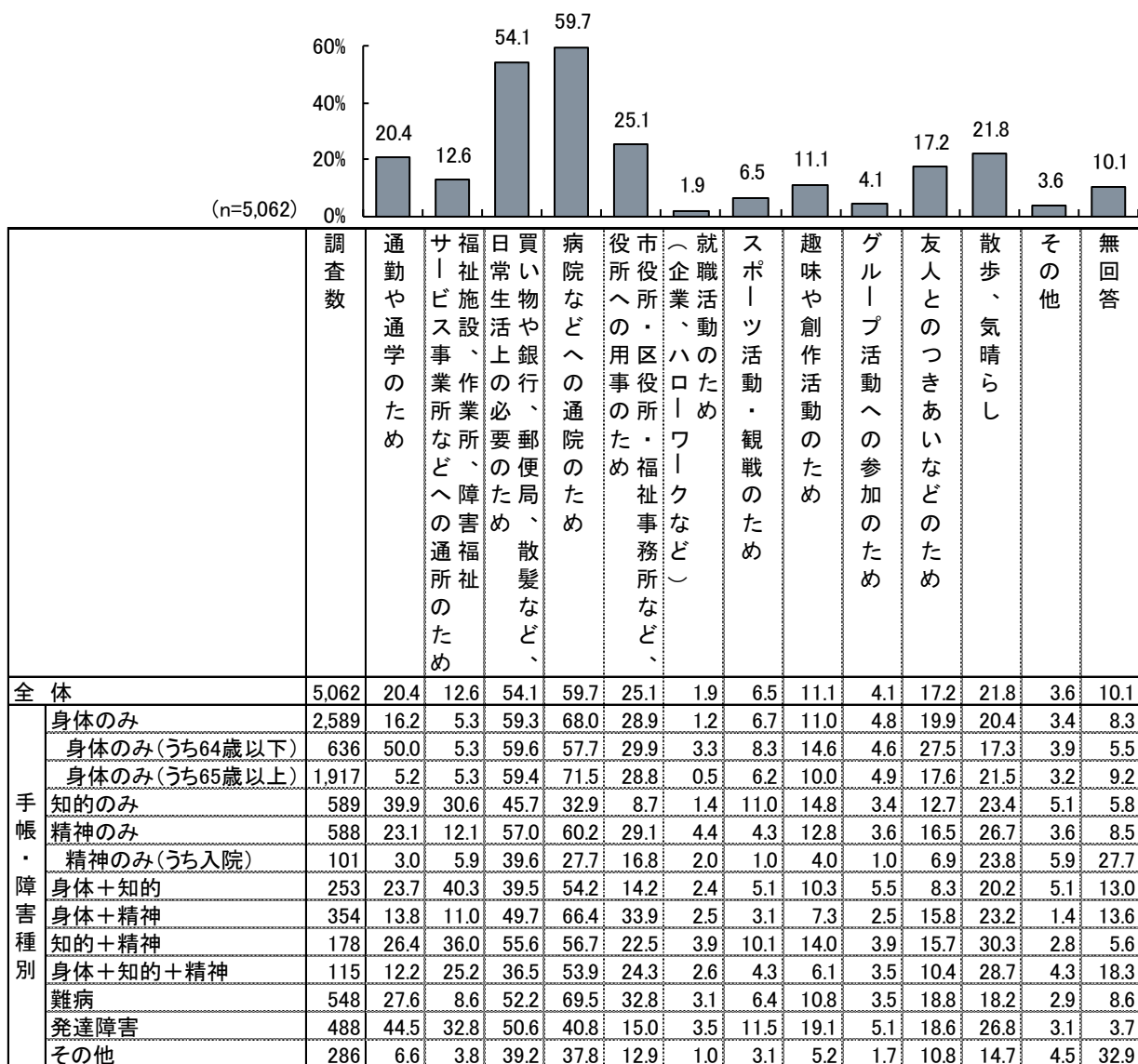


③ 移動手段の利用目的・平均移動時間

●問 23 (3) 問 23 (1) でお答えいただいた移動手段を使って、現在あなたはどのような目的で外出されることが多いですか。(複数回答)

最多利用移動手段での外出目的をみると、「病院などへの通院のため」が最も高く 59.7%、次いで「買い物や銀行、郵便局、散髪など、日常生活上の必要のため」54.1%となっています。

図表 38 最多利用移動手段での外出目的(MA)



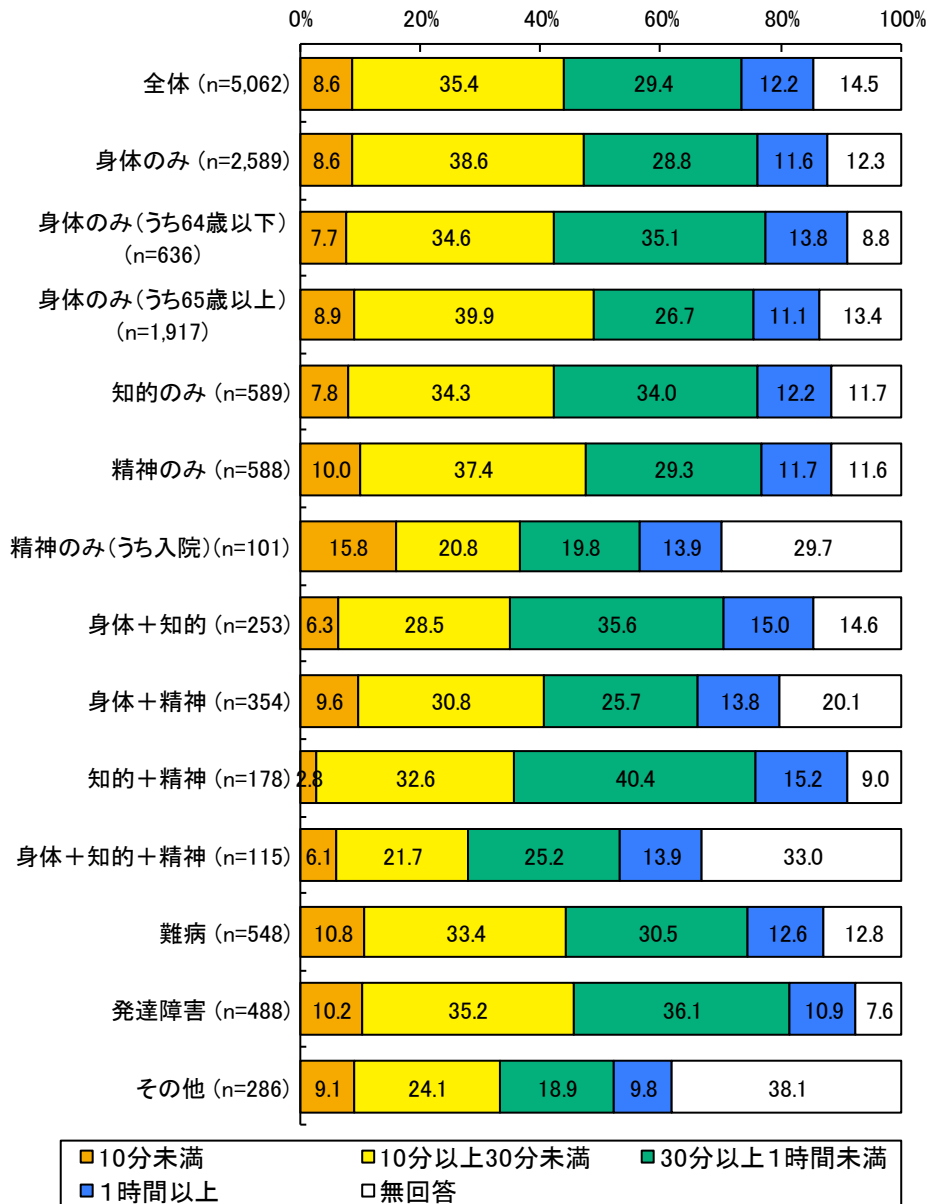
その他 (3.6%)

主な回答内容	件数
外食	23
自宅へ帰宅、帰省	22
旅行、行楽外出	15
家族に会う、一緒に出かける	14
世話・介護のため	10

●問 23 (4) 問 23 (3) でお答えいただいた目的で、最もよく行く場所まで、平均してどれくらいのかかりますか。(片道平均)

最もよく行く目的地までの片道の所要時間をみると、「10分以上30分未満」が最も高く35.4%、次いで「30分以上1時間未満」29.4%となっています。

図表 39 最もよく行く目的地までの所要時間(片道)(SA)

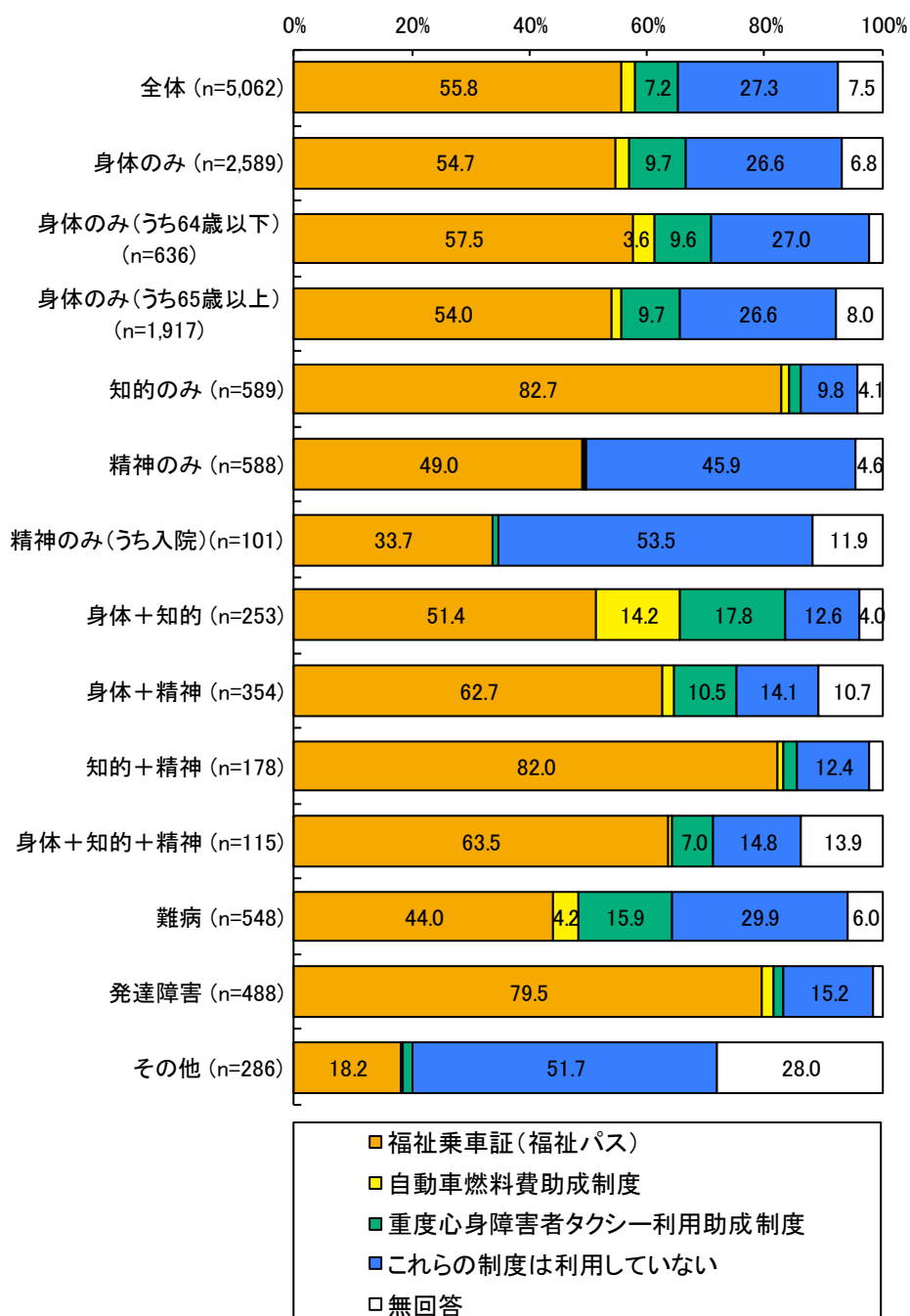


④ 市の助成制度の利用状況

●問 23 (5) 現在、あなたは以下の神戸市の助成制度を利用していますか。

市の助成制度の利用有無をみると、「福祉乗車証（福祉パス）」が 55.8%と、最も高くなっています。一方、3割弱の人は「これらの制度は利用していない」（27.3%）と回答しています。障害別では、「福祉乗車証（福祉パス）」利用の割合は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で約8割～8割強と高くなっています。

図表 40 市の助成制度の利用有無(SA)



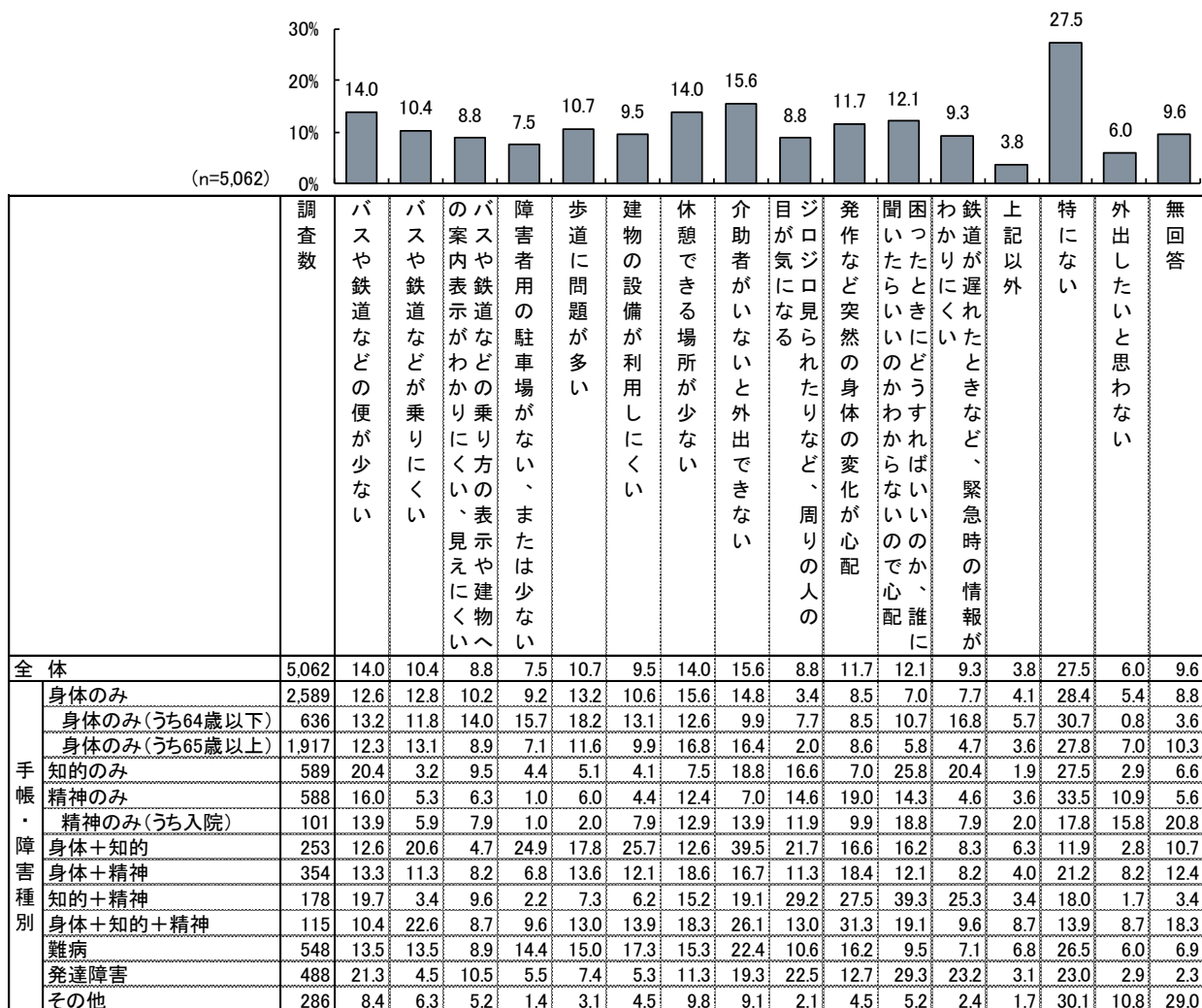
⑤ 外出時の困りごと

●問 23 (6) あなたが外出するときに、困ったり、心配になったりすることはありますか。(複数回答)

外出時の不安・困りごとをみると、「特にない」(27.5%)が最も高くなっています。一方、困っている点として「介助者がいないと外出できない」(15.6%)、「バスや鉄道などの便が少ない」「休憩できる場所が少ない」(ともに14.0%)などが挙がっています。また、6.0%の人が「外出したいと思わない」と回答しています。

障害別では、「介助者がいないと外出できない」は「身体+知的」で約4割と高くなっています。

図表 41 外出時の不安・困りごと(MA)



上記以外 (3.8%)

主な回答内容	件数
バリアフリーのトイレが少ない(車いす、オストメイト、ベッド付き)	13
交通費(割引できないもの、介護タクシーが高い)や体調崩した時の出費などが心配(お金がない)	10
駅やバス停が遠い	9
バス・電車の席に座れない、譲ってもらえない	8
障害者用駐車場の困りごと(障害者ではない人が停めている、駐車認証や専用スペースがない、屋根がないなど)	8

(8) 就労状況

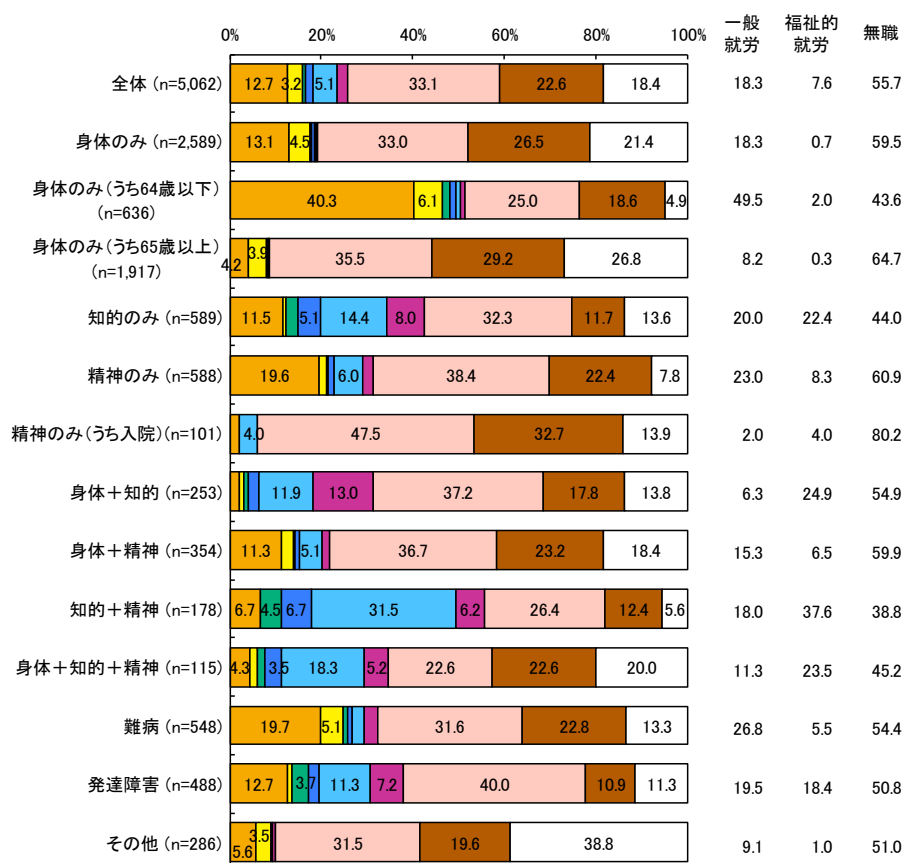
① 現在の就労

●問 24 現在、あなたは働いていますか。

現在の就労状況を見ると、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」が 33.1%と最も高く、次いで「上記以外の理由で働いていない」22.6%となっています。障害別では、「一般企業に勤めている」は「身体のみ（うち 64 歳以下）」で 4 割と高くなっています。

全体で、非就労の割合は 5 割強となりますが、問 27（働いていない理由）にあるように、年齢（高齢）等の理由以外にも、「障害や病気で、働くことができない」、「年金や生活保護があるので、働かなくてもよいと思う」、「働きたいが、自分に合った・やりたい仕事が見つからない」等、働いていない理由が様々であることから、「上記以外の理由で働いていない」の割合が全体で 2 割程度となったことが考えられます。

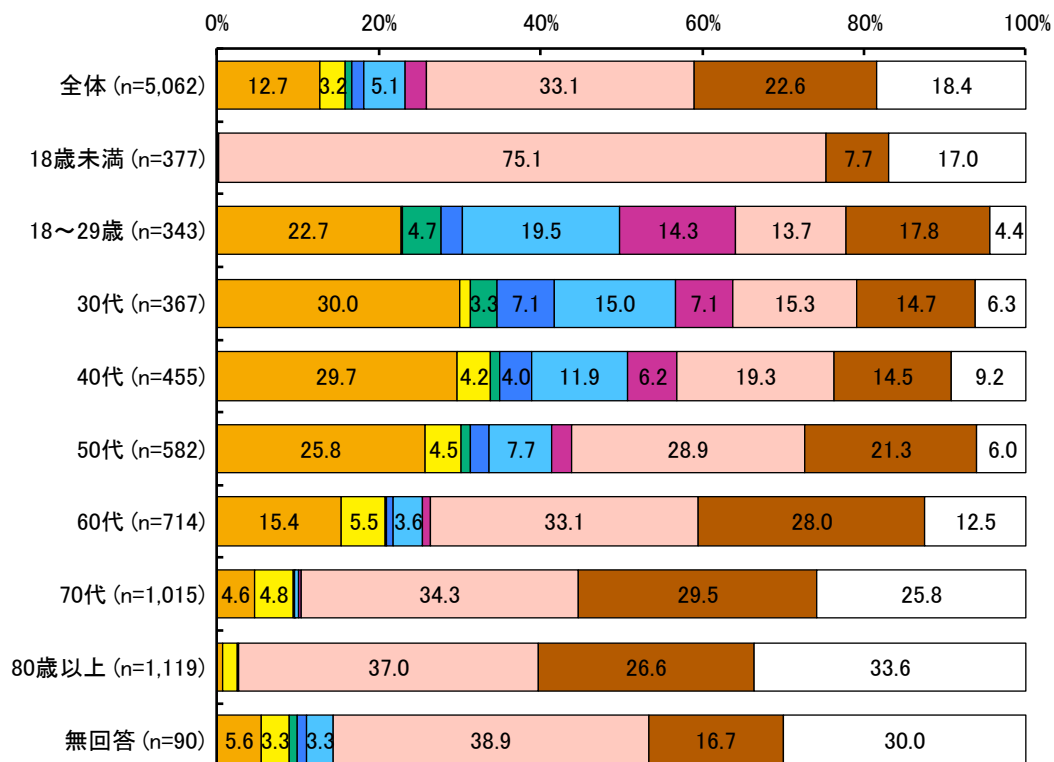
図表 42 現在の就労状況(SA)



- 一般企業に勤めている
- 自営業など、事業をしている
- 特例子会社に働いている
- 就労継続支援A型事業所で働いている
- 就労継続支援B型事業所で働いている
- 就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている(生活介護を含む)
- 年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない
- 上記以外の理由で働いていない
- 無回答

就労の内容を年齢別にみると、「一般企業に勤めている」は「30代」で30.0%と最も高く、次いで「40代」が29.7%、「50代」が25.8%となっています。福祉的就労（「就労継続支援B型事業所で働いている」「就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている」）の割合は、「18～29歳」で33.8%と最も高く、年代が上がるにつれて割合は低くなる傾向にあります。

図表 43 現在の就労状況(SA)



- 一般企業に勤めている
- 自営業など、事業をしている
- 特例子会社で働いている
- 就労継続支援A型事業所で働いている
- 就労継続支援B型事業所で働いている
- 就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている(生活介護を含む)
- 年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない
- 上記以外の理由で働いていない
- 無回答

地域活動への参加のために必要なこととして、「地域の人との交流」「趣味の場」「一緒に活動してくれる人」「気軽に立ち寄れる場」「余暇活動の情報を入手可能」のいずれかを選択している回答者について、就労状況をみると、一般就労の割合は20.8%（493人）となっており、全体の回答者における一般就労の割合（18.3%）よりやや高くなります。全体的な傾向としては、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」が35.8%と最も高く、次いで「上記以外の理由で働いていない」21.4%となっており、全体の回答者の傾向と同様となっています。

図表 44 現在の就労状況(SA)(問 22(2)で選択肢 2~6 のいずれかを選んだ人)

	調査数	一般企業に勤めている	自営業など、事業をしている	特例子会社で働いている	就労継続支援 A 型事業所で働いている	就労継続支援 B 型事業所で働いている	就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている（生活介護を含む）	年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない	上記以外の理由で働いていない	無回答	一般就労
Q22(2)で選択肢2~6のいずれかを選んだ人	2,366 100.0	362 15.3	66 2.8	24 1.0	41 1.7	160 6.8	87 3.7	847 35.8	506 21.4	273 11.5	493 20.8

問 22(2) 選択肢 2~6:

施設や地域のイベントで地域の人と交流し、顔見知りになること

地域で気軽に利用できる趣味の場(絵・スポーツなど)があること

家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること

休日にも利用でき、気軽に立ち寄れる場所(喫茶店など)があること

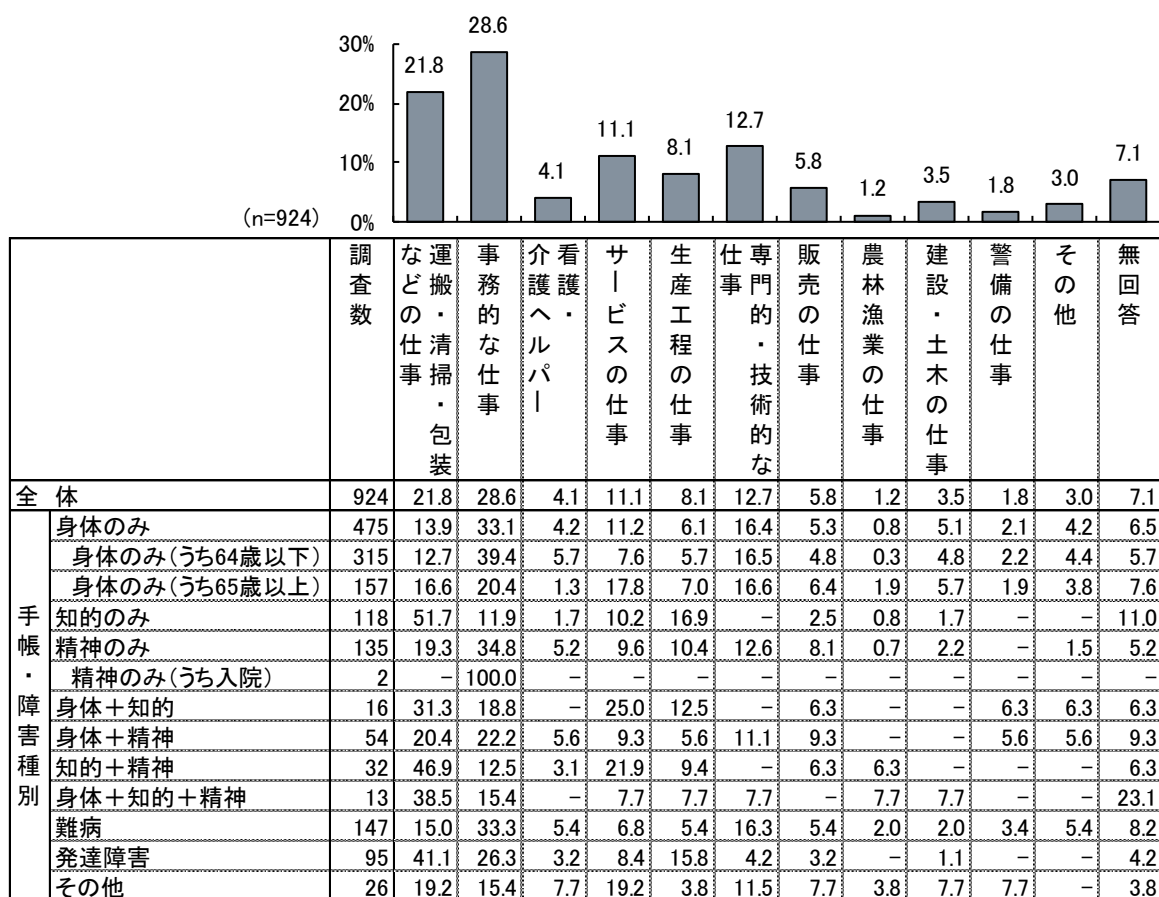
地域の余暇活動の情報を手軽に知ることができること

② 仕事内容・形態

●問 25 (1) 現在、どのようなお仕事をされていますか。(複数回答)

一般就労者の職種をみると、「事務的な仕事」が最も高く 28.6%、次いで「運搬・清掃・包装などの仕事」21.8%となっています。障害別では、「運搬・清掃・包装などの仕事」は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で4割～5割と比較的高くなっています。

図表 45 職種(MA)



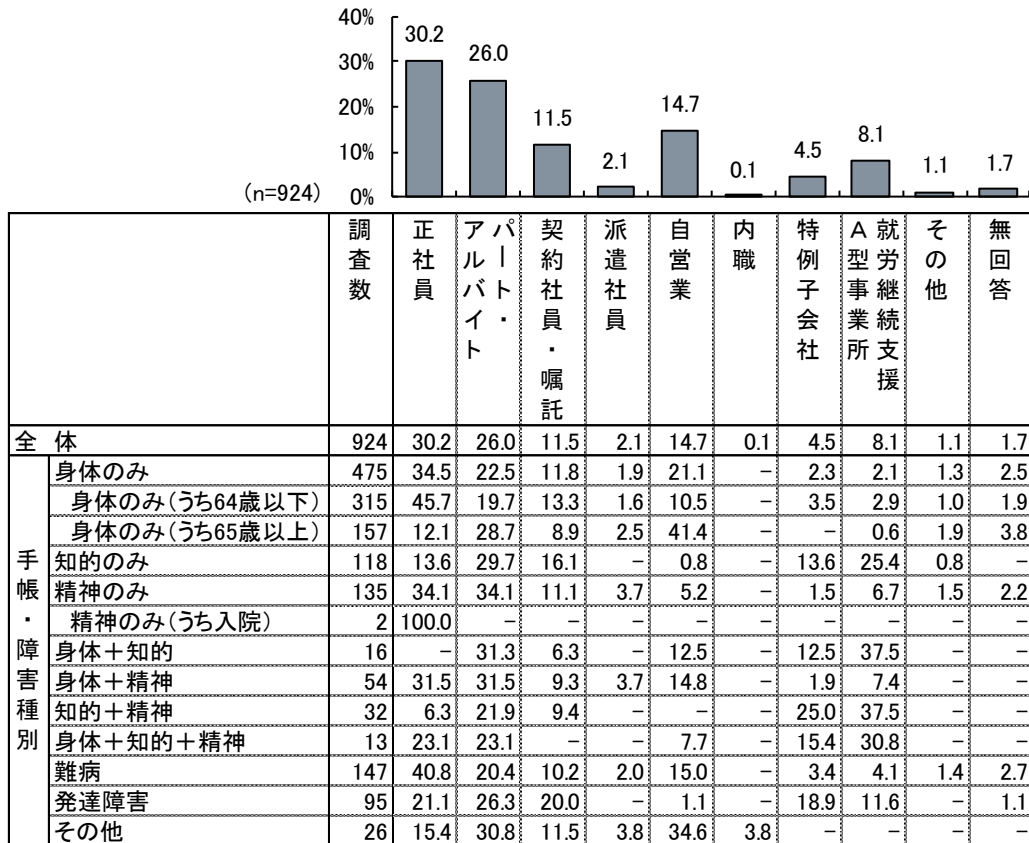
その他 (3.0%)

主な回答内容	件数
送迎の運転手	6
一般企業の社員・役員	3
社会福祉法人、知的障害施設、介護施設	2
公務員	2
自営業	2

●問 25 (2) 現在、どのようなかたちで働いていますか。

一般労働者の就労形態をみると、「正社員」が最も高く 30.2%、次いで「パート・アルバイト」26.0% となっています。障害別では、「身体のみ（うち 64 歳以下）」、「難病」で「正社員」が 4 割～5 割弱と高く、「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」では「就労継続支援 A 型事業所」が 3 割弱～4 割弱と高くなっています。

図表 46 就労形態(SA)



その他 (1.1%)

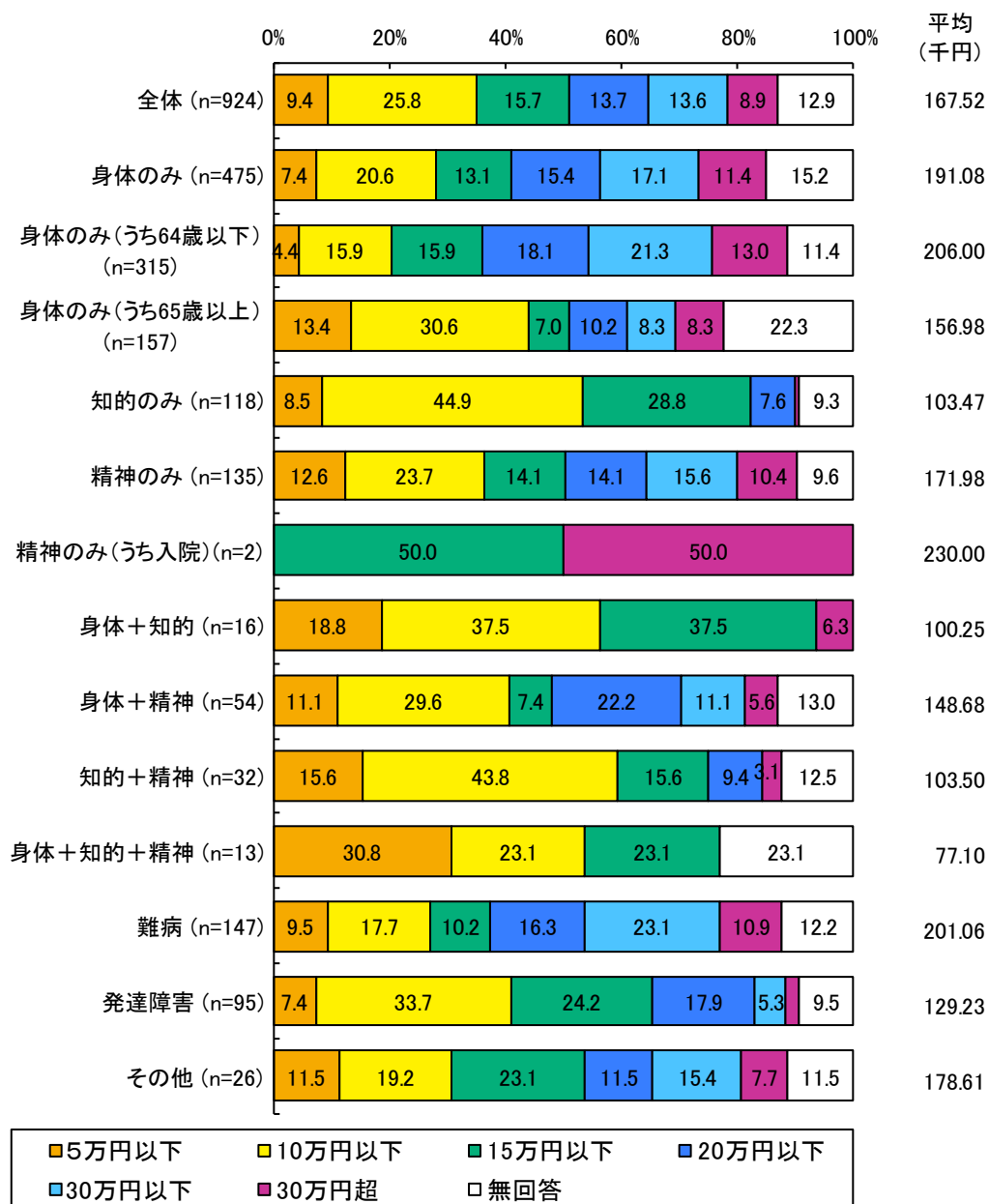
回答内容	件数
準社員	2
非常勤	1
相談役	1
無期雇用	1
サポートスタッフ	1

③ 月の平均給料

●問 25 (3) 1か月の給料(税込・月平均)はどれぐらいですか。
 ※賞与は含まずにお答えください。

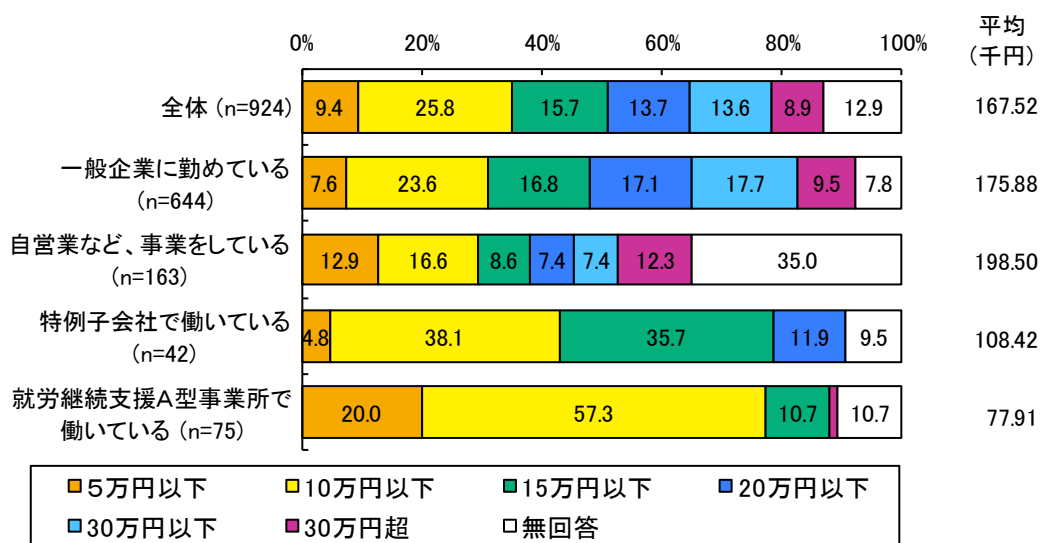
一般就労者の1か月の給料をみると、「10万円以下」が最も高く25.8%、次いで「15万円以下」15.7%となっています。障害別では、「5万円以下」「10万円以下」の合計割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」で5割強～約6割と高くなっています。

図表 47 1か月の給料(税込)



現在の就労状況別にみると、就労継続支援A型事業所で働いている人では10万円以下の合計割合が77.3%と、他の就労状況よりも高くなっています。

図表 48 現在の就労状況別にみた1か月の給料(税込)

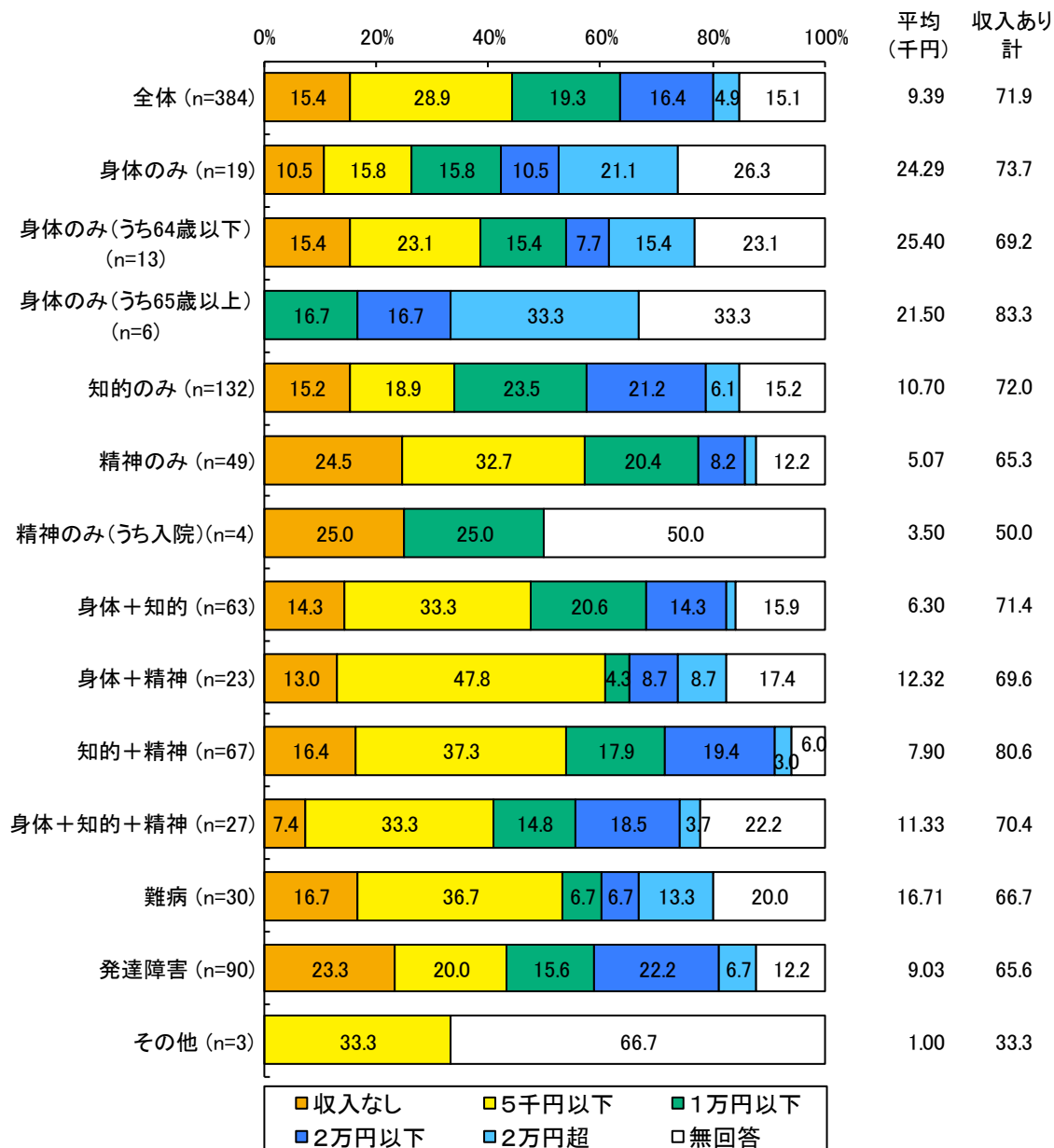


④ 月の工賃収入

●問 26 1か月の工賃収入は平均どれくらいですか。

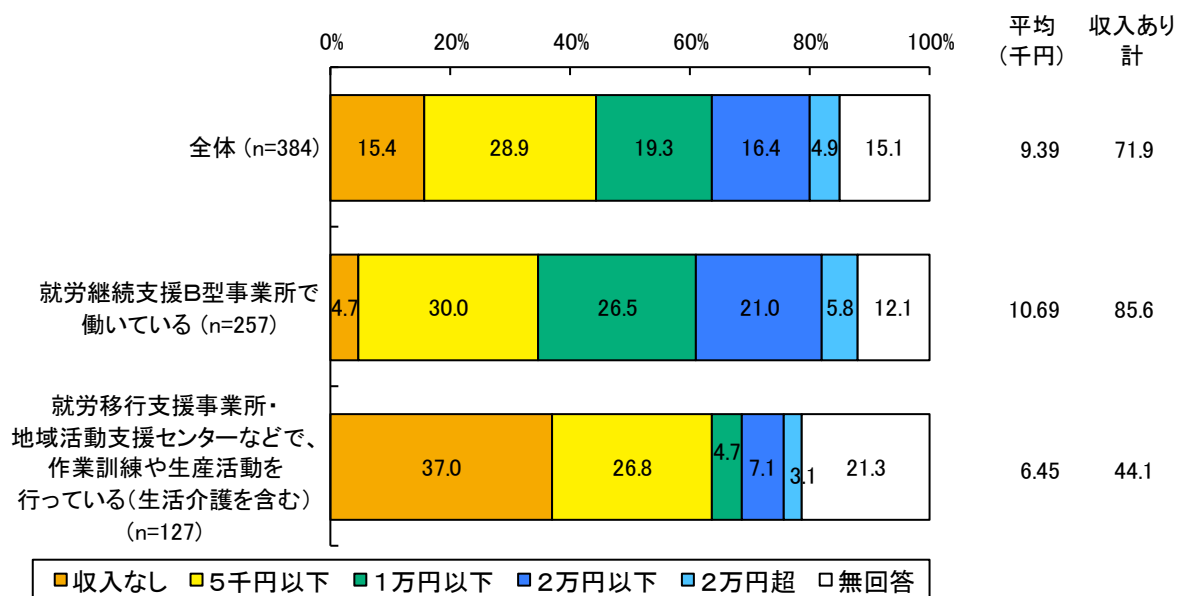
就労支援等での工賃収入をみると、「収入あり」は 71.9%となっています。障害別では、「収入なし」は「精神のみ」「発達障害」で2割強と比較的高くなっています。

図表 49 1か月の工賃収入



現在の就労状況別にみると、就労継続支援B型事業所で働いている人では「収入あり」が9割弱、訓練や生産活動を行っている人では「収入あり」が4割強となっています。

図表 50 現在の就労状況別にみた1か月の工賃収入

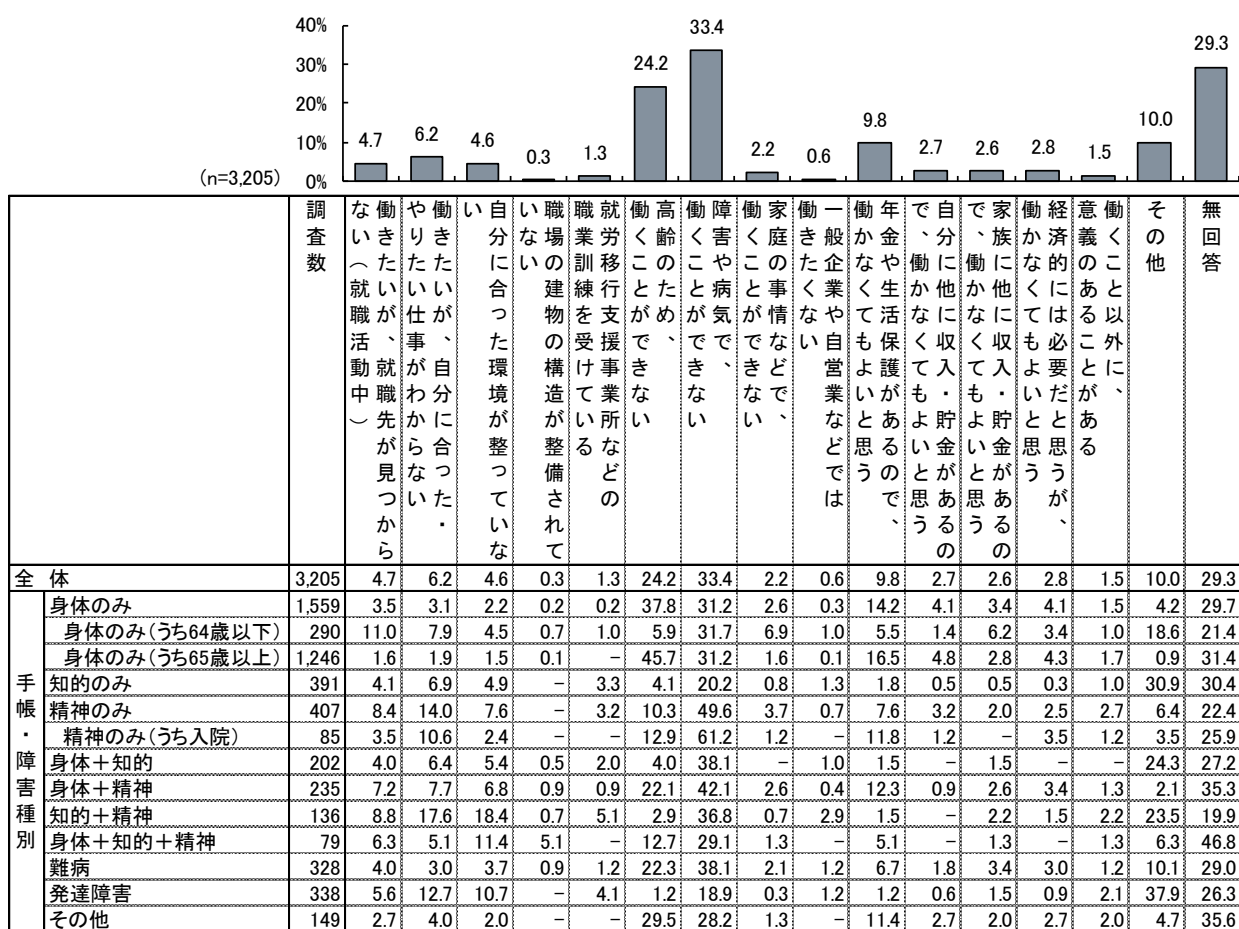


⑤ 働いていない理由

●問 27 (1) 現在、一般企業や自営業、特例子会社、就労継続支援A型事業所などで働いていない理由は何ですか。(複数回答)

一般就労していない理由をみると、「障害や病気で、働くことができない」が33.4%と最も高く、次いで「高齢のため、働くことができない」24.2%となっています。障害別では、「障害や病気で、働くことができない」の割合は「精神のみ」で約5割（うち入院では6割）と特に高くなっています。

図表 51 一般就労していない理由(MA)



その他 (10.0%)

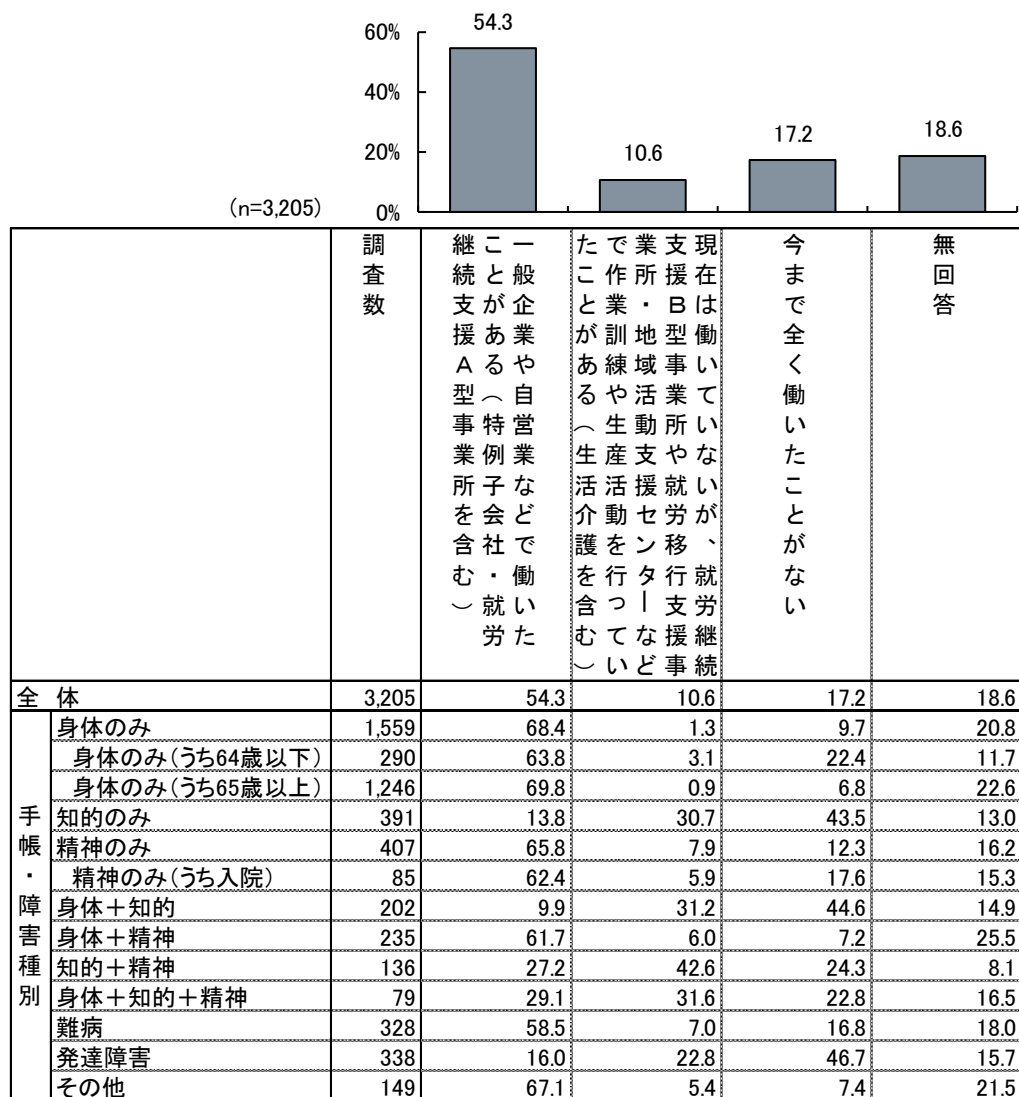
主な回答内容	件数
まだ未成年だから (義務教育期間、学生)	215
働くことに自信がない、意欲がない、能力がない	12
施設に入所している為	9
体力がない	5
(職業訓練以外の) 就労移行支援を受けている	5

⑥ これまでの就労経験

●問 27 (2) あなたはこれまでに働いた経験がありますか。(複数回答)

これまでの就労経験をみると、5割強が「一般企業や自営業などで働いたことがある(特例子会社・就労継続支援A型事業所を含む)」(54.3%)と回答しています。障害別では、「今まで全く働いたことがない」人の割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「発達障害」で4割強～5割弱と高くなっています。

図表 52 これまでの就労経験(MA)

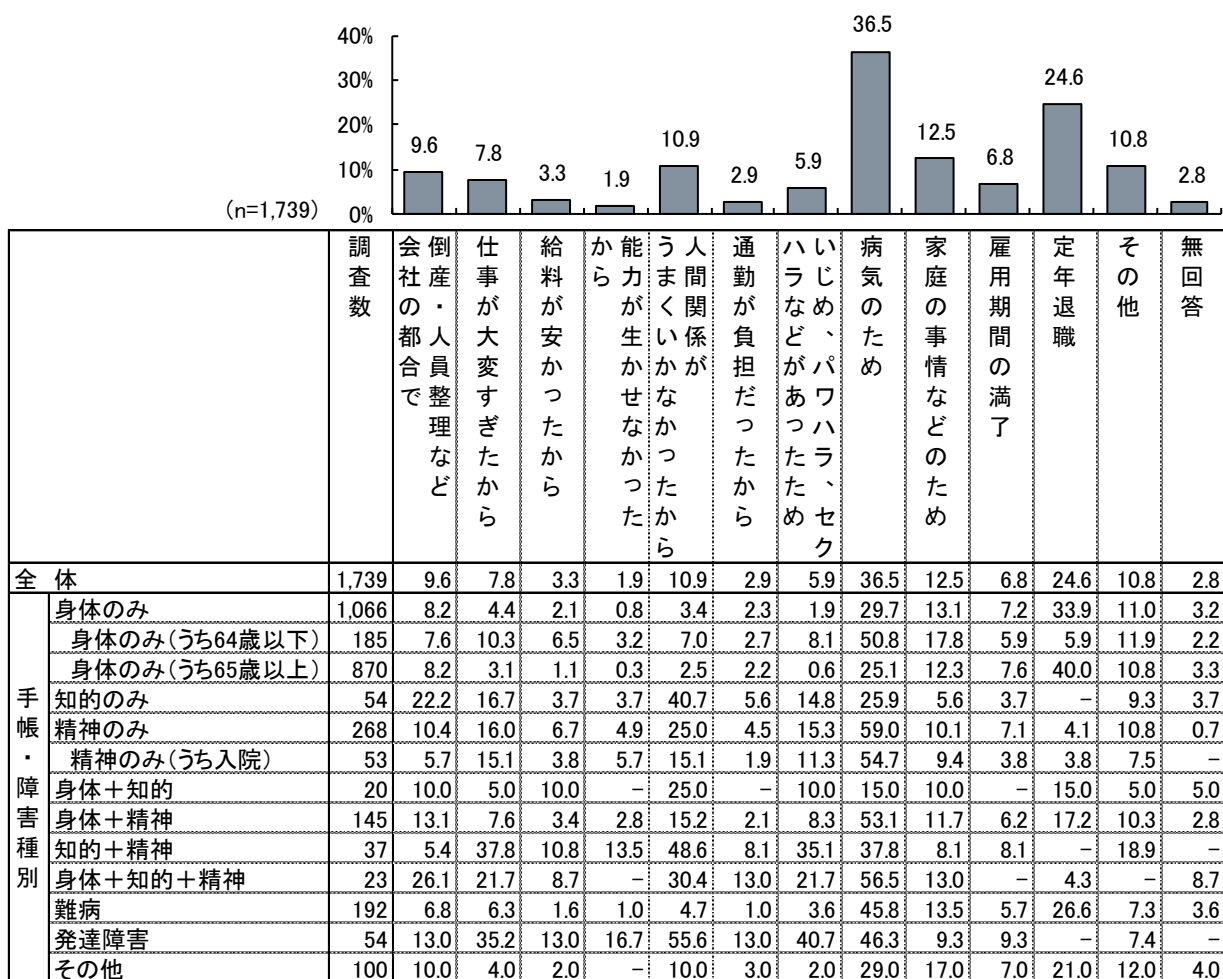


⑦ 仕事を辞めた理由

●問 27 (3) 一般企業や自営業などの仕事を辞めたのはどのような理由ですか。(複数回答)

仕事を辞めた理由をみると、「病気のため」が最も高く 36.5%、次いで「定年退職」24.6%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」では「人間関係がうまくいかなかったから」が4割～6割弱、「発達障害」では「いじめ、パワハラ、セクハラなどがあったため」が4割と特に高くなっています。

図表 53 仕事を辞めた理由(MA)



その他 (10.8%)

主な回答内容	件数
結婚のため	56
高齢のため	19
阪神大震災で被害	14
怪我、交通事故のため	12
障害者になったため	11

⑧ 今後の就労希望

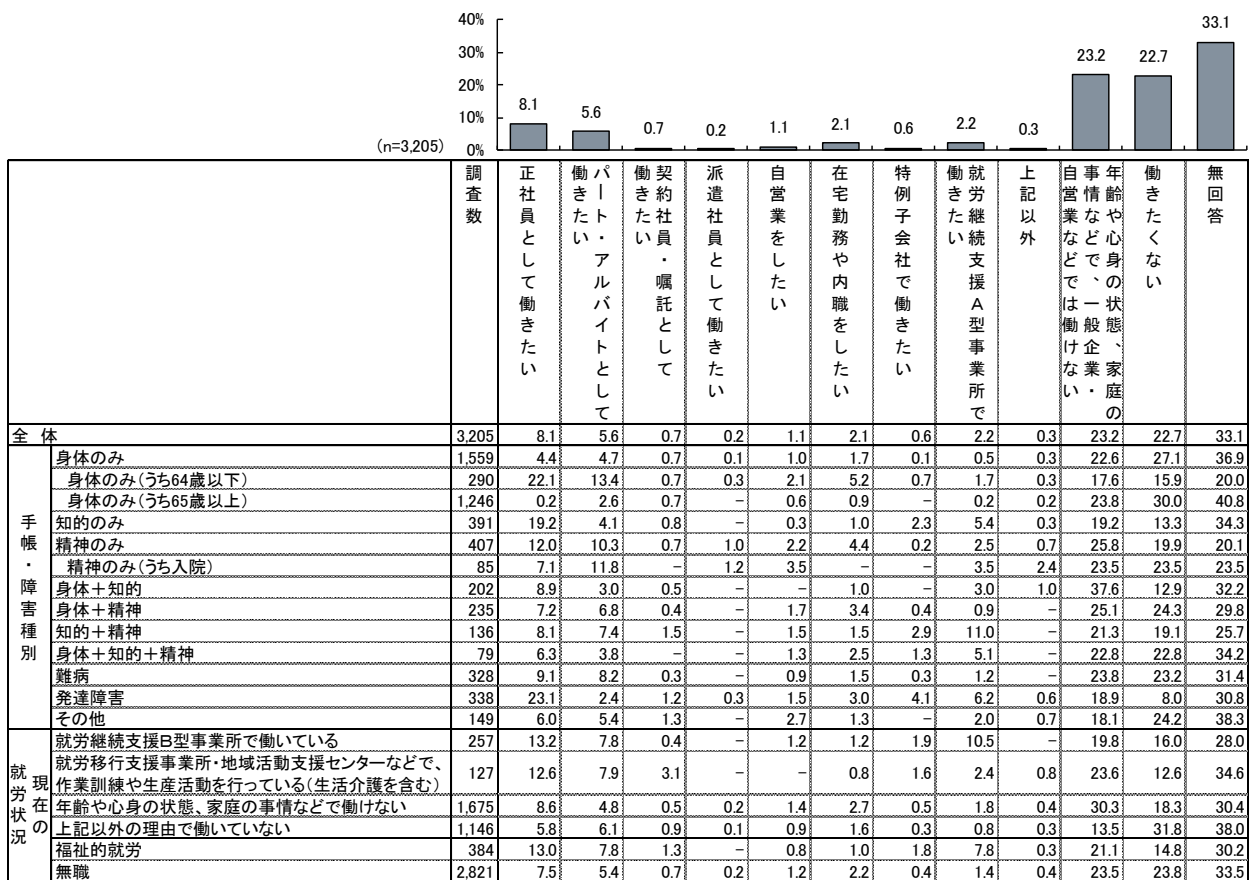
●問 27 (4) 今度、あなたは一般企業や自営業などで働きたいですか。

一般就労意向・希望する就労形態をみると、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで、一般企業・自営業などでは働けない」が 23.2%と最も高く、次いで「働きたくない」22.7%となっています。

障害別では、正社員の就労を希望する人の割合は「身体のみ（うち 64 歳以下）」、「知的のみ」、「発達障害」で約 2 割～2 割強と比較的高くなっています。

現在の就労状況別では、正社員の就労を希望する人の割合は「就労継続支援 B 型事業所で働いている」では 13.2%と比較的高くなっています。

図表 54 一般就労意向、希望する就労形態(SA)

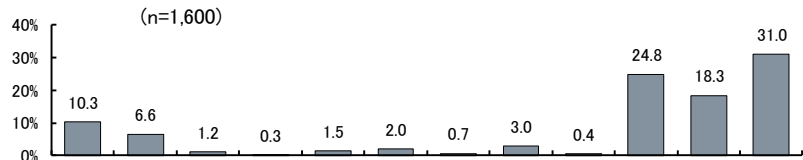


上記以外 (0.3%)

主な回答内容	件数
自分の能力・特性に合った(生かせる)仕事をしたい	2
心身の状態をみて働く場所を決めたい	1
現在リハビリ中	1
技術的相談役のような形で仕事したい	1
まだわからないが、何らかの形で	1
軽作業	1

地域活動への参加のために必要なこととして、「地域の人との交流」「一緒に活動してくれる人」「趣味の場」「気軽に立ち寄れる場」「送迎・移動支援」のいずれかを選択しており、かつ現在一般就労していない人について、一般就労意向・希望する就労形態をみると、就労希望の割合は、25.9%（415人）となっています。現在の就労形態別でみると、「就労継続支援B型事業所で働いている」人で就労希望の割合が38.1%と特に高くなっています。

図表 55 一般就労意向、希望する就労形態(SA)(問 22(2)で選択肢 2~6 のいずれかを選んだ人)



	調査数	正社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	契約社員・嘱託として働きたい	派遣社員として働きたい	自営業をしたしたい	在宅勤務や内職をしたしたい	特例子会社で働きたい	就労継続支援A型事業所で働きたい	上記以外	年齢や心身の状態、家庭の事情などでは働けない・自営業などでは働けない	働きたくない	無回答	就労希望有り	
Q22(2)で選択肢2~6のいずれかを選んだ人	1,600	164	106	19	4	24	32	11	48	7	396	293	496	415	
	100.0	10.3	6.6	1.2	0.3	1.5	2.0	0.7	3.0	0.4	24.8	18.3	31.0	25.9	
Q24	就労継続支援B型事業所で働いている	160	22	10	1	—	2	1	3	22	—	32	24	43	61
		100.0	13.8	6.3	0.6	—	1.3	0.6	1.9	13.8	—	20.0	15.0	26.9	38.1
	就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている(生活介護を含む)	87	13	6	3	—	—	1	—	2	1	24	8	29	26
		100.0	14.9	6.9	3.4	—	—	1.1	—	2.3	1.1	27.6	9.2	33.3	29.9
Q24	年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない	847	97	53	8	3	14	21	6	19	4	260	124	238	225
		100.0	11.5	6.3	0.9	0.4	1.7	2.5	0.7	2.2	0.5	30.7	14.6	28.1	26.6
Q24	上記以外の理由で働いていない	506	32	37	7	—	8	9	2	5	2	80	137	186	103
		100.0	6.3	7.3	1.4	0.2	1.6	1.8	0.4	1.0	0.4	15.8	27.1	36.8	20.4

問 22(2) 選択肢2~6:

施設や地域のイベントで地域の人と交流し、顔見知りになること

地域で気軽に利用できる趣味の場(絵・スポーツなど)があること

家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること

休日にも利用でき、気軽に立ち寄れる場所(喫茶店など)があること

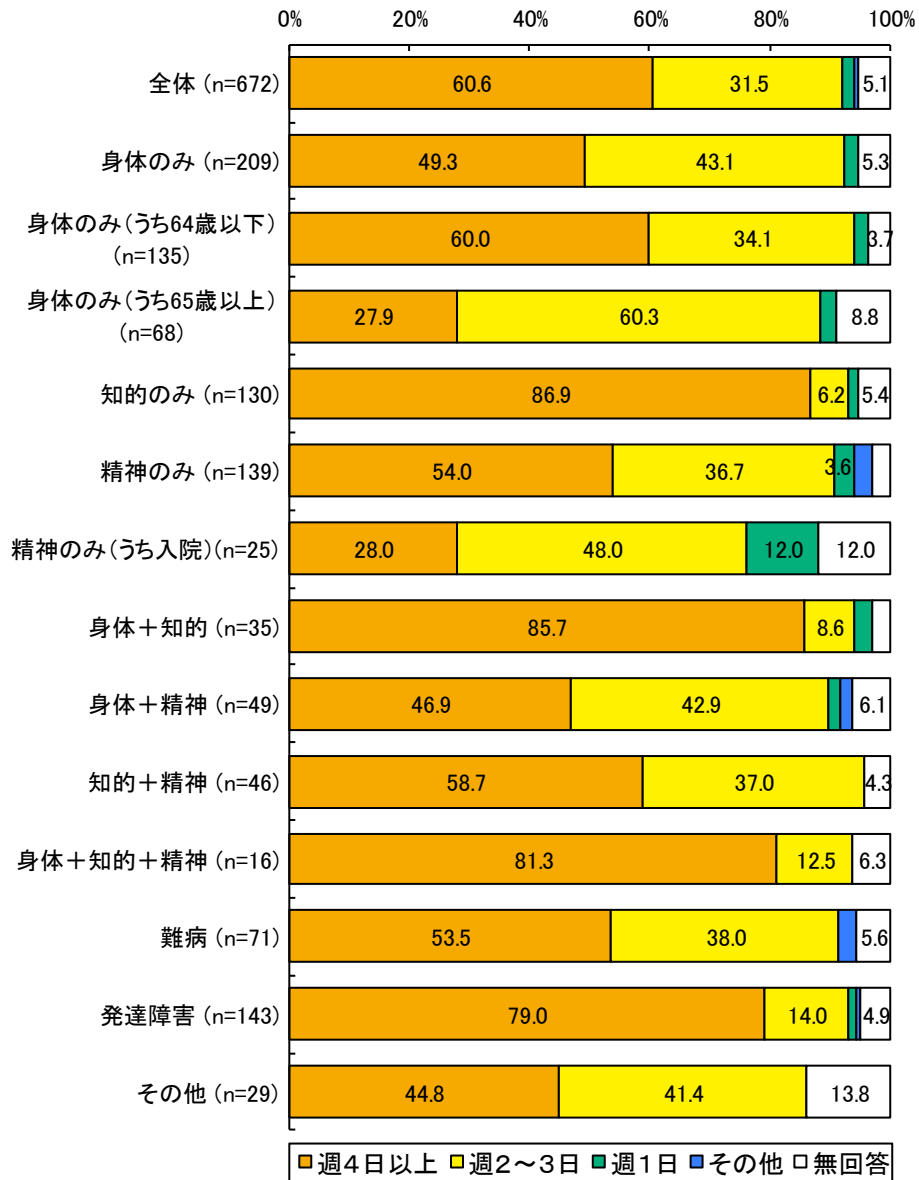
地域の余暇活動の情報を手軽に知ることができること

地域活動に参加するときに、送迎や移動の支援が受けられること

●問 27 (5) 週に何日勤務したいですか。

希望する勤務日数をみると、「週4日以上」が60.6%と、最も高くなっています。障害別では、週1～3日を希望する人の割合は「身体のみ（うち65歳以上）」、「精神のみ（うち入院）」で6割～6割強と高くなっています。

図表 56 希望する勤務日数(週あたり)(SA)



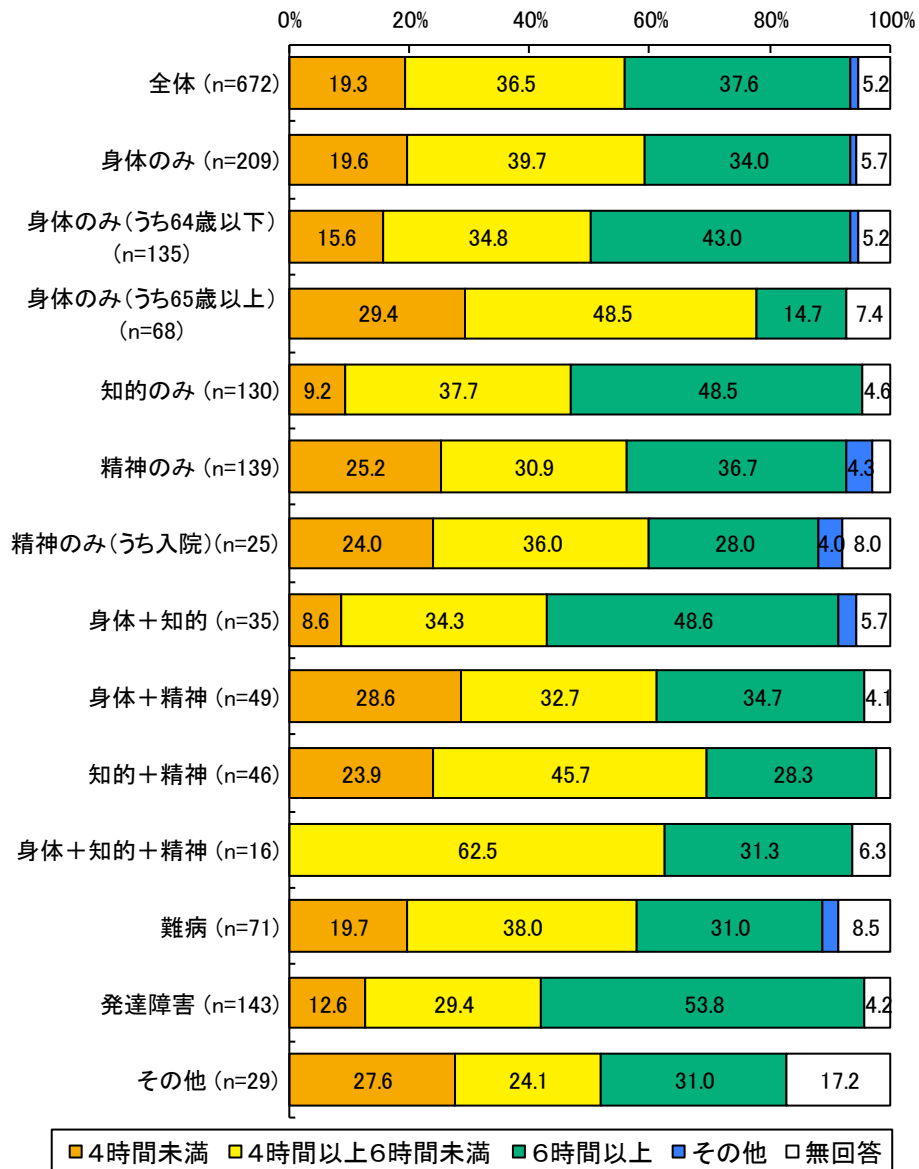
その他 (0.7%)

主な回答内容	件数
体調に合わせて	4
決められてしまうと不安になる	1

●問 27 (6) 一日に何時間勤務したいですか。

希望する勤務時間をみると、「6時間以上」が最も高く 37.6%、次いで「4時間以上6時間未満」36.5%となっています。障害別では、4時間未満を希望する人の割合は「身体のみ（うち65歳以上）」、「精神のみ」、「身体+精神」で3割弱～約3割と比較的高くなっています。

図表 57 希望する勤務時間(一日あたり)(SA)



その他 (1.3%)

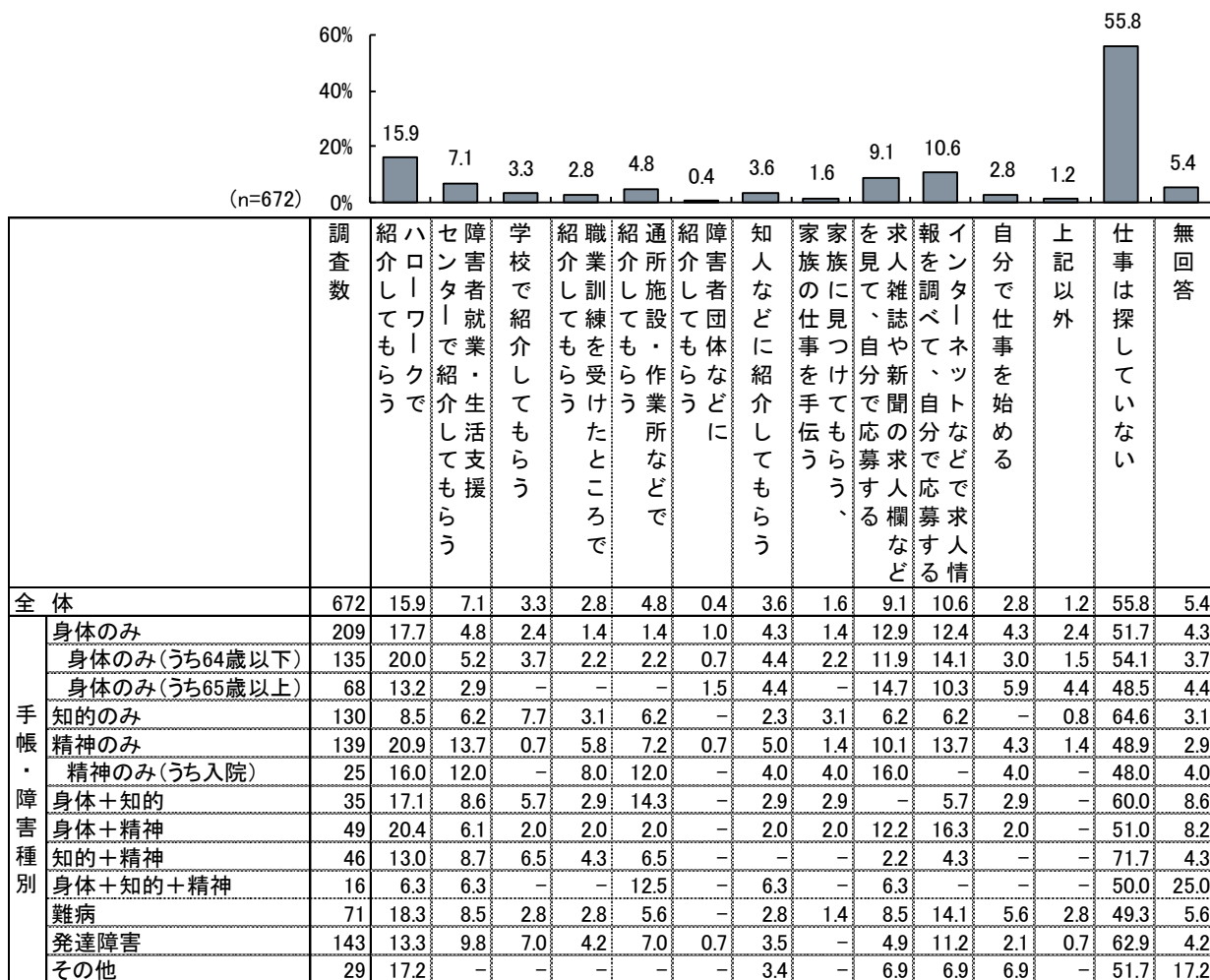
回答内容	件数
体調による	4
精神が安定している時間だけ	1
夕刊のみの新聞配達	1
作品作成に必要なだけ	1
朝から夕方まで	1

⑨ 就職活動の状況

●問 27 (7) 現在、あなたは仕事を探していますか。また、それはどのような方法ですか。(複数回答)

就職活動状況をみると、「仕事を探していない」が55.8%と、最も高くなっています。障害別では、「身体のみ(うち64歳以下)」、「精神のみ」、「身体+精神」は「ハローワークで紹介してもらう」人の割合が2割と比較的高くなっています。

図表 58 就職活動状況(MA)



上記以外 (1.2%)

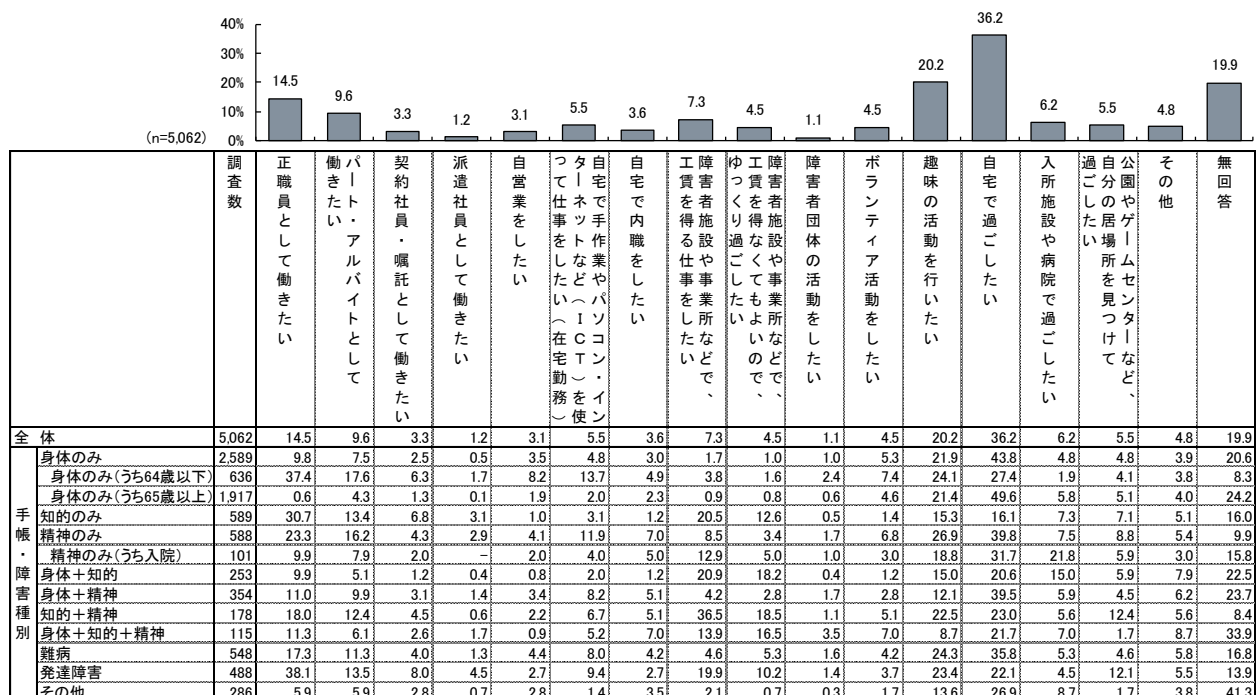
回答内容	件数
大学卒業後の就職を目指して活動している	1
求人の子ラシ	1
離職票を待っている	1
求人情報は見てみるが応募するまでには至らない	1
前の会社の人に会う	1

⑩ 日中の過ごし方の希望

●問 28 今後、あなたは日中にどんなことをして過ごしたいですか。(複数回答)

今後、日中にしたいことをみると、「自宅で過ごしたい」が最も高く 36.2%、次いで「趣味の活動を行いたい」20.2%となっています。障害別では、「身体のみ(うち64歳以下)」、「知的のみ」、「発達障害」では「正職員として働きたい」が最も高く、「知的+精神」では「障害者施設や事業所などで、工賃を得る仕事をしたい」が最も高く、「身体のみ(うち65歳以上)」「精神のみ」、「精神のみ(うち入院)」、「身体+精神」、「難病」では「自宅で過ごしたい」が最も高い割合となっています。

図表 59 今後、日中にしたいこと(MA)



その他 (4.8%)

主な回答内容	件数
学校に通う	30
外出(散歩、買物、図書館・お寺通いなど)して過ごす	26
デイサービス	11
今のままでよい	9
体を動かす(スポーツなど)	8

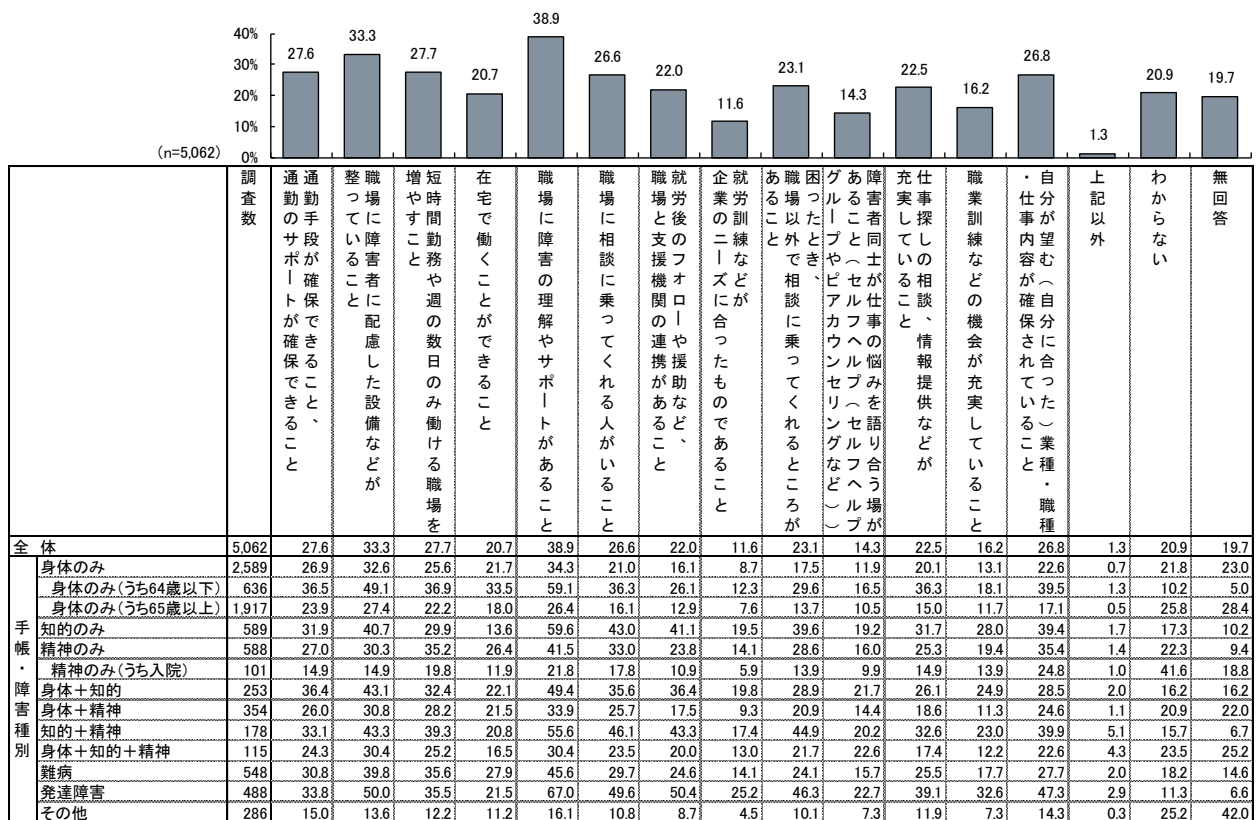
⑪ 障害のある人が就労していくために必要なこと

●問 29 今後、神戸市で障害のある人が就労していくために、どのようなことが必要だとあなたは思いますか。(複数回答)

障害者の就労のために必要なことをみると、「職場に障害の理解やサポートがあること」が最も高く 38.9%、次いで「職場に障害者に配慮した設備などが整っていること」33.3%となっています。

障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「知的+精神」、「発達障害」では「困ったとき、職場以外で相談に乗ってくれるところがあること」、「発達障害」では「自分が望む(自分に合った)業種・職種・仕事内容が確保されていること」が4割強～5割弱と重視される項目になっています。

図表 60 障害者の就労のために必要なこと(MA)



上記以外 (1.3%)

主な回答内容	件数
安定して生活ができる収入があること	9
介助者・家族のサポート、フォロー	5
休み(有給休暇など)がとりやすい	3
個人の障害程度や能力のキャリアカウンセリングの就労支援	2
短時間勤務	2
自身の能力・良いところを有効に生かせること	2

(9) 相談支援の利用

① 福祉サービスについて情報を得る手段

●問 30 (1) あなたは現在、障害者のための福祉サービスについて、どのようなところから、どのような手段で情報を得ていますか。(複数回答(4つまで))

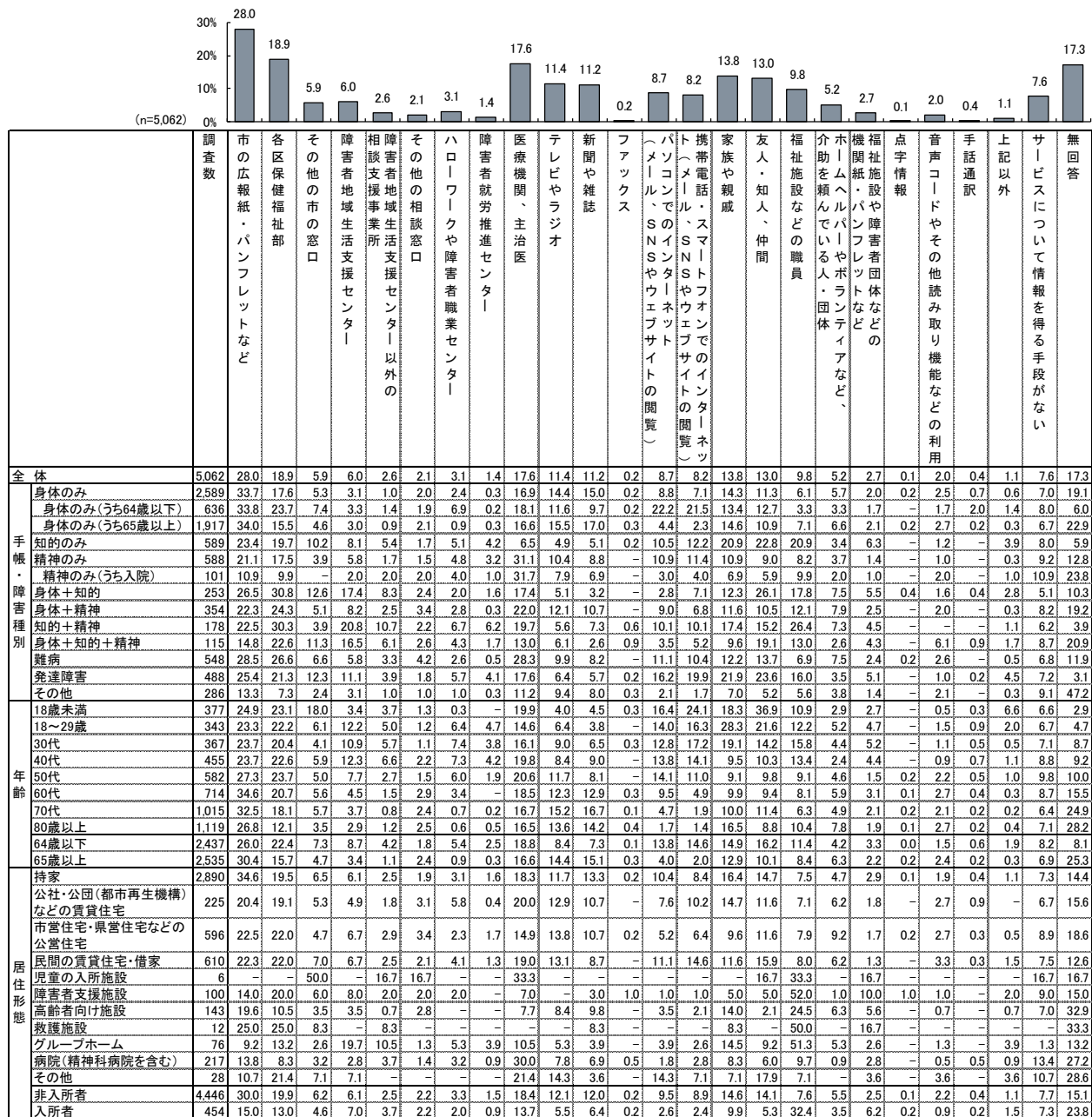
障害福祉サービスの情報源をみると、「市の広報紙・パンフレットなど」が最も高く28.0%、次いで「各区保健福祉部」18.9%、「医療機関、主治医」17.6%となっています。

障害別でみると、「医療機関、主治医」の割合は「精神のみ」、「難病」で約3割～3割と高くなっています。

年齢別でみると、「18歳未満」では「友人・知人、仲間」が36.9%、「18～29歳」では「家族や親戚」が28.3%と最も高いのに対し、「30代」以上では「市の広報紙・パンフレットなど」が2割強～3割強と最も高くなっており、年齢によって情報源に違いがみられます。

居住形態別でみると、非入所者では「市の広報紙・パンフレットなど」が2割～3割強と最も高いのに対し、「障害者支援施設」、「高齢者向け施設」、「救護施設」、「グループホーム」入所者では「福祉施設などの職員」が2割強～5割強、「病院(精神科病院を含む)」では「医療機関、主治医」が3割と最も高くなっており、居住形態によっても情報源に違いがみられます。

図表 61 障害福祉サービスの情報源(4つまで)



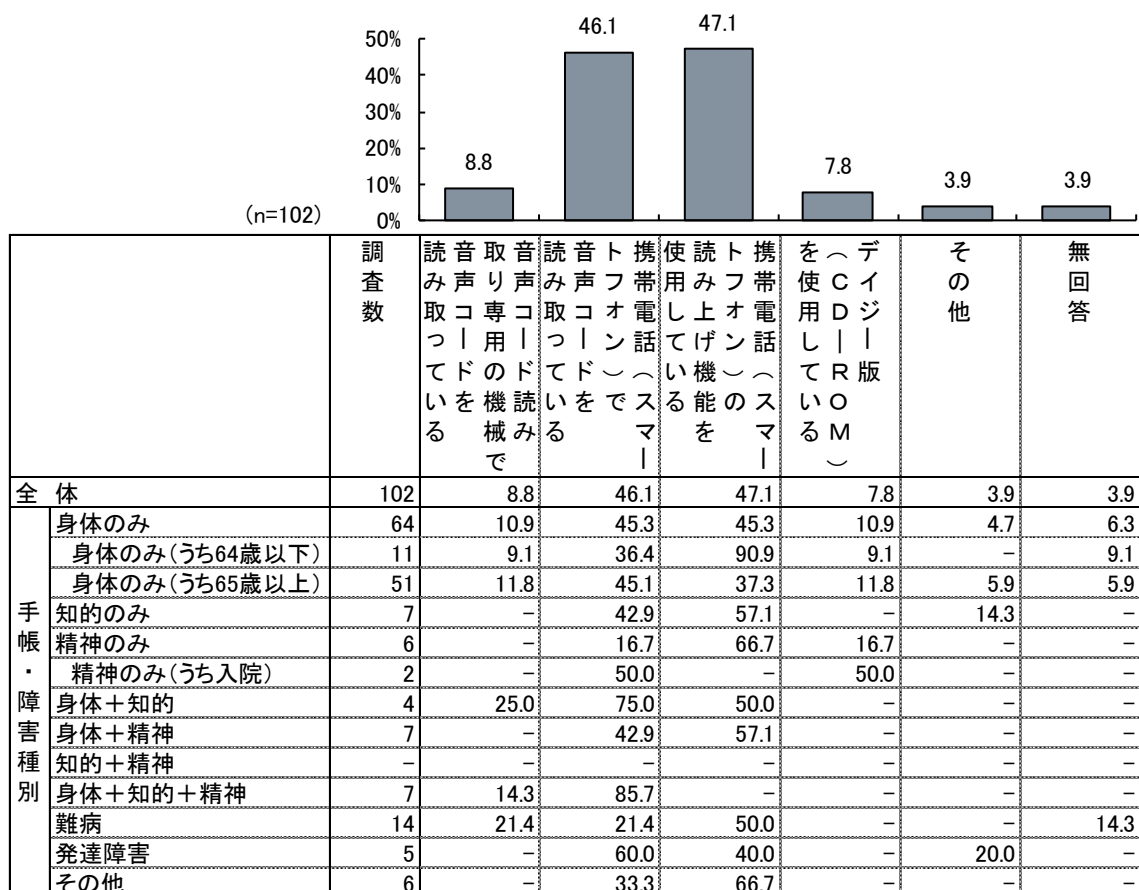
上記以外 (1.1%)

主な回答内容	件数
在学中の学校から	25
障害児(者)の親の会、支援団体	8
成年後見人	3
ケアマネジャー	2
PCインターネット・書籍	2

●問 30 (2) 現在、あなたが利用されているものをお答えください。(複数回答)
 (問 30 (1) で「21. 音声コードやその他読み取り機能などの利用」と答えた方)

利用している音声コード・読み取り機能をみると、「携帯電話（スマートフォン）の読み上げ機能を使用している」が 47.1%と、最も高くなっています。障害別では、「身体のみ（うち 64 歳以下）」、「知的のみ」、「精神のみ」、「身体+精神」では「携帯電話（スマートフォン）の読み上げ機能を使用している」が最も高く、「身体+知的」、「身体+知的+精神」、「発達障害」では「携帯電話（スマートフォン）で音声コードを読み取っている」が最も高くなっています。

図表 62 利用している音声コード・読み取り機能(MA)



その他 (3.9%)

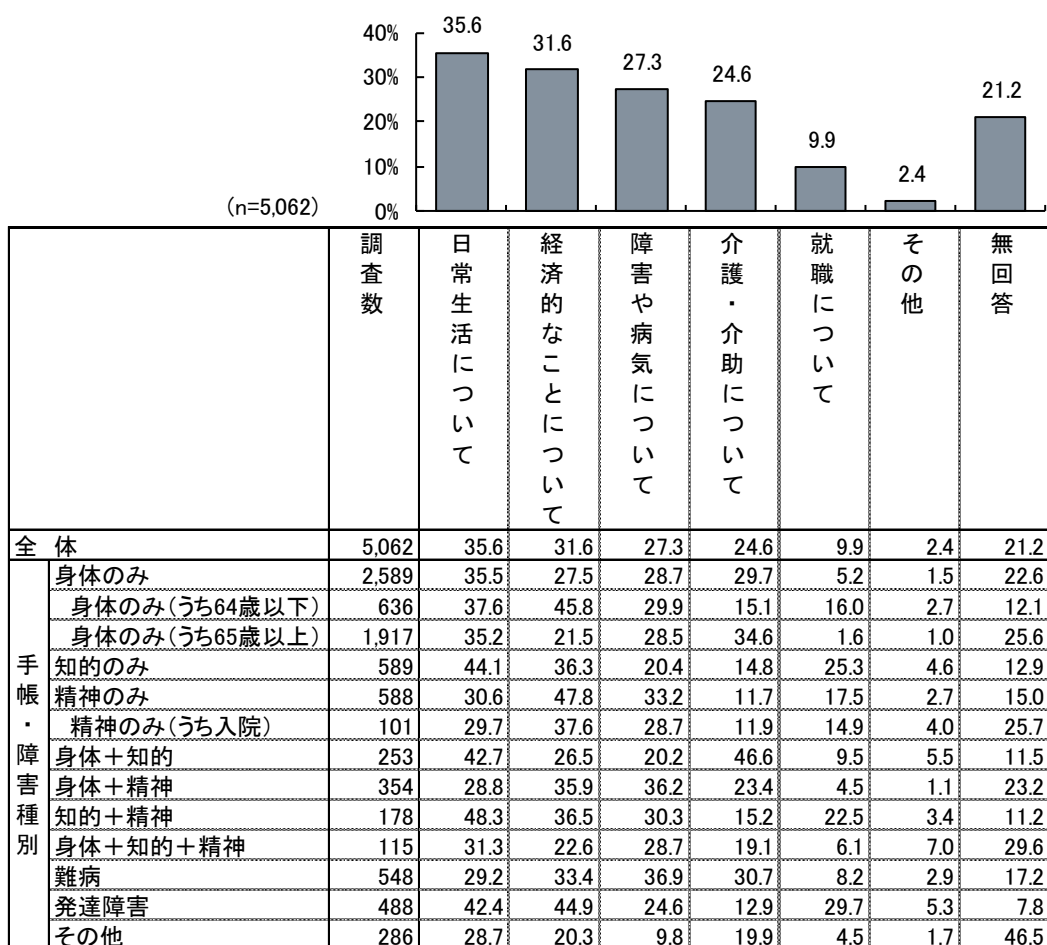
主な回答内容	件数
音声拡大読書機・拡大読み取り機	3
タブレット	1

② 福祉サービスについて必要な情報

●問 31 福祉サービスに関する情報のうち、現在のあなたにとってどのような情報が必要ですか。(複数回答(2つまで))

障害福祉サービス情報のニーズをみると、「日常生活について」が最も高く 35.6%、次いで「経済的なことについて」31.6%となっています。障害別でも「日常生活について」または「経済的なことについて」の割合が高くおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「身体+知的」では「介護・介助について」が5割弱と比較的高くなっています。

図表 63 障害福祉サービス情報のニーズ(2つまで)



その他 (2.4%)

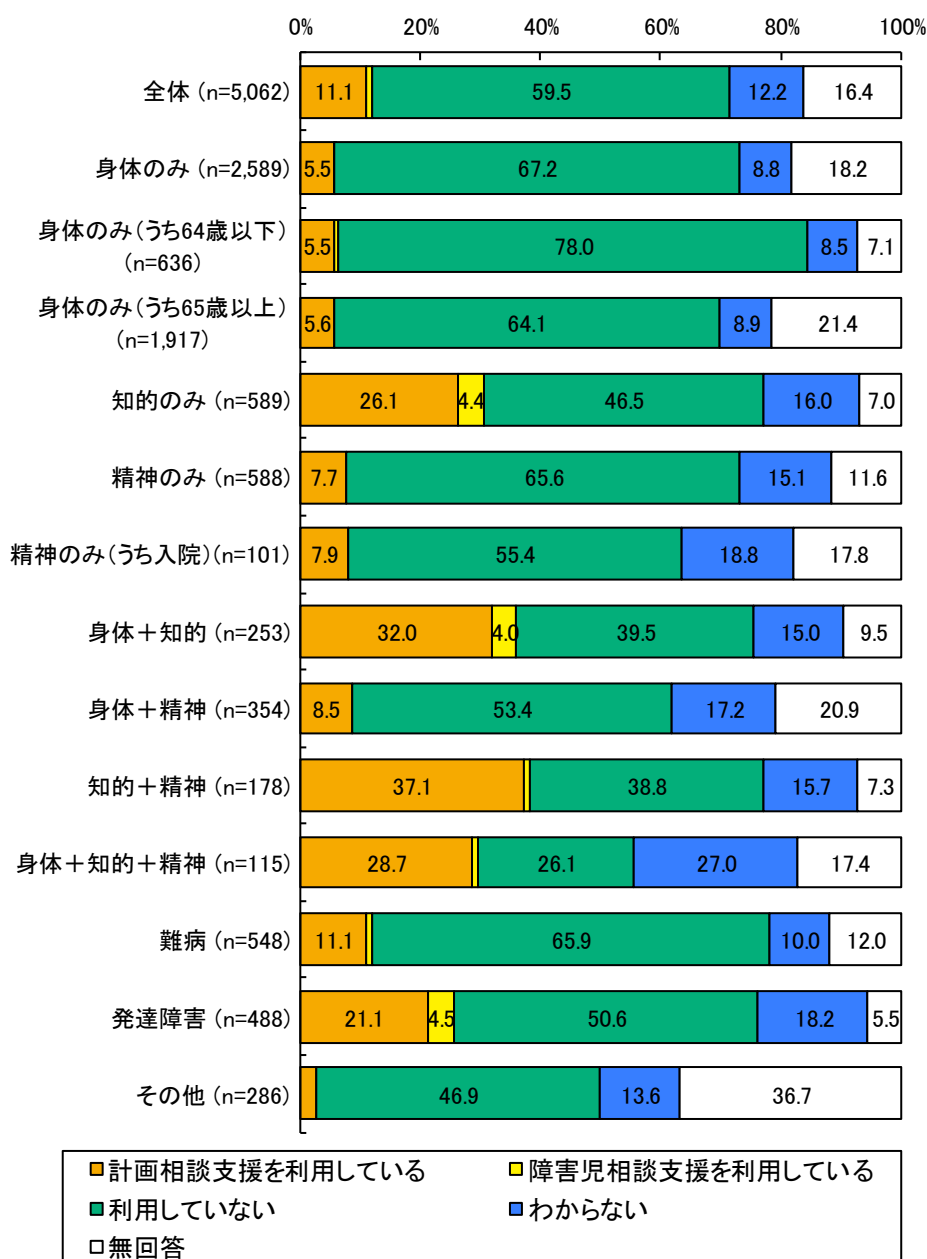
主な回答内容	件数
障害者の就学について(学習、通学などのフォロー)	13
自立生活、親なき後の生活の知識や情報	13
受けることができる支援サービスについてのわかりやすい案内、各種支援情報	12
卒業後の進学、進路(事業所・施設など)について	9
入所施設、グループホームの情報	6

③ 計画相談支援・障害児相談支援の利用状況

●問 32 (1) 現在、あなたは計画相談支援・障害児相談支援を利用していますか。

計画相談支援・障害児相談支援の利用有無をみると、「利用していない」が59.5%と、最も高くなっており、次に、「計画相談支援を利用している」が11.1%となっています。障害別では、相談支援利用者の割合は「身体+知的」、「知的+精神」で3割強～4割弱と高くなっています。

図表 64 計画相談支援・障害児相談支援の利用有無(SA)

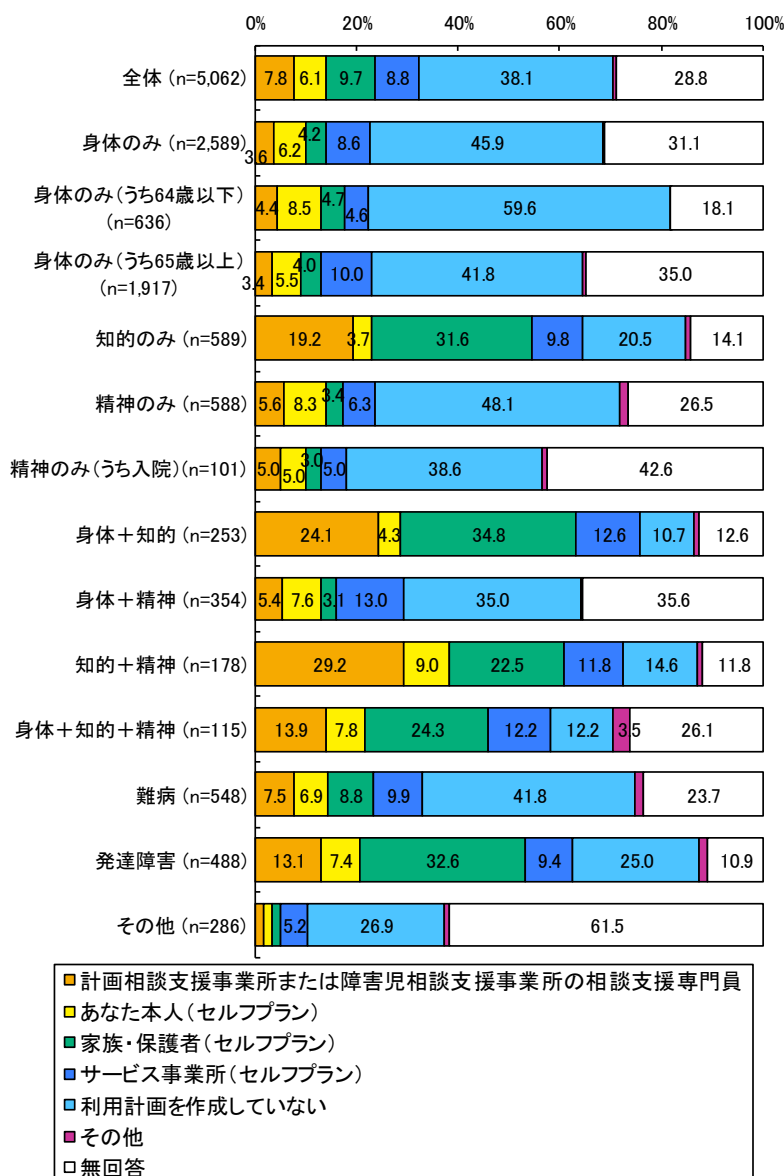


④ 障害福祉サービス等の利用計画の作成者

●問 32 (2) 現在、あなたの障害福祉サービス等の利用計画はどなたが作成されていますか。

障害福祉サービス等利用計画の作成者をみると、「利用計画を作成していない」が38.1%と、最も高くなっており、次に、「家族・保護者（セルフプラン）」が9.7%となっています。障害別では、「家族・保護者（セルフプラン）」の割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「発達障害」で3割～3割強と高くなっています。

図表 65 障害福祉サービス等利用計画の作成者(SA)

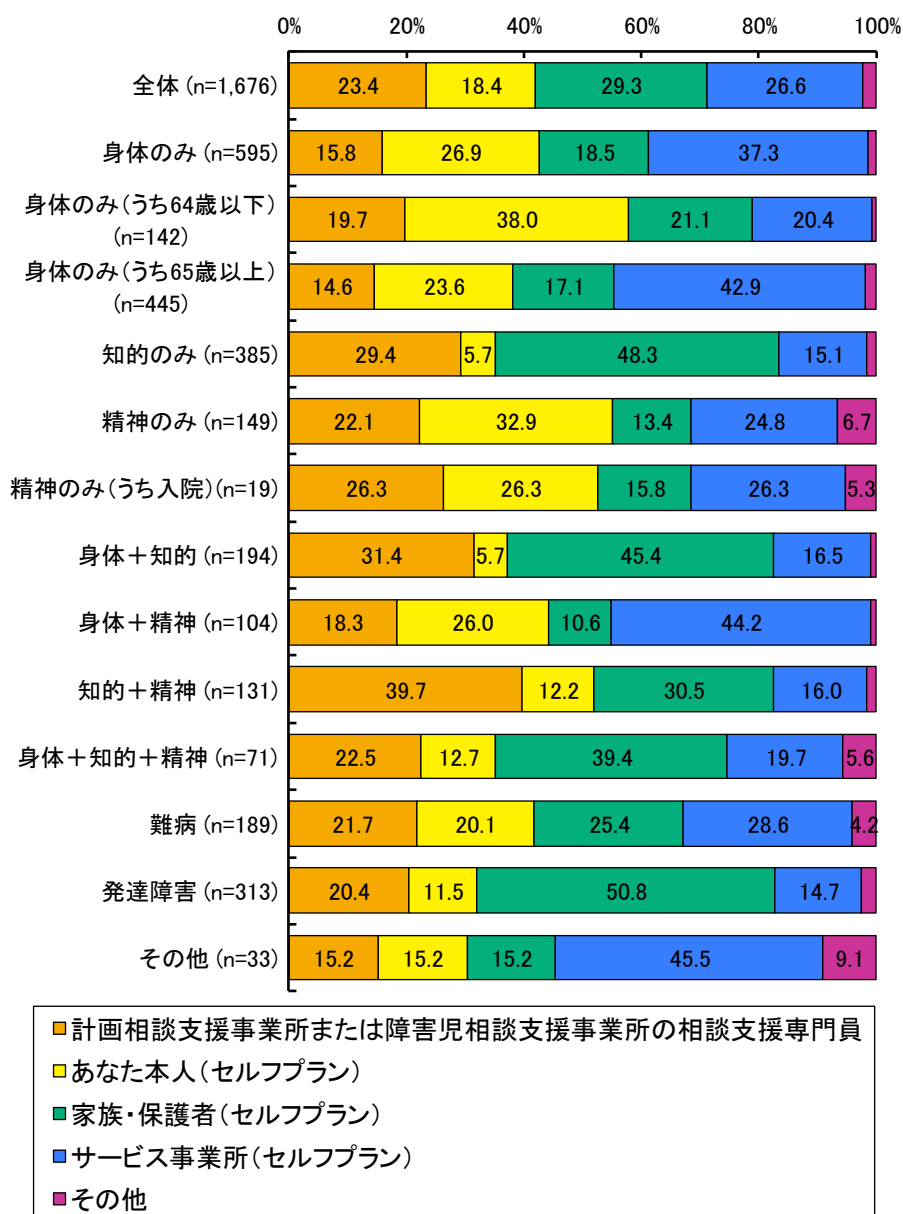


その他 (0.8%)

主な回答内容	件数
医療機関	10
学校	3
地域生活支援センター	2
市区役所の担当者	2

障害福祉サービス等利用計画の作成者の傾向について、「家族・保護者(セルフプラン)」が29.3%と最も高く、次いで「サービス事業所(セルフプラン)」が26.6%、「計画相談支援事業所または障害児相談支援事業所の相談支援専門員」が23.4%となります。障害別にみると、「計画相談支援事業所または障害児相談支援事業所の相談支援専門員」による作成は「身体+知的」、「知的+精神」で3~4割程度と比較的高い傾向にあります。

図表 66 計画相談支援・障害児相談支援の利用有無(SA)（「作成していない」「無回答」を除く）

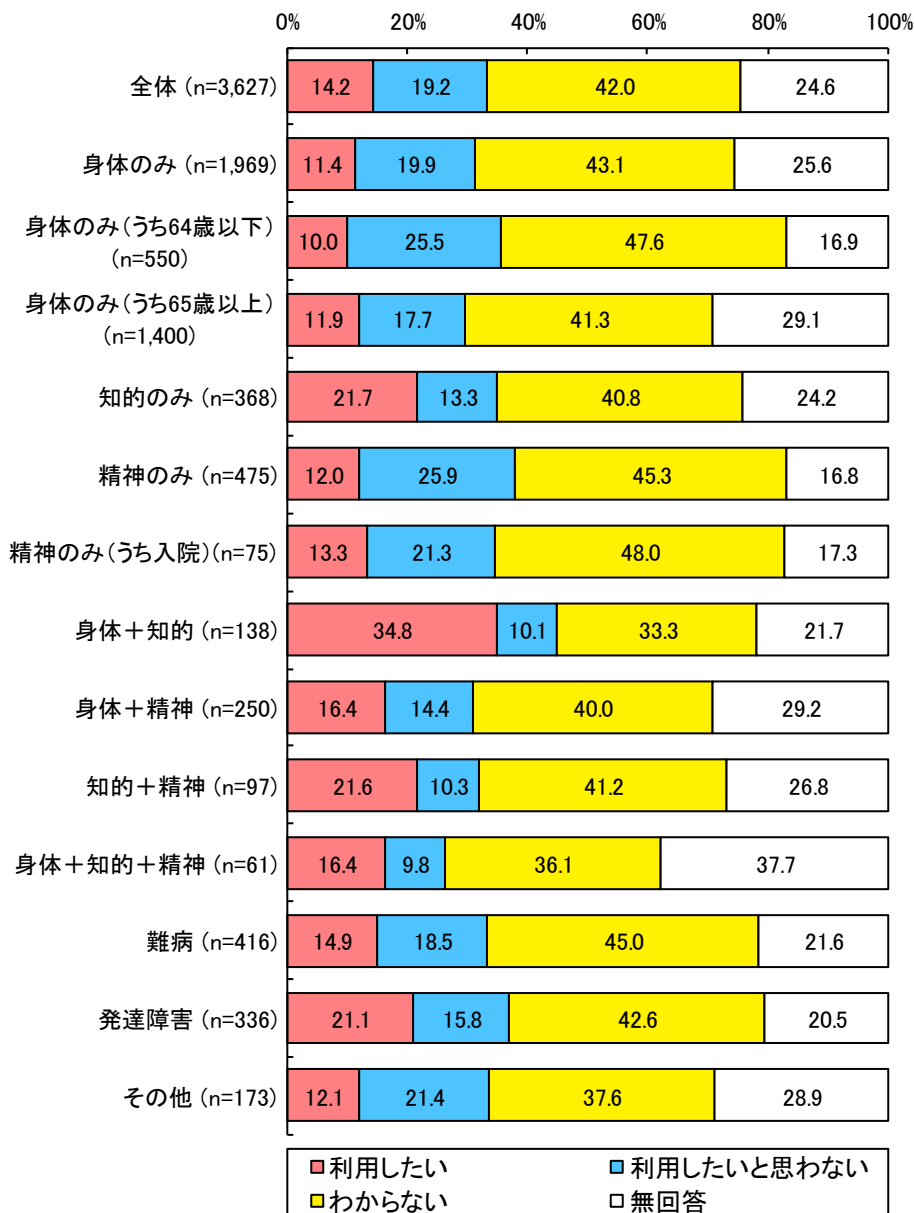


⑤ 計画相談支援・障害児相談支援の利用希望

●問 32 (3) 今後、あなたは計画相談支援・障害児相談支援を利用したいと思いますか。

計画相談支援・障害児相談支援の利用意向をみると、「利用したい」人は14.2%となっています。障害別では、「身体+知的」で利用希望者が3割強と高くなっています。

図表 67 計画相談支援・障害児相談支援の利用意向(SA)

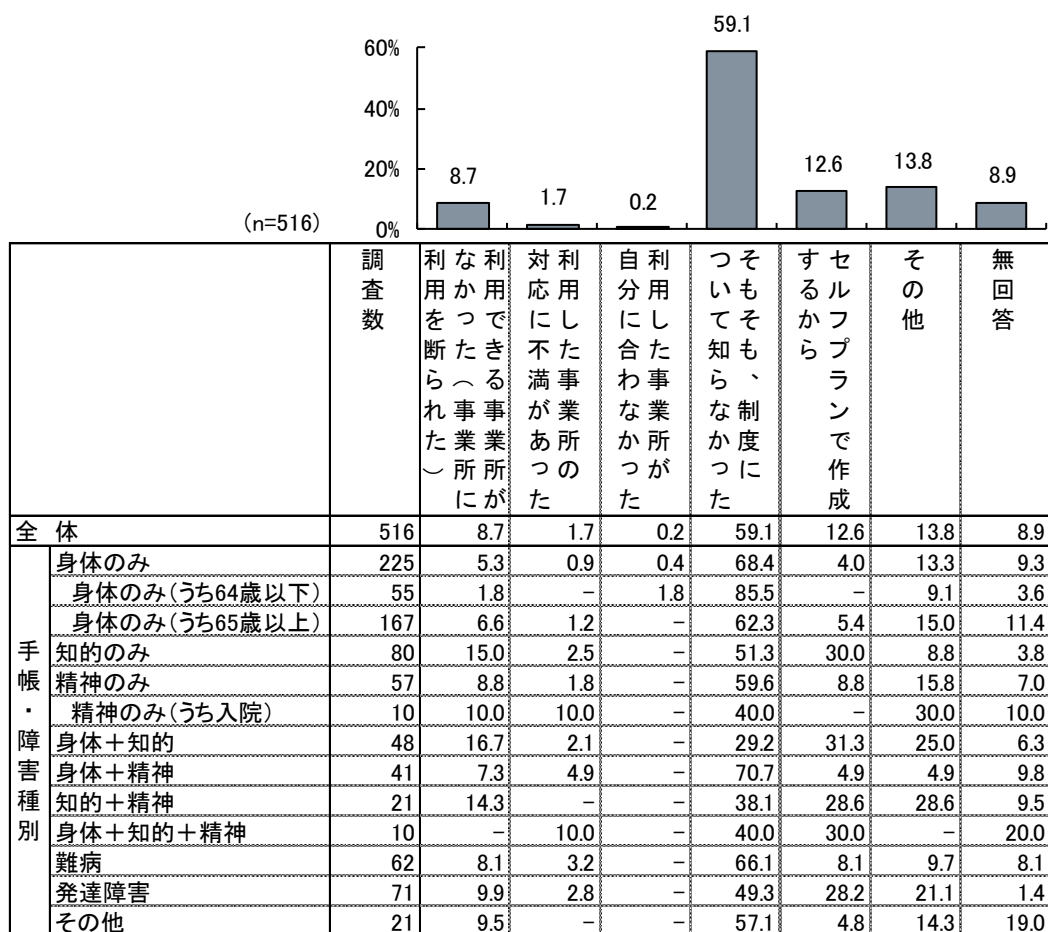


⑥ 計画相談支援・障害児相談支援を現在利用していない理由

●問 32 (4) 計画相談支援・障害児相談支援を利用したいが、現在利用していない理由は何ですか。(複数回答)

計画相談支援・障害児相談支援を利用していない理由をみると、「そもそも、制度について知らなかった」が 59.1%と、最も高くなっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 68 計画相談支援・障害児相談支援の非利用理由(MA)



利用した事業所の対応に不満があった (1.7%)

主な回答内容	件数
自分が利用したいことができないと言われた	5

利用した事業所が自分に合わなかった (0.2%)

主な回答内容	件数
右耳の調子がよくなく耳鳴りがあるため、静かな所となる と個室であり、自宅と変わらず、数回利用しただけ	1

その他 (13.8%)

主な回答内容	件数
必要がない	31
利用の仕方がわからない、躊躇している	11
事業所が不足	6
手続きが煩雑、時間がかかる	5
入院中のため	4

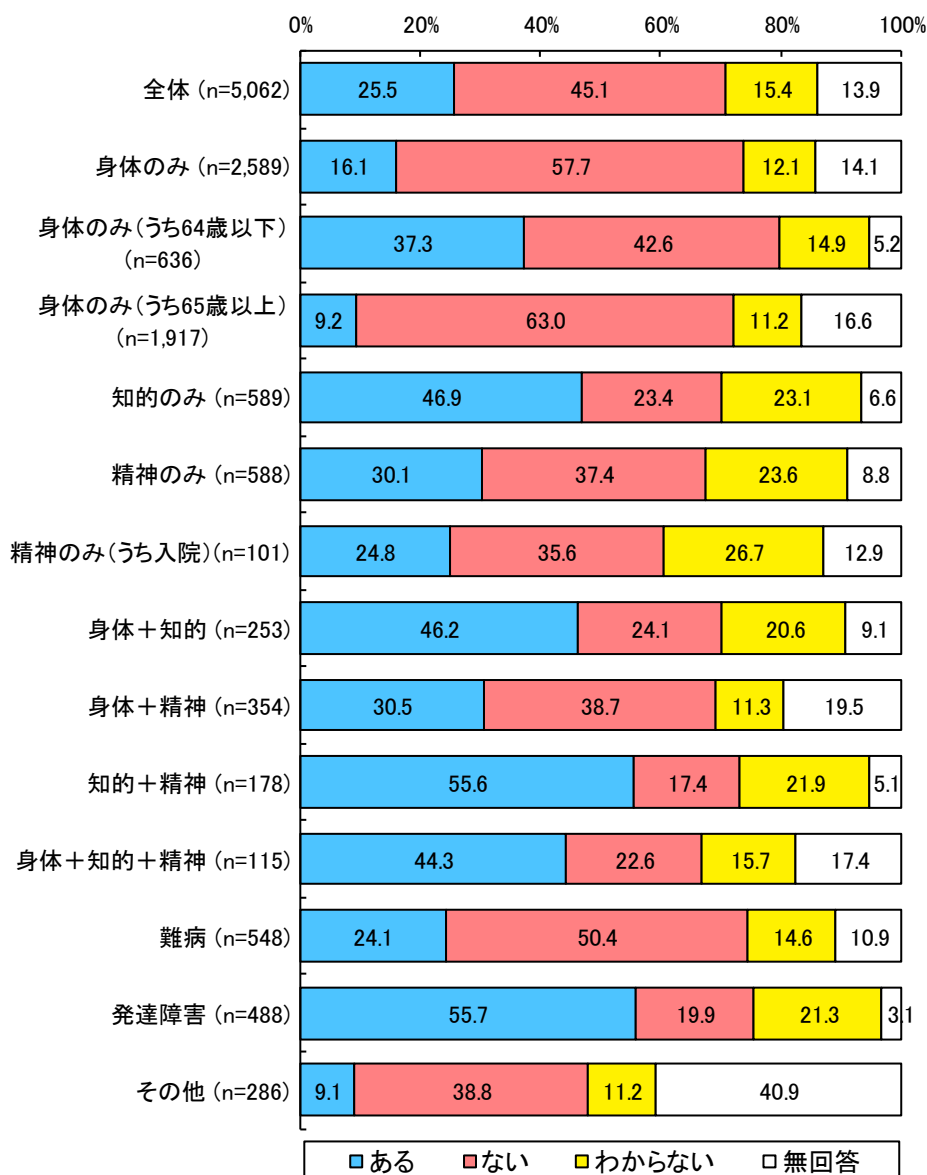
(10) 障害のある人に対する差別・理解

① 差別や偏見を受けた経験

●問 33 (1) あなたは、これまでの日常生活の中で、障害を原因とした差別や偏見を受けたことがありますか。

障害を原因とした差別・偏見の有無をみると、「ある」と回答した人は 25.5%となっています。障害別では、差別・偏見を受けた人の割合は「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「発達障害」で5割弱～6割弱と高くなっています。

図表 69 障害を原因とした差別・偏見の有無(SA)

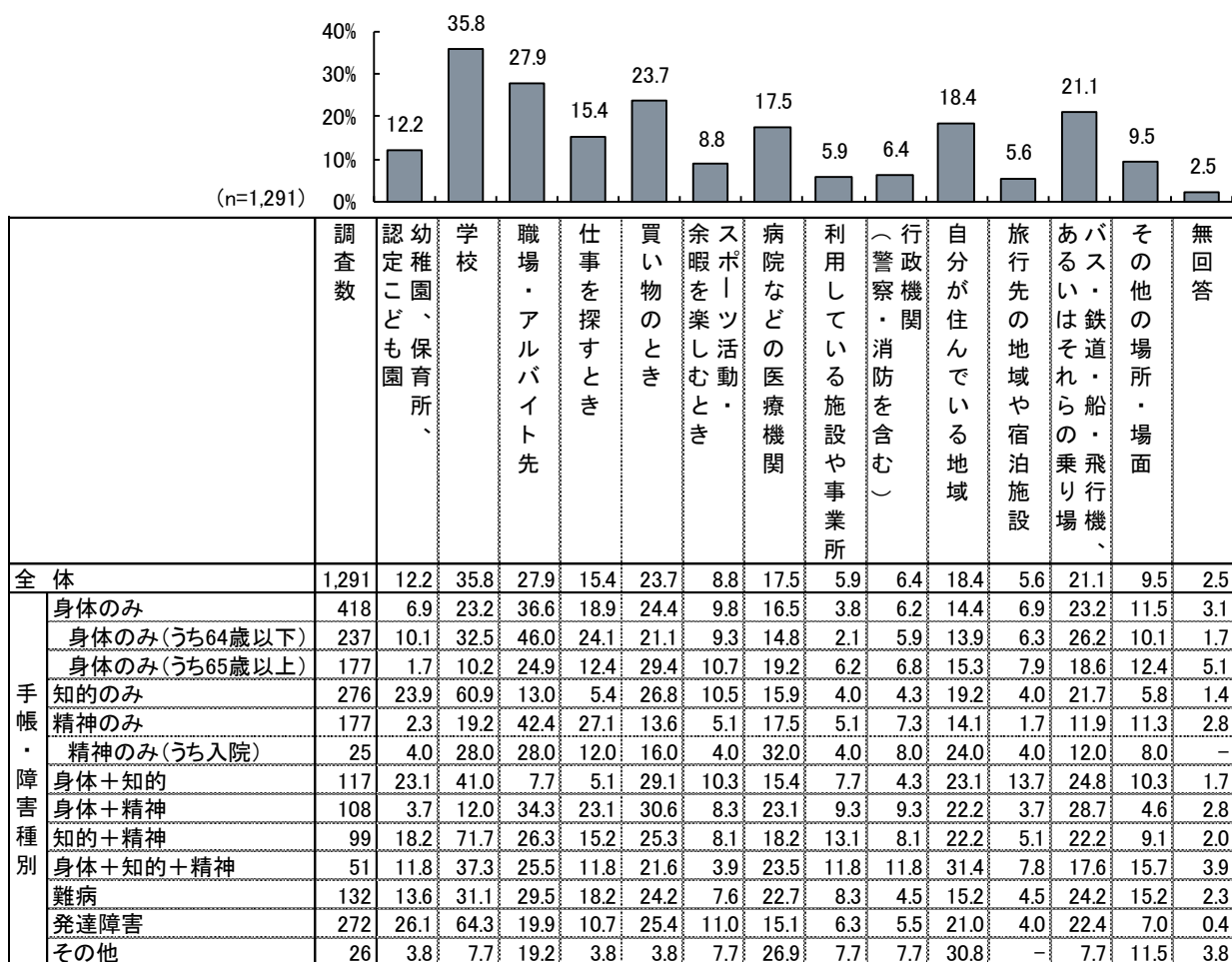


② 差別や偏見を受けた場所・場面

●問 33 (2) どのような場所・場面で差別や偏見を受けましたか。(複数回答)

差別・偏見を受けた場所・場面をみると、「学校」が最も高く 35.8%、次いで「職場・アルバイト先」27.9%、「買い物するとき」23.7%となっています。障害別では、「学校」の割合は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で6割～7割と特に高くなっています。

図表 70 差別・偏見を受けた場所・場面(MA)



その他の場所・場面 (9.5%)

主な回答内容	件数
自宅、家族・親族関係	19
外食時	13
知人・友人達	11
タクシー	10
道・公園で	7

●問 33 (3) どのような差別や偏見を受けましたか。よろしければ、あなたの受けた差別や偏見の具体的な内容をお書きください。(自由記述)

延べ 830 件の意見があり、内容としては障害に対する理解不足が最も多く、次いで窓口・学校・病院などの対応、暴力・言葉の暴力、いじめが多くなっています。

特に、じろじろ見られる、障害に対する無配慮・無理解、職場での偏見・理解不足・不当な扱い、医療機関での対応、障害による相手の態度の変化、障害に対する無神経な言葉・言葉の暴力などへの意見が多くなります。

図表 71 差別・偏見を受けた場所・場面

主な意見内容		件数
理解不足	障害による就労拒否 奇異な目、白い目、変な目、嫌な目で見られる 一見普通に見えるので、障害者だと認識してもらえない 障害に対する安易な理解 障害に対する無配慮、無理解 保育所・学校などでの偏見 職場での偏見、理解不足、不当な扱い 話を聞いてもらえない	310
窓口・学校・病院等の対応	医療機関での対応 障害により信用してもらえない 障害による相手の態度の変化 保育所・学校などでの対応 他窓口などでの対応 交通機関などでの対応	136
暴力・言葉の暴力	障害に対する無神経な言葉、言葉の暴力 身体的暴力	106
いじめ	仲間外れ、無視される、避けられる からかわれる、笑われる、物をとられる 陰口を言われる	95
拒否	予約・申し込みなどの拒否 入店拒否 入園、一時保育などを拒否	50
話し方	詳しい説明をしてもらえない 子どもに話すように話す	13
その他	上記以外の差別など 差別にあたらぬ、意見、不安など 分類不明 回答拒否	120

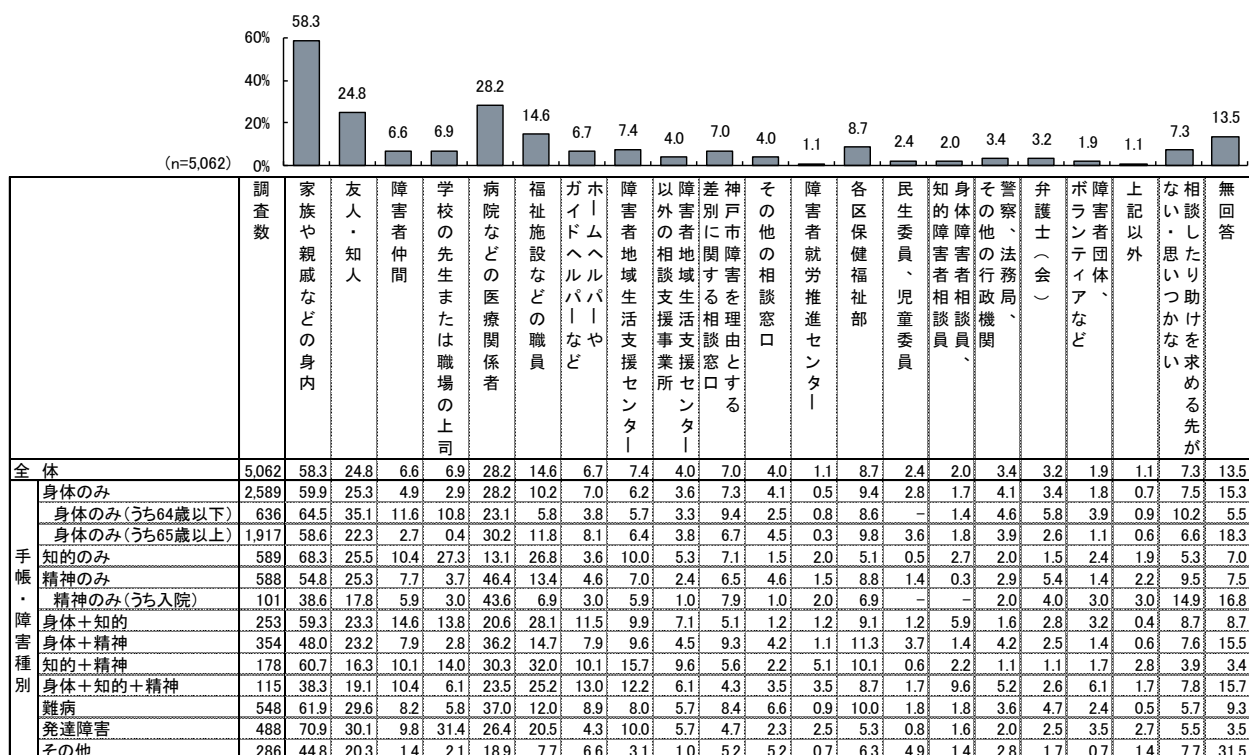
③ 差別や偏見を受けた場合の相談先

●問 33(4) 日常生活での悩みや困ったことがあった場合や、差別・偏見を受けた場合に誰(どこ)に相談したり助けを求めようと考えておられますか。(複数回答(4つまで))

悩み・困りごとや差別・偏見に関する相談先をみると、「家族や親戚などの身内」が最も高く、58.3%、次いで「病院などの医療関係者」28.2%、「友人・知人」24.8%となっています。

障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「精神のみ」では「病院などの医療関係者」が半数弱と高くなっています。

図表 72 悩み・困りごとや差別・偏見に関する相談先(4つまで)



上記以外 (1.1%)

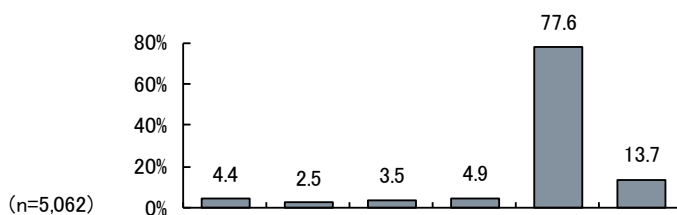
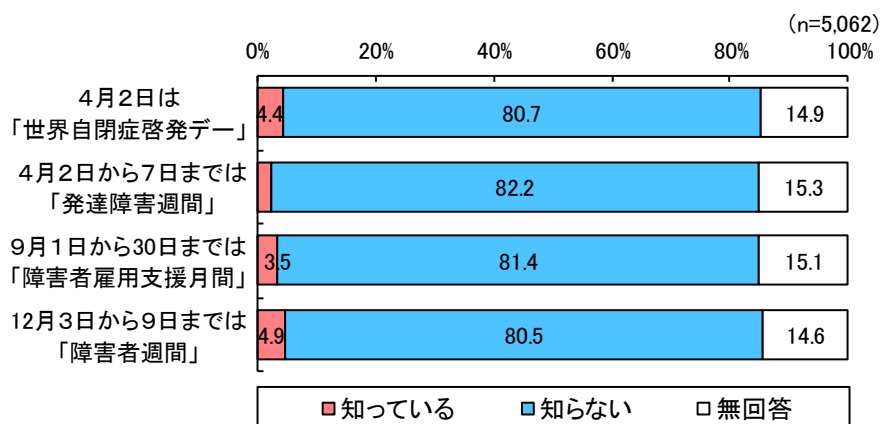
主な回答内容	件数
ケアマネージャー	8
成年後見人	8
心理カウンセラー	4
理解と協力が期待できる相手	3
発達障害者支援センター	3

④ 障害に関する記念日等の認知

●問 34 あなたは以下（「世界自閉症啓発デー」「発達障害週間」「障害者雇用支援月間」「障害者週間」）について知っていますか。

障害に関する記念日等の認知では、それぞれ8割以上の方が「知らない」と回答しています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 73 障害に関する記念日等の認知(SA)



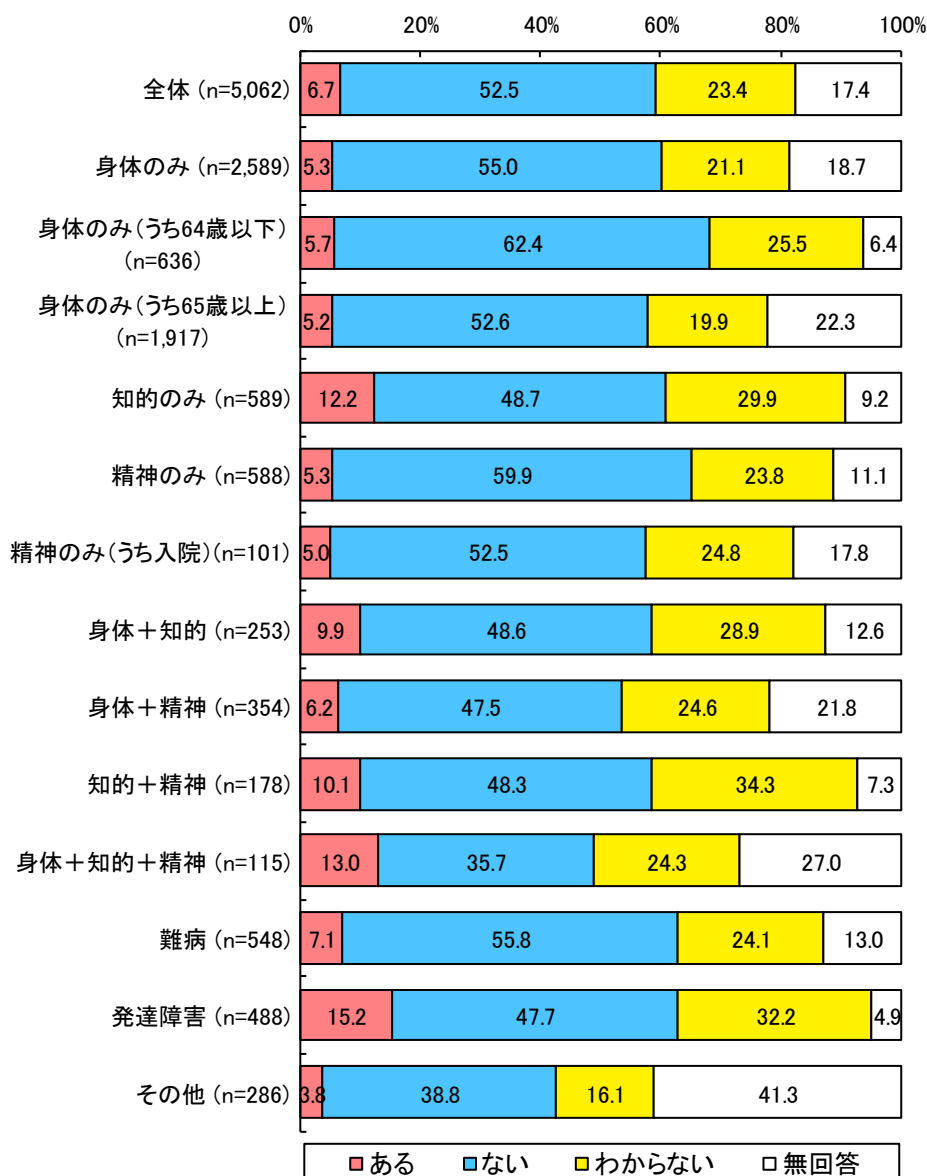
	調査数	「4月2日は「世界自閉症啓発デー」」	「4月2日から7日までは「発達障害週間」」	「9月1日から30日までは「障害者雇用支援月間」」	「12月3日から9日までは「障害者週間」」	知っているものはない	無回答	
全体	5,062	4.4	2.5	3.5	4.9	77.6	13.7	
手帳・障害種別	身体のみ	2,589	2.3	1.8	3.4	4.8	78.3	14.8
	身体のみ(うち64歳以下)	636	5.0	3.6	7.4	9.9	81.1	4.9
	身体のみ(うち65歳以上)	1,917	1.5	1.3	2.2	3.2	77.6	17.6
	知的のみ	589	11.9	4.9	5.1	6.3	76.6	6.5
	精神のみ	588	4.8	2.0	2.9	2.9	84.5	8.0
	精神のみ(うち入院)	101	2.0	-	2.0	4.0	82.2	11.9
	身体+知的	253	7.9	4.0	4.0	9.1	76.3	8.3
	身体+精神	354	2.0	2.0	3.4	3.7	77.1	17.2
	知的+精神	178	13.5	5.6	6.2	9.0	74.7	6.7
	身体+知的+精神	115	3.5	3.5	5.2	7.0	67.8	23.5
	難病	548	2.4	2.6	3.8	4.2	82.8	10.4
	発達障害	488	18.0	8.6	6.4	7.4	73.0	3.9
	その他	286	2.1	1.0	1.0	2.4	62.2	34.3

⑤ 神戸市主催の啓発事業等への参加経験・希望

●問 35 (1) 神戸市では、市民向け講演会の開催や印刷物の発行・配布など、各種市民啓発事業を行っています。今まで、啓発事業に参加されたり印刷物を手に取られるなどされたことはありますか。

市民啓発事業の参加経験をみると、参加経験が「ある」人は6.7%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 74 市民啓発事業の参加経験(SA)



●問 35 (2) 問 35 (1) で「1. ある」と答えた方にお聞きします。それはどんな事業ですか。

参加したことがある啓発事業としては、「団体などのイベント」、「講演会」が多く、手に取ったことがある印刷物については「講演会、コンサートなどの広報案内」、「市・区民広報」が多くなっています。

参加したことがある啓発事業

主な回答内容	件数 (割合)
団体などのイベント	38 (11.1%)
講演会	31 (9.1%)
市・区の講演会、各種行事	11 (3.2%)

手に取ったことがある印刷物

主な回答内容	件数 (割合)
講演会、コンサートなどの広報案内	31 (9.1%)
市・区民広報	30 (8.8%)
学校からもらう案内	10 (2.9%)

●問 35 (3) 問 35 (1) で「2. ない」と答えた方にお聞きします。今まで、啓発事業に参加されたり印刷物を手に取られたことがない理由は何ですか。

啓発事業に参加したことがない、印刷物を手に取られたことがない理由として、「知る機会がなかったから (初めて知った)」、「あまり興味・関心がない」が多くなっています。

主な回答内容	件数 (割合)
知る・目にする機会がなかったから (初めて知った)	570 (21.5%)
あまり興味・関心がない	186 (7.0%)
内容がよくわからない	123 (4.6%)
啓発事業を知らなかった、どこに印刷物あるのか知らなかった	121 (4.6%)

●問 35 (4) 今後、あなたはどのような啓発事業（講演会・印刷物発行・ウェブサイト掲載など）があれば参加したいですか。

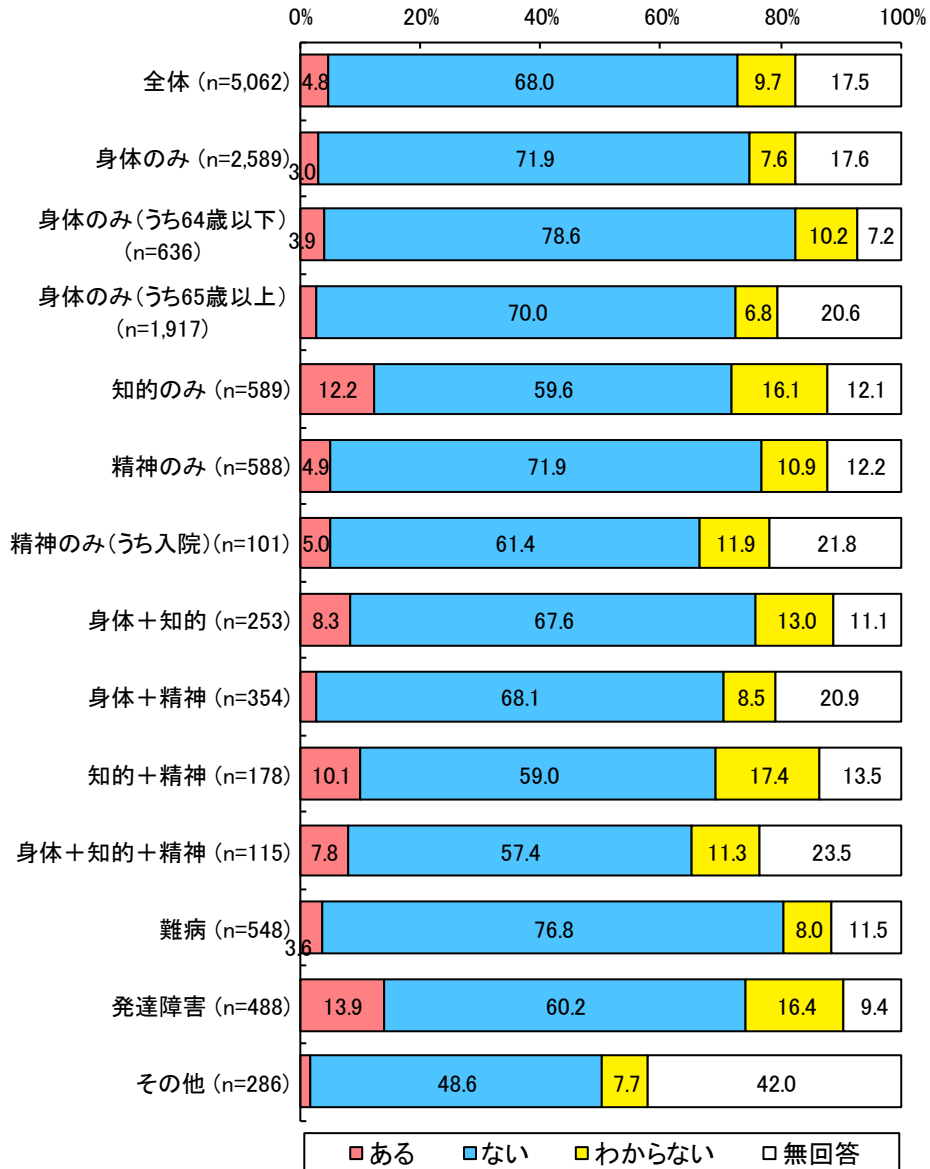
今後参加したい啓発事業としては、「講演会」が最も多くなっています。

主な回答内容	件数	(割合)
講演会に参加したい	181	(3.6%)
ウェブサイト、SNS	36	(0.7%)
印刷物発行（チラシ・ポスター）	33	(0.7%)
スポーツ、健康・医療に参加したい	28	(0.6%)
参加したい（機会があれば、可能な範囲で）	22	(0.4%)
進学、就労、キャリア形成について	14	(0.3%)
セミナーや交流に参加したい	11	(0.2%)
自分の障害への理解や、障害との付き合い方について知れる場	6	(0.1%)
コンサート、観劇、映画会など	6	(0.1%)
ボランティア活動	3	(0.1%)
発達障害のある子の育児・進路相談・交流の場	3	(0.1%)
グループホーム関係	2	(0.0%)
ピアサポート	2	(0.0%)
内容による	9	(0.2%)
必要と思うようになれば参加する	2	(0.0%)
参加したくない、必要ない	167	(3.3%)
参加できない	35	(0.7%)

●問 36 (1) 神戸市が主催している、障害者福祉関係のセミナーや研修会に参加されたことがありますか。

神戸市主催セミナー・研修会の参加経験をみると、参加経験が「ある」人は4.8%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

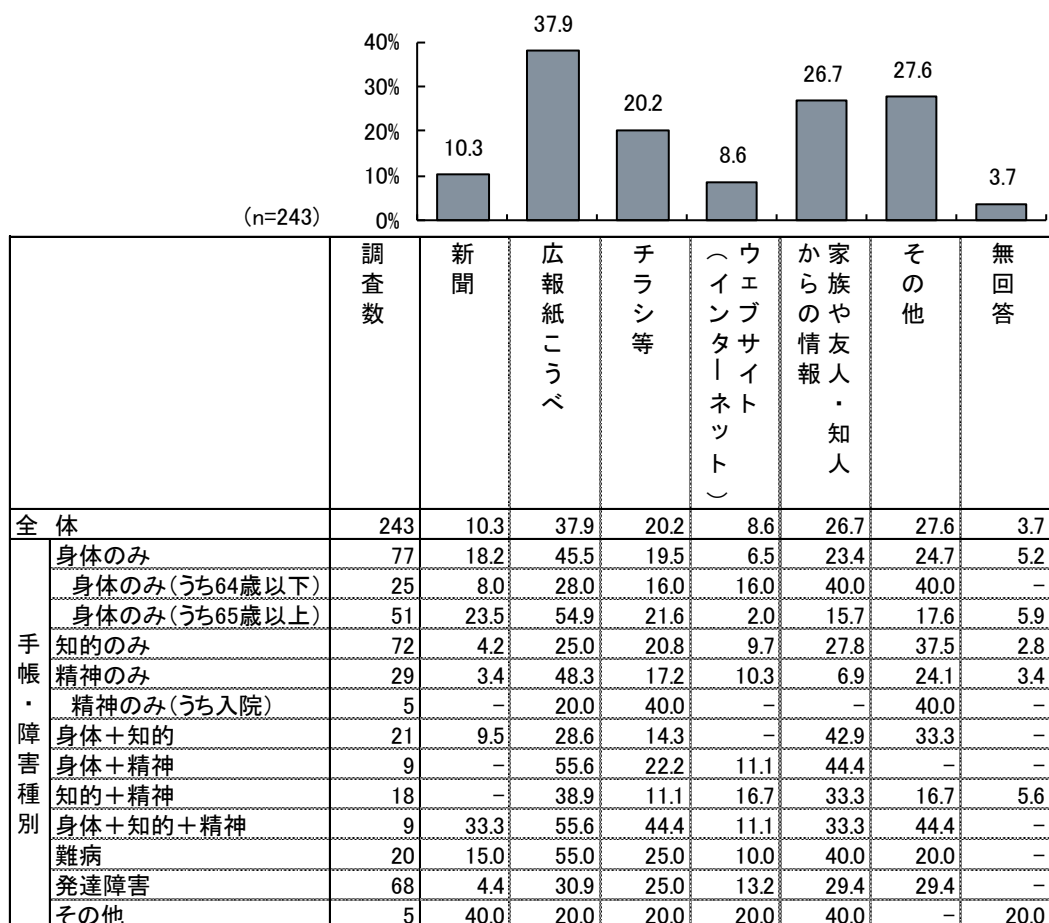
図表 75 神戸市主催セミナー・研修会の参加経験(SA)



●問 36 (2) 問 36 (1) で「1. ある」と答えた方にお聞きします。そのセミナーや研修会は、何を見て知りましたか。(複数回答)

セミナー・研修会への参加経験がある人の認知経路をみると、「広報紙こうべ」が 37.9%と最も高く、次いで「家族や友人・知人からの情報」26.7%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 76 セミナー・研修会の認知経路(MA)



チラシ等の設置場所 (20.2%)

主な回答内容	件数
市役所、区役所	7
学校	5
福祉関係の施設	3
病院	3

その他 (27.6%)

主な回答内容	件数
学校からのお知らせ	26
所属団体などからのお知らせ	17
職場からの紹介など	8
ハローワーク	4
地域活動支援センターからのお知らせ	2

●問 36 (3) 問 36 (1) で「2. ない」と答えた方にお聞きします。神戸市が主催するセミナーや研修会に参加されたことがない理由は何ですか。

神戸市が主催するセミナーや研修会に参加されたことがない理由として、「セミナーや研修会があることを知らなかった」、「あまり興味・関心がない」、「人と会うのが苦手、参加したくない、外出できない・したくない」が多くなっています。

主な回答内容	件数	(割合)
セミナーや研修会があることを知らなかった	762	(22.1%)
あまり興味・関心がない	160	(4.6%)
人と会うのが苦手、参加したくない、外出できない・したくない	160	(4.6%)
必要がない	121	(3.5%)
内容がよくわからない	118	(3.4%)

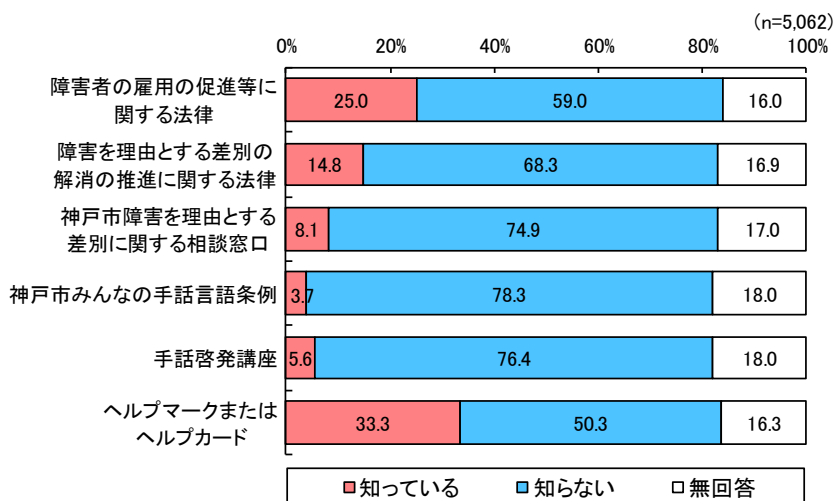
⑥ 差別・理解に関する法制度等の認知度

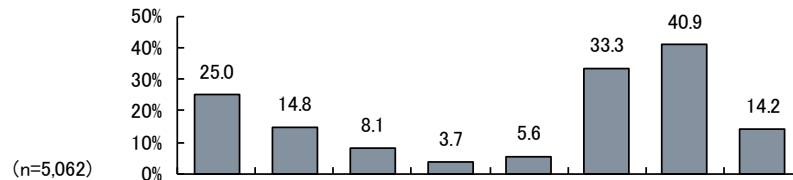
●問 37 (1) あなたは以下（障害者雇用促進法、障害者差別解消法、神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口、神戸市みんなの手話言語条例、手話啓発講座、ヘルプマーク・ヘルプカード）について知っていますか。

差別・理解に関する法制度等の認知をみると、それぞれ半数以上の方が「知らない」と回答していますが、「ヘルプマークまたはヘルプカード」では 33.3%、「障害者の雇用の促進等に関する法律」では 25.0%、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」では 14.8%が「知っている」と回答しています。

障害別では、「精神のみ（うち入院）」では「知っているものはない」が6割強と特に高くなっています。

図表 77 差別・理解に関する法令・窓口等の認知(SA)



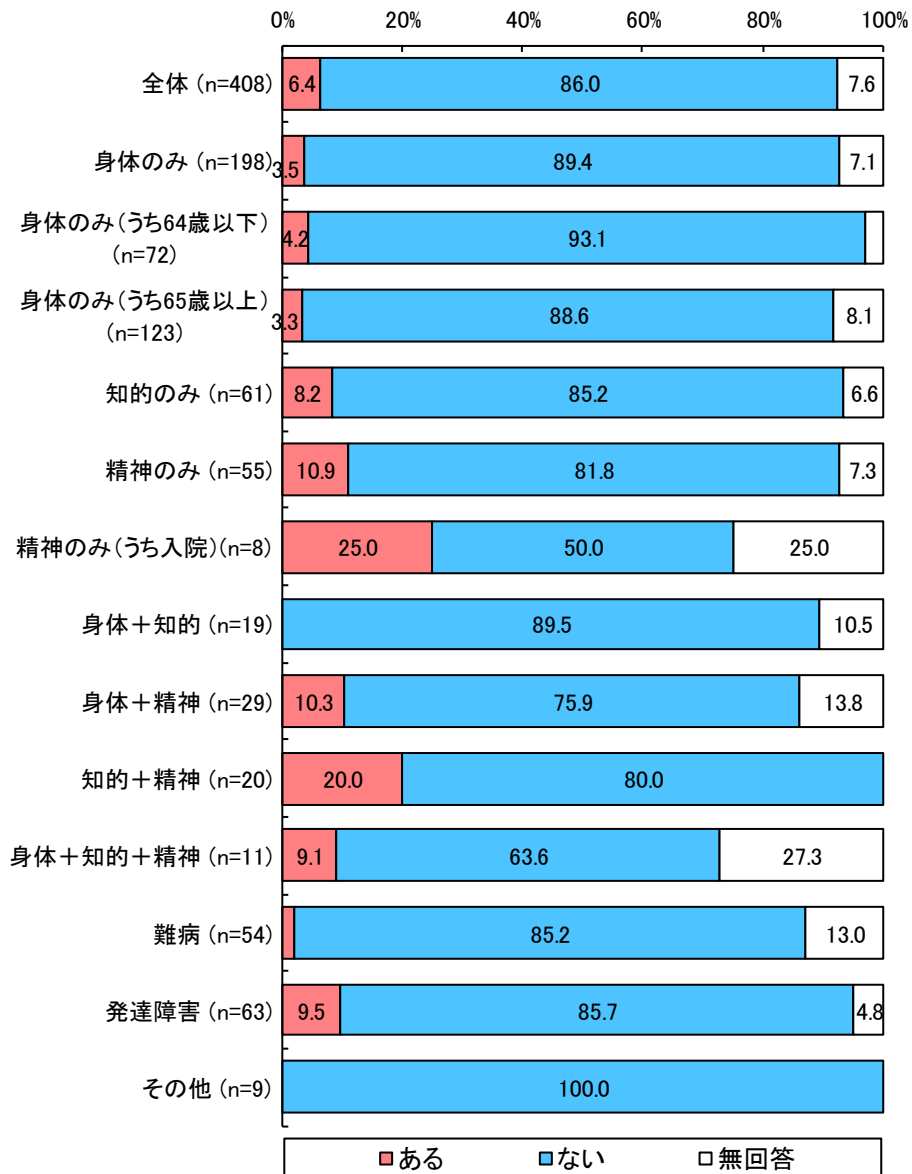


		調査数	法律促進等に關するの	障害者の雇用するの	差別の解消の法律の推進	障害を理由とする差別を相対する窓口に	神戸市障害を	神戸市みなの手話言語条例	手話啓発講座	ヘルプマーク	ヘルプマーク	知らないもの	無回答
全体		5,062	25.0	14.8	8.1	3.7	5.6	33.3	40.9	14.2			
手帳・障害種別	身体のみ	2,589	26.3	13.6	7.6	4.5	6.5	30.6	40.9	15.1			
	身体のみ(うち64歳以下)	636	45.3	26.4	11.3	9.3	10.4	49.4	29.6	4.6			
	身体のみ(うち65歳以上)	1,917	20.3	9.5	6.4	3.0	5.3	24.5	44.7	18.3			
	知的のみ	589	26.0	20.5	10.4	3.1	4.6	43.8	41.9	7.1			
	精神のみ	588	28.6	17.2	9.4	2.4	4.8	33.5	44.4	7.3			
	精神のみ(うち入院)	101	11.9	6.9	7.9	1.0	5.0	10.9	64.4	14.9			
	身体+知的	253	28.9	20.6	7.5	2.8	5.1	55.7	29.2	8.3			
	身体+精神	354	20.3	11.6	8.2	2.5	4.0	29.4	42.7	17.8			
	知的+精神	178	23.6	21.9	11.2	1.7	6.2	50.0	36.0	5.6			
	身体+知的+精神	115	16.5	10.4	9.6	7.0	7.8	23.5	47.8	20.9			
	難病	548	30.7	17.9	9.9	4.0	6.2	40.7	37.2	9.7			
	発達障害	488	34.2	26.6	12.9	4.1	5.7	57.0	31.1	4.1			
	その他	286	11.2	5.9	3.1	2.4	2.8	11.5	40.6	40.2			

●問 37 (2) あなたは、神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口にご相談したことがありますか。

「神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口」を知っている人の相談経験をみると、相談経験が「ある」人は6.4%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

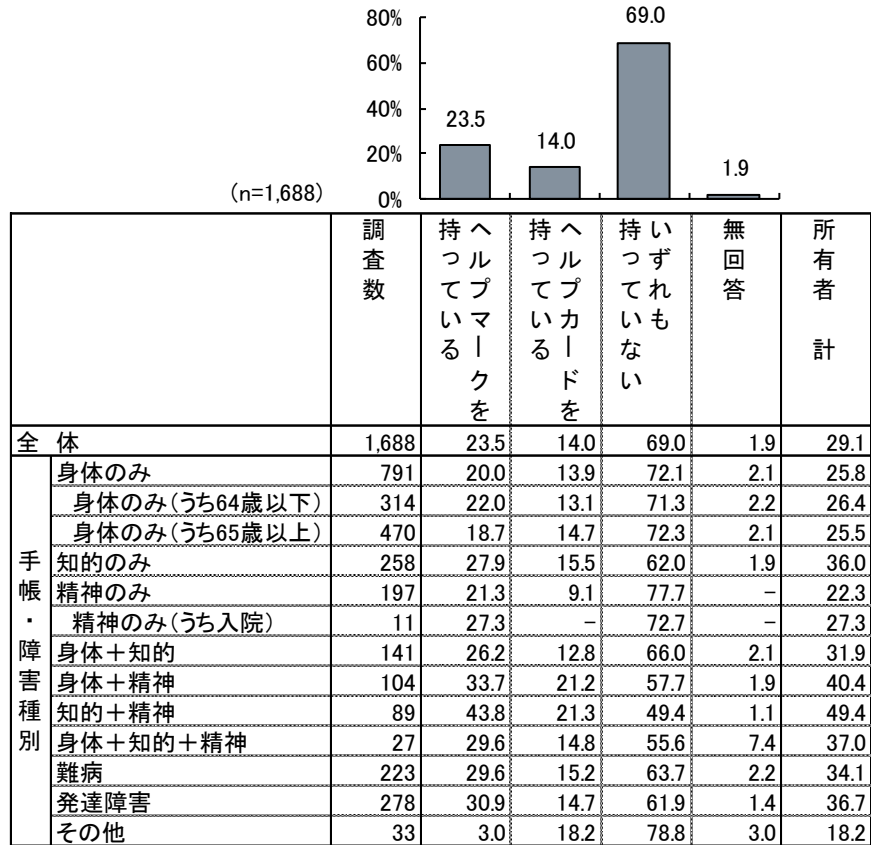
図表 78 神戸市障害を理由とする差別に関する相談窓口での相談経験(SA)



●問 37 (3) あなたは、ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。(複数回答)

「ヘルプマークまたはヘルプカード」を知っている人の所有状況を見ると、いずれかを持っている人は 29.1%となっています。障害別では、ヘルプマークまたはヘルプカードを持っている人の割合は「身体+精神」、「知的+精神」で4割～約5割と高くなっています。

図表 79 ヘルプマーク・ヘルプカードの所有状況(MA)



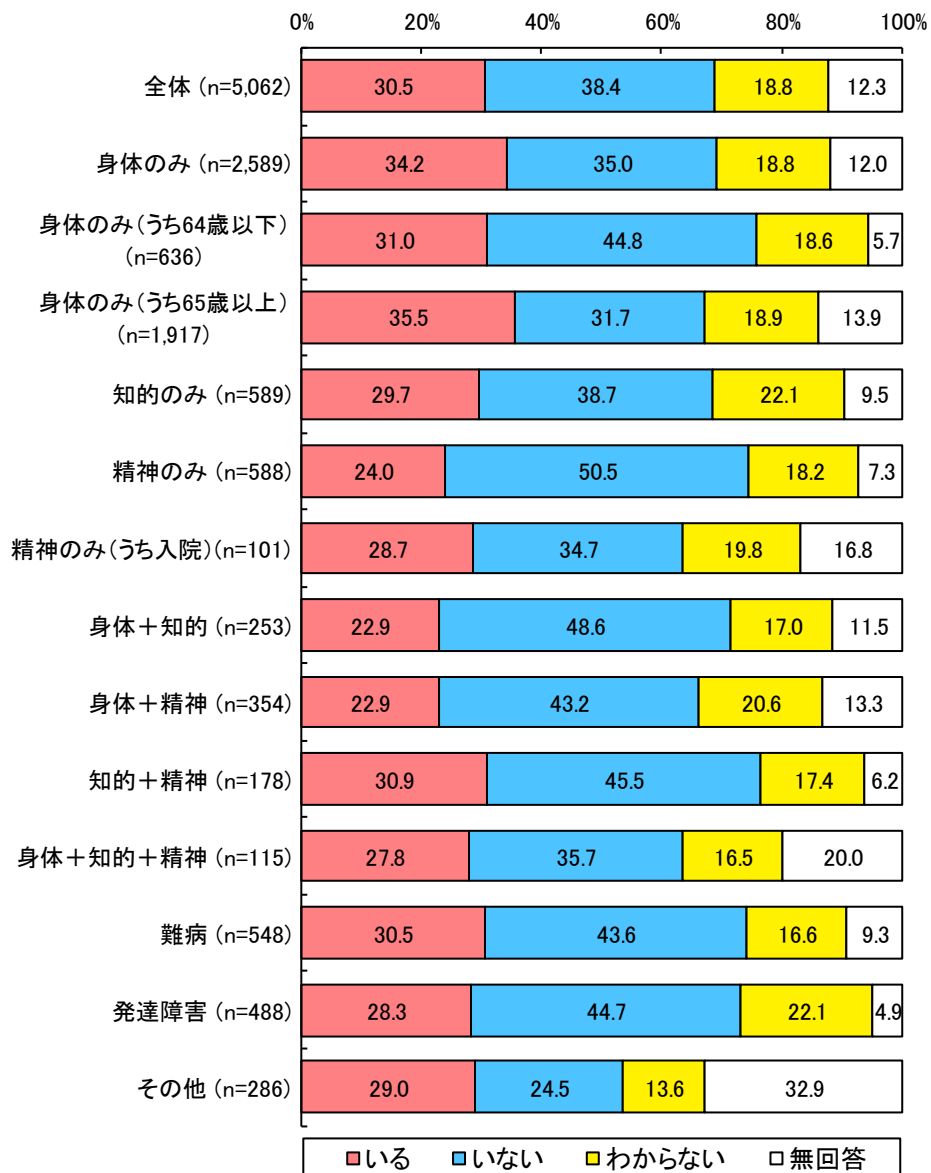
(11) 災害時の状況

① 災害時・緊急時の支援者

●問 38 (1) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

家族が不在や一人暮らしの時に助けてくれる人の有無をみると、「いる」人は30.5%となっています。障害別では、「いない」人の割合は「精神のみ」で5割と特に高くなっています。

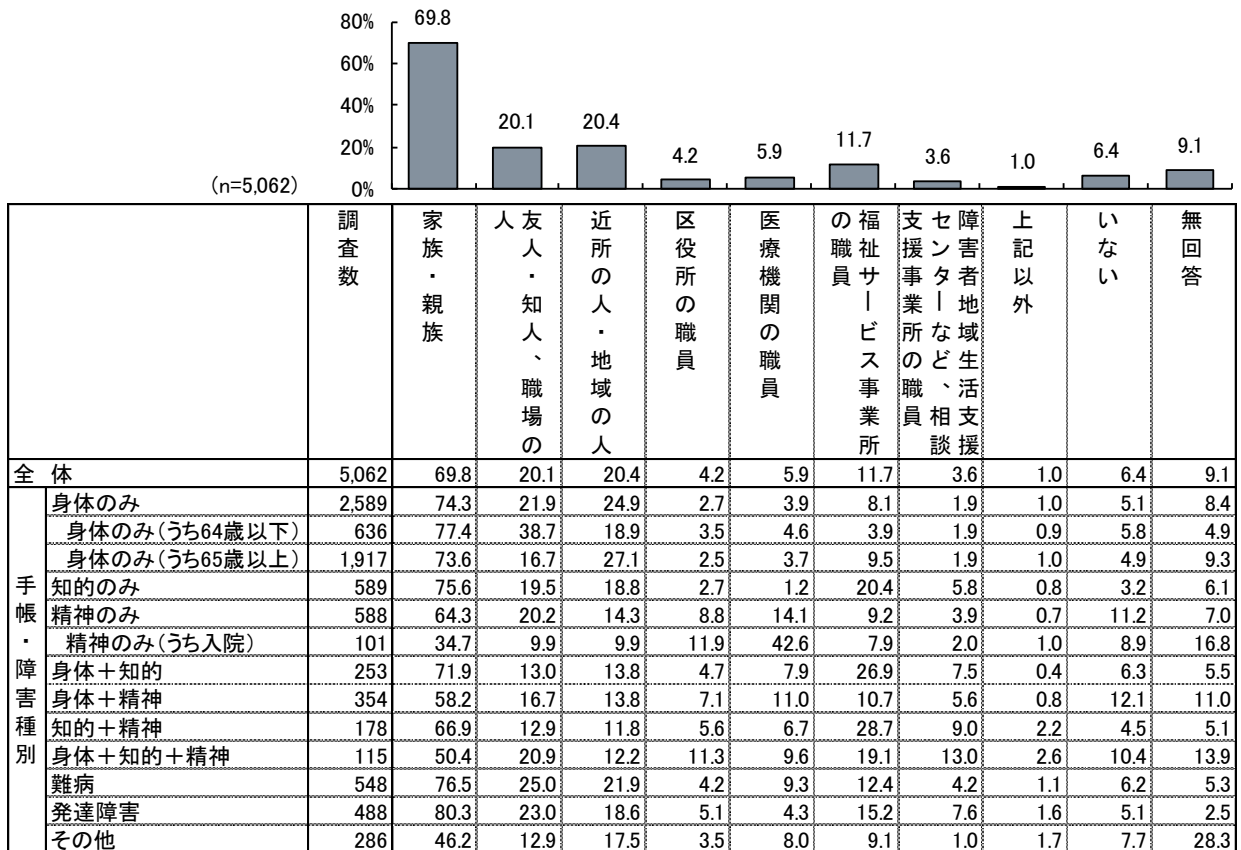
図表 80 家族が不在や一人暮らしの時に助けてくれる人の有無(SA)



●問 38(2) 現在、あなたが災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手は誰ですか。
(複数回答)

緊急時に協力を求めることができる相手を見ると、「家族・親族」が最も高く 69.8%、次いで「近所の人・地域の人」20.4%、「友人・知人、職場の人」20.1%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「精神のみ（うち入院）」では「医療機関の職員」が 42.6%と高くなっています。

図表 81 緊急時に協力を求めることができる相手(MA)



上記以外 (1.0%)

主な回答内容	件数
ケアマネジャー	7
民生委員	5
マンション管理人	5
警備会社	4
学校の先生	3

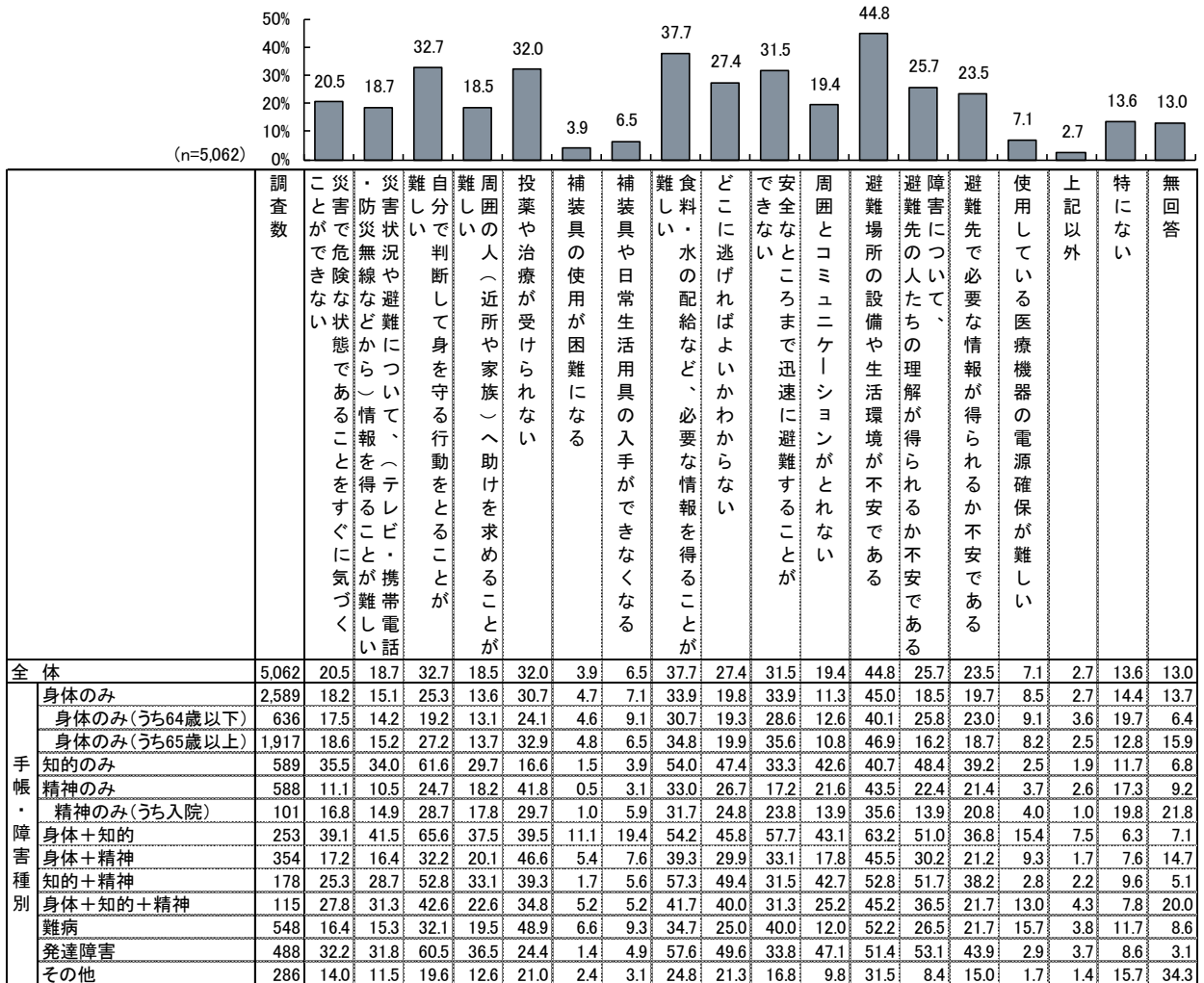
② 災害時に困ること

●問 38 (3) あなたが台風や地震などの災害時に困ることは何ですか。(複数回答)

災害時に困ることをみると、「避難場所の設備や生活環境が不安である」が最も高く 44.8%、次いで「食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい」37.7%となっています。

障害別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「発達障害」では「自分で判断して身を守る行動をとることが難しい」が5割強～7割弱、「身体+知的」ではさらに「避難場所の設備や生活環境が不安である」が6割強と、特に高くなっています。

図表 82 災害時に困ること(MA)



上記以外 (2.7%)

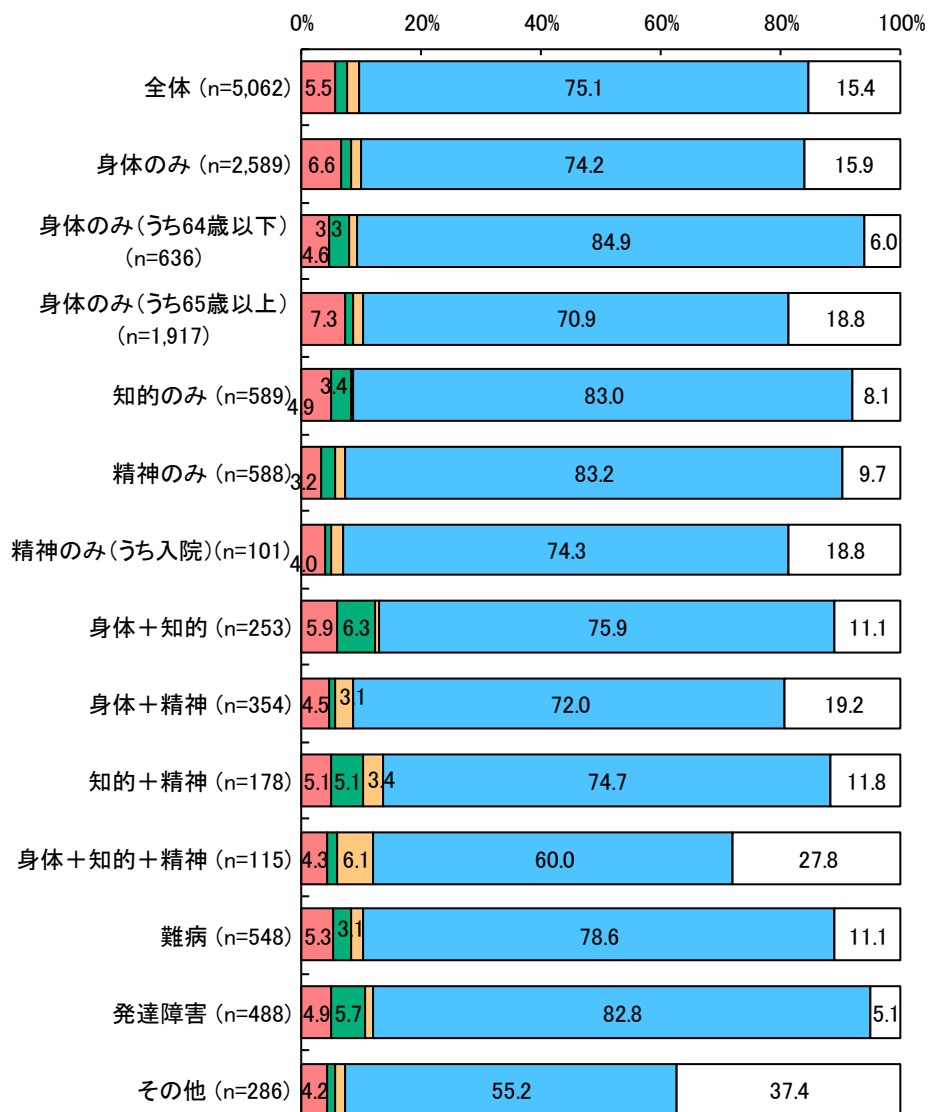
主な回答内容	件数
家族と一緒にいない時、一人では行動できない	21
避難所で障害への配慮をしてもらえないか不安(食事、水、支援・介助、臭い、車椅子、温度調節、特別な補助機器などの持ち込み、静かな場所など)	12
ペットがいる	8
知らない人が多い所が苦手、対人に不安	5
重度障害なのでそもそも避難生活はできない	4

③ 福祉避難所の認知度

●問 39 あなたは福祉避難所についてご存知ですか。

福祉避難所の認知をみると、「どうしてもに利用できるかも、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らない」は 75.1%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 83 福祉避難所の認知(SA)



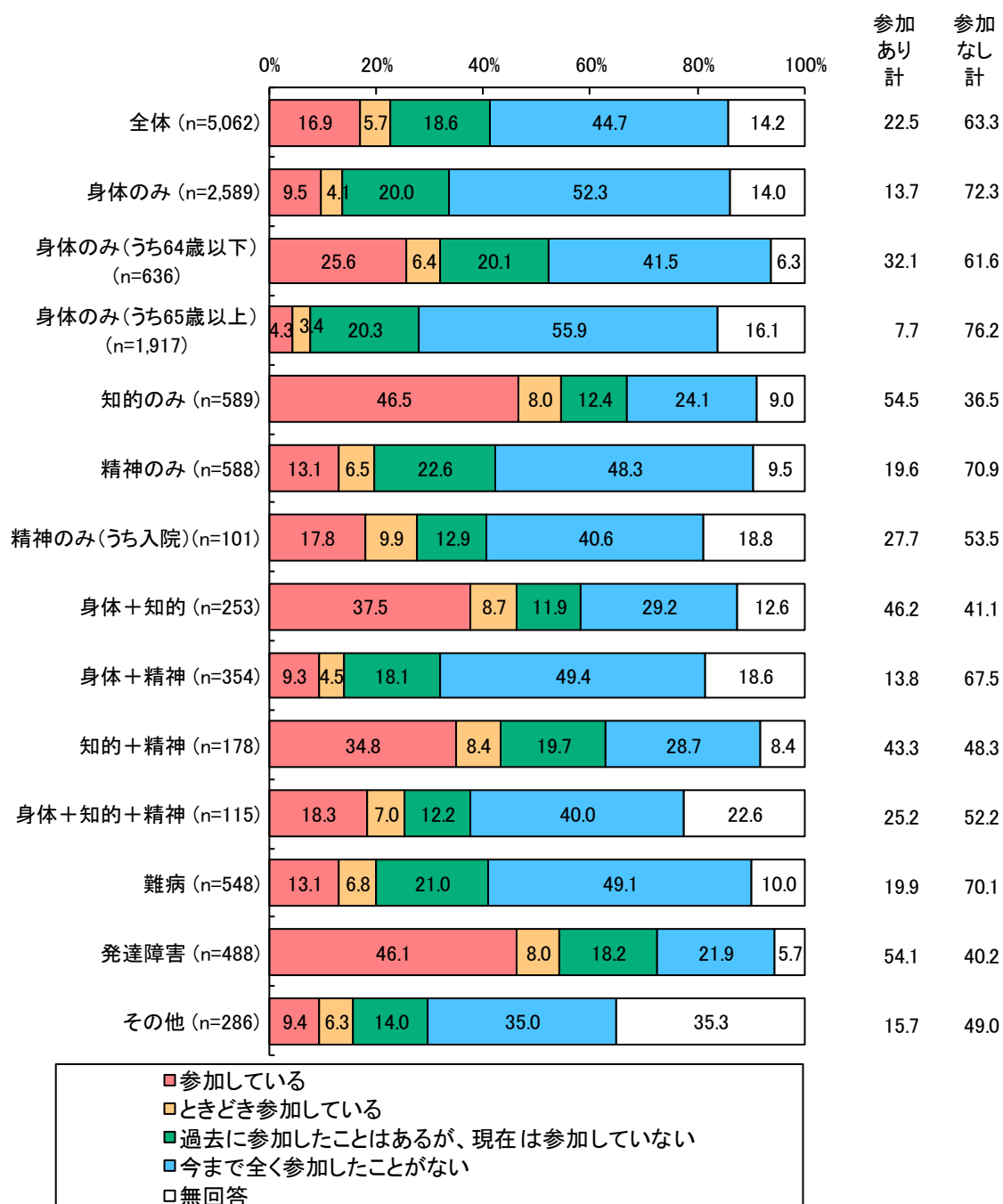
- どういうときに利用でき、自分が住んでいる地域のどこにあるか知っている
- どういうときに利用できるかは知っているが、自分が住んでいる地域のどこにあるかは知らない
- どういうときに利用できるかは知らないが、自分が住んでいる地域のどこにあるかは知っている
- どういうときに利用できるかも、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らない
- 無回答

④ 防災訓練への参加状況

●問 40 (1) 現在、あなたは地域や施設、職場、学校などでの防災訓練に参加していますか。

防災訓練の参加状況を見ると、参加あり（「参加している」「ときどき参加している」の計）は22.5%となっています。障害別では、「知的のみ」、「発達障害」では参加ありが半数強となっています。

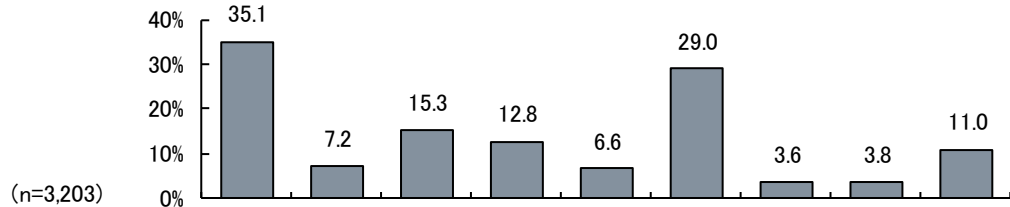
図表 84 防災訓練の参加状況(SA)



●問 40 (2) 防災訓練に参加しない理由は何ですか。(複数回答)

防災訓練の不参加理由をみると、「身体的な理由などで参加が困難である」が最も高く 35.1%、次いで「防災訓練があることを知らない」29.0%となっています。障害別では、「身体的な理由などで参加が困難である」の割合は「身体のみ(うち65歳以上)」、「身体+知的」、「難病」で4割～4割強と比較的高くなっています。

図表 85 防災訓練の不参加理由(MA)



	調査数	身体的な理由などで参加が困難である	ある参加しづらい雰囲気	日時の都合が合わない	だ面倒くさい、おっくう	防災訓練が実施されていない	知らない	声をかけてもらえない	防災訓練があることは知っているが、	その他	無回答
全体	3,203	35.1	7.2	15.3	12.8	6.6	29.0	3.6	3.8	3.8	11.0
手帳・障害種別	身体のみ	1,872	42.7	4.6	14.6	10.0	5.5	27.0	3.6	3.2	10.3
	身体のみ(うち64歳以下)	392	27.8	8.9	23.7	12.0	8.2	32.4	2.8	4.1	6.4
	身体のみ(うち65歳以上)	1,461	46.9	3.5	12.3	9.4	4.9	25.5	3.9	2.9	11.2
	知的のみ	215	8.8	13.5	20.5	14.0	7.9	33.5	3.3	5.6	14.4
	精神のみ	417	18.2	12.9	14.1	25.7	9.1	37.6	2.4	4.8	8.4
	精神のみ(うち入院)	54	18.5	14.8	9.3	24.1	9.3	24.1	5.6	7.4	16.7
	身体+知的	104	41.3	5.8	17.3	6.7	5.8	29.8	1.9	5.8	12.5
	身体+精神	239	37.7	8.4	17.2	10.5	8.8	28.9	4.2	3.8	13.4
	知的+精神	86	15.1	12.8	12.8	19.8	11.6	33.7	8.1	4.7	11.6
	身体+知的+精神	60	33.3	15.0	15.0	8.3	3.3	26.7	6.7	13.3	16.7
	難病	384	41.7	5.7	18.8	11.5	6.0	28.1	3.1	3.9	7.8
	発達障害	196	13.8	14.3	20.9	17.9	9.2	35.7	3.1	6.1	12.2
	その他	140	40.0	5.7	10.0	11.4	7.1	20.0	5.0	0.7	15.7

その他 (3.8%)

主な回答内容	件数
特に機会がなかった	11
引越・転居して間もないため	6
退職したため	6
学校では以前参加していた	5
職場を退職したため	4

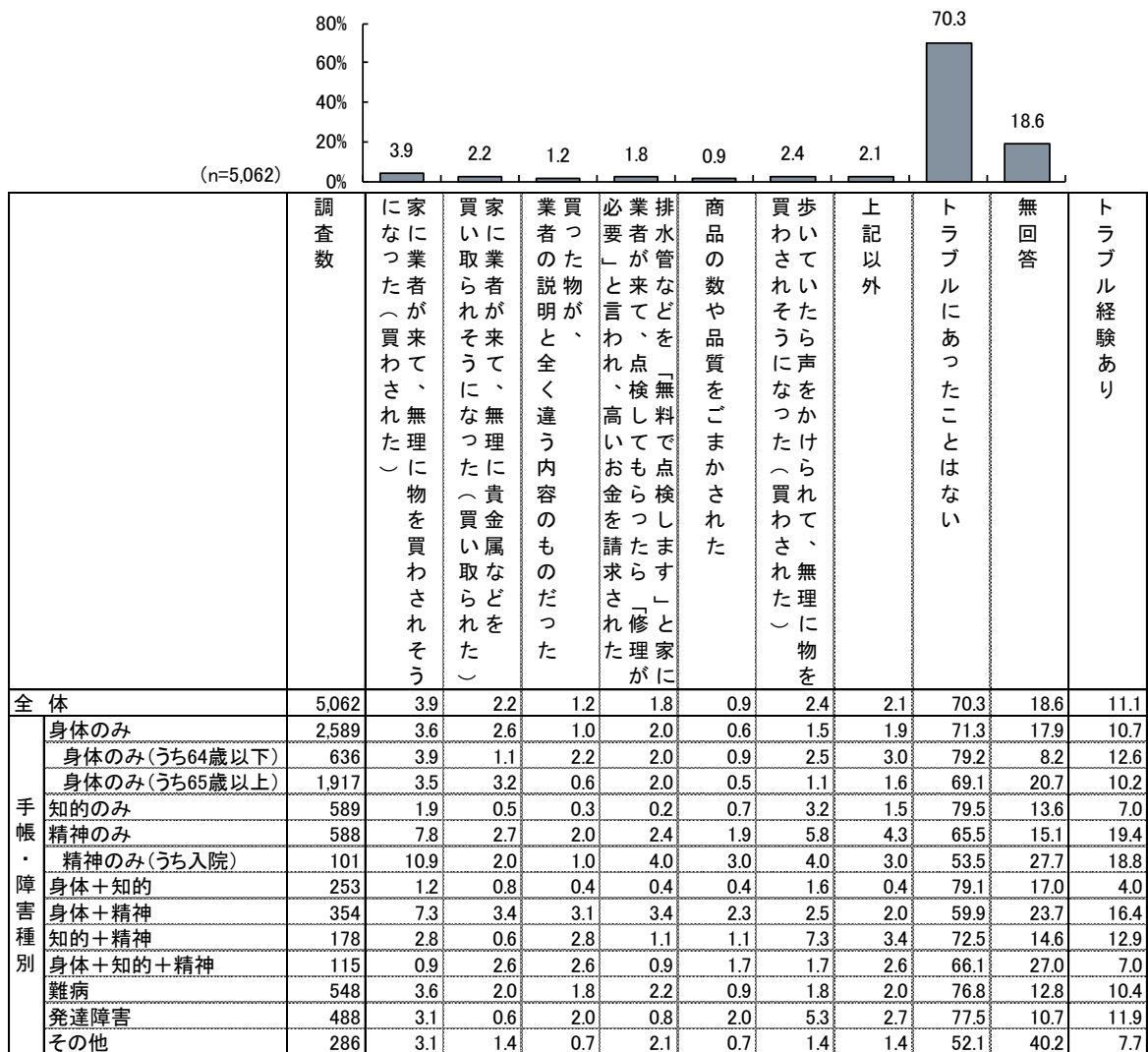
(12) 消費生活

① 買い物やサービスでのトラブル経験

●問 41 あなたは、買い物やサービスを受けたときなどに、何かトラブルにあったことはありますか。(複数回答)

消費生活に関するトラブル経験をみると、何らかのトラブル経験がある人は 11.1%となっています(全体から「トラブルにあったことはない」「無回答」を除いた割合)。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられます。

図表 86 消費生活に関するトラブル経験(MA)



上記以外 (2.1%)

主な回答内容	件数
さまざまな手口でだまされた、だまされやすい	12
業者などに依頼したら高額請求された	11
インターネットでのトラブル(クレジットカードの情報流出、業者と連絡が取れない、商品が届かない、課金など)	8
宗教勧誘	7
ネット・迷惑メールでの詐欺	6
勧誘電話が多い	6

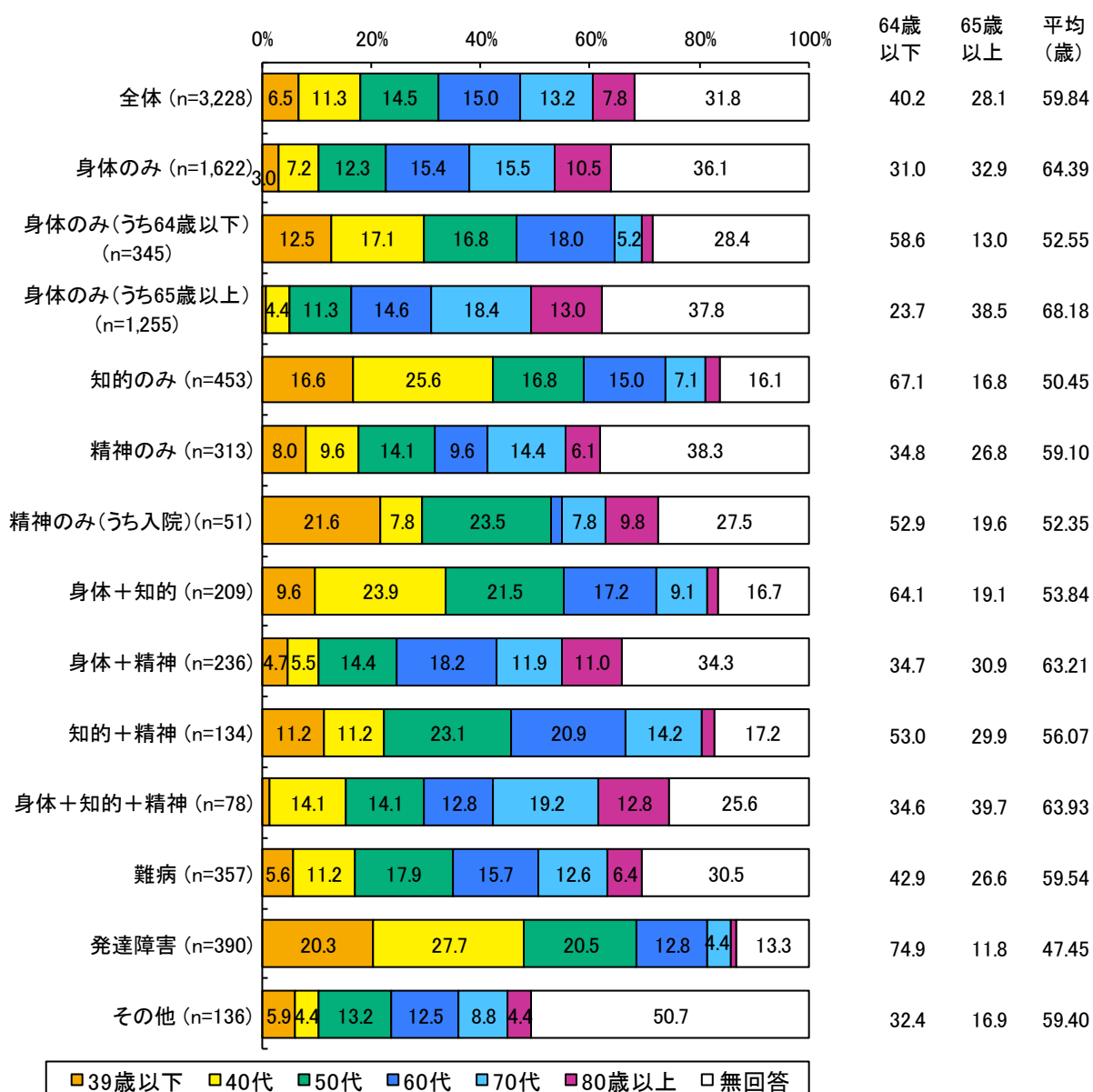
(13) 介助・支援者の状況

① 介助・支援者の年齢

●問 43 (1) 調査対象者を介助・支援している方の年齢は、満何歳ですか。

介助・支援者の年齢をみると、「60代」が15.0%と最も高く、次いで「50代」14.5%、「70代」13.2%となっています。障害別では、介助・支援者が65歳以上の割合は「身体のみ（うち65歳以上）」、「身体+知的+精神」で約4割と高くなっています。

図表 87 介助・支援者の年齢

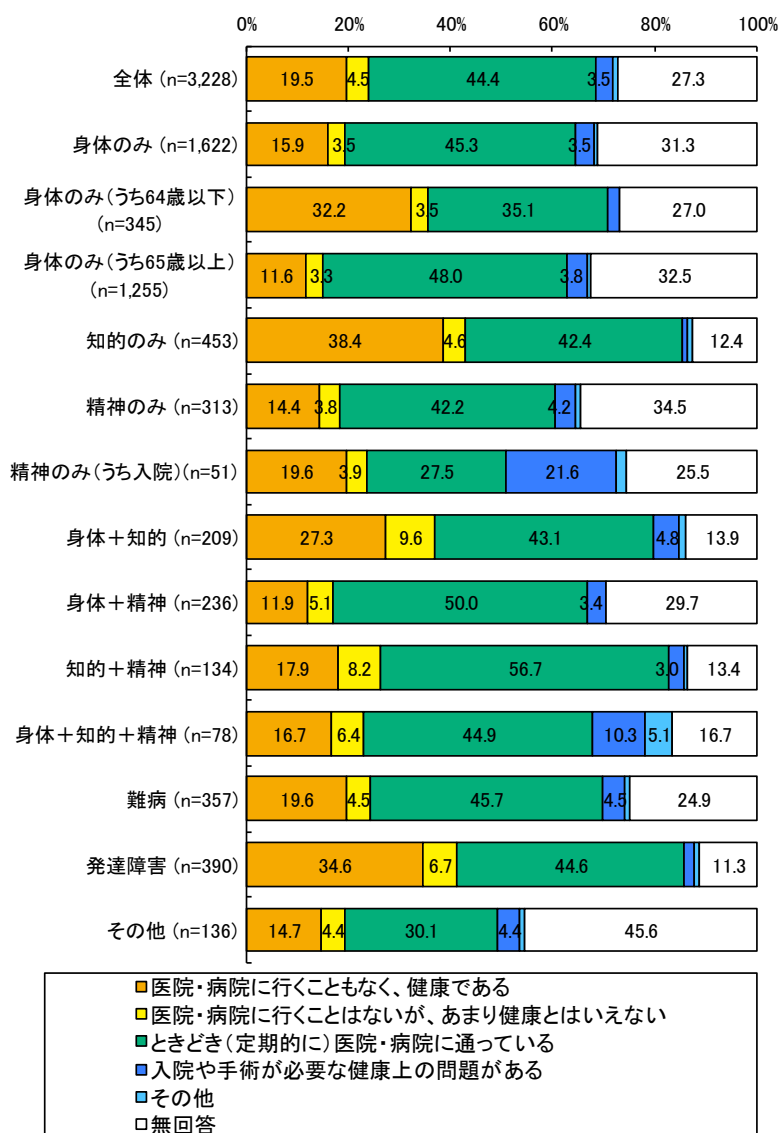


② 介助・支援者の健康状態

●問 43 (2) 調査対象者を介助・支援している方の健康状態はいかがですか。

介助・支援者の健康状態をみると、「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」が最も高く44.4%、次いで「医院・病院に行くこともなく、健康である」19.5%となっています。障害別では、介助・支援者が「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」、「入院や手術が必要な健康上の問題がある」の合計割合は「身体+精神」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」で5割強～約6割と比較的高くなっています。

図表 88 介助・支援者の健康状態(SA)



その他 (0.8%)

主な回答内容	件数
障害がある	3
ほぼ寝たきり	2
精神面の問題・精神疾患	2
糖尿病	2
パーキンソン病	2

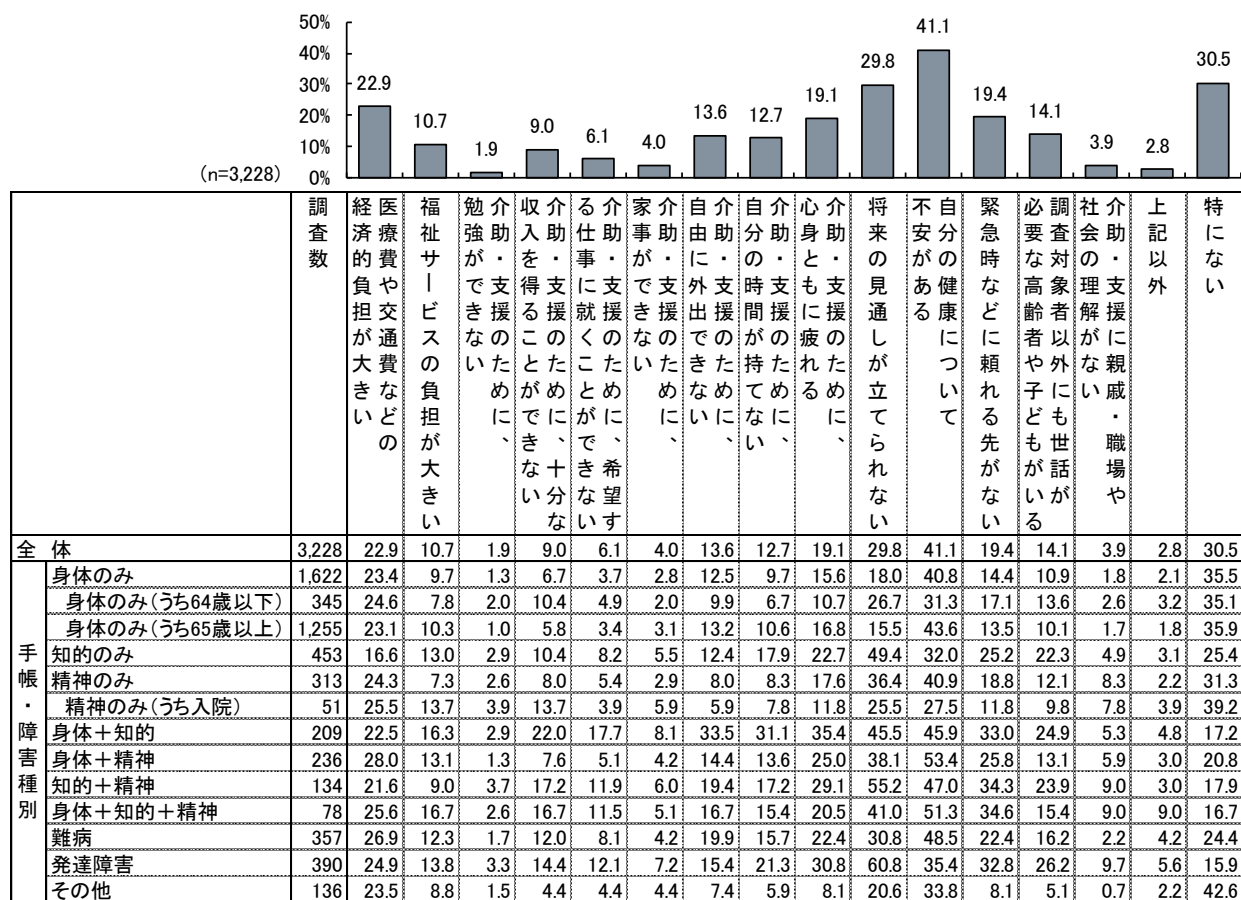
③ 介助・支援に関する困りごと

●問 43 (3) 介助・支援に関して、現在お困りになっていることはありますか。(複数回答)

介助・支援に関する困りごとをみると、「自分の健康について不安がある」が41.1%と最も高く、次いで「将来の見通しが立てられない」29.8%、「医療費や交通費などの経済的負担が大きい」22.9%となっています。

障害別では、「自分の健康について不安がある」の割合は「身体+精神」、「身体+知的+精神」の介助・支援者で5割～5割強、「将来の見通しが立てられない」の割合は「知的+精神」、「発達障害」の介助・支援者で6割弱～6割と高くなっています。

図表 89 介助・支援に関する困りごと(MA)



上記以外 (2.8%)

主な回答内容	件数
福祉サービス(移動、介助など)が使えない	15
介護・介助者が高齢化している	6
いろいろな手続きが難しい	5
ショートステイの受付先(受入れ先)がない	5
介護・介助者の相談先がない	5

(14) 意見・要望

自由意見は延べ 1,297 件の記入がありました。意見の種類としては、今後の生活の不安に関すること、交通マナーの改善に関すること、サービスの充実に関すること、利用できる制度等の情報提供・相談窓口に関すること、就業希望に関すること、災害時の避難情報に関することなどが多くなっています。

図表 90 自由意見集計結果

分類	主な意見内容	件数
障害福祉の制度・サービス	制度・手続き、親なき後の不安など、障害に合わせた支援、サービスの人員不足、障害児支援・医療的ケア児対応、通所型の福祉施設、入所施設、訪問サービス、手帳に関する意見	241
生活の状況	本人の障害の状況、住宅・住環境、生活の支援、見守り、一人暮らしの不安、将来の生活の不安に関する意見	191
交通・環境	移動支援施策（助成制度など）、交通の利便性、交通マナー、バリアフリーに関する意見	164
相談や情報提供	情報提供の充実、相談支援の充実、職員対応、生活における問題の相談に関する意見	156
市民理解、啓発・教育	社会の理解、交流の充実、差別・偏見に関する意見	132
経済的支援、年金	家計負担、年金、税金に関する意見	88
災害	情報提供、避難行動の不安、避難所生活に関する意見	58
労働・雇用	就労支援、仕事の希望、賃金、職場の理解に関する意見	55
介助・支援者への支援	介助・支援者の状況、介助・支援の負担に関する意見	49
医療	診察について、治療について、医療サービス全般に関する意見	42
その他	アンケート調査、アンケート結果公表に関する意見、その他分類不明な内容	121

図表 91 主な自由意見一覧

分類	主な意見内容	件数
障害福祉の 制度・ サービス	親なき後、本人が一人になった時の生活がどうなるのか心配である	73
	放課後等デイサービスに入れたい、受け入れ時間、対象が限られている（軽度・中等度障害者、重心児・医ケア児の受入れに消極的など）	16
	介護保険による支援サービスが限定されている、利用しづらい（ヘルパーの人手不足、料金が高等などの理由で）	12
	グループホームを充実させてほしい	12
	年齢・障害特性・本人希望に合った施設に入りたい	11
	障害者施設や福祉サービス事業者のスタッフを増員してほしい	7
	手帳・証明書をカード、ICカードにしてほしい	6
	自立支援の受給を受ける手続きを簡略化してほしい	4
生活の状況	一人暮らしであるが、家族、兄弟、ヘルパー、相談支援員などの介助・支援がないと生活が難しい	14
	公営・市営住宅に住みたい（抽選に当たらない、車椅子で入居できる、便利な場所、家賃が安い）	12
	補聴器・装具が高額、補助が必要	10
	生活できているが、障害のためあまり外出しない	4
交通・環境	道路や歩道の凸凹、段差、草木などにより歩きづらい、段差などの目印が欲しい	17
	福祉乗車証の対象にしてほしい（福祉バス、タクシーなど）	14
	障害者の駐車場が遠い・少ない、優先的に停められないことがある	12
	バス・鉄道など公共交通の運賃が高い	12
	駅でエレベーターやスロープ・手すりが少ない、エレベーターの場所がわからない	11
	交通機関で視覚障害への配慮が欲しい（案内表示の大きさ、アナウンスの音量、点字ブロック整備）	9
	バリアフリーのトイレが少ない（車椅子、オストメイト、ベッド・手すり付きなど）	9
	歩行者、自転車のマナーが悪い（ながらスマホ、ぶつかり、危険な運転など）	7
相談や 情報提供	受けることができる福祉サービスや、相談窓口がわからない	29
	日常生活などの総合窓口が必要、窓口を一本化してほしい	17
	家族・本人支援のための、カウンセリングや相談ができる窓口を案内してほしい	14
	区役所の対応が不親切	14
	高齢者・障害者は情報を本人で得ることは困難である、わかりやすくしてほしい	10
	必要なサービスなどの情報についてはがき・電話などで知らせてほしい、もっと情報発信してほしい	10
	障害に合った支援サービスや手当などの情報が受けられない	9
	区役所の窓口において十分な知識を持った人に担当していただきたい	6
市民理解、 啓発・教育	学校、社会での障害者への理解が進んでほしい	32
	障害者同士のサークル、啓発イベントなどを通じた交流の場が欲しい	14
	ヘルプマークがあまり知られていない、配布されていない	13
	さまざまな余暇活動、サークル、スポーツチームがあってほしい	5
	進学するにあたり、学習（自宅）サポートを受けたい	5
経済的 支援、年金	生活、家計が苦しい	22
	医療費、税金が高すぎる、負担が大きい	21
	障害年金だけでは生活が苦しい	18
	障害年金の申請が却下となり受給できない、理由がわからない	12
	障害者を持つ親は、仕事が制限されて収入が少なく、生活が不安定となる	4
災害	障害者のための避難情報を知らせてほしい	13
	災害緊急時、耳が聞こえないから不安である	9
	福祉避難所について詳しく知りたい	8
	避難所での人目が気になる、差別・偏見が不安	5
	避難場所に行くことができない（高齢、足が悪いため）	4
	災害時に本人が一人である場合の避難が不安である	4
	医療機器を使用しているので、非常時の電源確保の体制・情報周知、介助・支援者が必要	3
労働・雇用	障害者雇用の賃金・待遇を改善してほしい	10
	障害者を雇う一般企業が少ない、増えてほしい	9
	特別支援学校でも就業に結びつく資格や技能、コミュニケーション能力の取得ができるようにしてほしい	7
	就労できるか、職場で理解が得られるかなど、不安が多い	6
	就労の窓口、就労支援サイト、ハローワークの充実が必要	3
	正社員の雇用枠を増やしてほしい	3

分類	主な意見内容	件数
介助・ 支援者への 支援	親（家族）の負担が多いため、ヘルパー、ショートステイ、病児保育の充実があると助かる	25
	自分（介助者）が入院・病気・高齢となった際の子どものサポート及び他の兄弟を預かってくれる先がない	10
	老々介護への対応が必要	8
	介助・支援者が一息つける場、情報交換できる場を充実させてほしい	4
医療	もっと病院を増やしてほしい	5
	自立支援医療など使えるサービスについてわかりづらい	4
	認定や申請・更新時の医師の診断書取得の負担と手間がかかる（料金、病院へ依頼・移動など）	4
	難聴に配慮した対応、付き添いなどがあるとよい	3
	専門医師、看護師を増員してほしい	3
その他	アンケートの質問が多い	26
	アンケート結果を公表または生かしてほしい	20
	アンケート質問がわかりにくい、難しい	16
	アンケート不要	16
	このアンケートを見て初めていろんな制度やサービス、事業所、窓口があることを知った	5
	アンケートでいろんなことに気づかされた、知れた、今後の啓発に役立てたい	4

3 前回調査との比較結果

(1) 今回・前回調査の比較項目

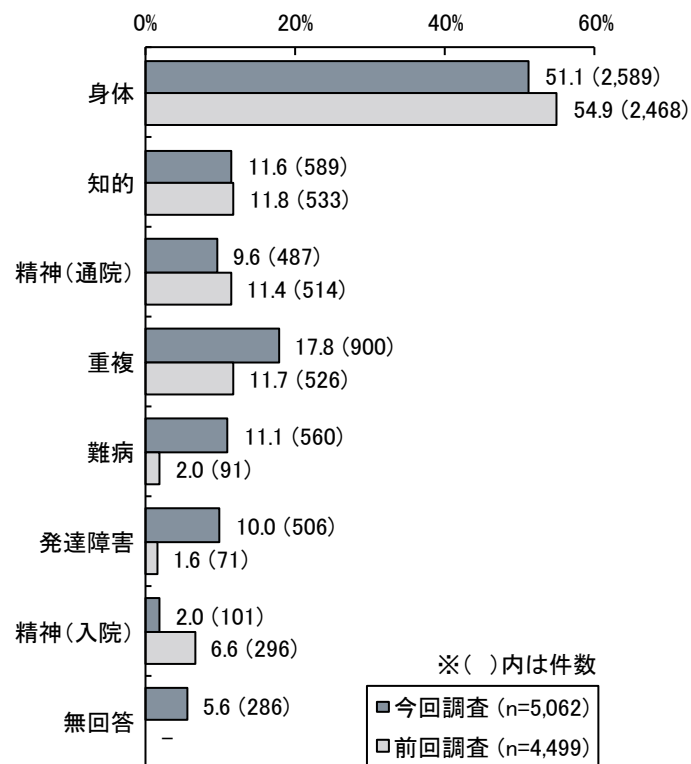
今回調査、前回調査（平成 27 年度）で共通する以下の設問において、回答傾向にどのような変化がみられるか比較を行いました。なお、今回と前回とで選択肢が異なる設問も含まれます。

図表 92 前回調査比較を行う設問一覧

設問番号	設問項目
問 2	居住区
問 3	年齢
問 4	性別
問 5	同居者
問 6	健康状態
問 7(1)	介助者・支援の状況
問 7(2)	日常生活の各行動における介助・支援の必要度合い
問 10(1)	身体障害手帳の有無、等級
問 10(2)	身体障害手帳所持者の身体障害の内容
問 11	療育手帳の有無、判定
問 12	精神障害者保健福祉手帳の有無、等級
問 13	障害の診断・医療費支給の有無
問 14	障害支援区分の認定の有無、区分
問 15	介護保険サービスの利用有無、要介護認定等
問 16(1)	(18 歳未満の方) 就学状況
問 16(2)	(18 歳未満の方) 児童向けサービスのニーズ
問 18(1)	居住形態
問 18(2)	住まいについての困りごと
問 19	利用している通所型福祉施設等の種類
問 21(1)	希望する将来の住まいと介助・介護・支援のあり方
問 22(1)	自宅・地域で生活する（したい）ために必要な条件
問 24	現在の就労状況
問 25(1)	(一般企業等で働いている方) 職種
問 25(2)	(一般企業等で働いている方) 就労形態
問 25(3)	(一般企業等で働いている方) 1 か月の給料（税込）
問 26	(工賃収入を得て働いている方（雇用契約なし）) 収入の有無及び 1 か月の工賃収入
問 27(3)	(現在は一般企業等で働いていないが、一般企業等での就労経験がある方) 仕事を辞めた理由
問 27(4)	(今後一般企業等で働きたいと答えた方) 希望する就労形態
問 27(5)	(今後一般企業等で働きたいと答えた方) 希望する勤務日数（週あたり）
問 27(6)	(今後一般企業等で働きたいと答えた方) 希望する勤務時間（一日あたり）
問 27(7)	就職活動状況
問 30(1)	障害福祉サービスの情報源
問 31	障害福祉サービス情報のニーズ
問 33(1)	日常生活の中での障害を原因とした差別や偏見の有無
問 33(2)	(差別や偏見を受けたことがあると答えた方) 差別や偏見を受けた場所・場面
問 33(4)	悩み・困りごとや差別・偏見に関する相談先
問 38(1)	家族の不在や一人暮らしの場合に助けてくれる人の有無
問 38(3)	災害時に困ること
問 39	福祉避難所の認知
問 43(1)	(家族・親戚から介助・支援を受けている方) 介助・支援者の年齢
問 43(2)	(家族・親戚から介助・支援を受けている方) 介助・支援者の健康状態

手帳・障害種別については、前回調査と比較するために、障害種別を前回調査の種別分類にあわせて分類し直し掲載しています。

図表 93 手帳・障害種別



(2) 前回調査比較結果

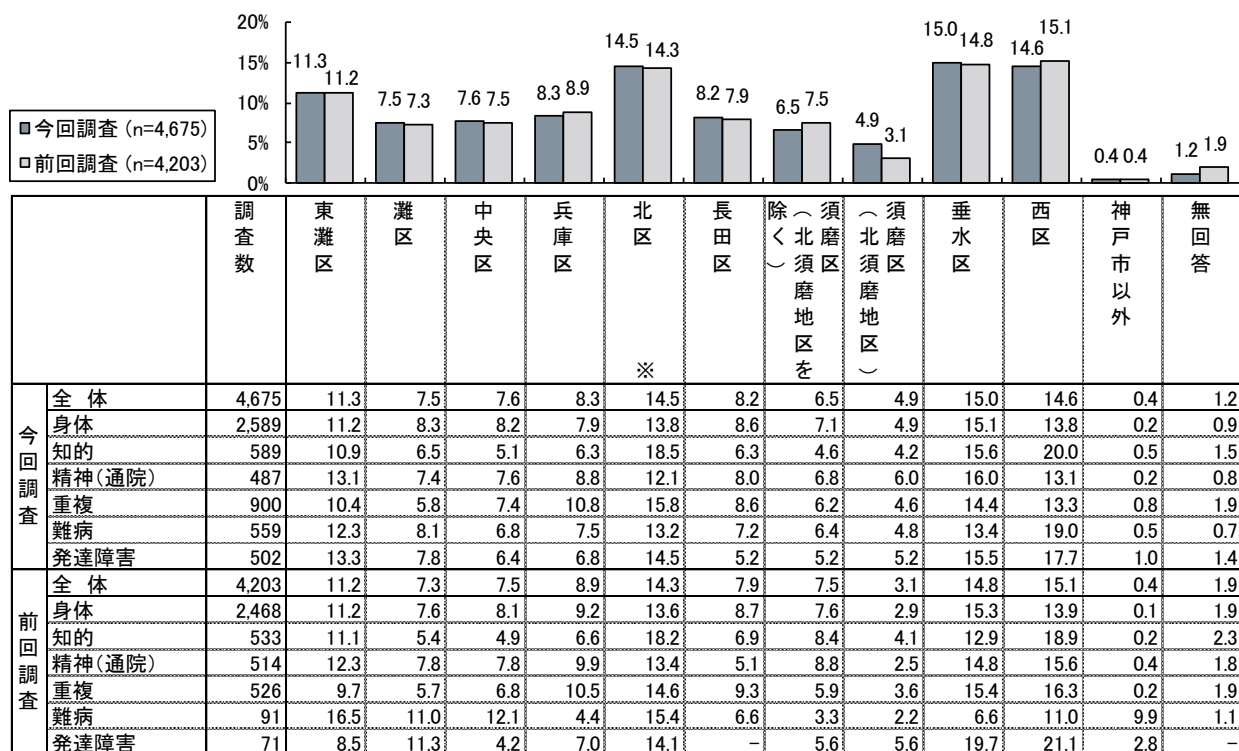
① 対象者の属性

(ア) 居住区

●問2 現在のお住まいは何区ですか。

居住区をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 94 居住区(「精神(入院)」を除く)(SA)



※「北区(北神区を除く)」「北区(北神区)」の計

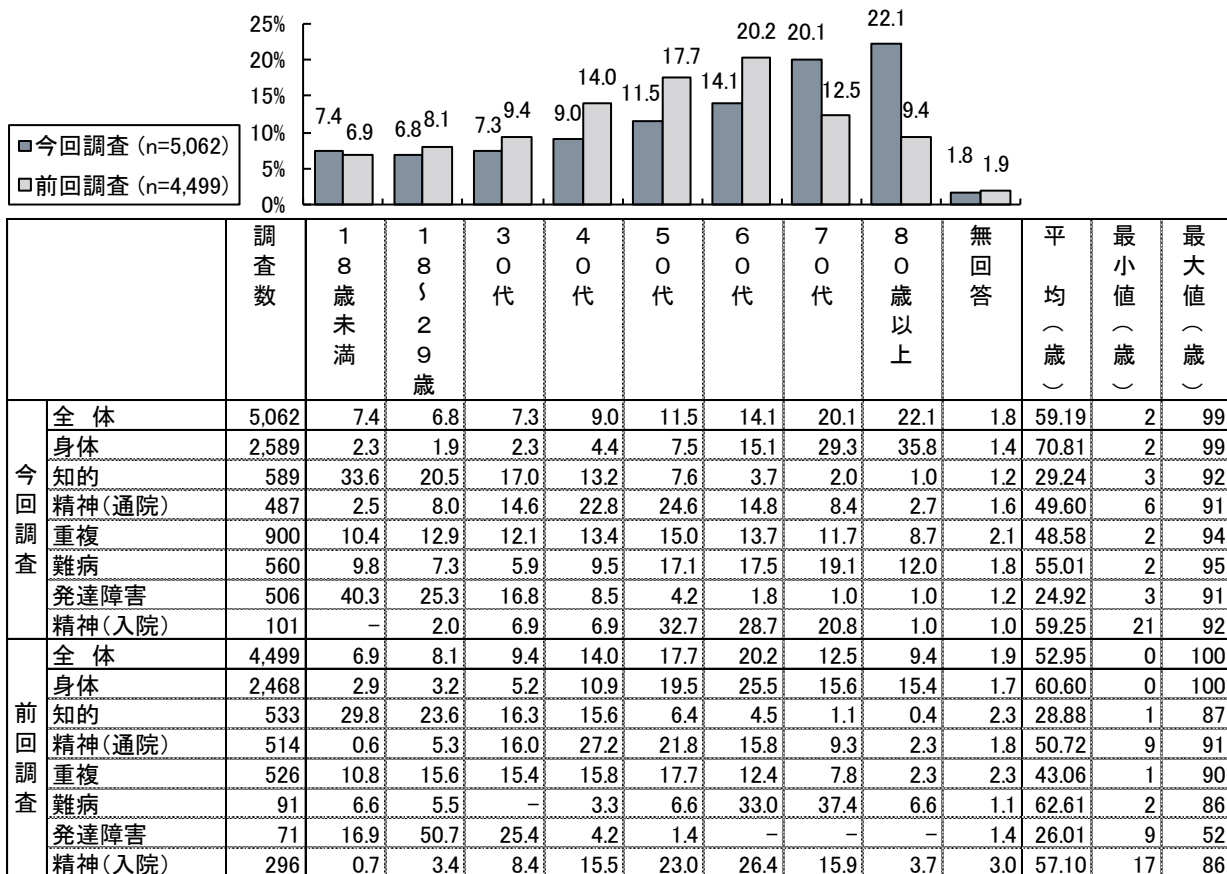
※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

(イ) 年齢

●問3 あなたの年齢は、満何歳ですか。

年齢をみると、70代以上の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。障害別では、「身体」で特にその傾向がみられます。

図表 95 年齢

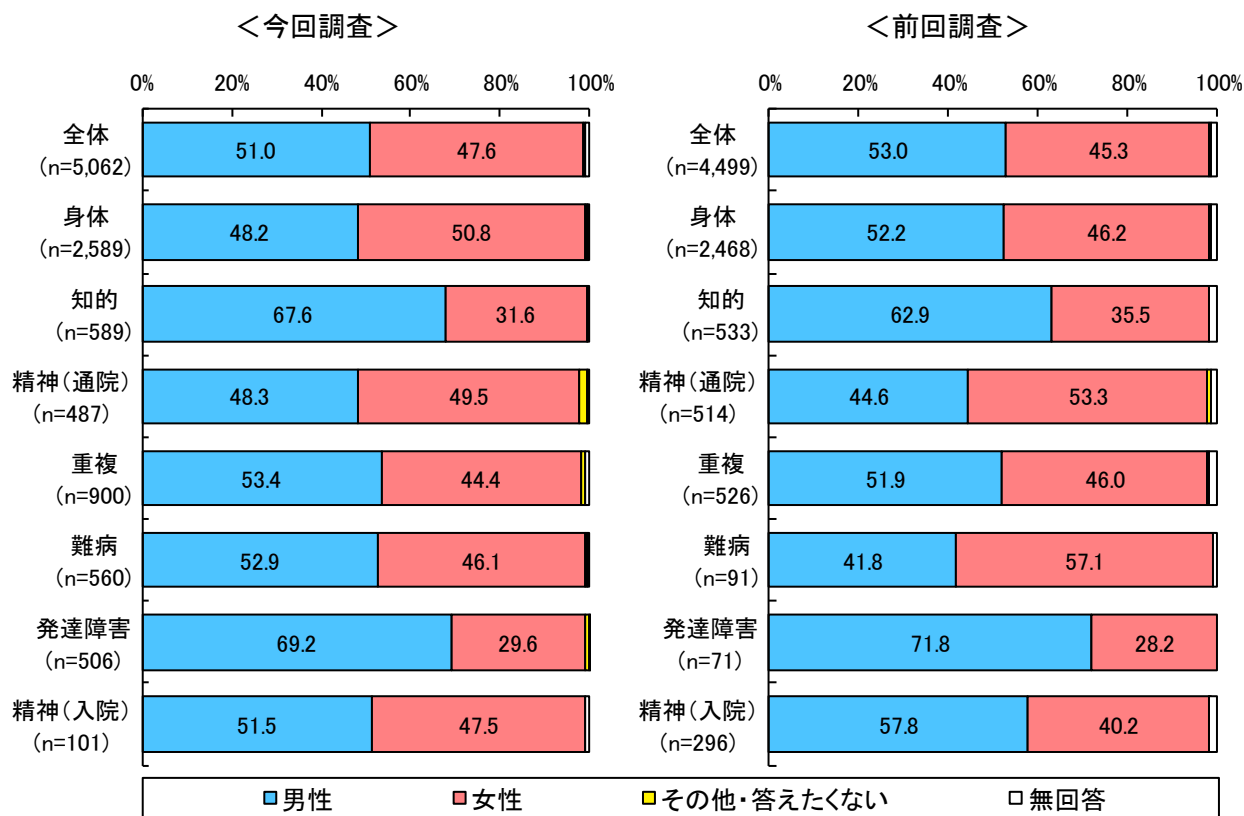


(ウ) 性別

●問 4 あなたの性別をお答えください。

性別をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。障害別では、「難病」では「男性」の割合が5ポイント以上高くなっているのに対し、「精神（入院）」では「女性」の割合が5ポイント以上高くなっています。

図表 96 性別(SA)

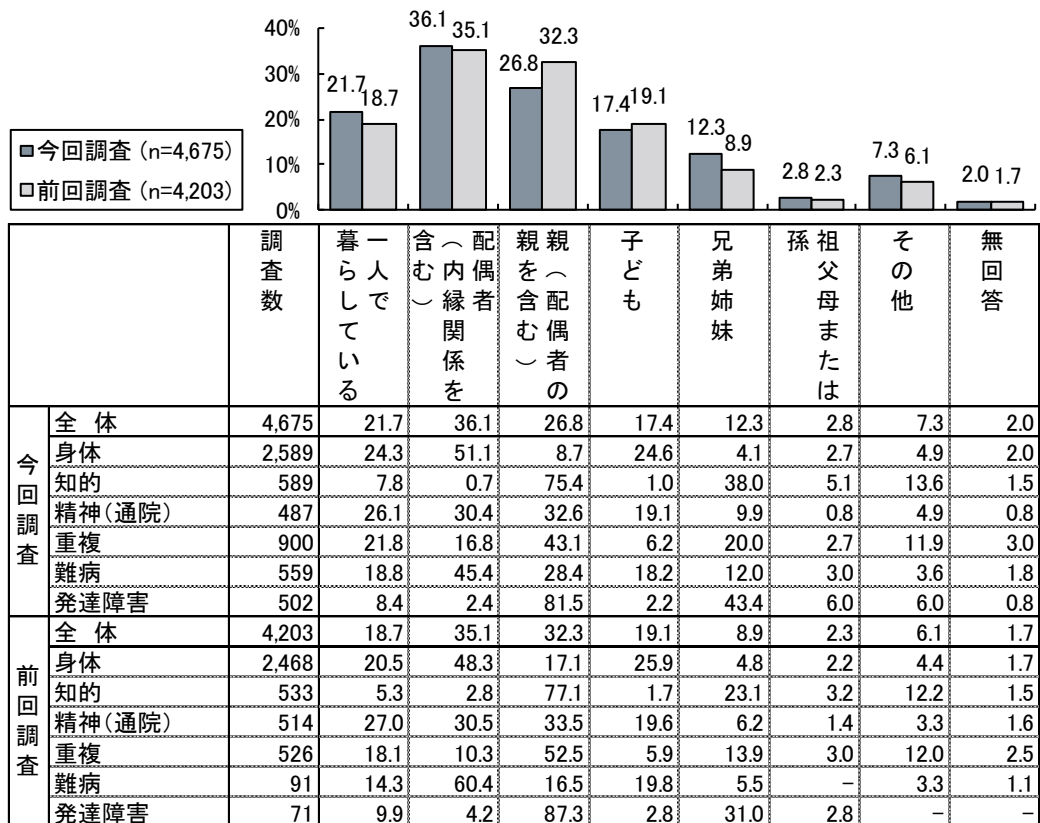


(エ) 同居の状況

●問5 現在、あなたはどなたと暮らしていますか。(複数回答)

同居者をみると、「親(配偶者の親を含む)」の割合が前回と比べて5ポイント以上低くなっています。

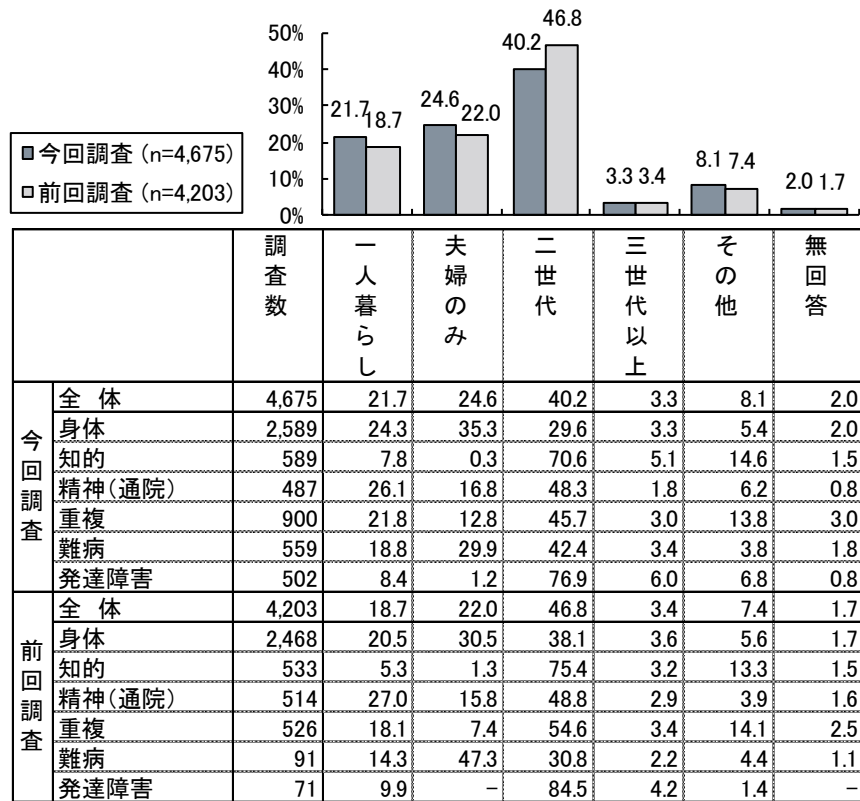
図表 97 同居者(「精神(入院)」を除く)(MA)



※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

同居形態では、「二世帯」の割合が前回と比べて5ポイント以上低くなっています。

図表 98 同居形態(「精神(入院)」を除く)



※問5より作成

同居者の傾向を年齢別にみると、前回と今回共通して、60代以降では「親（配偶者の親を含む）」との同居の割合が1割以下まで大幅に減少します。今回調査の回答者の年齢別傾向は、問3から「60代」「70代」「80歳以上」の合計が56.3%と、前回調査42.1%と比較して割合が大幅に増加していることから、「親（配偶者の親を含む）」との同居割合も全体的に低下したことが考えられます。

図表 99 同居者(「精神(入院)」を除く)(MA)

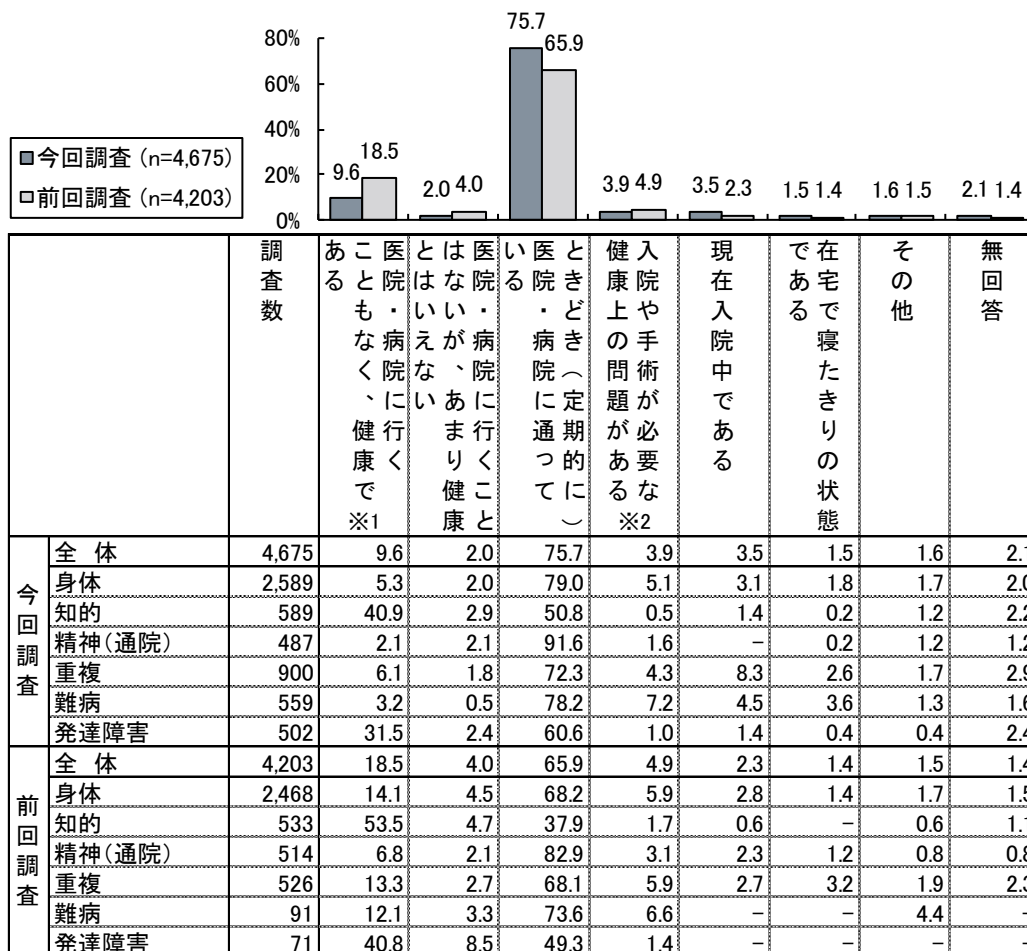
	調査数	暮一人 らして いる	含 む （ 内 縁 関 係 を	配 偶 者 （ 親 を 含 む ）	親 （ 配 偶 者 の 親 を 含 む ）	子 ど も	兄 弟 姉 妹	孫 祖 父 母 ま た は	そ の 他	無 回 答
今 回 調 査	全 体	4,961	22.1	35.5	25.7	17.4	11.7	2.7	8.0	2.3
	18歳未満	377	0.0	0.0	97.9	0.0	63.9	8.0	1.9	0.0
	18～29歳	341	6.2	4.1	82.7	1.2	40.8	6.5	6.2	1.5
	30代	360	16.7	13.9	60.3	10.8	16.1	2.5	8.1	1.4
	40代	448	19.0	23.4	44.0	19.0	9.6	0.4	10.9	1.3
	50代	549	30.1	32.6	23.5	18.9	5.8	0.4	9.1	1.1
	60代	685	29.6	50.2	6.7	18.1	3.2	1.5	8.5	2.0
	70代	994	23.9	58.5	1.3	21.1	2.5	2.8	5.8	2.2
	80歳以上	1,118	27.9	41.2	0.4	25.7	1.0	2.7	11.0	3.4
無回答	89	15.7	28.1	19.1	10.1	12.4	0.0	4.5	21.3	
前 回 調 査	全 体	4,203	18.7	35.1	32.3	19.1	8.9	2.3	6.1	1.7
	18歳未満	309	0.0	0.3	97.1	0.3	37.9	5.2	2.3	0.3
	18～29歳	355	4.5	4.5	84.8	2.5	26.5	4.2	5.1	0.0
	30代	397	10.6	21.2	59.2	14.1	11.1	4.0	7.1	0.5
	40代	582	18.4	29.0	44.2	23.0	7.4	0.3	6.7	0.2
	50代	727	22.8	41.8	24.3	27.5	4.1	0.8	5.5	0.1
	60代	829	27.4	52.5	9.5	20.6	3.5	1.7	5.3	0.4
	70代	515	23.3	60.6	0.4	20.4	1.0	2.3	3.9	0.6
	80歳以上	413	25.7	36.6	0.0	29.5	1.7	3.6	13.8	0.2
無回答	76	3.9	3.9	7.9	3.9	5.3	0.0	3.9	77.6	

(オ) 健康状態

●問6 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

健康状態をみると、「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。

図表 100 健康状態(「精神(入院)」を除く)(SA)



※1 前回調査では「健康である」 ※2 前回調査では「時々入院することがある」

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

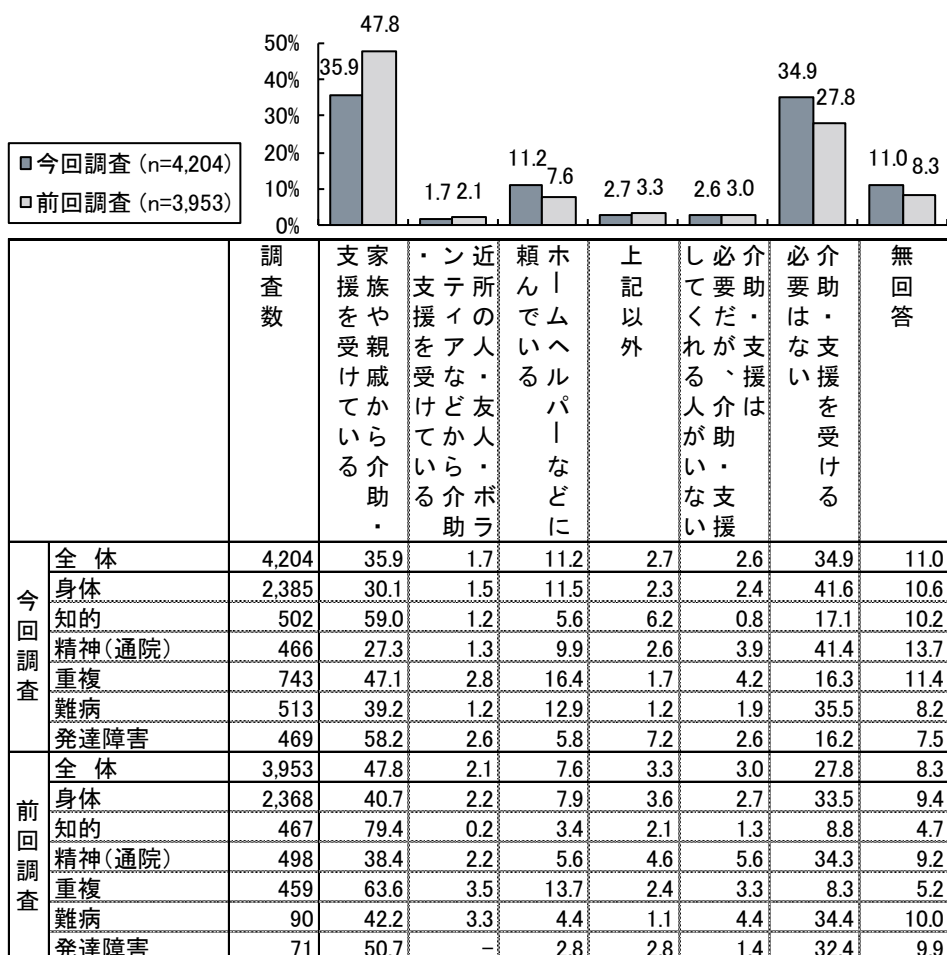
② 日常生活における介助・支援の必要性

●問7(1) 現在、あなたはどのように介助・支援を受けていますか。※「入所施設」「グループホーム」「病院」などにおられる方は、お答えいただくことなく結構です。

介助・支援の状況を見ると、「家族や親戚から介助・支援を受けている」の割合が前回と比べて10ポイント以上低くなっており、「介助・支援を受ける必要はない」の割合が5ポイント以上高くなっています。一方で障害別で見ると、「発達障害」では、「家族や親戚から介助・支援を受けている」が前回と比べて高く、「介助・支援を受ける必要はない」が前回と比べて低くなっています。

発達障害の回答者属性をみると、問3結果にあるように他の障害種別と異なり18歳未満の割合が前回と比較して20ポイント以上増加していることから、本設問においては「家族や親戚から介助・支援を受けている」の割合が5ポイント以上増加し、他の障害種別とは異なる傾向となったことが考えられます。

図表 101 介助・支援の状況(「精神(入院)」を除く)(SA)



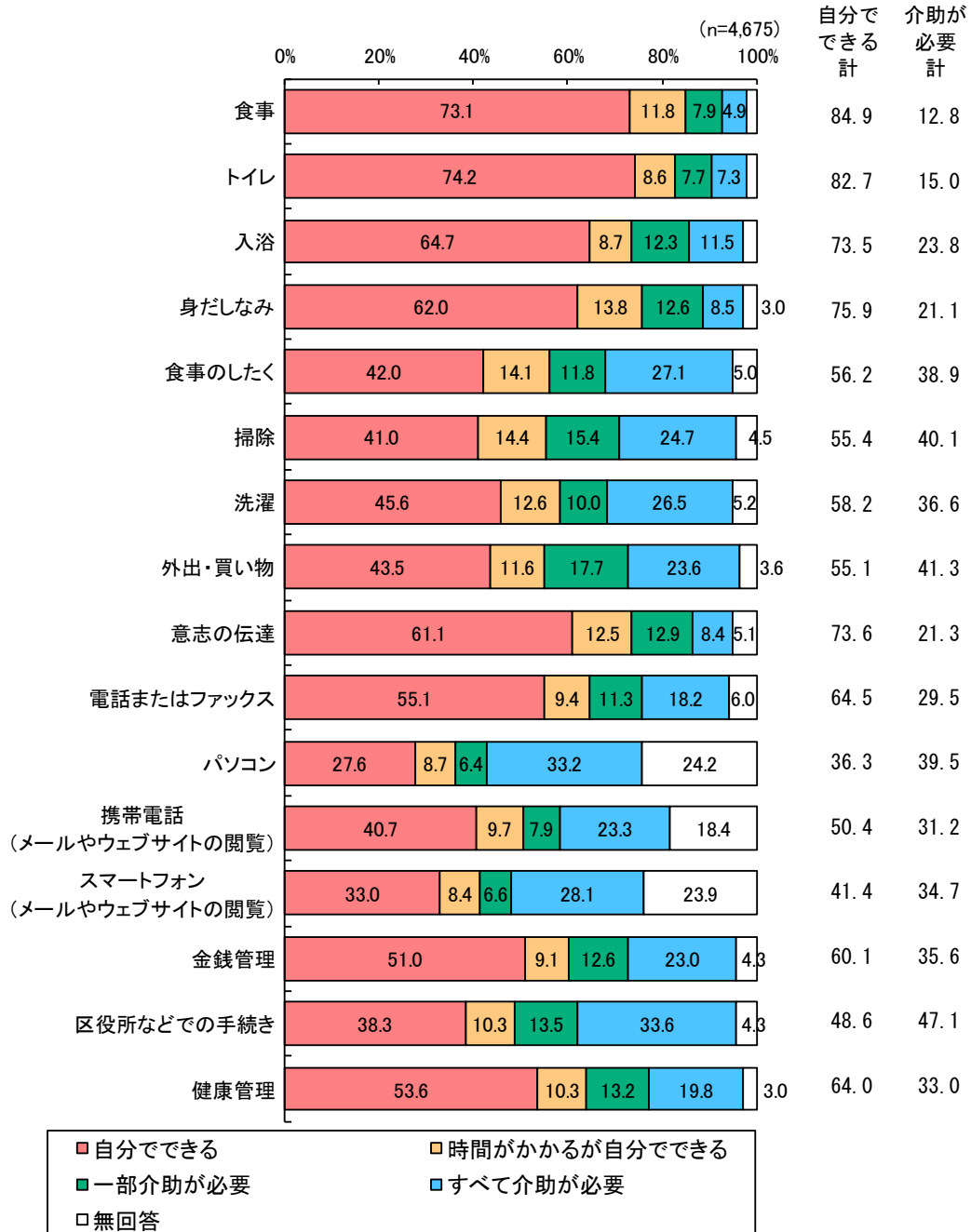
※「入所施設」「グループホーム」「病院」などにいる人を除く。

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

●問7(2) あなたは、以下の日常生活に必要な行動について、どの程度介助・支援が必要ですか。それぞれの項目についてお答えください。
 日によって介助・支援などの状況が異なる場合は平均的な状況を、また、日常あまりしない項目については、もしあなたがするとすればどの程度できるかをお答えください。

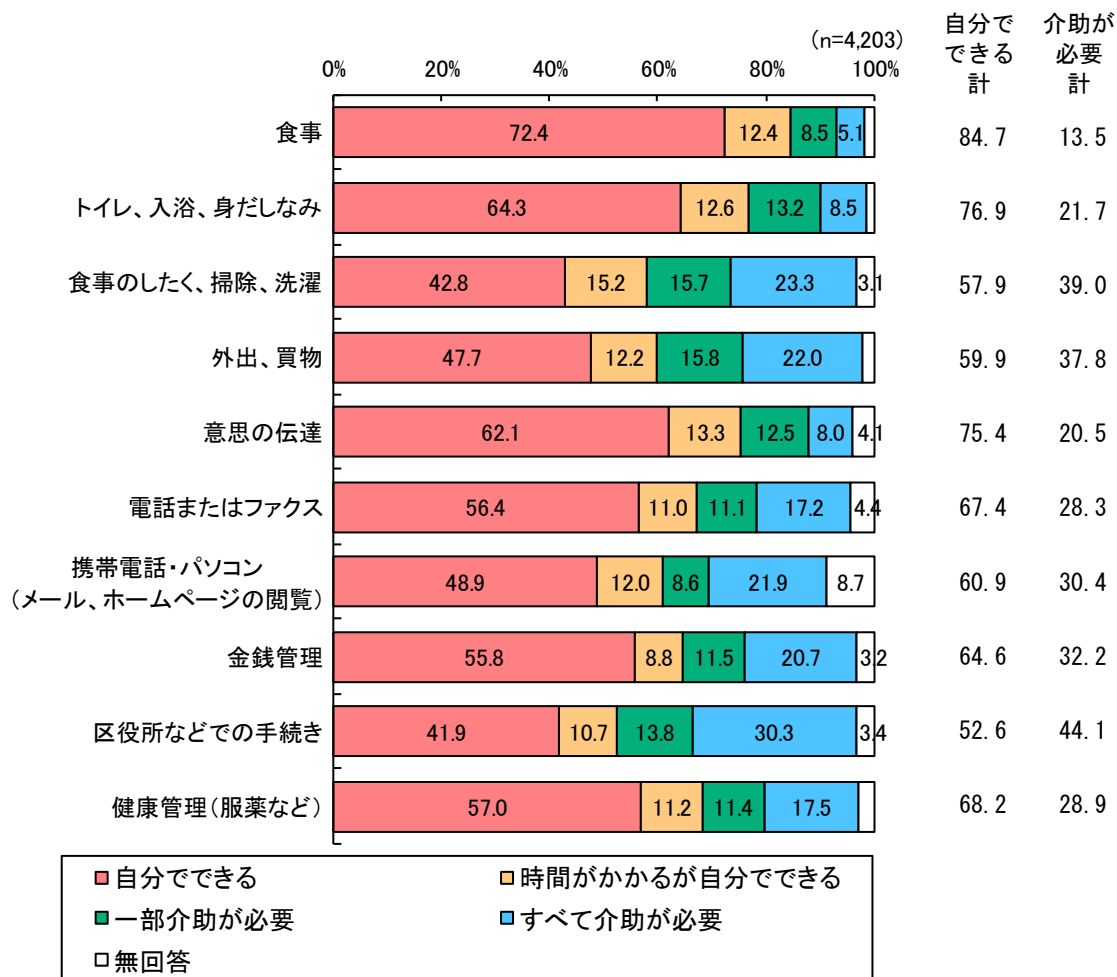
日常生活に必要な行動についての介助・支援の必要度をみると、「パソコン」(前回「携帯電話・パソコン(メール、ホームページの閲覧)」)で介助の必要性の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。

図表 102 介助・支援の必要度(「精神(入院)」を除く)(SA)
 <今回調査>



※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

<前回調査>



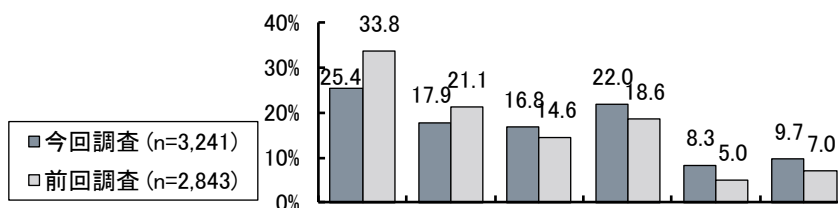
③ 障害特性

(ア) 身体障害の状況（身体障害者手帳所持者）

●問 10(1) あなたの身体障害者手帳の等級（障害程度）はどれですか。

身体障害手帳の等級をみると、「1級」の割合が前回と比べて5ポイント以上低くなっています。

図表 103 身体障害手帳の等級(SA)（「持っていない」「無回答」除く）



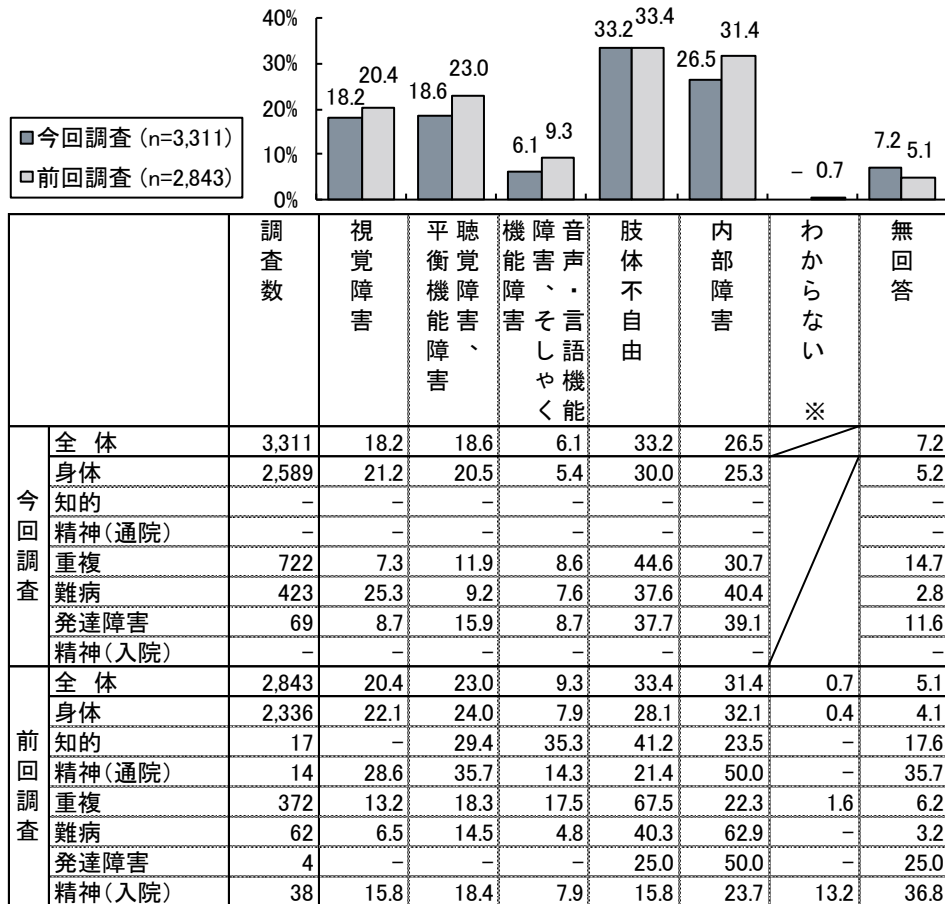
		調査数	1級	2級	3級	4級	5級	6級
今回調査	全体	3,241	25.4	17.9	16.8	22.0	8.3	9.7
	身体	2,548	22.1	15.6	17.0	25.0	9.3	11.0
	知的	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神(通院)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	重複	693	37.4	26.1	16.0	11.1	4.8	4.6
	難病	419	41.8	22.7	14.1	11.2	6.7	3.6
	発達障害	67	32.8	28.4	17.9	6.0	11.9	3.0
	精神(入院)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
前回調査	全体	2,843	33.8	21.1	14.6	18.6	5.0	7.0
	身体	2,336	33.3	19.4	14.8	19.7	5.1	7.7
	知的	17	29.4	35.3	11.8	11.8	0.0	11.8
	精神(通院)	14	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	重複	372	36.6	24.7	14.0	15.1	5.6	4.0
	難病	62	59.7	16.1	9.7	9.7	1.6	3.2
	発達障害	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	精神(入院)	38	7.9	63.2	18.4	7.9	2.6	0.0

※問9、問 10(1)より作成

●問 10 (2) あなたの身体障害の内容をお答えください。(複数回答)

身体障害手帳所持者の身体障害の内容をみると、障害内容の分布は前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 104 身体障害手帳所持者の身体障害の内容(MA)



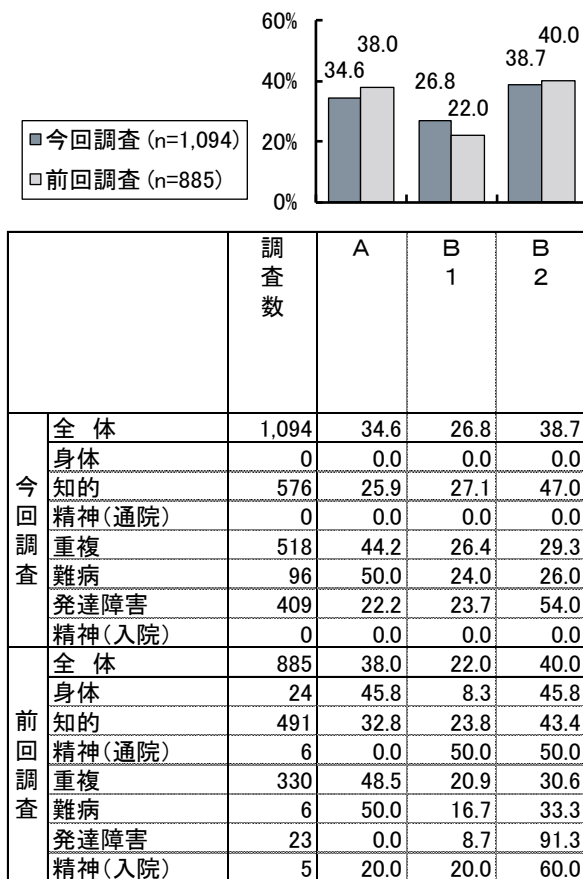
※「わからない」は今回調査にない選択肢

(イ) 知的障害の状況（療育手帳所持者）

●問 11 あなたの療育手帳の判定はどれですか。

育手帳の判定をみると、全体では前回と今回で同様の傾向がみられますが、前回と比較して「A」「B2」は数ポイント減少、「B1」は数ポイント増加しています。

図表 105 療育手帳の判定(SA)（「持っていない」「無回答」除く）



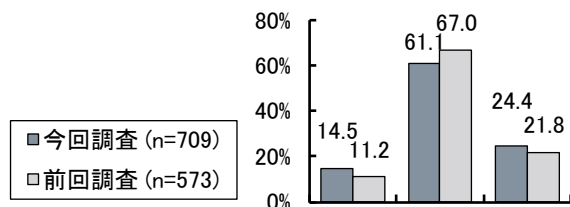
※問9、問 11 より作成

(ウ) 精神障害の状況（精神障害者保健福祉手帳所持者）

●問 12 あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級はどれですか。

精神障害者保健福祉手帳の等級をみると、全体では前回と今回で同様の傾向がみられますが、前回と比較して「1級」「3級」は数ポイント増加、「2級」は5ポイント以上減少しています。

図表 106 精神障害者保健福祉手帳の等級(SA)（「持っていない」「無回答」除く）



		調査数	1級	2級	3級
今回調査	全体	709	14.5	61.1	24.4
	身体	0	0.0	0.0	0.0
	知的	0	0.0	0.0	0.0
	精神(通院)	284	6.3	58.8	34.9
	重複	345	22.6	57.7	19.7
	難病	52	25.0	59.6	15.4
	発達障害	102	8.8	56.9	34.3
	精神(入院)	80	8.8	83.8	7.5
	精神(入院)	80	8.8	83.8	7.5
前回調査	全体	573	11.2	67.0	21.8
	身体	31	51.6	22.6	25.8
	知的	18	33.3	55.6	11.1
	精神(通院)	244	7.8	63.9	28.3
	重複	118	13.6	67.8	18.6
	難病	0	0.0	0.0	0.0
	発達障害	31	6.5	51.6	41.9
	精神(入院)	131	3.8	87.8	8.4
	精神(入院)	131	3.8	87.8	8.4

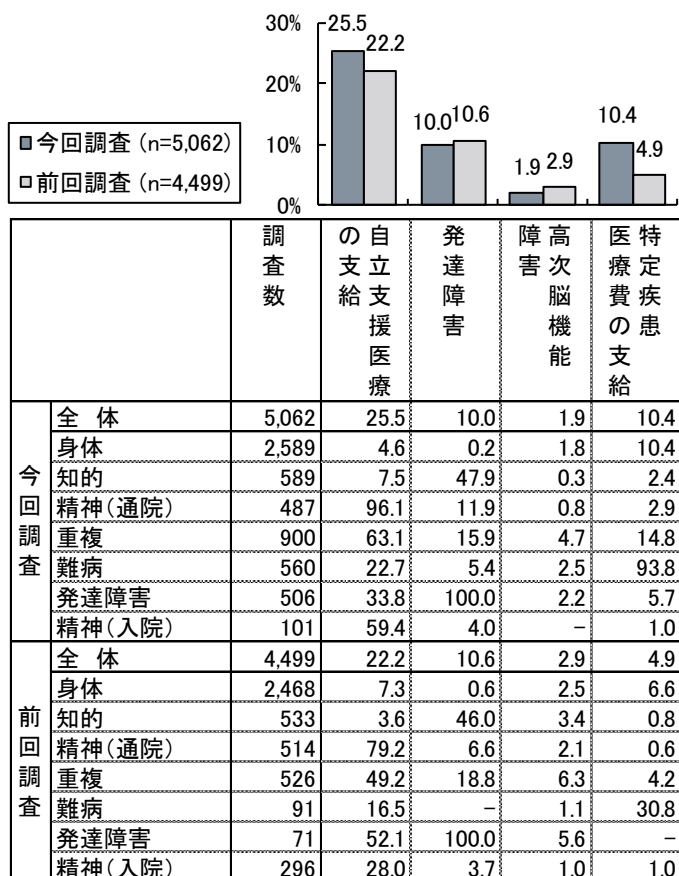
※問9、問 12 より作成

(エ) 発達障害・難病等の診断

●問 13 あなたは、これまでに以下の診断や支給を受けたことがありますか。(現在、受けているものも含む) (複数回答)

障害の診断・医療費支給の有無をみると、「特定疾患医療費の支給」の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。

図表 107 障害の診断・医療費支給の有無(MA)

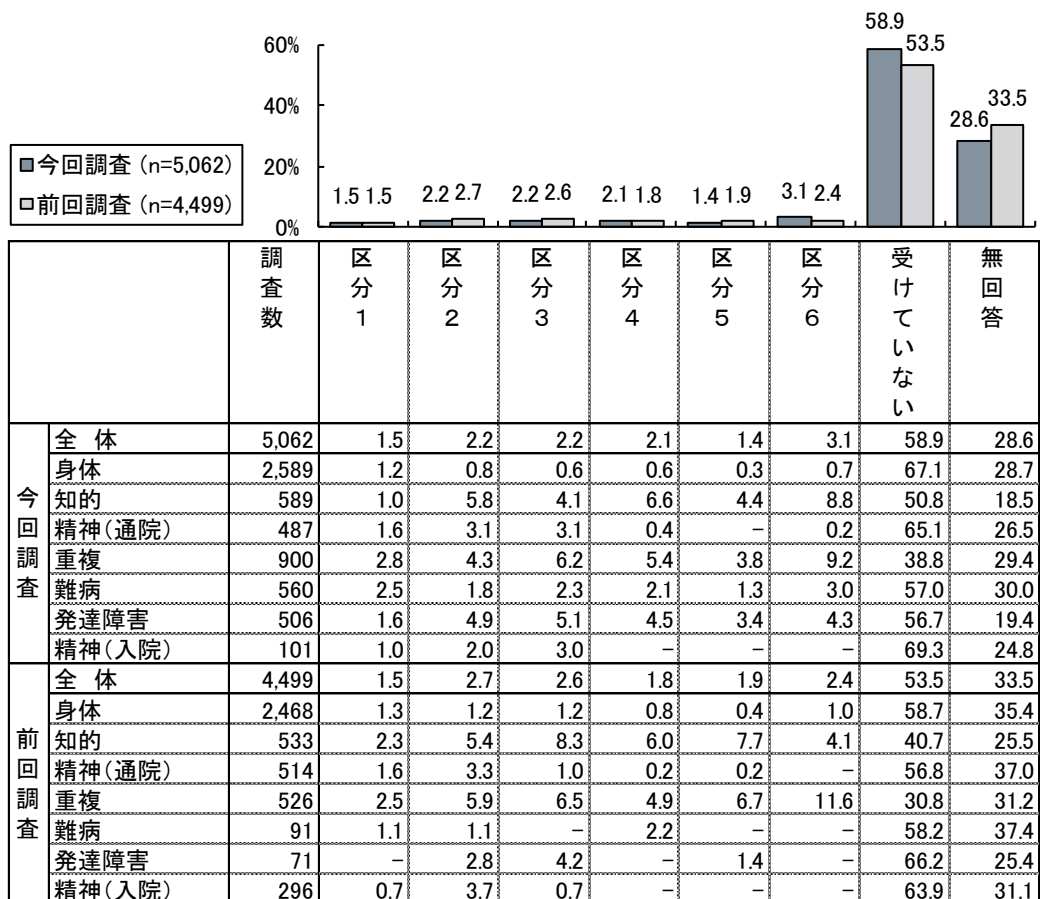


(オ) 障害支援区分

●問 14 あなたは障害福祉サービスの支給を受けるための障害支援区分の認定を受けていますか。受けている場合は、区分をお答えください。

障害支援区分の認定有無・区分をみると、全体では前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 108 障害支援区分の認定有無、区分(SA)

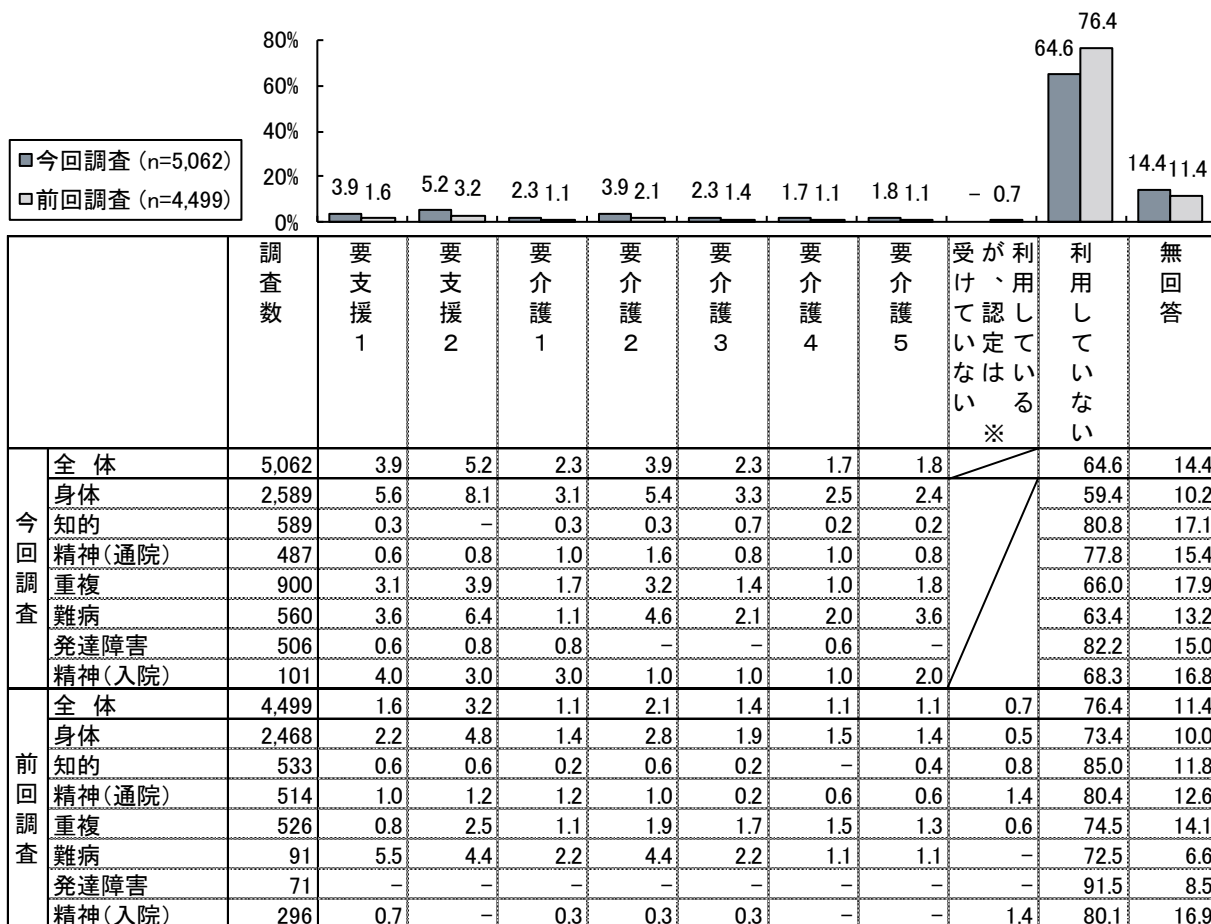


(カ) 介護保険サービスの利用

●問 15 現在、あなたは介護保険のサービスを利用していますか。利用している場合は、要介護度をお答えください。

介護保険サービスの利用有無、要介護認定等を見ると、全体では前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 109 介護保険サービスの利用有無、要介護認定等(SA)



※「利用しているが、認定は受けていない」は今回調査にない選択肢

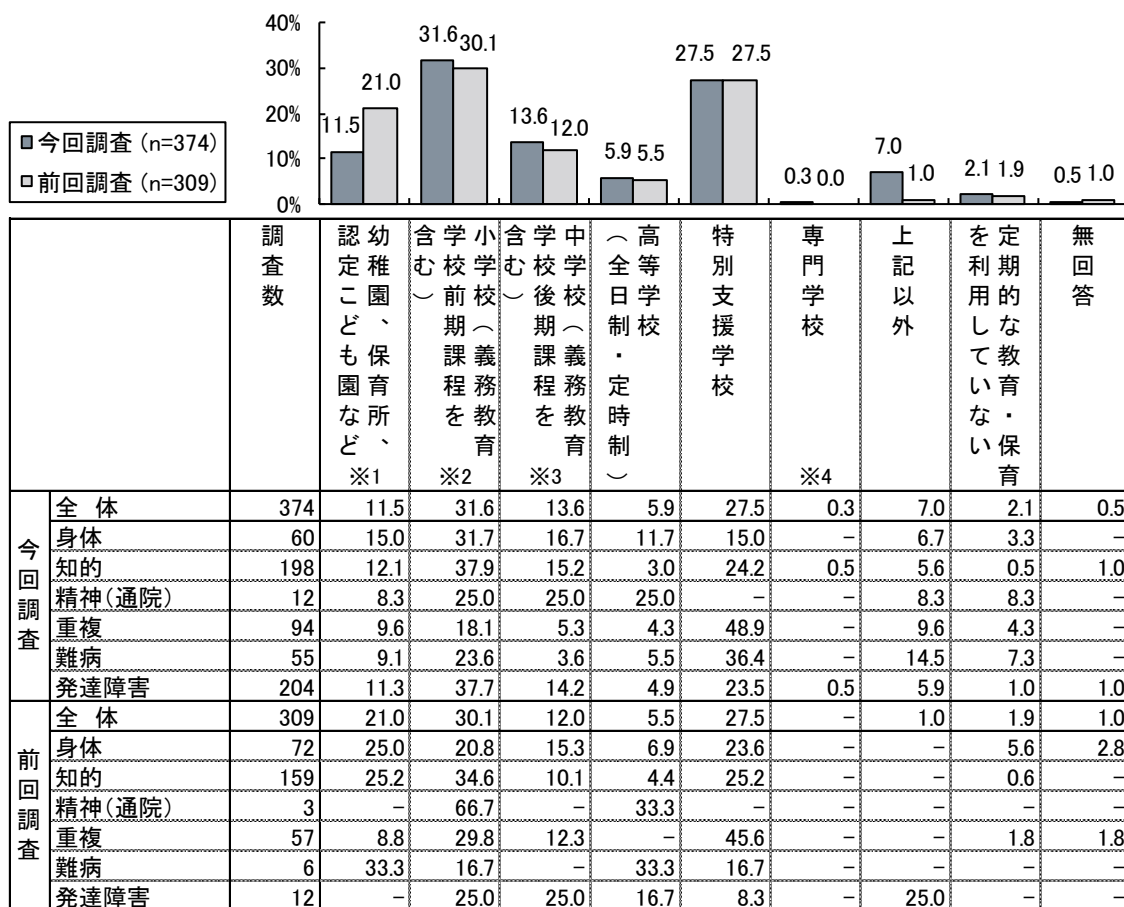
④ 障害児支援

(ア) 在籍している学校

●問 16 (1) 現在、あなたが在籍している学校などは、以下のうちどれにあたりますか。

18歳未満の人の就学状況をみると、「幼稚園、保育所、認定こども園など」（前回「幼稚園、保育所・園、児童発達支援センターなど」）の割合が前回と比べて5ポイント以上低くなっています。

図表 110 就学状況(「精神(入院)」を除く)(SA)



※1 前回調査では「幼稚園、保育所・園、児童発達支援センターなど」

※2 前回調査では「小学校」

※3 前回調査では「中学校」

※4 前回調査では「専門・専修学校」

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

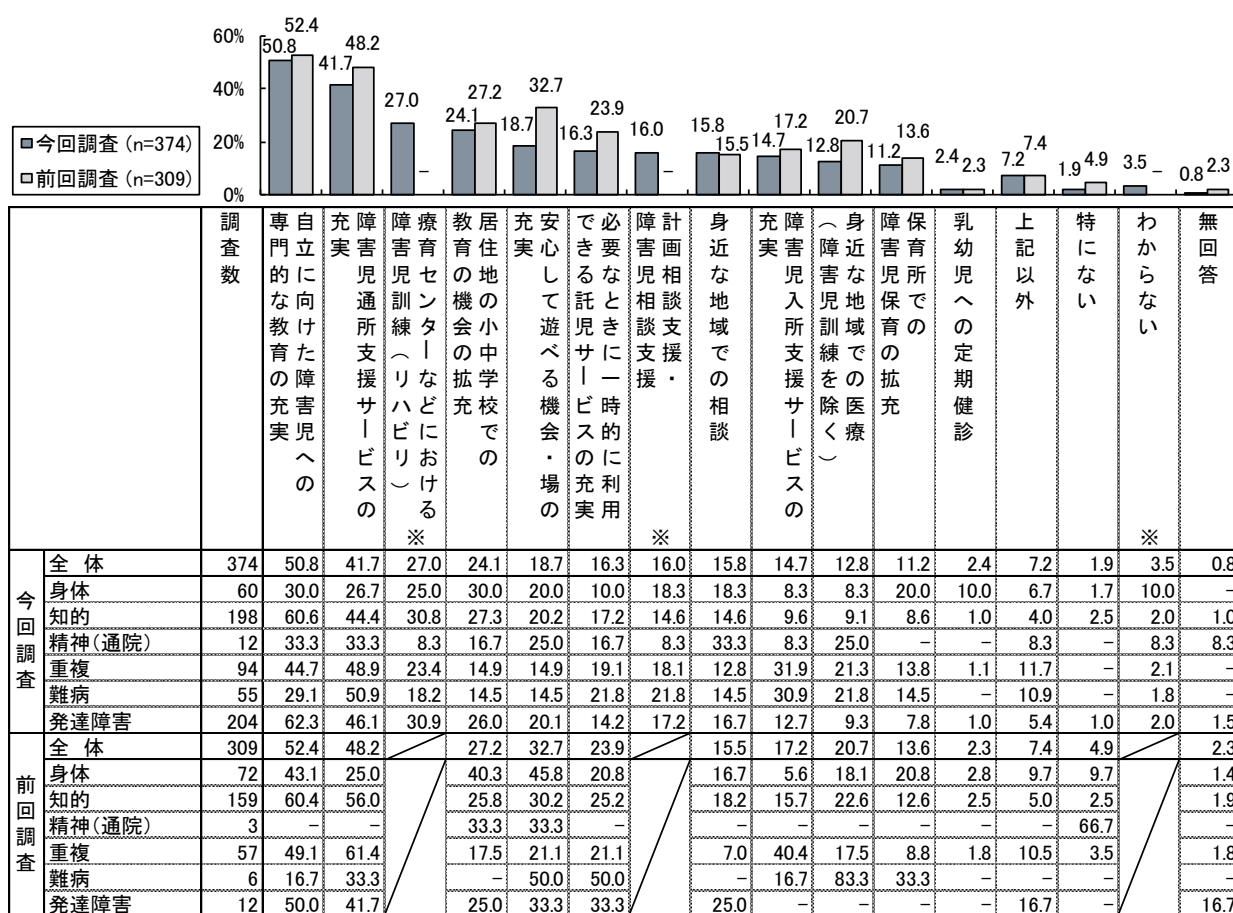
(イ) 今後充実させるべき児童向けサービス

●問 16 (2) あなたは、児童（18歳未満の方）向けのサービスについて、今後、神戸市において、どのようなサービスを充実させるべきだと思いますか。（複数回答（3つまで））

18歳未満の人の児童向けサービスのニーズをみると、「障害児通所支援サービスの充実」、「安心して遊べる機会・場の充実」、「必要なときに一時的に利用できる託児サービスの充実」、「身近な地域での医療（障害児訓練を除く）」の割合が前回と比べて5ポイント以上低くなっています。

一方で、今回選択肢として追加した「療育センターなどにおける障害児訓練（リハビリ）」、「計画相談支援・障害児相談支援」は、それぞれ15%以上の回答がありました。

図表 111 児童向けサービスのニーズ（「精神（入院）」を除く）（3つまで）



※「計画相談支援・障害児相談支援」「療育センターなどにおける障害児訓練（リハビリ）」「わからない」は今回調査のみの選択肢

※前回調査は4つ以上回答したものを含めて集計している。

※前回調査では「精神（入院）」以外を対象としているため、「精神（入院）」を除いて集計し直している。

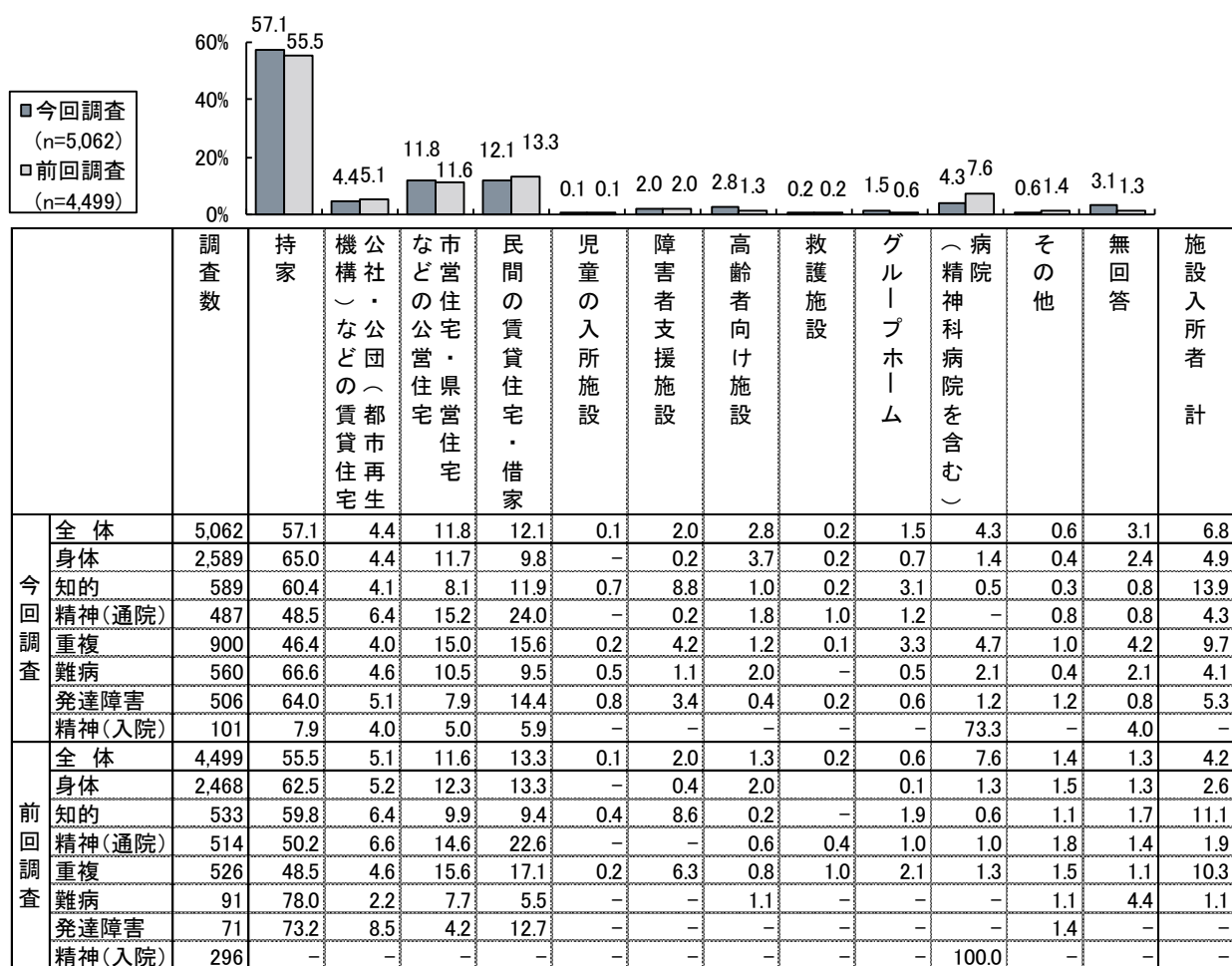
⑤ 暮らしの状況

(ア) 暮らしている場所

●問 18(1) 現在あなたが暮らしているところは、以下のうちどれにあたりますか。住民票上の住所などにかかわらず、実際に暮らしているところについてお答えください。

現在の居住形態をみると、全体でみると前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 112 居住形態(SA)

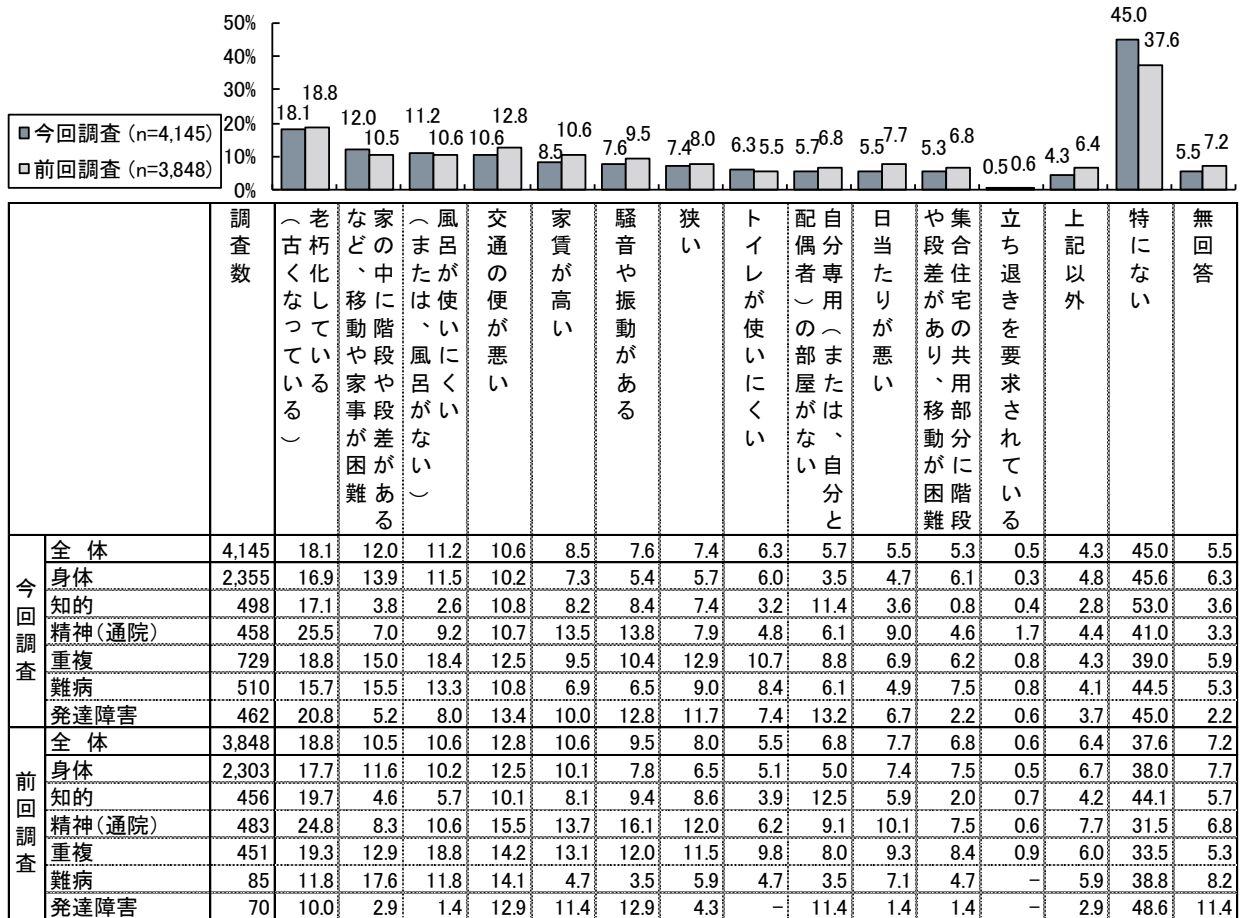


(イ) 住まいでの困りごと

●問 18 (2) あなたの現在のお住まいについて、困っていることはありますか。
(複数回答)

住まいについての困りごとをみると、最も割合が高かったものは「老朽化している(古くなっている)」と前回・今回で共通していますが、次いで割合が高かったものは、今回は「家の中に階段や段差があるなど、移動や家事が困難」、前回は「交通の便が悪い」と異なります。その他、総じて前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 113 住まいについての困りごと(「精神(入院)」を除く)(MA)



※一般住宅居住者のみを対象としている。

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

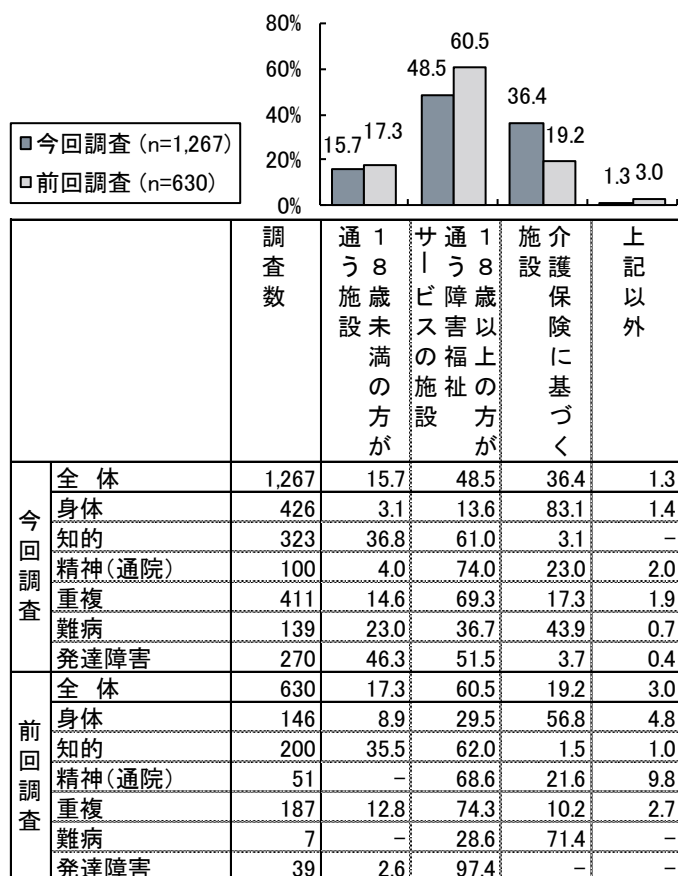
⑥ 施設の利用状況

(ア) 通所型の福祉施設の利用

●問 19 現在、あなたは「通所型の福祉施設」などに家などから通っていますか。
(複数回答)

通所型福祉施設の利用状況をみると、「介護保険に基づく施設」の割合が前回と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

図表 114 通所型福祉施設の利用状況(通所者のみ、「精神(入院)」を除く)(MA)



※前回調査は単一回答形式

※前回調査では「精神(入院)」以外かつ通所者を対象としているため、

「精神(入院)」以外で何らかの施設に通所している人について集計し直している。

福祉施設通所者の回答属性をみると、前回と比較して「65歳以上」が増加していることから、「介護保険に基づく施設」の回答割合が増加したと考えられます。障害種別でみると、「65歳以上」では重複を除くすべての障害属性において、「介護保険に基づく施設」の割合が10ポイント以上高くなっています。

図表 115 通所型福祉施設の利用状況(通所者のみ、「精神(入院)」を除く)(MA)

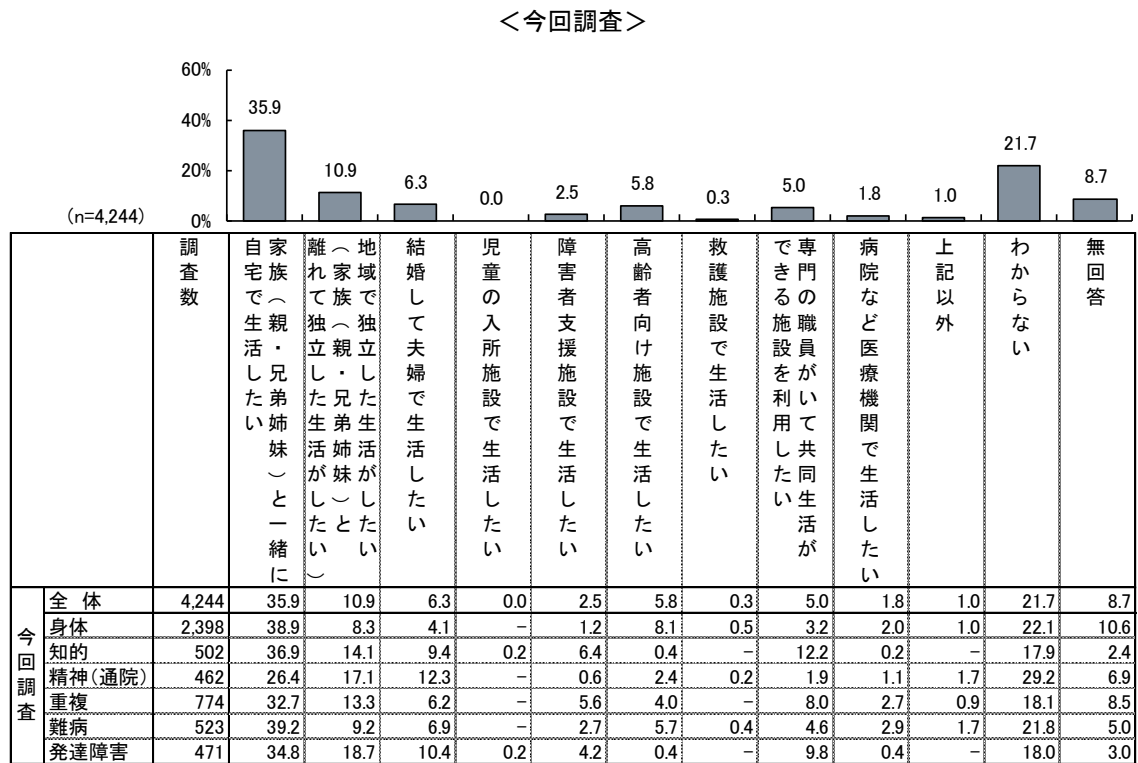


(イ) 将来の住まいと介助・介護・支援のあり方の希望

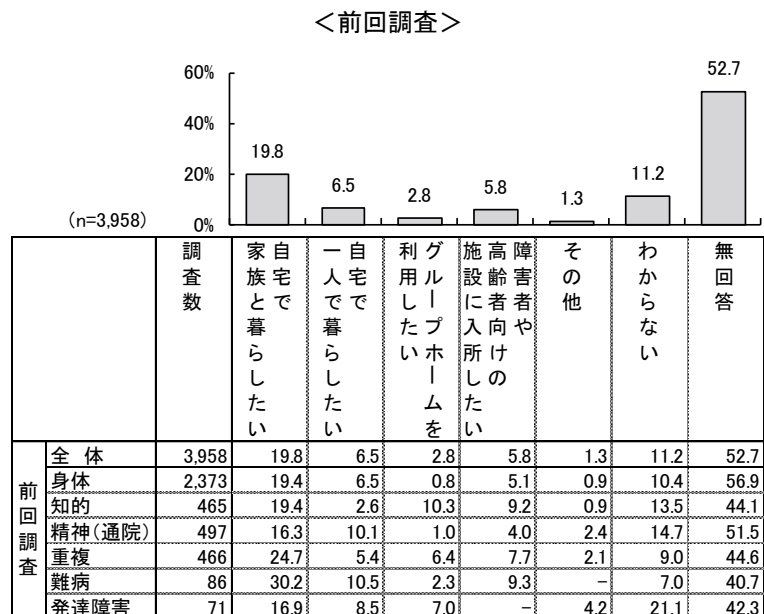
●問 21 (1) あなたは、将来の住まいと介助・介護・支援のあり方について、どのような希望を持っておられますか。

希望する将来の住まいと介助・介護・支援のあり方をみると、「身体」「発達障害」で施設入所を希望する割合が前回よりもやや高くなっています。

図表 116 希望する将来の住まいと介助・介護・支援のあり方
(施設非入所者のみ、「精神(入院)」を除く)(SA)



※前回調査では「精神(入院)」以外かつ居住型福祉施設非入所者を対象としているため、「精神(入院)」以外で一般住宅居住者(現在入院中を含む)について集計し直している。



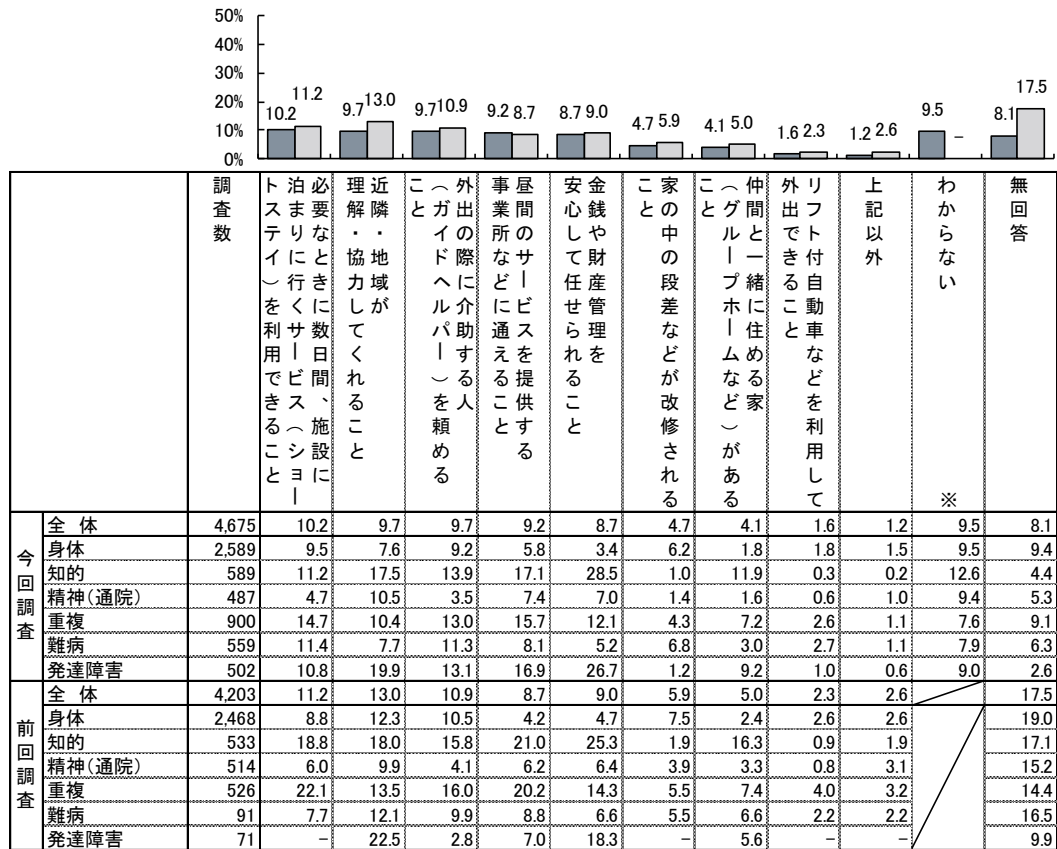
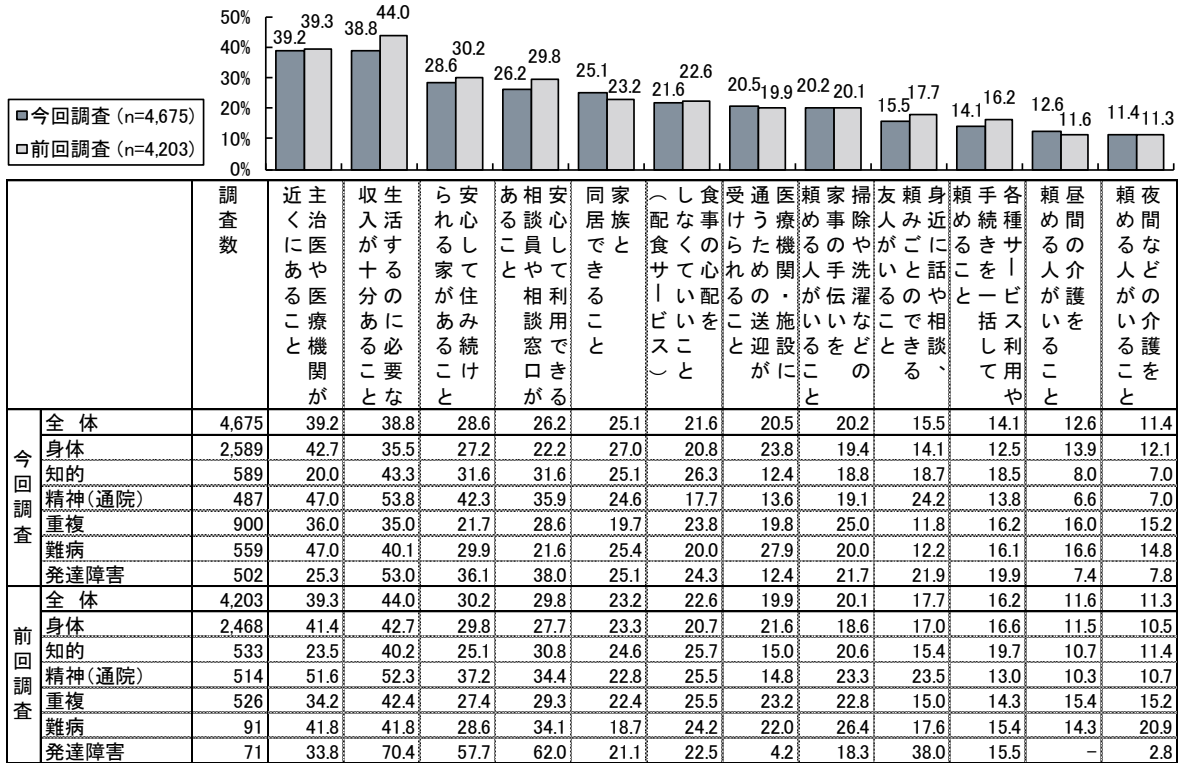
⑦ 地域での生活・活動

(ア) 自宅・地域で生活するための条件

●問 22(1) あなたは、ご自分が自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ためには、あなたにとってどのような条件が必要だと思えますか。（複数回答（5つまで））

自宅・地域での生活のために必要な条件をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。障害別で見ると、「発達障害」では「医療機関・施設に通うための送迎が受けられること」、「昼間の介護を頼める人がいること」、「夜間などの介護を頼める人がいること」、「必要なときに数日間、施設に泊まりに行くサービス（ショートステイ）を利用できること」、「外出の際に介助する人（ガイドヘルパー）を頼めること」、「昼間のサービスを提供する事業所などに通えること」、「金銭や財産管理を安心して任せられること」の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。

図表 117 自宅・地域での生活のために必要な条件(「精神(入院)」を除く)(5つまで)



※「わからない」は今回調査のみの選択肢

※前回調査は6つ以上回答したのものも含めて集計している。

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

⑧ 就労状況

(ア) 現在の就労

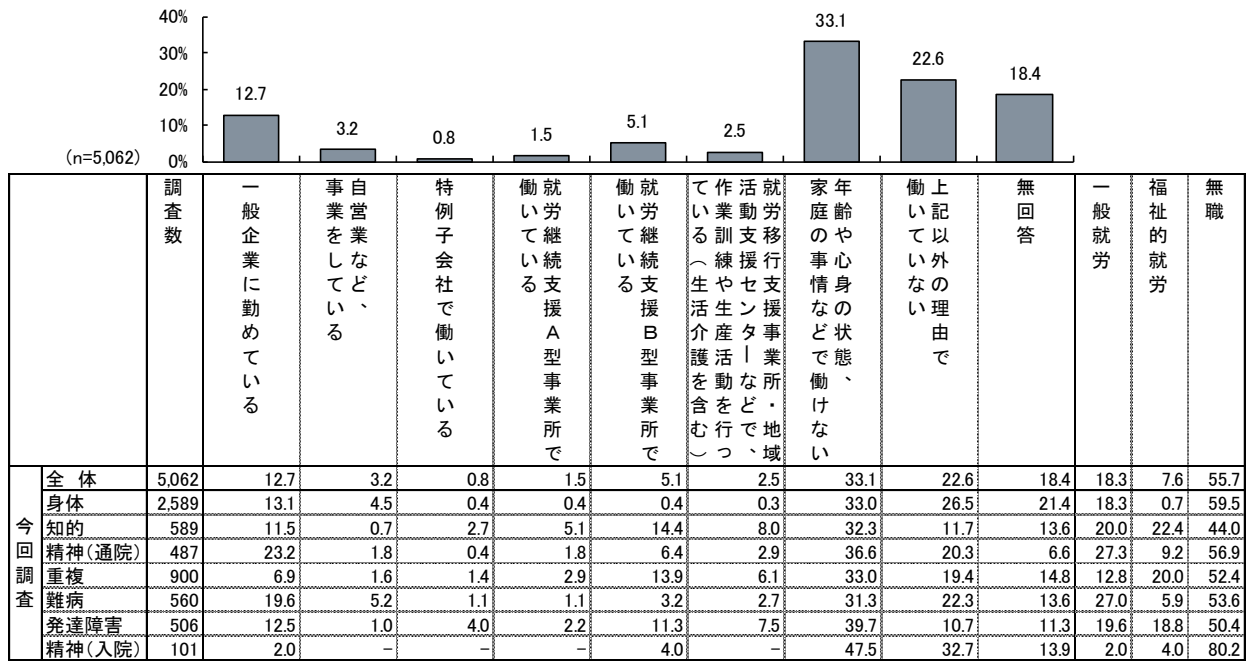
●問 24 現在、あなたは働いていますか。

現在の就労状況をみると、「一般企業に勤めている」、「自営業など、事業をしている」、「特例子会社で働いている」、「就労継続支援A型事業所で働いている」の合計割合が前回（「一般企業などで働いている」）と比べて5ポイント以上低くなっています。一方で、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」、「上記以外の理由で働いていない」の合計割合が前回（「働いていない」、「年齢や心身の状態から働けない」）と比べて5ポイント以上高くなっています。

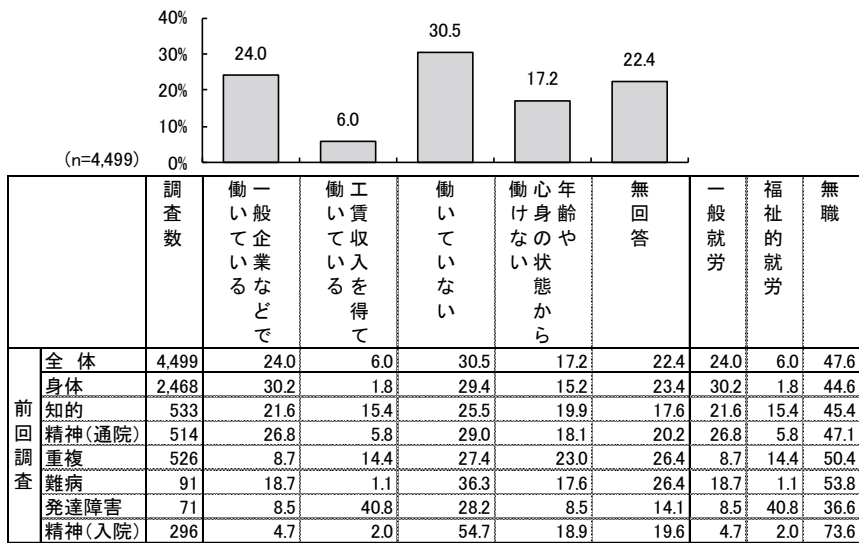
福祉的就労の割合（今回は「就労継続支援B型事業所で働いている」、「就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている（生活介護を含む）」の合計割合、前回は「工賃収入を得て働いている」の割合）は1.6ポイント高くなっています。

図表 118 現在の就労状況(SA)

<今回調査>



<前回調査>



現在の就労状況を年齢別にみると、「18～29歳」「30代」「40代」では前回と比べて「福祉的就労」は約10ポイント増加し、「30代」「40代」では「一般就労」の割合も数ポイント増加しています。「50代」「60代」では「無職」の割合が5ポイント以上増加していますが、「福祉的就労」の割合も数ポイント増加傾向にあります。

図表 119 現在の就労状況(SA)

<今回調査>

	調査数	一般企業に勤めている	自営業など、事業をしている	特例子会社で働いている	就労継続支援A型事業所で働いている	就労継続支援B型事業所で働いている	作業訓練センターなど、地域活動（生活介護を含む）を行っている	就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで働いている	年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない	上記以外の理由で働いていない	無回答	一般就労	福祉的就労	無職
全体	5,062	12.7	3.2	0.8	1.5	5.1	2.5	33.1	22.6	18.4	18.3	7.6	55.7	
18歳未満	377	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.1	7.7	17.0	0.3	0.0	82.8	
18～29歳	343	22.7	0.3	4.7	2.6	19.5	14.3	13.7	17.8	4.4	30.3	33.8	31.5	
30代	367	30.0	1.4	3.3	7.1	15.0	7.1	15.3	14.7	6.3	41.7	22.1	30.0	
40代	455	29.7	4.2	1.1	4.0	11.9	6.2	19.3	14.5	9.2	38.9	18.0	33.8	
50代	582	25.8	4.5	1.0	2.4	7.7	2.4	28.9	21.3	6.0	33.7	10.1	50.2	
60代	714	15.4	5.5	0.1	0.8	3.6	1.0	33.1	28.0	12.5	21.8	4.6	61.1	
70代	1,015	4.6	4.8	0.1	0.1	0.5	0.3	34.3	29.5	25.8	9.7	0.8	63.7	
80歳以上	1,119	0.7	1.9	0.0	0.0	0.2	0.0	37.0	26.6	33.6	2.6	0.2	63.6	
無回答	90	5.6	3.3	1.1	1.1	3.3	0.0	38.9	16.7	30.0	11.1	3.3	55.6	

<前回調査>

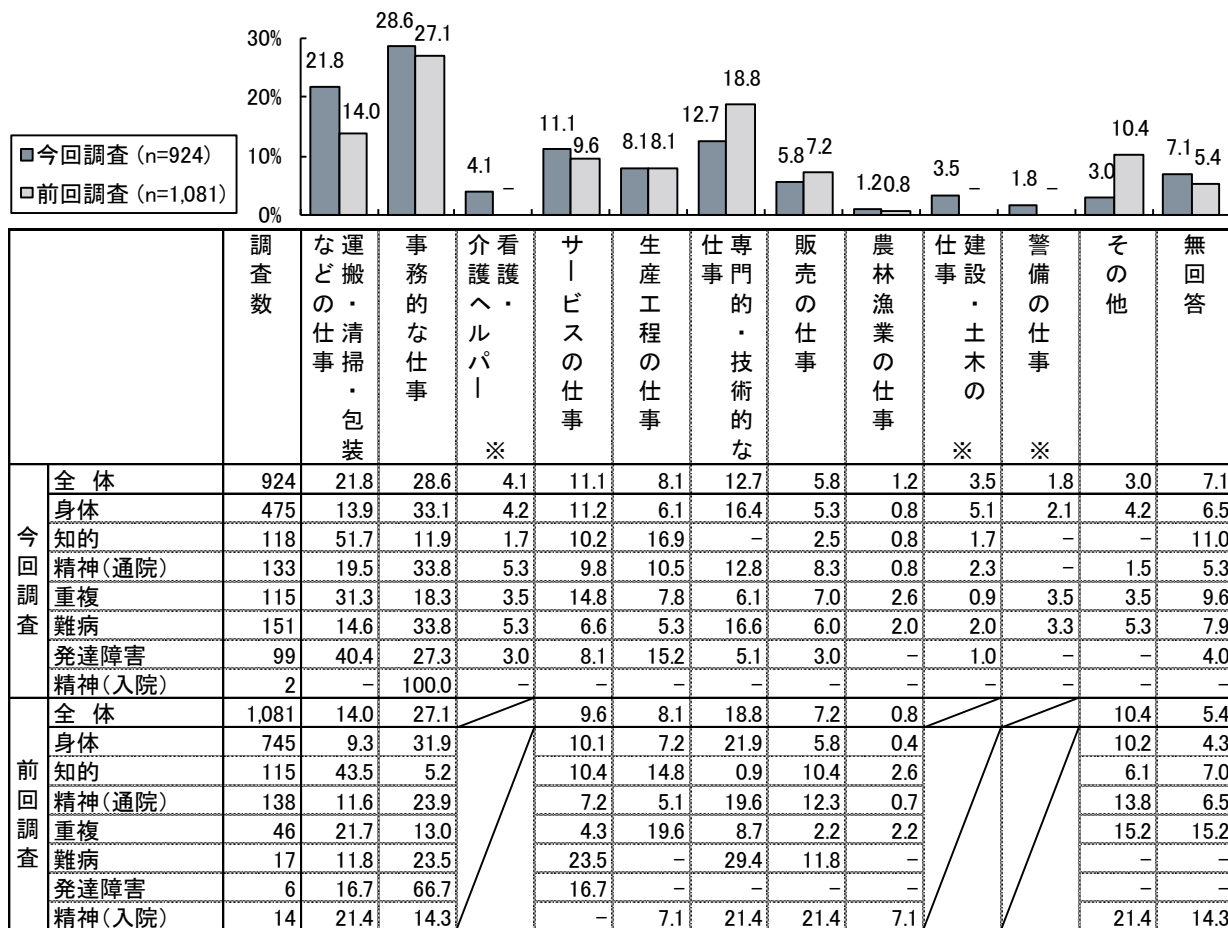
	調査数	一般企業などで働いている	工賃収入を得て働いている	働いていない	年齢や心身の状態から働けない	無回答	一般就労	福祉的就労	無職
全体	4,499	24.0	6.0	30.5	17.2	22.4	24.0	6.0	47.6
18歳未満	311	1.3	0.0	35.7	42.1	20.9	1.3	0.0	77.8
18～29歳	365	32.3	24.1	26.6	10.1	6.8	32.3	24.1	36.7
30代	422	40.5	12.8	24.4	9.0	13.3	40.5	12.8	33.4
40代	628	36.9	6.5	27.5	11.8	17.2	36.9	6.5	39.3
50代	795	36.5	5.4	29.1	11.6	17.5	36.5	5.4	40.6
60代	907	22.9	2.3	35.9	16.9	21.9	22.9	2.3	52.8
70代	562	5.2	2.0	34.5	21.4	37.0	5.2	2.0	55.9
80歳以上	424	1.4	1.7	27.4	25.9	43.6	1.4	1.7	53.3
無回答	85	27.1	3.5	22.4	21.2	25.9	27.1	3.5	43.5

(イ) 仕事内容・形態

●問 25 (1) 現在、どのようなお仕事をされていますか。(複数回答)

一般就労者の職種をみると、最も割合が高かったものは「事務的な仕事」と今回・前回で共通していますが、次いで割合が高かったものは、今回は「運搬・清掃・包装などの仕事」、前回は「専門的・技術的な仕事」と異なります。

図表 120 職種(MA)

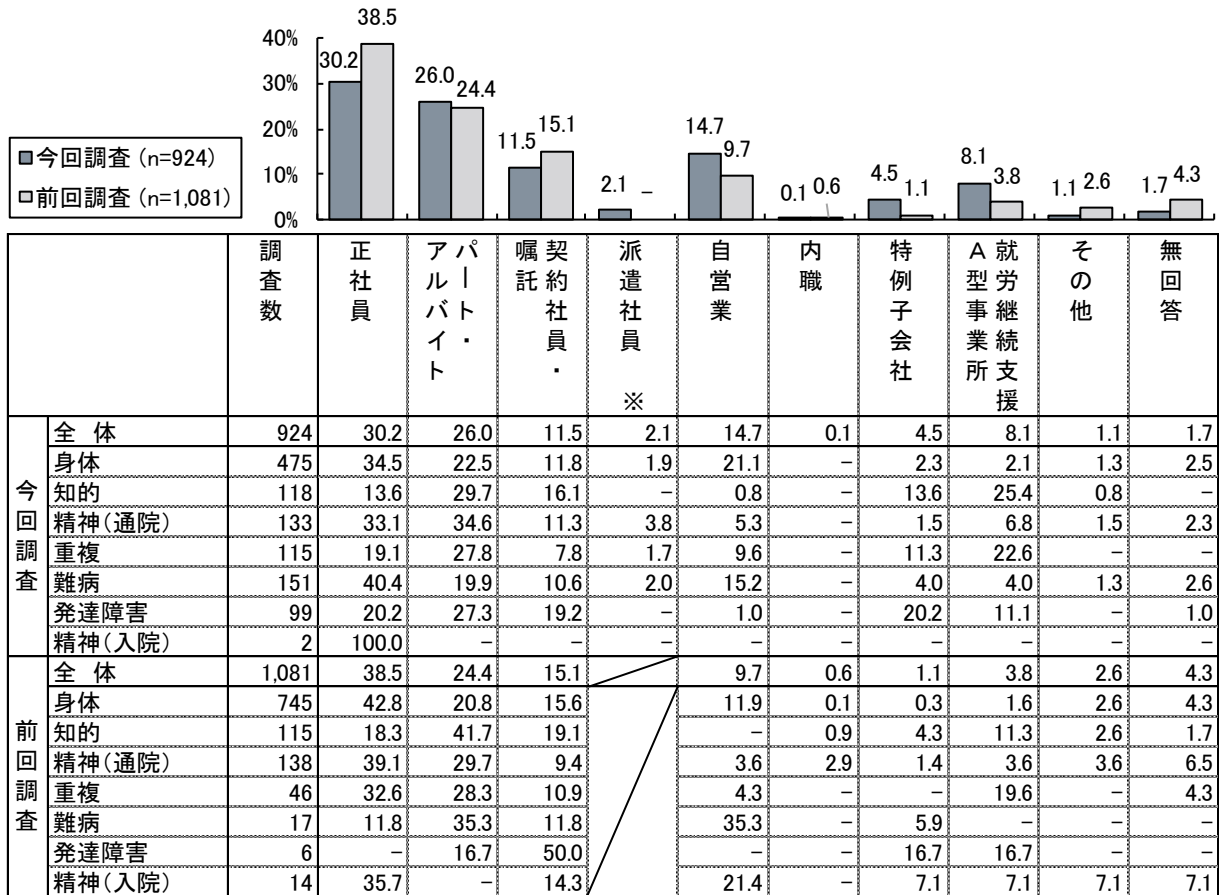


※「看護・介護ヘルパー」「建設・土木の仕事」「警備の仕事」は今回調査のみの選択肢

●問 25 (2) 現在、どのようなかたちで働いていますか。

一般就労者の就労形態をみると、最も割合が高かったものは「正社員」、次いで「パート・アルバイト」と今回・前回で共通しています。しかし、次いで割合が高かったものは、今回は「自営業」、「契約社員・嘱託」の順となっていますが、前は逆の傾向となっています。

図表 121 就労形態(SA)



※「派遣社員」は今回調査のみの選択肢

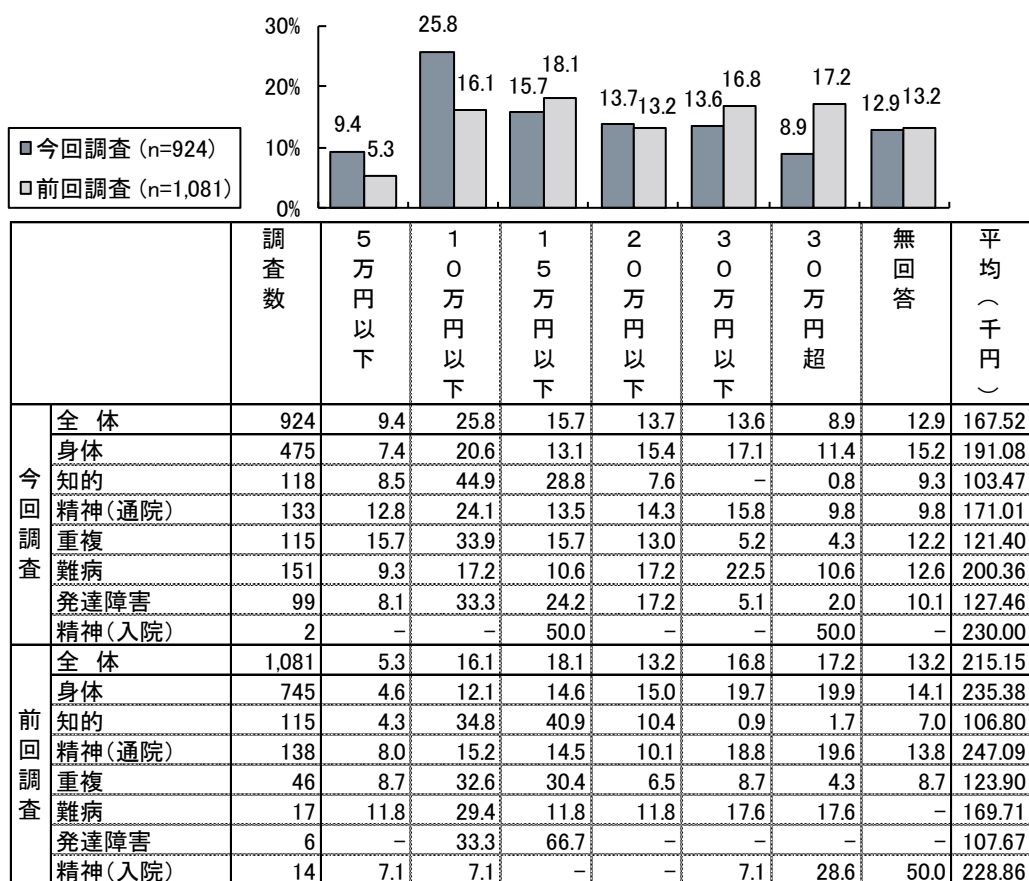
(ウ) 月の平均給料

●問 25 (3) 1か月の給料(税込・月平均)はどれぐらいですか。

※賞与は含まずにお答えください。

一般就労者の1か月の給料をみると、平均額が今回167.52(千円)、前回215.15(千円)と、前回は比べて低くなっています。前回と比較すると、10万円以下は増加傾向、20万円超は減少傾向にあります。

図表 122 1か月の給料(税込)



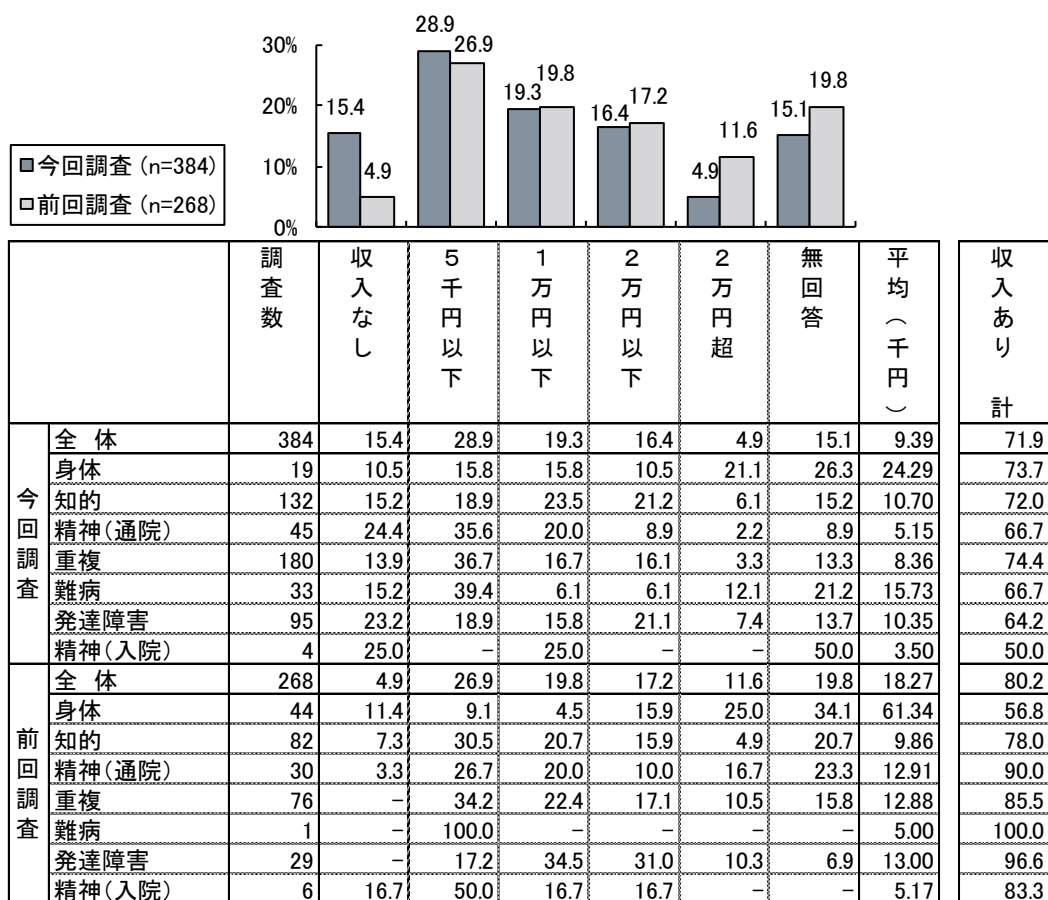
※前回調査では、外れ値(250万円以上)も含めて集計しているため、平均額が高くなっている。

(エ) 月の工賃収入

●問 26 1か月の工賃収入は平均どれくらいですか。

就労支援等での工賃収入をみると、平均額が今回 9.39（千円）、前回 18.27（千円）と低くなっています。ただし、今回設問の対象が（問 24）「就労継続支援 B 型事業所で働いている」、「就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている（生活介護を含む）」回答者となり、工賃収入なしで就労支援を受ける人も一定数含まれるのに対し、前回設問の対象者が（問 24）「工賃収入を得て働いている」回答者となり、工賃収入を得ていることが前提となっています。このような設問対象者の母集団の違いも、平均工賃収入額に影響している可能性が考えられます。

図表 123 1か月の工賃収入



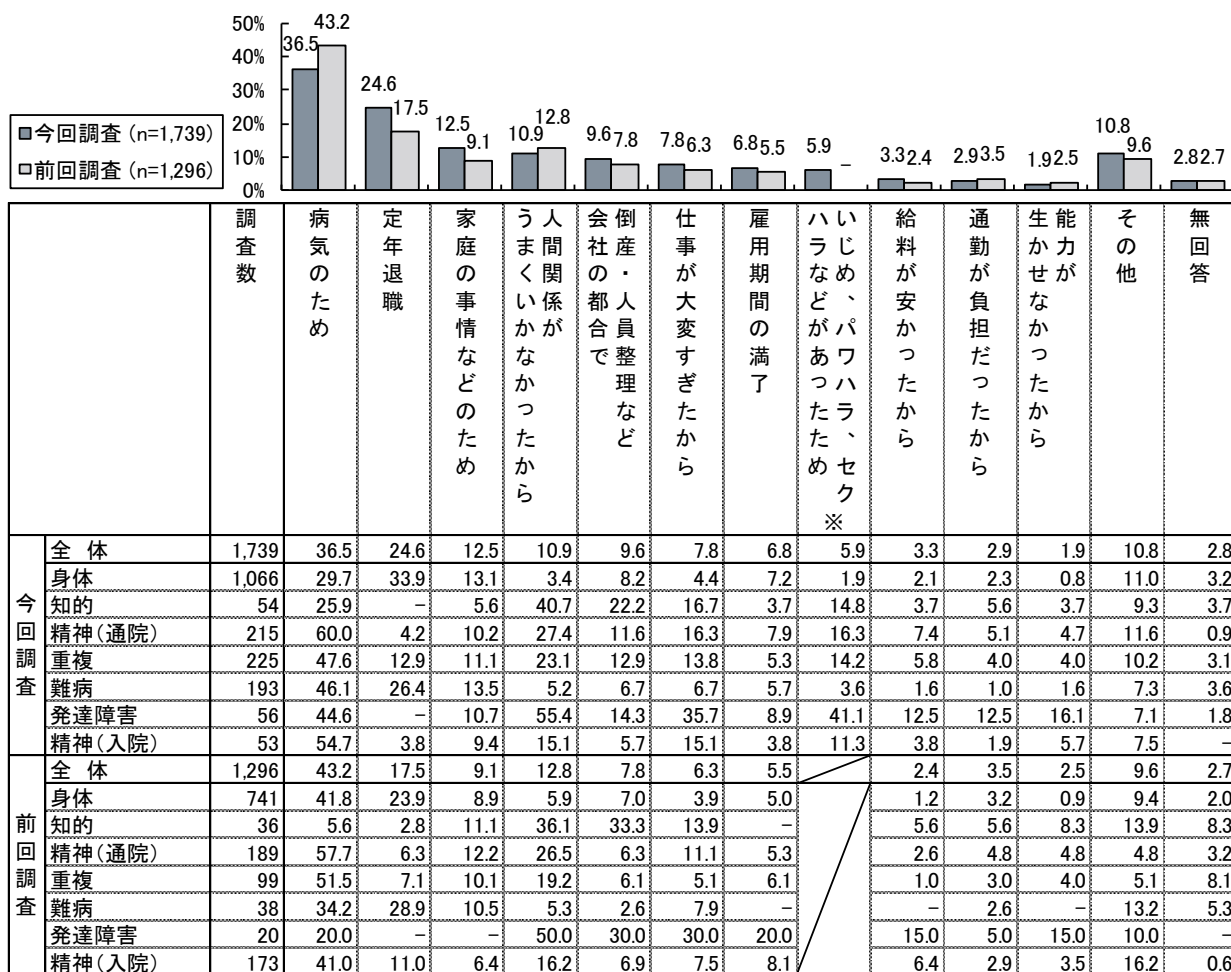
※前回調査では、外れ値(100万円以上)も含めて集計しているため、平均が高くなっている。

(オ) 仕事を辞めた理由

●問 27 (3) 一般企業や自営業などの仕事を辞めたのはどのような理由ですか。
(複数回答)

仕事を辞めた理由をみると、「病気のため」の割合が前回と比べて5ポイント以上低く、「定年退職」の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。障害別でみると、「知的」、「発達障害」では「病気のため」が20ポイント以上高くなっています。

図表 124 仕事を辞めた理由(MA)



※「いじめ、パワハラ、セクハラなどがあつたため」は今回調査のみの選択肢

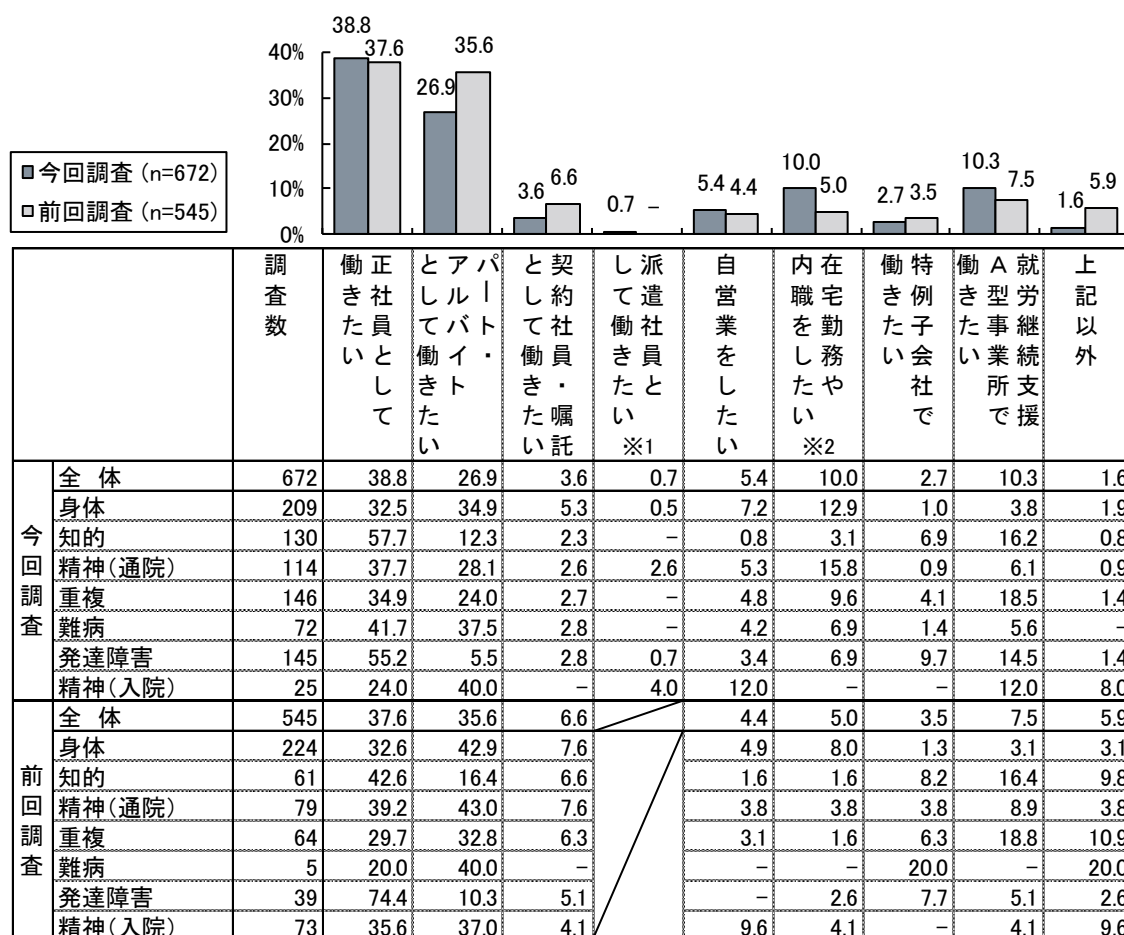
(カ) 今後の就労希望

●問 27 (4) 今度、あなたは一般企業や自営業などで働きたいですか。

就労意向がある人の希望する就労形態をみると、「パート・アルバイトとして働きたい」の割合が前回と比べて5ポイント以上低く、「在宅勤務や内職をしたい」の割合が5ポイント以上高くなっています。

障害別でみると、希望する就労形態にそれぞれ傾向の違いがみられます。「知的」では「正社員として働きたい」が前回と比べて10ポイント以上高くなっています。「精神(通院)」では「在宅勤務や内職をしたい」が10ポイント以上高く、「パート・アルバイトとして働きたい」が10ポイント以上低くなっています。「難病」では「正社員として働きたい」が10ポイント以上高く、「特例子会社で働きたい」が10ポイント以上低くなっています。「発達障害」、「精神(入院)」では「正社員として働きたい」が10ポイント以上低くなっています。

図表 125 希望する就労形態(就労意向がある人のみ)(SA)



※1 今回調査のみの選択肢 ※2 前回調査では「内職」

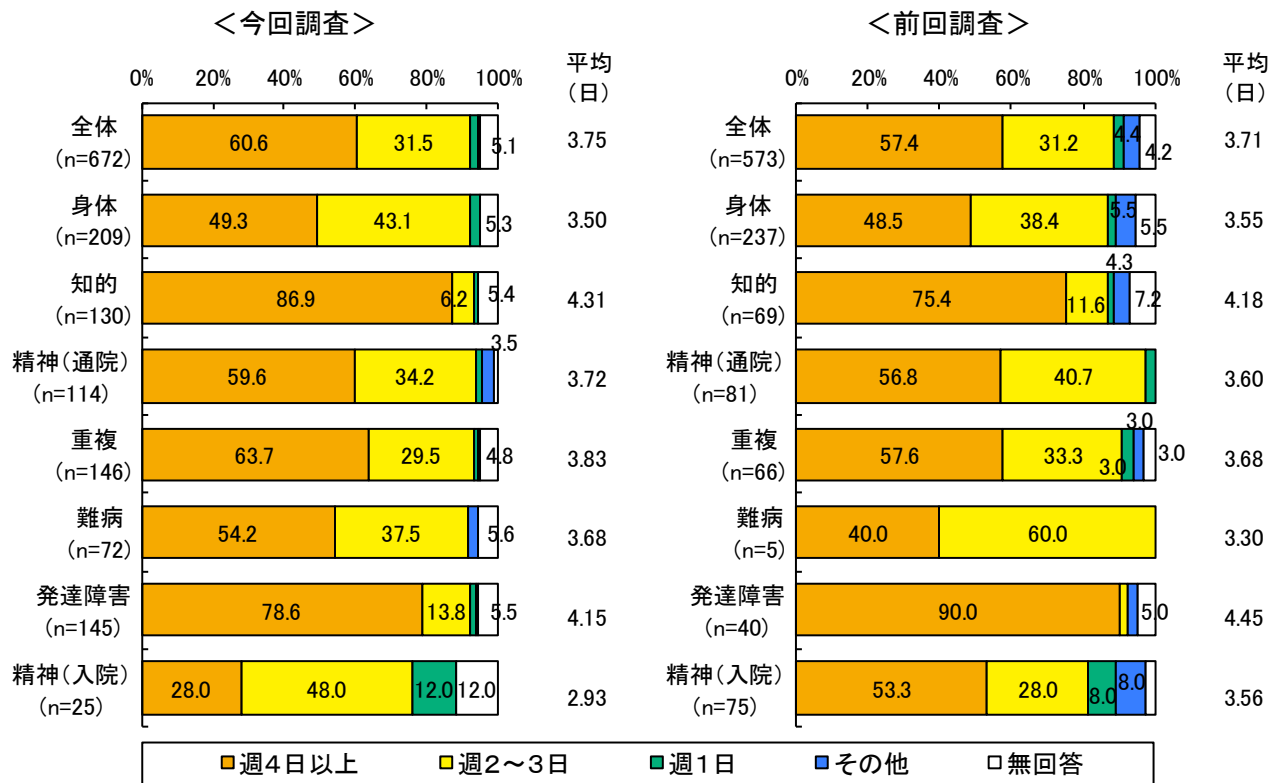
※前回調査では単一回答形式を複数回答として集計している。

※前回調査では就労意向がある人を対象としているため、就労意向がある人について集計し直している。

●問 27 (5) 週に何日勤務したいですか。

希望する勤務日数をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。一方で、障害別で見ると、「知的」、「難病」では「週4日以上」が前回と比べて10ポイント以上高く、「発達障害」、「精神（入院）」では「週2～3日」が前回と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 126 希望する勤務日数(週あたり)(SA)

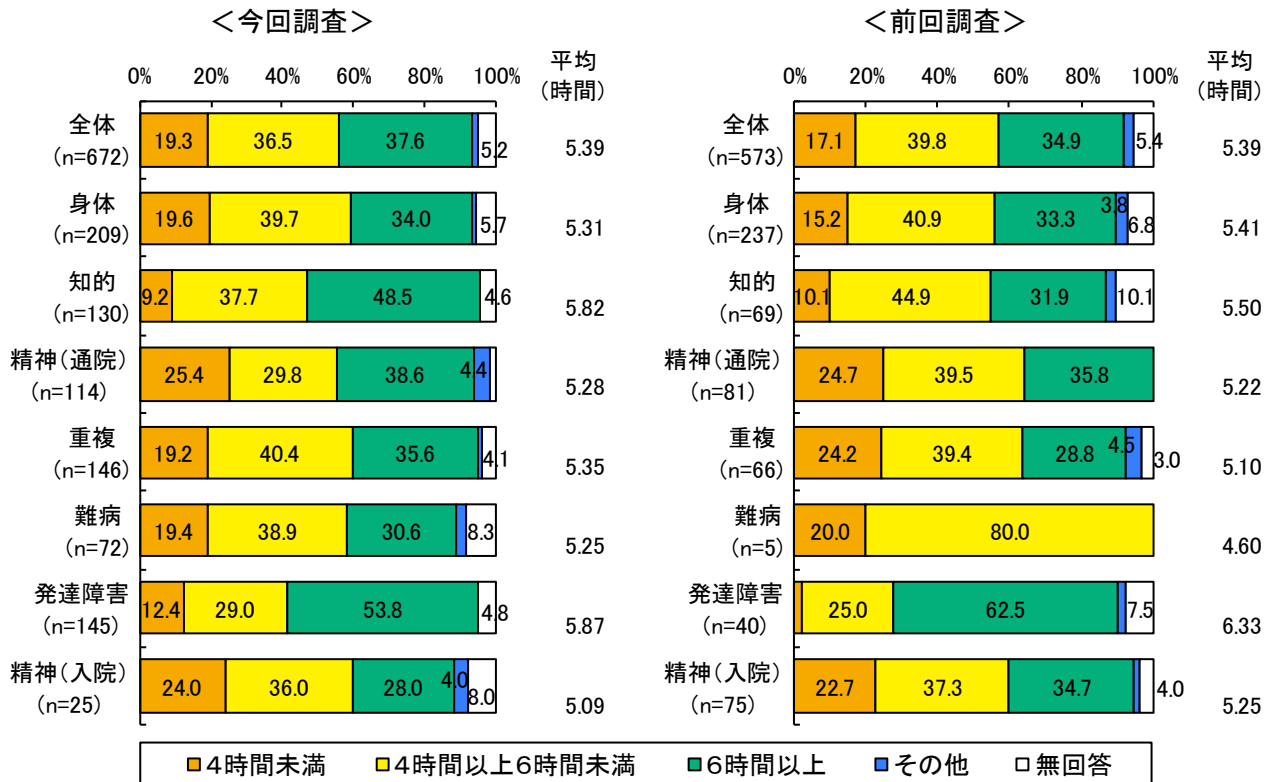


※平均は「週4日以上」=4.5、「週2～3日」=2.5、「週1日」=1.0 とした加重平均値

●問 27 (6) 一日に何時間勤務したいですか。

希望する勤務時間をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。一方で、障害別で見ると、「知的」では「6時間以上」が前回と比べて10ポイント以上高くなっています。「難病」では「6時間以上」が前回と比べて30ポイント以上高く、「4時間以上6時間未満」が前回と比べて40ポイント以上低くなっています。

図表 127 希望する勤務時間(一日あたり)(SA)



※平均は「4時間未満」=3、「4時間以上6時間未満」=5、「6時間以上」=7 とした加重平均値

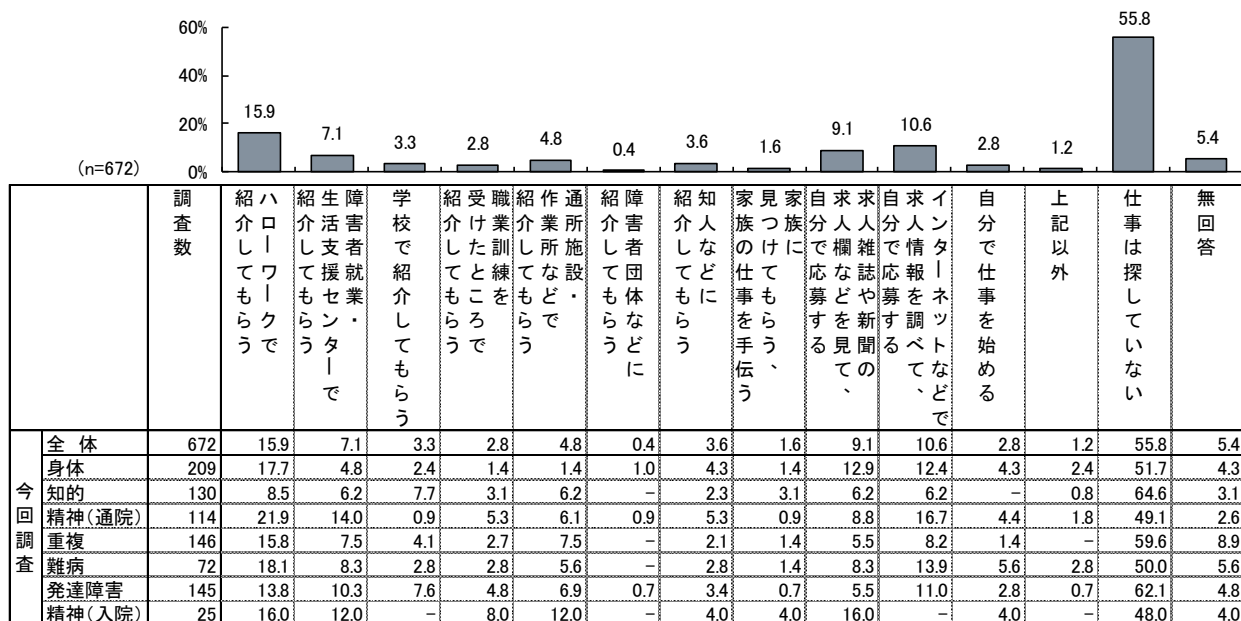
(キ) 就職活動の状況

●問 27(7) 現在、あなたは仕事を探していますか。また、それはどのような方法ですか。(複数回答)

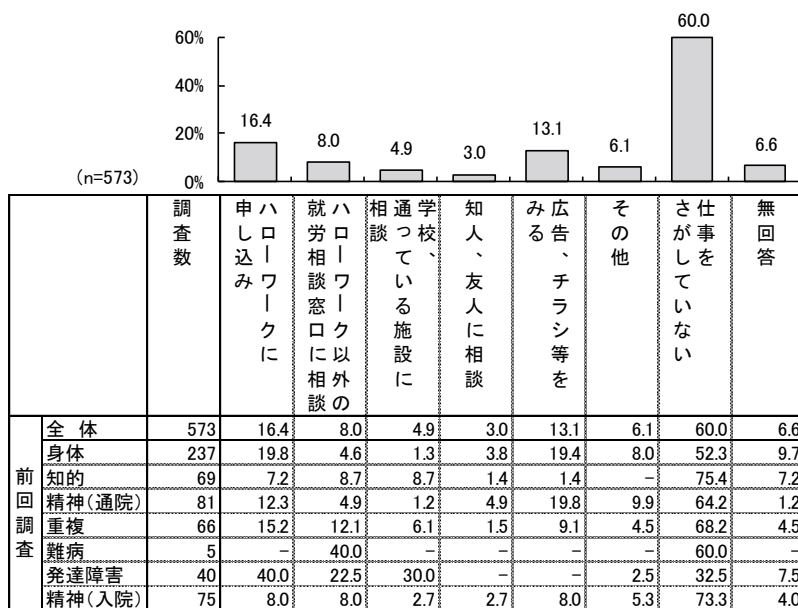
就職活動状況をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。「ハローワークで紹介してもらおう」(前回「ハローワークに申し込み」)が最も多く、次いで「インターネットなどで求人情報を調べて、自分で応募する」、「求人雑誌や新聞の求人欄などを見て、自分で応募する」(前回「広告、チラシ等をみる」)が多くなっています。

図表 128 就職活動状況(MA)

<今回調査>



<前回調査>



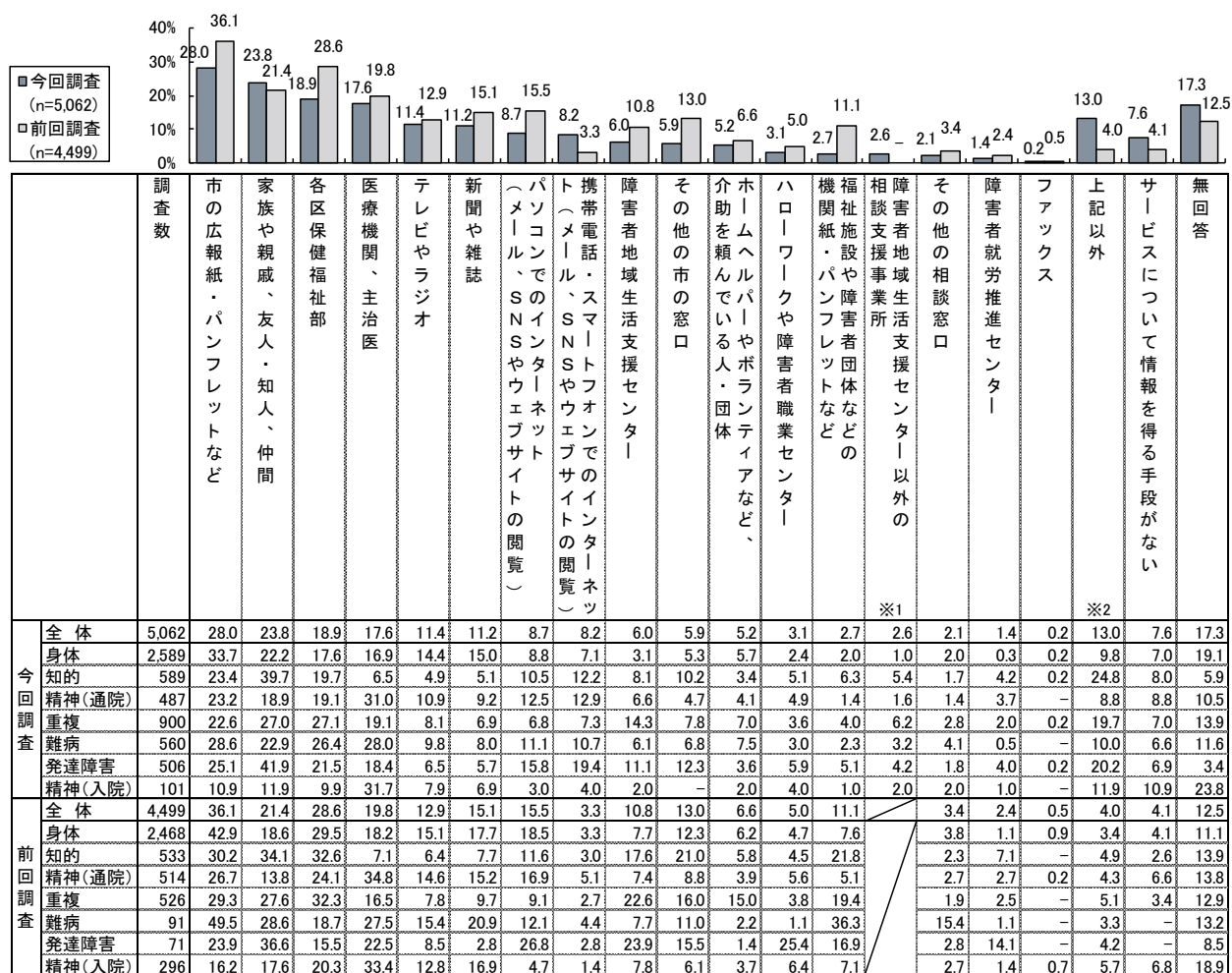
⑨ 相談支援の利用

(ア) 福祉サービスについて情報を得る手段

●問 30 (1) あなたは現在、障害者のための福祉サービスについて、どのようなところから、どのような手段で情報を得ていますか。(複数回答(4つまで))

障害福祉サービスの情報源をみると、今回・前回ともに「市の広報紙・パンフレットなど」が最も多くなっていますが、次いで多いのが今回は「家族や親戚、友人・知人、仲間」、前は「各区保健福祉部」となっています。

図表 129 障害福祉サービスの情報源(4つまで)



※1 今回調査のみの選択肢

※2 「福祉施設などの職員」「点字情報」「音声コードやその他読み取り機能などの利用」「手話通訳」を含む

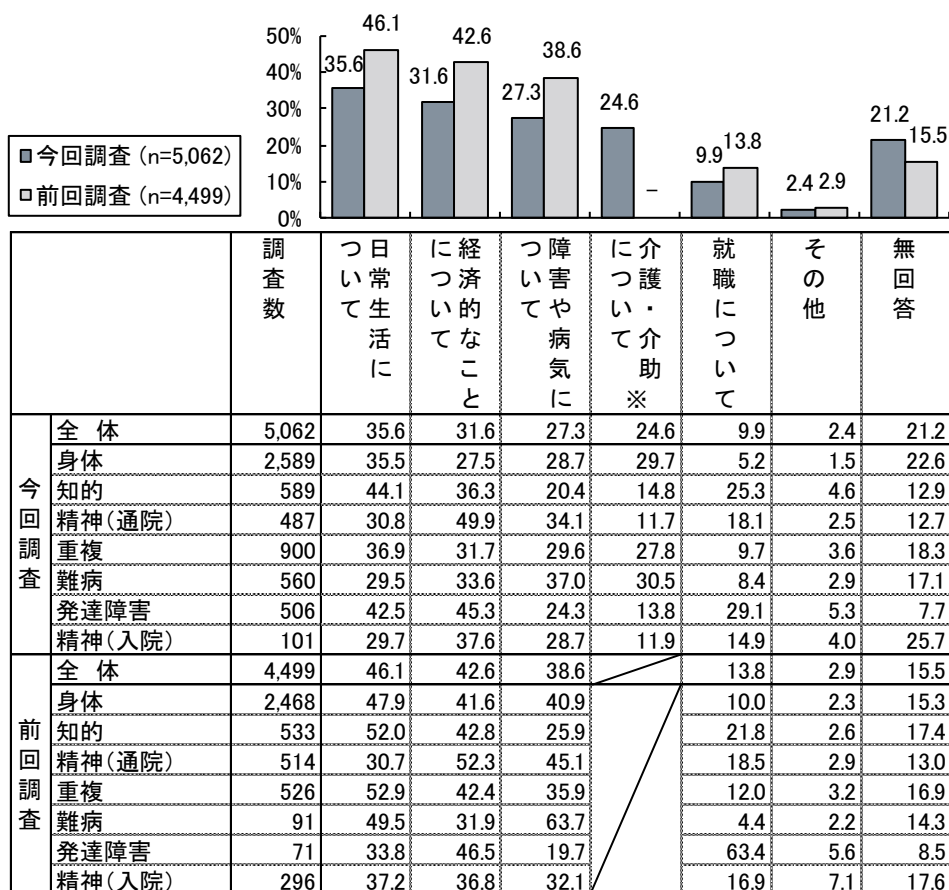
※前回調査は5つ以上回答したものも含めて集計している。

(イ) 福祉サービスについて必要な情報

●問 31 福祉サービスに関する情報のうち、現在のあなたにとってどのような情報が必要ですか。(複数回答(2つまで))

障害福祉サービス情報のニーズをみると、全体では前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 130 障害福祉サービス情報のニーズ(2つまで)



※「介護・介助について」は今回調査のみの選択肢

※前回調査は3つ以上回答したのものも含めて集計している。

⑩ 障害のある人に対する差別・理解

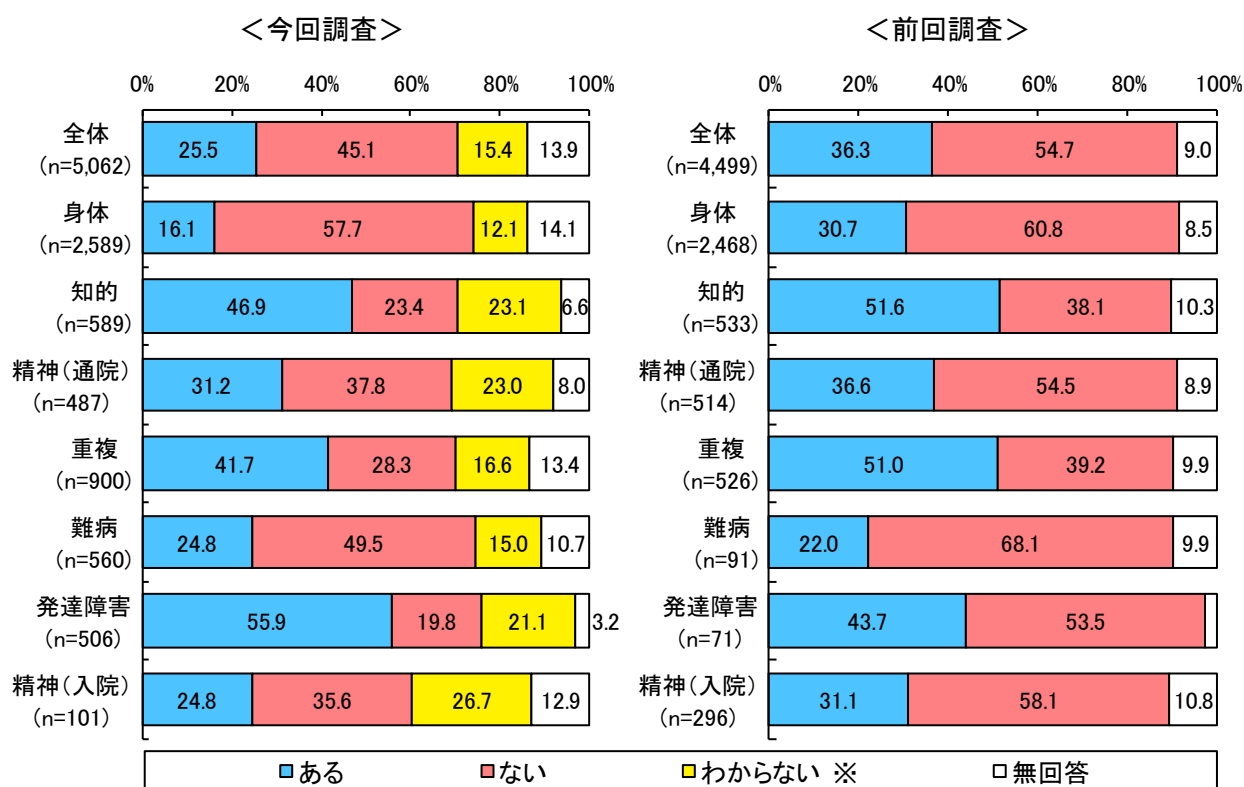
(ア) 差別や偏見を受けた経験

●問 33(1) あなたは、これまでの日常生活の中で、障害を原因とした差別や偏見を受けたことがありますか。

障害を原因とした差別・偏見の有無をみると、前回と今回で同様の傾向がみられます。

障害別でみると、「発達障害」、「精神（入院）」では「ない」の割合が前回と比べて20ポイント以上低くなっています。

図表 131 障害を原因とした差別・偏見の有無(SA)



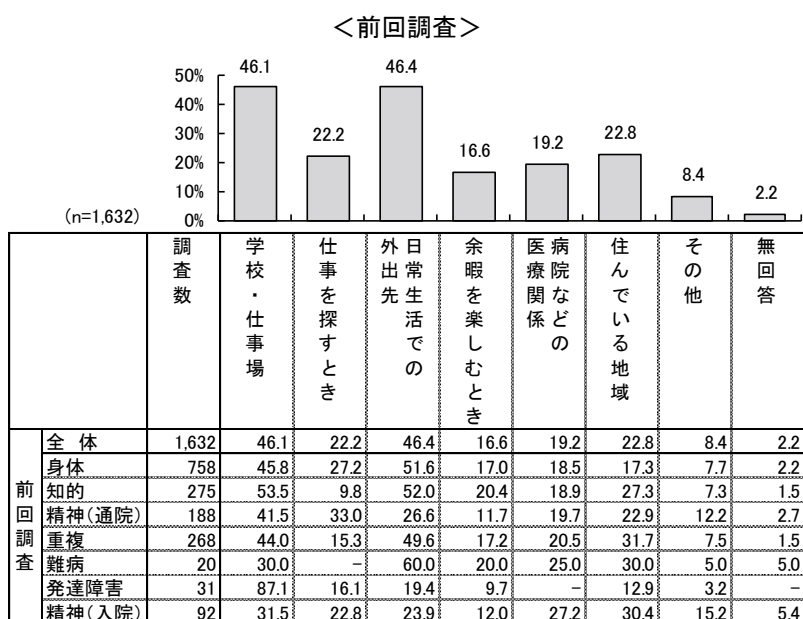
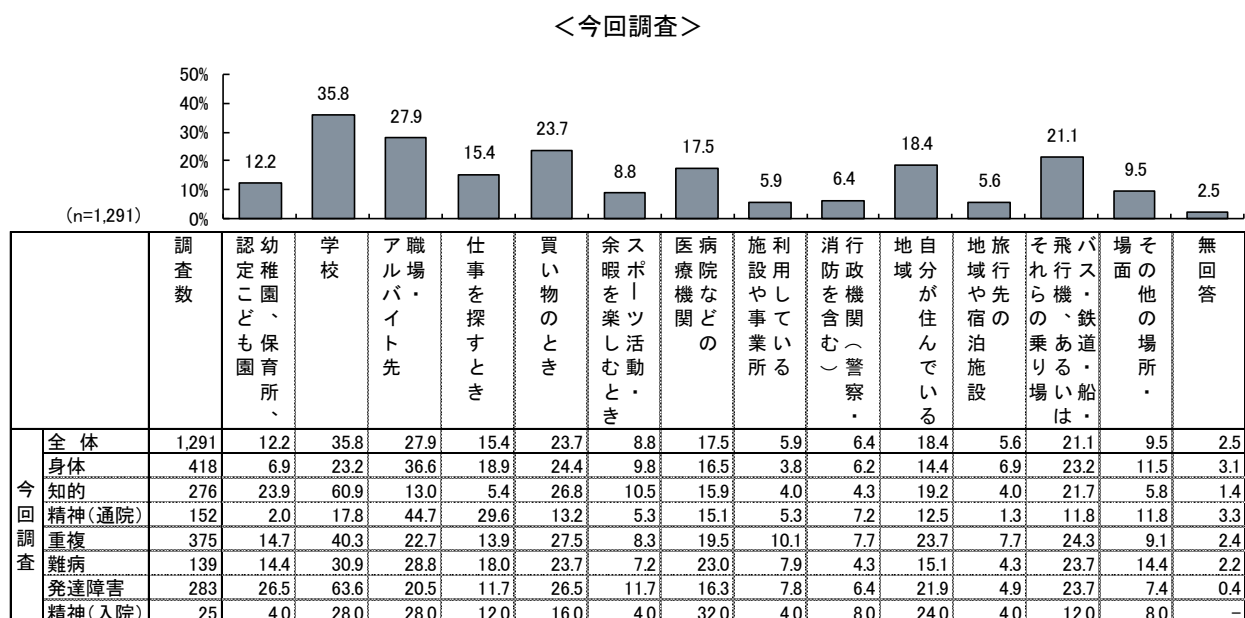
※「わからない」は今回調査のみの選択肢

(イ) 差別や偏見を受けた場所・場面

●問 33 (2) どのような場所・場面で差別や偏見を受けましたか。(複数回答)

差別・偏見を受けた場所・場面をみると、今回は「学校」が最も多く、次いで「職場・アルバイト先」が多いのに対し、前回は「日常生活での外出先」が最も多く、次いで「学校・仕事場」が多くなっています。

図表 132 差別・偏見を受けた場所・場面(MA)

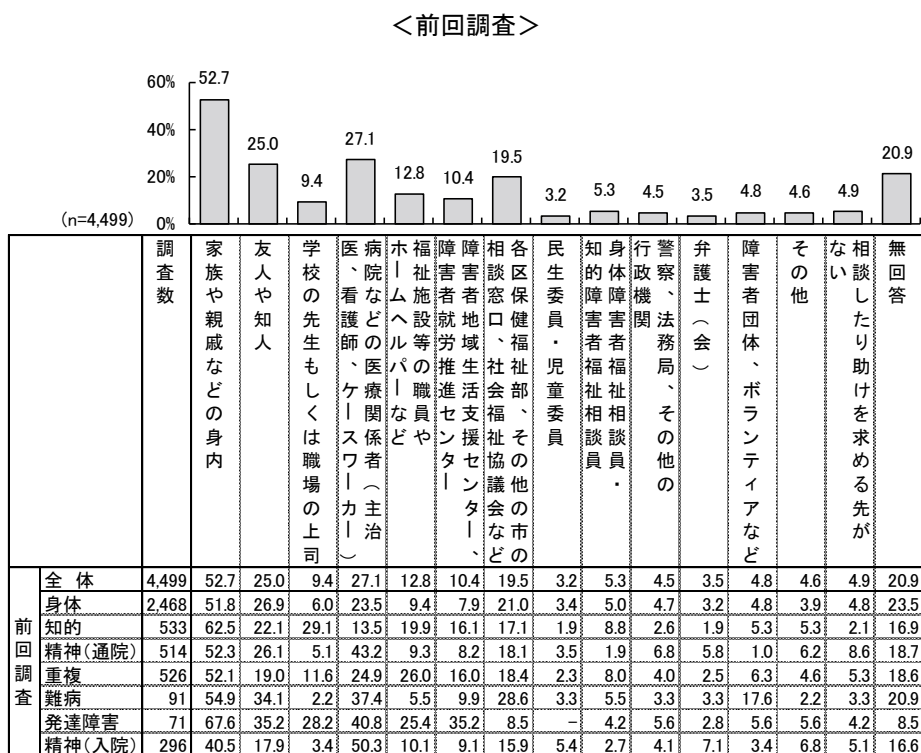
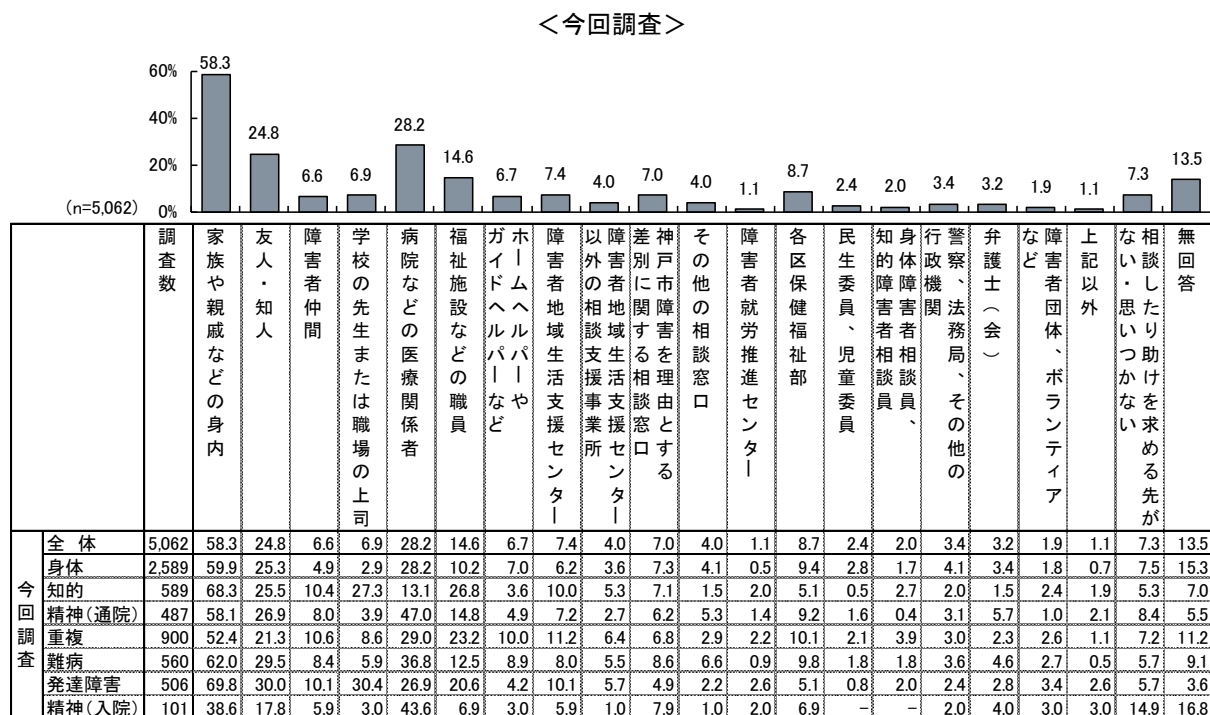


(ウ) 差別や偏見を受けた場合の相談先

●問 33 (4) 日常生活での悩みや困ったことがあった場合や、差別・偏見を受けた場合に誰(どこ)に相談したり助けを求めようと考えておられますか。(複数回答(4つまで))

悩み・困りごとや差別・偏見に関する相談先をみると、全体として前回と今回で同様の傾向がみられます。

図表 133 悩み・困りごとや差別・偏見に関する相談先(4つまで)



※前回調査は5つ以上回答したものも含めて集計している。

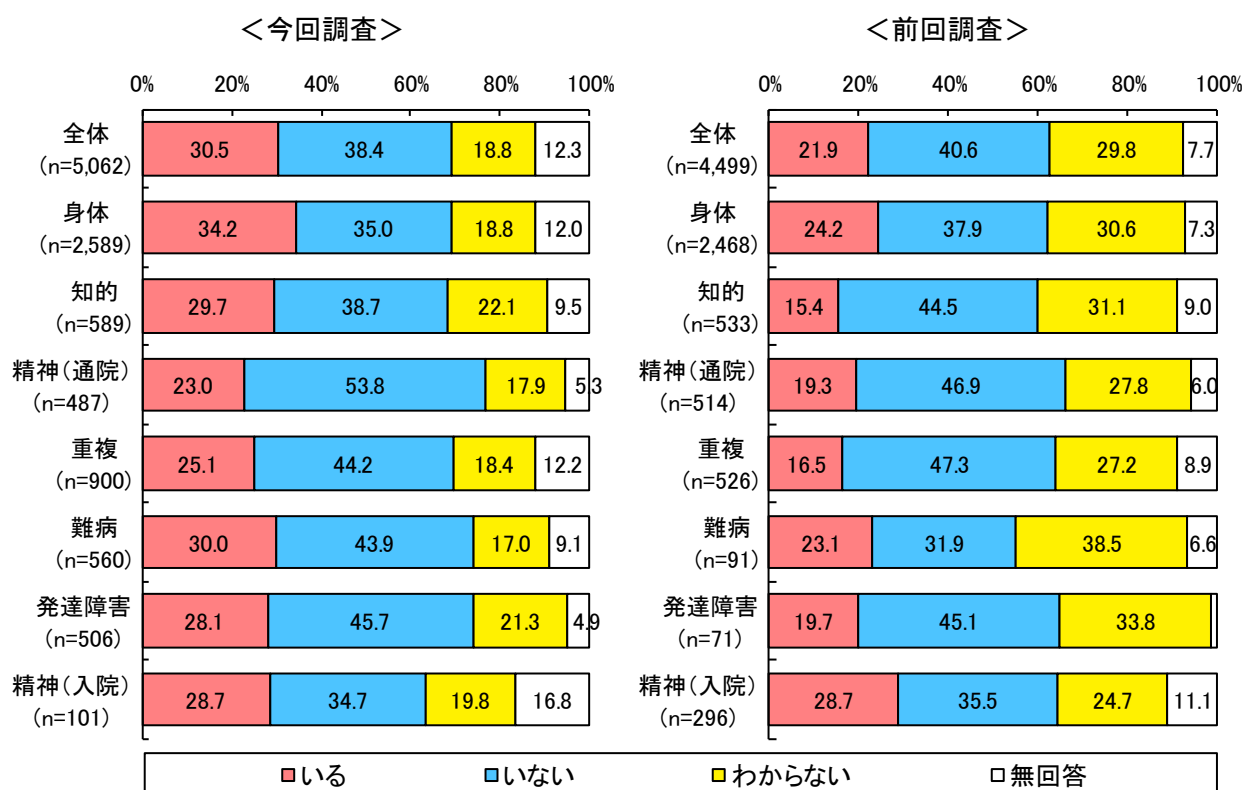
① 災害時の状況

(ア) 災害時・緊急時の支援者

●問 38 (1) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

家族が不在や一人暮らしの時に助けてくれる人の有無をみると、「いる」の割合が前回と比べて5ポイント以上高くなっています。障害別では、「身体」、「知的」で特にその傾向がみられ、10ポイント以上高くなっています。

図表 134 家族が不在や一人暮らしの時に助けてくれる人の有無(SA)



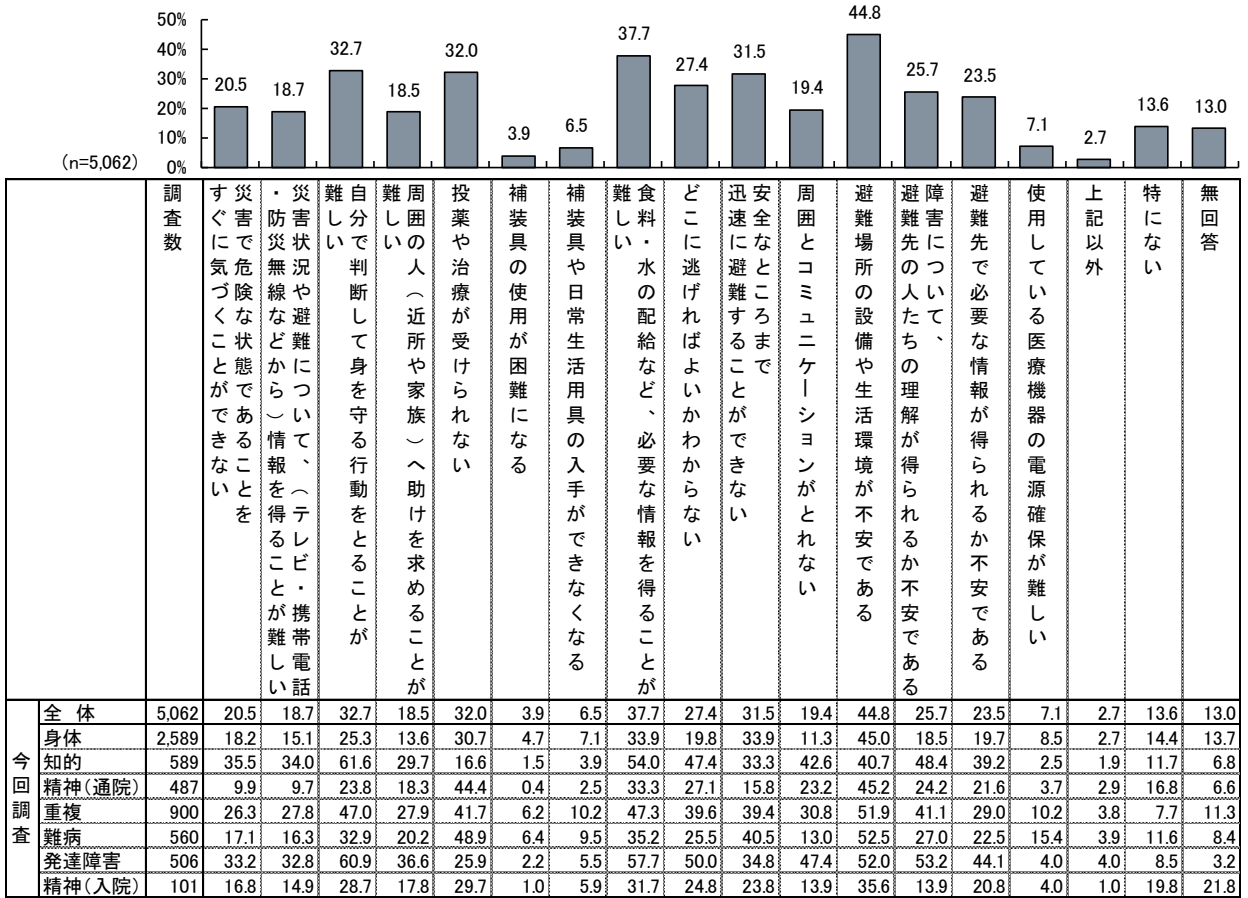
(イ) 災害時に困ること

●問 38 (3) あなたが台風や地震などの災害時に困ることは何ですか。(複数回答)

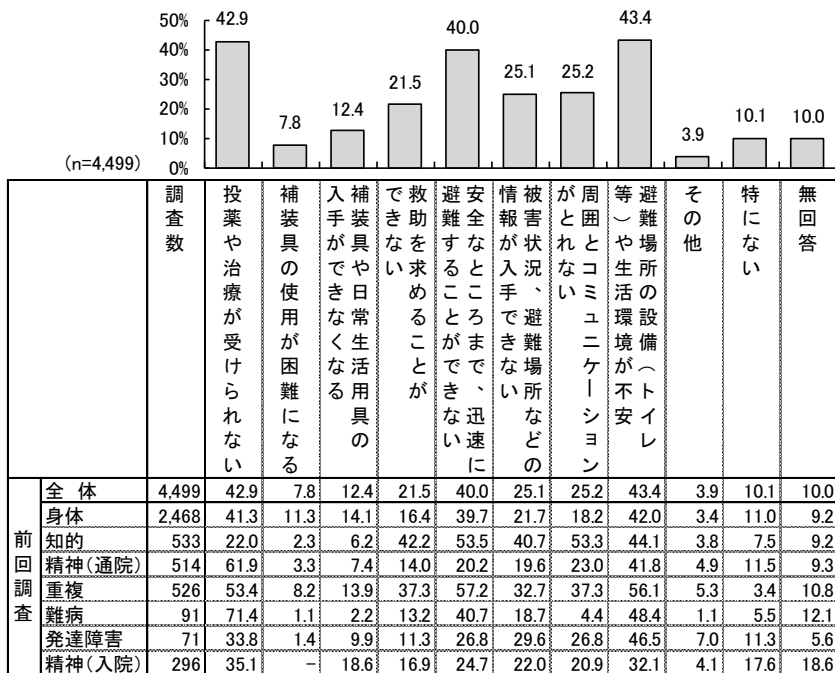
災害時に困ることをみると、今回・前回ともに「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が最も多くなっています。一方で、次いで多いのが、今回は情報に関すること（「食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい」）となっているのに対し、前回は投薬・治療に関すること（「投薬や治療が受けられない」）となっており、傾向が異なります。

図表 135 災害時に困ること(MA)

<今回調査>



<前回調査>

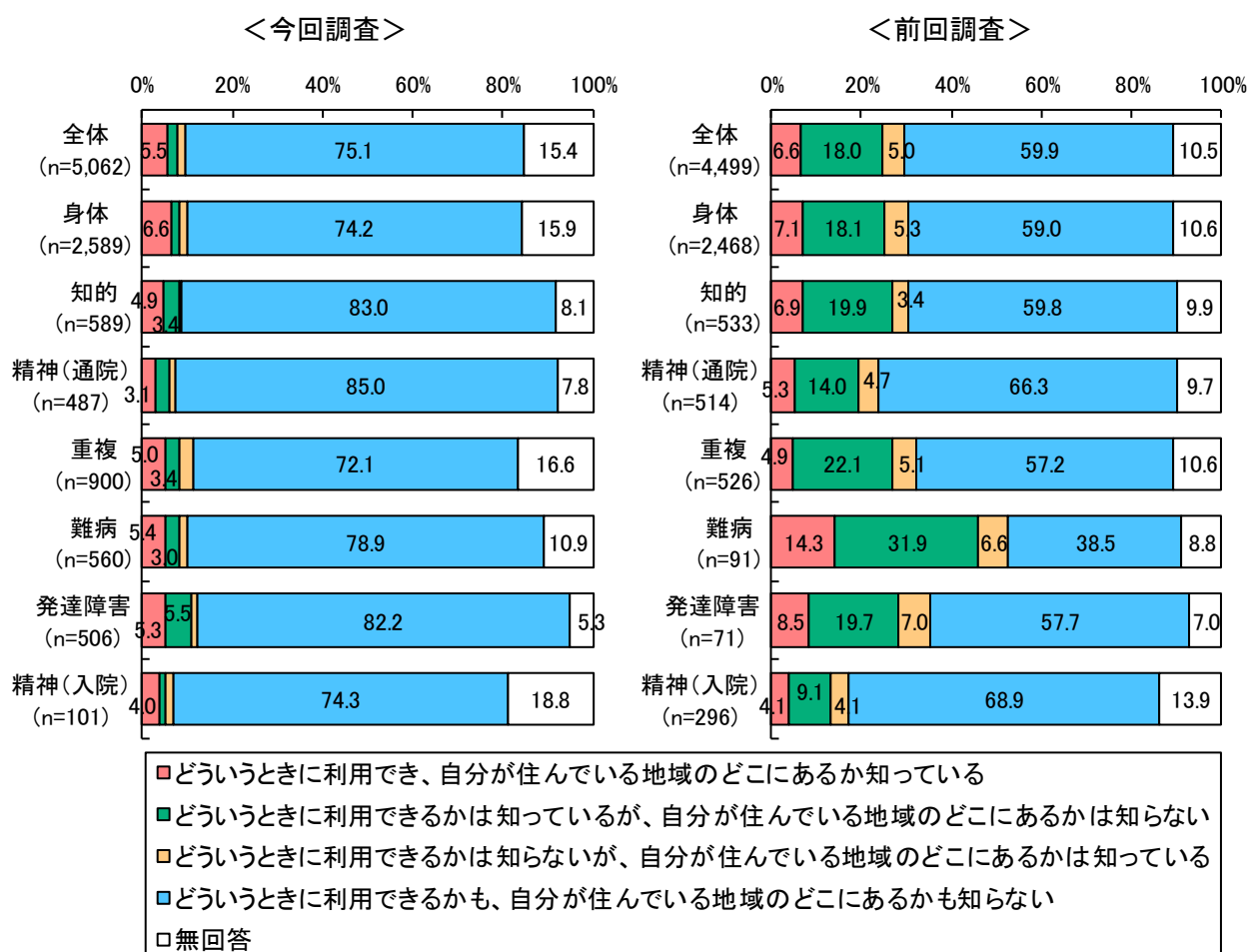


(ウ) 福祉避難所の認知度

●問 39 あなたは福祉避難所についてご存知ですか。

福祉避難所の認知をみると、「どういうときに利用できるかも、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らない」の割合が前回と比べて 10 ポイント以上高くなっています。障害別では、「知的」、「難病」、「発達障害」で「どういうときに利用できるかも、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らない」が 20 ポイント以上高くなっています。

図表 136 福祉避難所の認知(SA)



⑫ 介助・支援者の状況

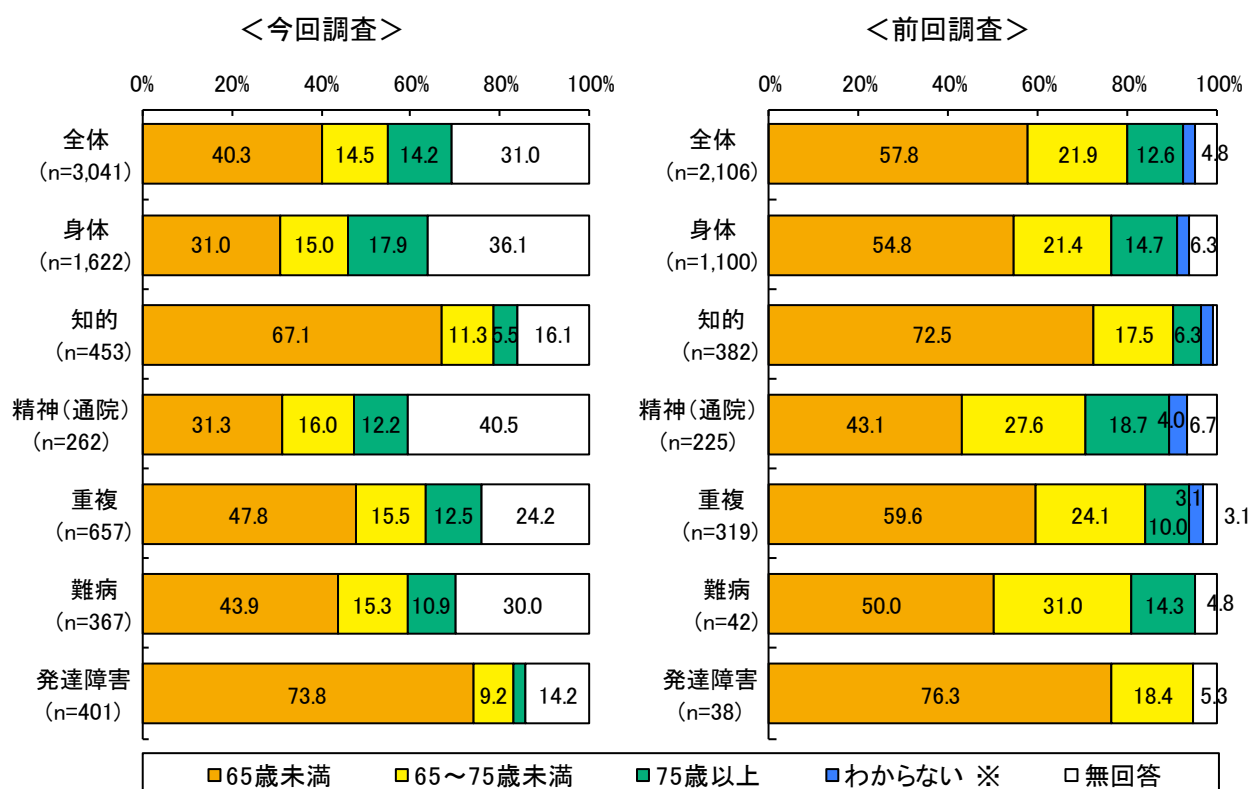
(ア) 介助・支援者の年齢

●問 43 (1) 調査対象者を介助・支援している方の年齢は、満何歳ですか。

介助・支援者の年齢をみると、「65歳未満」の割合が前回と比べて10ポイント以上、「65～75歳未満」が5ポイント以上低くなっています。一方で、「75歳以上」の割合は前回と比べて1.6ポイント高くなっています。障害別では、「身体」で「75歳以上」の割合が増加傾向にあります。

ただし、今回の方が「無回答」の割合が高いため、回答者自体の割合が低くなっています。

図表 137 介助・支援者の年齢(「精神(入院)」を除く)



※前回調査は単一回答形式。「わからない」は今回調査にない選択肢

※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

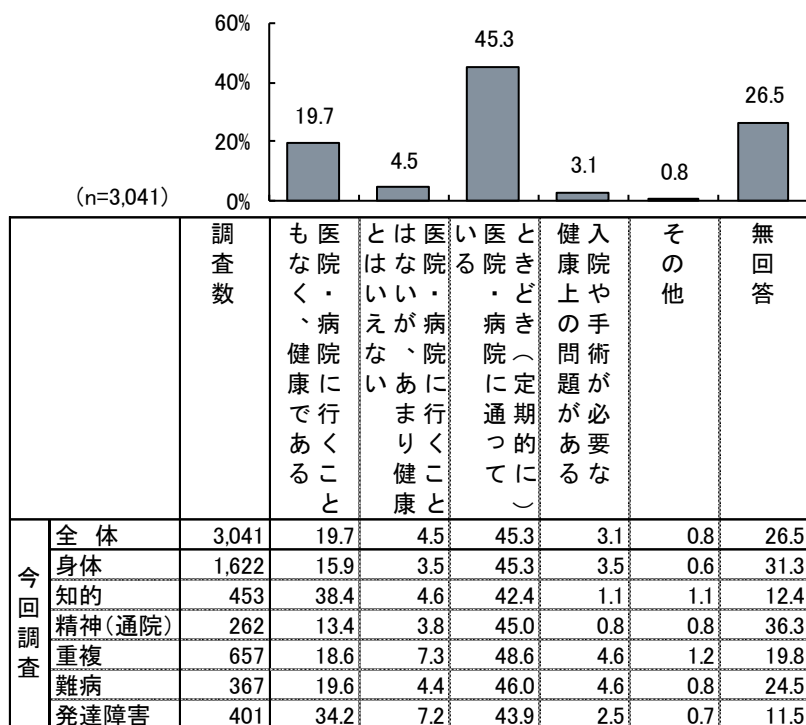
(イ) 介助・支援者の健康状態

●問 43 (2) 調査対象者を介助・支援している方の健康状態はいかがですか。

介助・支援者の健康状態をみると、今回は「ときどき（定期的に）医院・病院に通っている」が最も多いのに対し、前回は「健康である」が最も多くなっています。

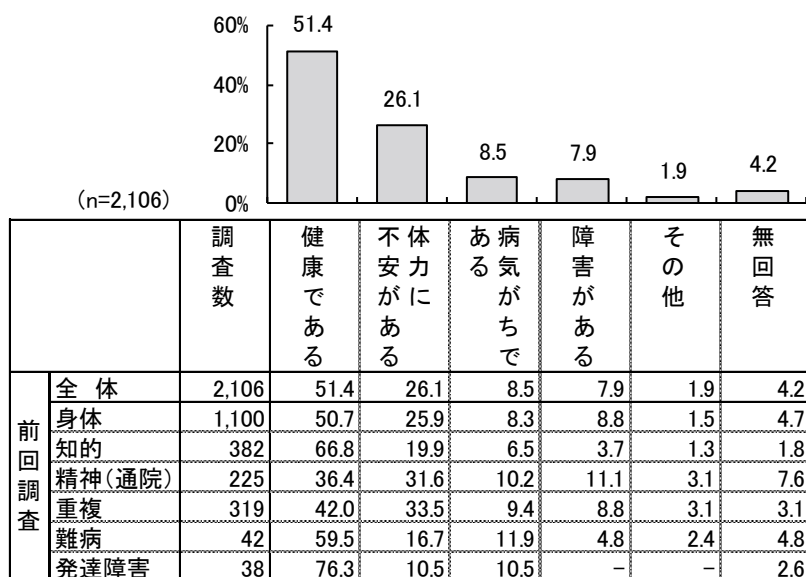
図表 138 介助・支援者の健康状態(「精神(入院)」を除く)(SA)

<今回調査>



※前回調査では「精神(入院)」以外を対象としているため、「精神(入院)」を除いて集計し直している。

<前回調査>



4 次期計画策定にむけた調査結果まとめ

(1) 暮らしに関する結果

① 在宅サービス

- 介助・支援の状況は、「介助・支援を受ける必要はない」が 35.0%、「家族や親戚から介助・支援を受けている」が 35.2%と、ともに4割弱を占めています。障害別では、「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」、「発達障害」で介助・支援を受けている人の割合が7割以上と高くなっており、特に「身体+知的」は全般にサービスニーズが高くなります。
- 障害種別の中でも特に支援ニーズの高い「知的」では、ニーズが高くなる支援として「区役所などでの手続き」「金銭管理」「食事のしたく」「健康管理」「パソコン」「洗濯」等となります。
- 介助・支援者の年齢をみると、「60代」が 15.0%と最も高く、次いで「50代」14.5%、「70代」13.2%となっています。親なき後の本人の一人暮らしなどに関する不安や、介助・支援者の健康上の不安に関する意見も多く寄せられています。
- 障害者本人の年齢は、70代、80代以上の割合が前回と比較して5ポイント以上高くなっており、介助・支援者の年齢についてみると、「75歳以上」の割合は前回と比べて1.6ポイント高くなっています。
- 日常生活における介助・支援の必要度は、18歳未満で最も高く、50代で最も低くなっています。また70代から80代にかけて多くの項目（掃除、洗濯、外出・買い物など）において10ポイント以上増加する傾向があり、老々介護への対応が必要、高齢のため生活に必要な情報が得づらいなどの意見も数多くあることから、障害者および介助・支援者の高齢化に合わせた生活支援、情報提供のニーズがみられます。

② 保健・医療

- 障害者手帳・受給者証の交付時期をみると、「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「自立支援医療（精神通院）受給者証」「特定医療費（指定難病）受給者証」では「18歳以上」が、「療育手帳」「小児慢性特定医療費受給者証」では「就学前（1～5歳）」が最も高くなっています。
- 障害の診断・医療費支給の有無をみると、「上記の診断や支給は受けていない」が4割を占めますが、受給者の中では「自立支援医療の支給」（25.5%）が最も高くなっています。
- 障害福祉サービスに関する情報源について、「精神のみ」、「精神のみ（うち入院）」、「難病」では「医療機関、主治医」の割合が3割前後となっており、精神障害や難病のある方にとって、医療機関が障害福祉サービスへのアクセスにおいて重要な役割を果たしているといえます。
- 障害に合った医療に関する支援サービスや手当などの情報が受けられない、医療機関で十分な説明が受けられないといった意見も寄せられていることから、障害のある人が、病気や症状に合わせて適切な医療サービスを受けられることが課題として挙げられます。
- 障害者本人が自宅・地域で生活するために必要な条件として、「主治医や医療機関が近くにある

こと」が最も高く、38.4%となっています。「身体のみ（うち65歳以上）」、「精神のみ」、「身体＋精神」、「難病」では「主治医や医療機関が近くにあること」と回答した割合が4割以上と特に高くなっていることから、障害のある方の地域移行をすすめるうえでも、福祉サービスと医療サービスの連携が重要といえます。

③ 生活の安全の確保

- 災害時に困ることをみると、「避難場所の設備や生活環境が不安である」が最も高く44.8%、次いで「食料・水の配給など、必要な情報を得ることが難しい」37.7%となっています。
- 福祉避難所の認知をみると、「どういうときに利用できるかも、自分が住んでいる地域のどこにあるかも知らない」は75.1%となっており、前回調査より高い割合となっています。障害者のための避難情報や、福祉避難所について知りたいとの意見も数多く寄せられています。
- 災害時・緊急時に家族が不在の場合、または一人暮らしの場合の支援者の有無は、全体で「いる」と答えた人は30.5%にとどまっており、「家族と一緒にいないとき、一人では行動できない」といった意見も数多くあります。このことから、地域での要援護者への対応が求められます。

④ 相談

- 計画相談支援・障害児相談支援の利用有無をみると、「利用していない」が59.5%と、最も高くなっており、次に、「計画相談支援を利用している」が11.1%となっています。利用意向はあるが利用していない理由をみると、「そもそも、制度について知らなかった」が59.1%と、最も高くなっており、次いで「セルフプランで作成するから」が12.6%となっています。
- 今後の利用意向をみると、「利用したい」は14.2%で、「わからない」が4割強を占めています。
- 自宅・地域での生活のために必要な条件をみると、「安心して利用できる相談員や相談窓口があること」が25.7%と、割合が高くなっています。
- 「日常生活などの総合窓口が必要、窓口を一本化してほしい」、「受けることができる福祉サービスや、相談窓口が分からない」などの意見も多く寄せられており、障害者本人に対する各種サービスを総合的に周知できる窓口のニーズとそれを知る機会の確保（広報の充実）があげられます。

⑤ 情報アクセス・コミュニケーションの保障

- 障害福祉サービスの情報源をみると、「市の広報紙・パンフレットなど」が最も高く、28.0%、次いで「各区保健福祉部」18.9%、「医療機関、主治医」17.6%となっています。また、「家族や親戚」が13.8%、「友人・知人、仲間」が13.0%となっており、身近な人からの情報提供の割合も高くなっています。
- 障害福祉サービス情報のニーズをみると、「日常生活について」が最も高く35.6%、次いで「経済的なことについて」31.6%となっています。
- パソコン、携帯電話、スマートフォンの使用における介助・支援の必要性が全体で3割台となっ

ており、ICT 機器による情報アクセスが困難である人も一定数みられます。「高齢者、障害者は情報を本人で得ることは困難であるため、わかりやすくしてほしい」、「必要なサービス等の情報についてはがき・電話等で知らせてほしい、もっと情報発信してほしい」という意見も寄せられており、障害特性や高齢などで情報アクセスが困難な人への周知方法が課題といえます。障害種別、年齢、居住形態によって障害福祉サービスを得るための情報源が異なることから、対象者に合わせて効果的な周知方法をとることも必要となります。

⑥ 権利擁護・差別解消

- 障害を原因とした差別・偏見の有無をみると、「ある」と回答した人は 25.5%となっています。障害別では、差別・偏見を受けた人の割合は知的障害のある方や、発達障害のある方で約半数と高くなっています。前回と今回では同様の傾向ですが、障害別でみると、「発達障害」、「精神（入院）」では「ない」の割合が前回と比べて 20 ポイント以上低くなっています。
- 差別・偏見を受けた場所・場面をみると、前回は「日常生活での外出先」が最も多く、次いで「学校・仕事場」が多くなっていましたが、今回は「学校」が 35.8%と最も高く、次いで「職場・アルバイト先」27.9%、「買い物するとき」23.7%となっています。障害別では、「学校」の割合は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で6割以上と特に高くなっています。
- 差別や偏見を受けた場合の相談先としては、「家族や親戚などの身内」が最も高く、58.3%、次いで「病院などの医療関係者」28.2%、「友人・知人」24.8%となり、身近な人への相談が多い傾向です。一方で、差別・理解に関する法令・窓口等の認知度については、それぞれ半数以上の人が「知らない」と回答しているため、差別・偏見を受けた際の公的な制度・支援についての周知が課題といえます。

⑦ 地域福祉力の向上・人材育成

- 地域活動への参加のために必要なことをみると、「障害者だからといって、差別したり、無視したりしないこと」が最も高く 24.0%、次いで「家族以外で、一緒に活動してくれる人がいること」23.0%、「地域で気軽に利用できる趣味の場（絵・スポーツなど）があること」20.1%となっており、地域住民の障害への理解や、障害のある人と地域住民の活動・交流の場の充実が求められています。
- 今後参加したい地域活動として、「自分たちと同じ障害のある人の話し相手・相談相手、支援活動」が 14.7%と二番目に高いこと、「障害者同士のサークル、啓発イベント等を通じた交流の場がほしい」などの意見も多数寄せられていることから、当事者同士の交流・情報交換の場のニーズも大きいといえます。
- 地域や施設、職場、学校などでの防災訓練への参加度は全体で 22.5%となっており、特に「身体のみ（うち 65 歳以上）」、「身体+知的」、「難病」では「身体的な理由などで参加が困難である」の割合が高くなっています。災害時・緊急時において地域で障害のある人を支えるにあたり、防災訓練をはじめ地域活動に障害のある人でも参加しやすくなる配慮が必要となります。

⑧ 住まいの確保、地域移行・定着のための支援

- 全体でみた場合の将来の住まいでは、基本的には、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい」あるいは「地域で独立した生活がしたい（家族（親・兄弟姉妹）と離れて独立した生活がしたい）」という希望が最も高くなっています。
- 将来の施設入所希望を障害種別にみると、「身体のみ」は「高齢者向け施設」が8.5%（うち65歳以上では9.8%）と最も高く、次いで「グループホーム」が3.2%となっています。「知的のみ」では「グループホーム」が12.4%、次いで「障害者支援施設」が8.3%となっています。「精神のみ」は「高齢者向け施設」が4.3%で最も高くなりますが、「精神のみ（うち入院）」の方では「グループホーム」が10.9%、「高齢者向け施設」が8.9%となります。「難病」では「高齢者向け施設」が6.2%、「発達障害」では「グループホーム」が10.0%となります。
- 自宅・地域での生活のために必要な条件をみると、「主治医や医療機関が近くにあること」が最も高く、38.4%、次いで「生活するのに必要な収入が十分あること」37.7%、「安心して住み続けられる家があること」27.9%、「安心して利用できる相談員や相談窓口があること」25.7%となっています。

(2) 就労に関する結果

① 一般就労支援

- 現在の就労状況をみると、「一般企業に勤めている」、「自営業など、事業をしている」、「特例子会社で働いている」、「就労継続支援A型事業所で働いている」の合計割合が前回（「一般企業などで働いている」）と比べて5ポイント以上低くなっています。一方で、「年齢や心身の状態、家庭の事情などで働けない」、「上記以外の理由で働いていない」の合計割合が前回（「働いていない」、「年齢や心身の状態から働けない」）と比べて5ポイント以上高くなっています。
- 一般就労者の職種をみると、「事務的な仕事」が最も高く28.6%、次いで「運搬・清掃・包装などの仕事」21.8%となっています。障害別では、「運搬・清掃・包装などの仕事」は「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」で4割以上と比較的高くなっています。
- 一般就労者の就労形態をみると、「正社員」が最も高く30.2%、次いで「パート・アルバイト」26.0%となっています。障害別では、「身体のみ」、「知的のみ」、「精神のみ」、「身体+精神」、「難病」では「正社員」、「パート・アルバイト」がともに2割～5割弱と高く、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」では「就労継続支援A型事業所」が3割以上と高くなっています。
- 仕事を辞めた理由をみると、「病気のため」が最も高く36.5%、次いで「定年退職」24.6%となっています。障害別でもおおむね全体と同様の傾向がみられますが、「知的のみ」、「知的+精神」、「発達障害」では「人間関係がうまくいかなかったから」、「発達障害」では「いじめ、パワハラ、セクハラなどがあつたため」が4割以上と比較的高くなっています。
- 今後の就労希望をみると、障害別では、正社員の就労を希望する人の割合は「身体のみ（うち64歳以下）」、「知的のみ」、「発達障害」で2割前後と比較的高くなっています。
- 今後の就労希望について前回調査と比較すると、「在宅勤務や内職をしたい」の割合が5ポイント以上増加しています。また、日中の過ごし方の希望として「身体のみ（うち64歳以下）」、「精神のみ」では「自宅で手作業やパソコン・インターネットなど（ICT）を使って仕事をしたい（在宅勤務）」が10%以上と比較的高いことから、就労移行支援における在宅訓練や企業の在宅雇用へのニーズがあるといえます。
- 障害者の就労のために必要なことをみると、「職場に障害の理解やサポートがあること」が最も高く、38.9%、次いで「職場に障害者に配慮した設備などが整っていること」33.3%となっています。

② 福祉的就労の推進

- 福祉的就労の割合（今回は「就労継続支援B型事業所で働いている」、「就労移行支援事業所・地域活動支援センターなどで、作業訓練や生産活動を行っている（生活介護を含む）」の割合、前回は「工賃収入を得て働いている」の割合）は前回よりも1.6ポイント高くなっています。
- 障害別でみると、知的障害のある方（「知的のみ」、「身体+知的」、「知的+精神」、「身体+知的+精神」）で福祉就労の割合が2割以上と比較的高くなっています。

- 就労支援等での工賃収入をみると、平均額が今回 9.39（千円）、前回 18.27（千円）と低くなっており、今回は「収入なし」で就労支援を受けている人（15.4%）も比較的多くなっています。
- 就労継続支援B型事業所の工賃収入をみると、平均額が 10.69（千円）となっており、全国での平成 30 年度平均工賃 16.12（千円）¹と比較するとやや低い傾向にあります。

¹ 「平成 30 年度工賃（賃金）の実績について」（厚生労働省）
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000571834.pdf>（2020.3.10 閲覧）

(3) 子どもに関する結果

- 18歳未満の人の児童向けサービスのニーズでは、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」が最も高く、50.4%。次いで「障害児通所支援サービスの充実」41.6%となっています。障害別では、「自立に向けた障害児への専門的な教育の充実」を希望する人の割合は「知的」「知的＋精神」、「発達」で6割以上と特に高くなっています。
- 18歳未満の人が希望する進路では、「特別支援学校（小・中・高学部）進学」が最も高く、21.0%、次いで「小中学校（通常学級）進学」20.2%となっています。
- 利用している障害児通所支援サービス・障害児訓練では、「放課後等デイサービス」が41.9%と最も高く、次いで「療育センターでの障害児訓練」19.9%となっています。「放課後等デイサービスに入れない、受け入れ時間、対象が限られている（軽度・中等度障害者、重心児・医療的ケア児の受入れに消極的など）」といった意見も寄せられています。
- 障害児相談支援の利用意向について、「18歳未満」では「わからない」が41.4%と最も高く、次いで「利用したい」が27.5%となっています。一方で、利用しない理由として「そもそも、制度について知らなかった」が半数以上を占めていることから、障害児相談支援についての周知が課題といえます。

(4) 社会参加に関する結果

① 社会参加の推進 ・ バリアフリー

- 外出時の移動手段をみると、「バス・鉄道などの公共交通機関」が最も高く 44.1%、次いで「自家用車」 22.4%となっています。最も多く利用している移動手段での外出目的をみると、「病院などへの通院のため」が最も高く 59.7%、次いで「買い物や銀行、郵便局、散髪など、日常生活上の必要のため」 54.1%となっています。
- 市の助成制度の利用有無をみると、「福祉乗車証（福祉パス）」が 55.8%と、最も高くなっています。一方、3割弱の人は「これらの制度は利用していない」（27.3%）と回答しています。
- 困っている点として、「介助者がいないと外出できない」（15.6%）、「バスや鉄道などの便が少ない」「休憩できる場所が少ない」（ともに 14.0%）などが挙がっています。「道路や歩道の凸凹、段差、草木などにより歩きづらい、段差などの目印が欲しい」、「歩行者、自転車のマナーが悪い」といった意見も多数寄せられています。
- 「障害者手帳・証明書をカード、IC カードにしてほしい」などの意見があり、手帳のカード化についてのニーズが一定数ある可能性があります。

② 啓発

- 市民啓発事業の参加経験をみると、参加経験が「ある」人は 6.7%となっています。市の啓発事業に参加したことがない理由として、「啓発事業を知る機会がなかった」、「印刷物を手にとったことがない」が大半を占めています。
- 差別・理解に関する法制度等の認知をみると、それぞれ半数以上の人が「知らない」と回答していますが、「ヘルプマークまたはヘルプカード」では 33.3%、「障害者の雇用の促進等に関する法律」では 25.0%、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」では 14.8%が「知っている」と回答しています。